

四国縦貫自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
25

東原遺跡

序 文

本書は四国縦貫自動車道（美馬～井川間）の建設に伴い、平成8年度に実施した三好郡三好町に所在する東原遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。

東原遺跡は吉野川中流域北岸、讃岐山脈南麓の河岸段丘上に位置しており、主に弥生時代と鎌倉・室町時代の遺構・遺物が確認されました。今回の調査によりまして溝に区画された鎌倉時代～室町時代にかけての遺構が確認されたこと等は、この地域における歴史を解明していく上で数多くの貴重な成果を上げることが出来ました。

なお、発掘調査の実施および報告書作成にあたり、日本道路公団をはじめ、関係諸機関並び地元の皆様に多大なご協力、ご指導を頂きました。ここに深く感謝いたしますと共に、今後とも御支援賜りますようお願い申し上げます。

平成16年3月

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
理事長 松村 通治

例 言

- 1 本書は平成8年(1996)に実施した東原遺跡(三好郡三好町大字足代字東原所在)の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査及び報告書作成についての実施期間は次のとおりである。

試掘調査	平成7年2月20日～平成7年3月17日
	平成7年7月17日～平成7年8月7日
発掘調査	平成8年4月3日～平成9年3月21日
整理業務、報告書作成	平成11年4月1日～平成11年5月1日
	平成13年10月1日～平成15年3月31日
- 3 発掘調査は徳島県と日本道路公団高松地方建設局(平成8年7月より四国支社)との委託契約を承け、徳島県からの委託契約により、財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 遺構表示は徳島県埋蔵文化財センターが定める発掘調査基準による略記号を用いた。

凡例

SA 掘立柱建物跡	SD 溝跡	SK 土坑	SP 柱穴
SX 不明遺構			
- 5 方位は国土座標第IV座標系の北、高さは東京湾標準潮位(T.P.)を表す。
- 6 本書で用いた土層及び土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帳』1996年度版によった。
- 7 本報告書の土器実測図で、断面白抜きは弥生土器・土師質土器・黒色土器・瓦器、黒塗りは須恵器・陶器・磁器を表す。
- 8 遺物の掲載サイズは弥生土器・土師器・須恵器・土錘が1/4。石器は砥石、敲石が1/3。石臼が1/6で掲載している。
- 9 第5図の地形図は建設省国土地理院発行の1/25000地形図「辻」を転載したものである。
- 10 調査にあたっては、下記の機関の指導・援助を得た。

徳島県教育委員会 日本道路公団四国支社 同協町工事事務所 徳島県土木部高速道路推進局
同西部事務所 三好町
- 11 本書の執筆はI-1を菅原康夫、その他を小泉信司が担当し全体の編集を行った。写真は遺物を小泉が遺構は調査担当者が撮影した。

本文目次

I	調査の経緯	1
1	調査にいたる経緯	1
2	調査の経過	5
(1)	調査の経緯	5
(2)	発掘調査の方法	5
(3)	調査日誌抄	5
II	立地と環境	8
1	地理的環境	8
2	歴史的環境	8
III	調査成果	12
1	基本層序	12
2	遺構と遺物	19
	弥生時代の遺構と遺物	19
	土坑	19
	柱穴出土遺物	20
	包含層出土遺物	21
	古代・中世の遺構と遺物	22
	建物跡	22
	土坑	72
	溝	83
	不明遺構	85
	柱穴	103
	柱穴出土遺物	105
	包含層出土遺物	136
IV	まとめ	137

挿 図 目 次

第 1 図	調査区位置図	6	第 36 図	SA1013実測図	35
第 2 図	グリット配置図	7	第 37 図	SP11923・11924実測図	36
第 3 図	東原遺跡周辺の遺跡	9	第 38 図	SA1013出土遺物実測図(1)	36
第 4 図	C・D・E 調査区基本土層図	13	第 39 図	SA1013出土遺物実測図(2)	36
第 5 図	A・B 調査区基本土層図	14	第 40 図	SA1014実測図	37
第 6 図	遺構配置図	15	第 41 図	SA1014出土遺物実測図	37
第 7 図	B4 区掘立柱配置図	17	第 42 図	SA1015実測図	38
第 8 図	SK1144実測図	19	第 43 図	SA1015出土遺物実測図	38
第 9 図	SK1144出土遺物実測図	20	第 44 図	SA1016実測図	39
第 10 図	柱穴出土遺物実測図	20	第 45 図	SA1017実測図	39
第 11 図	包含層出土遺物実測図	21	第 46 図	SA1018実測図	40
第 12 図	SA1001実測図	22	第 47 図	SA1019実測図	41
第 13 図	SA1002実測図	23	第 48 図	SA1019出土遺物実測図	41
第 14 図	SA1002出土遺物実測図	23	第 49 図	SA1020実測図	42
第 15 図	SA1003実測図	24	第 50 図	SA1020出土遺物実測図	43
第 16 図	SA1003出土遺物実測図	25	第 51 図	SA1021実測図	43
第 17 図	SA1004実測図	25	第 52 図	SA1022実測図	44
第 18 図	SA1004出土遺物実測図	26	第 53 図	SA1023実測図	44
第 19 図	SA1005実測図	26	第 54 図	SA1024実測図	45
第 20 図	SA1005出土遺物実測図	26	第 55 図	SA1025実測図	46
第 21 図	SA1006実測図(1)	27	第 56 図	SA1025出土遺物実測図	46
第 22 図	SA1006実測図(2)	28	第 57 図	SA1026実測図	47
第 23 図	SA1006出土遺物実測図	28	第 58 図	SA1026出土遺物実測図	46
第 24 図	SA1007実測図	29	第 59 図	SA1027実測図(1)	48
第 25 図	SA1007出土遺物実測図	29	第 60 図	SA1027実測図(2)	49
第 26 図	SA1008実測図	30	第 61 図	SA1027出土遺物実測図	50
第 27 図	SA1008出土遺物実測図	30	第 62 図	SA1028実測図	51
第 28 図	SA1009実測図	31	第 63 図	SA1028出土遺物実測図	50
第 29 図	SA1009出土遺物実測図	31	第 64 図	SA1029実測図	52
第 30 図	SA1010実測図	32	第 65 図	SA1029出土遺物実測図	53
第 31 図	SA1010出土遺物実測図	33	第 66 図	SA1030実測図	53
第 32 図	SA1011実測図	33	第 67 図	SA1031実測図	54
第 33 図	SA1011出土遺物実測図	33	第 68 図	SA1031出土遺物実測図	54
第 34 図	SA1012実測図	34	第 69 図	SA1032実測図	55
第 35 図	SA1012出土遺物実測図	34	第 70 図	SA1032出土遺物実測図	55

第 71 图	SA1033 实测图	56	第 109 图	SK1020 出土遗物实测图	73
第 72 图	SA1033 出土遗物实测图	57	第 110 图	SK1043 实测图	73
第 73 图	SA1034 实测图	57	第 111 图	SK1043 出土遗物实测图	73
第 74 图	SA1034 出土遗物实测图	58	第 112 图	SK1052 实测图	73
第 75 图	SA1035 实测图	58	第 113 图	SK1052 出土遗物实测图	73
第 76 图	SA1035 出土遗物实测图	58	第 114 图	SK1065 实测图	74
第 77 图	SA1036 实测图	59	第 115 图	SK1065 出土遗物实测图	74
第 78 图	SA1036 出土遗物实测图	59	第 116 图	SK1067 实测图	74
第 79 图	SA1037 实测图(1)	60	第 117 图	SK1067 出土遗物实测图	74
第 80 图	SA1037 实测图(2)	61	第 118 图	SK1077 实测图	74
第 81 图	SA1037 出土遗物实测图	62	第 119 图	SK1077 出土遗物实测图	74
第 82 图	SA1038 实测图	62	第 120 图	SK1089 实测图	75
第 83 图	SA1038 出土遗物实测图	63	第 121 图	SK1089 出土遗物实测图	75
第 84 图	SA1039 实测图	63	第 122 图	SK1090 实测图	75
第 85 图	SA1039 出土遗物实测图	64	第 123 图	SK1090 出土遗物实测图	75
第 86 图	SA1040 实测图	64	第 124 图	SK1093 实测图	75
第 87 图	SA1040 出土遗物实测图	64	第 125 图	SK1093 出土遗物实测图	75
第 88 图	SA1041 实测图	65	第 126 图	SK1094 实测图	76
第 89 图	SA1041 出土遗物实测图	66	第 127 图	SK1094 出土遗物实测图	76
第 90 图	SA1042 实测图	66	第 128 图	SK1095 实测图	76
第 91 图	SA1043 实测图	66	第 129 图	SK1095 出土遗物实测图	76
第 92 图	SA1043 出土遗物实测图	66	第 130 图	SK1096 实测图	76
第 93 图	SA1044 实测图	67	第 131 图	SK1096 出土遗物实测图	76
第 94 图	SA1045 实测图	67	第 132 图	SK1104 实测图	77
第 95 图	SA1046 实测图	68	第 133 图	SK1104 出土遗物实测图	77
第 96 图	SA1046 出土遗物实测图	68	第 134 图	SK1106 实测图	78
第 97 图	SA1047 实测图	69	第 135 图	SK1106 出土遗物实测图	78
第 98 图	SA1047 出土遗物实测图	69	第 136 图	SK1107 · 1108 实测图	78
第 99 图	SA1048 实测图	68	第 137 图	SK1107 · 1108 出土遗物实测图	78
第 100 图	SA1049 实测图	70	第 138 图	SK1110 实测图	79
第 101 图	SA1050 实测图	71	第 139 图	SK1110 出土遗物实测图	79
第 102 图	SK1010 实测图	72	第 140 图	SK1111 实测图	80
第 103 图	SK1010 出土遗物实测图	72	第 141 图	SK1111 出土遗物实测图	80
第 104 图	SK1016 实测图	72	第 142 图	SK1145 实测图	81
第 105 图	SK1016 出土遗物实测图	72	第 143 图	SK1145 出土遗物实测图	81
第 106 图	SK1019 实测图	72	第 144 图	SK1147 实测图	81
第 107 图	SK1019 出土遗物实测图	72	第 145 图	SK1147 出土遗物实测图	81
第 108 图	SK1020 实测图	73	第 146 图	SD1001 实测图	81

第147図	SD1001出土遺物実測図	82	第179図	SX1022出土遺物実測図	102
第148図	SD1002実測図(1)	83	第180図	SX1023実測図	102
第149図	SD1002実測図(2)	83	第181図	SX1023出土遺物実測図	102
第150図	SD1002出土遺物実測図	84	第182図	SX1024実測図	103
第151図	SD1008実測図(1)	85	第183図	SX1024出土遺物実測図	103
第152図	SD1008実測図(2)	85	第184図	SP10995実測図	103
第153図	SD1008出土遺物実測図	85	第185図	SP10995出土遺物実測図	103
第154図	SX1001実測図	86	第186図	SP11913～11916実測図	104
第155図	SX1001出土遺物実測図	86	第187図	SP11913～11916出土遺物実測図	104
第156図	SX1002実測図	86	第188図	SP11922実測図	105
第157図	SX1002出土遺物実測図	86	第189図	SP11922出土遺物実測図	105
第158図	SX1003実測図	87	第190図	SP12091・12092実測図	105
第159図	SX1003出土遺物実測図	88	第191図	SP12091・12092出土遺物実測図	105
第160図	SX1004実測図	89	第192図	柱穴出土遺物実測図(1)	106
第161図	SX1004出土遺物実測図(1)	90	第193図	柱穴出土遺物実測図(2)	109
第162図	SX1004出土遺物実測図(2)	91	第194図	柱穴出土遺物実測図(3)	112
第163図	SX1004出土遺物実測図(3)	92	第195図	柱穴出土遺物実測図(4)	114
第164図	SX1004出土遺物実測図(4)	93	第196図	柱穴出土遺物実測図(5)	116
第165図	SX1009実測図	94	第197図	柱穴出土遺物実測図(6)	119
第166図	SX1009出土遺物実測図	95	第198図	柱穴出土遺物実測図(7)	121
第167図	SX1010実測図	95	第199図	柱穴出土遺物実測図(8)	123
第168図	SX1011実測図	96	第200図	柱穴出土遺物実測図(9)	125
第169図	SX1011出土遺物実測図	97	第201図	柱穴出土遺物実測図(10)	127
第170図	SX1012実測図	98	第202図	柱穴出土遺物実測図(11)	129
第171図	SX1012出土遺物実測図	98	第203図	包含層出土遺物実測図(1)	130
第172図	SX1014実測図	99	第204図	包含層出土遺物実測図(2)	131
第173図	SX1014出土遺物実測図	99	第205図	包含層出土遺物実測図(3)	132
第174図	SX1018実測図	100	第206図	包含層出土遺物実測図(4)	133
第175図	SX1018出土遺物実測図	100	第207図	包含層出土遺物実測図(5)	134
第176図	SX1021実測図	101	第208図	包含層出土遺物実測図(6)	135
第177図	SX1021出土遺物実測図	101	第209図	包含層出土遺物実測図(7)	135
第178図	SX1022実測図	102			

表 目 次

第1表	四国縦貫自動車道（脇～美馬・美馬～川之江） 埋蔵文化財調査地一覧表	3
-----	--------------------------------------	---

第2表	出土遺物観察表土器・陶磁器(1)	141
第3表	出土遺物観察表土器・陶磁器(2)	142

第4表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(3)	143
第5表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(4)	144
第6表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(5)	145
第7表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(6)	146
第8表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(7)	147
第9表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(8)	148
第10表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(9)	149
第11表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(10)	150
第12表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(11)	151
第13表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(12)	152
第14表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(13)	153
第15表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(14)	154
第16表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(15)	155
第17表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(16)	156
第18表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(17)	157
第19表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(18)	158
第20表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(19)	159
第21表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(20)	160
第22表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(21)	161
第23表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(22)	162
第24表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(23)	163
第25表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(24)	164
第26表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(25)	165
第27表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(26)	166
第28表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(27)	167
第29表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(28)	168
第30表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(29)	169
第31表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(30)	170
第32表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(31)	171
第33表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(32)	172
第34表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(33)	173

第35表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(34)	174
第36表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(35)	175
第37表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(36)	176
第38表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(37)	177
第39表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(38)	178
第40表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(39)	179
第41表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(40)	180
第42表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(41)	181
第43表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(42)	182
第44表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(43)	183
第45表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(44)	184
第46表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(45)	185
第47表	出土遺物觀察表土器・陶磁器(46)	186
第48表	出土遺物觀察表石器・石製品	186
第49表	出土遺物觀察表土製品	187
第50表	出土遺物觀察表銅錢	187
第51表	掘立柱建物跡一覽表	188
第52表	遺構内出土遺物一覽表(1)	189
第53表	遺構内出土遺物一覽表(2)	190
第54表	遺構内出土遺物一覽表(3)	191
第55表	遺構内出土遺物一覽表(4)	192
第56表	遺構内出土遺物一覽表(5)	193
第57表	遺構内出土遺物一覽表(6)	194
第58表	遺構内出土遺物一覽表(7)	195
第59表	遺構内出土遺物一覽表(8)	196
第60表	遺構内出土遺物一覽表(9)	197
第61表	遺構内出土遺物一覽表(10)	198
第62表	遺構内出土遺物一覽表(11)	199
第63表	遺構内出土遺物一覽表(12)	200
第64表	遺構内出土遺物一覽表(13)	201

図版目次

図版 1	(1)A 1 調査区完掘状況	202
	(2)A 1 調査区完掘状況	202
	(3)A 1 調査区完掘状況	202

図版 2	(1)A 1 調査区完掘状況	203
	(2)B 4 調査区完掘状況	203
	(3)B 5 調査区完掘状況	203

図版 3	(1)SK1144掘り下げ状況	204	(2)SX1009・1011完掘状況	210	
	(2)SK1144遺物出土状況	204	(3)SX1010掘り下げ状況	210	
	(3)SK1144完掘状況	204	図版10	(1)SX1012掘り下げ状況	211
図版 4	(1)SA1044完掘状況	205		(2)SX1018掘り下げ状況	211
	(2)SK1019掘り下げ状況	205		(3)SX1021完掘状況	211
	(3)SK1020掘り下げ状況	205	図版11	(1)SX1022掘り下げ状況	212
図版 5	(1)SK1077掘り下げ状況	206		(2)SX1023掘り下げ状況	212
	(2)SK1089掘り下げ状況	206		(3)SX1024掘り下げ状況	212
	(3)SK1090掘り下げ状況	206	図版12	(1)SP11923・11924遺物出土状況	213
図版 6	(1)SK1093掘り下げ状況	207		(2)SP12450遺物出土状況	213
	(2)SK1096掘り下げ状況	207		(3)SP12589遺物出土状況	213
	(3)SK1110遺物出土状況	207	図版13	(1)SP12645遺物出土状況	214
図版 7	(1)SK1111遺物出土状況	208		(2)SP12760遺物出土状況	214
	(2)SK1147完掘状況	208		(3)SP12911遺物出土状況	214
	(3)SK1149完掘状況	208	図版14	出土遺物 SP・SK・包含層	215
図版 8	(1)SD1001掘り下げ状況	209	図版15	出土遺物 SK・SD・SX	216
	(2)SD1002完掘状況	209	図版16	出土遺物 SP・SX	217
	(3)SD1002集石出土状況	209	図版17	出土遺物 SP・包含層	218
図版 9	(1)SD1008完掘状況	210	図版18	出土遺物 SP・包含層	219

付 図

付図 1 東原遺跡遺構配置図(1)

付図 2 東原遺跡遺構配置図(2)

付図 3 東原遺跡遺構配置図(3)

I 調査の経緯

1 調査にいたる経緯

四国縦貫自動車第10次区間(脇～美馬)の路線延長は11.7kmで、昭和63年5月18日施行命令が出され、昭和63年6月17日に路線発表された。当該区間については県教育委員会文化財課(現文化財課、以下県教育委員会と呼ぶ)が昭和62・63年度に分布調査を実施し、15遺跡106,000㎡を調査対象として、平成4年4月23日付けで日本道路公団高松建設局(現四国支社、以下JHと呼ぶ)と埋蔵文化財の取り扱いに関する協議(文化庁協議)を終えた。平成4年度は第7次区間(徳島～脇)の調査最終年度と重なったが用地交渉が開始され、当年度末より一部地点において試掘調査に着手し、6年度より本調査を開始した。

第11次区間(美馬～川之江)の路線延長は42.3kmで、平成2年11月19日施行命令が出され、平成3年1月21日に路線発表された。当該区間は県教育委員会が平成4年度に分布調査を実施し、39遺跡323,195㎡を対象として、平成5年9月24日付けで文化庁協議を終えた。平成6年度試掘調査に着手し、7年度より本調査を開始した。

この区間は平成9年度に第10次区間、10年度に第11次区間のうち美馬～井川池田の供用目標が設定された。県教育委員会は6年度に第7次区間の調査実施(調査班数16.5班、調査対象68遺跡360,000㎡に対して実調査面積133,464㎡、実掘率37%)を勘案して、当該区間に必要な調査班数を12班(1班構成、研究員2・調査補助員2)と算出した。4・5年度は用地取得状況にも顕著な進捗はなく、そのため第10次区間の一部において本調査が実施されたにすぎない。

6年度は全区間で用地取得が進み、10次区間の5カ所で本調査を実施したのをはじめ、両区間の21カ所で試掘調査を展開した。

県教育委員会はセンターから提出された6年度の試掘調査結果や用地取得状況を基に、7年度を10次区間3班、11次区間6班の計9班体制で調査する事を決定した。しかしこれは、10年度中の供用時期を前提としたJHの調査人員配置要望(10次区間必要班数11班・11次区間必要班数16班、7年度要望班数15班)とは大きな懸隔を生じた。さらに人員確定後に試掘調査が行われた美馬町薬師遺跡・坊僧遺跡では調査対象区域外に遺跡が広がる見込みとなり、約22,000㎡の追加調査の必要性が生じた。併せて第11次区間の用地取得が進捗した。そのため10次区間の調査を優先させると、11次区間は試掘調査を実施するにとどまり、本調査に着手できない状況が懸念された。このためJHから県教育委員会に対して度重なる増班要請がなされた。

7年度は県立埋蔵文化財総合センター開設に伴い、調査関係は一課二係制が二課四係制に改正され、調査第二課調査第一係がJH事業を担当することになった。県教育委員会は年度早々に必要班数を見直して26.5班と修正し、第二課内の事業の調整にとどまらず、第一課事業も割愛し、調査班の捻出に向けての調整をセンターに要請した。その結果、7年度を当面12班で対応することとなった。

7年度は第10次区間の調査を概成させ、第11次区間については試掘調査を先行させる方針により、調査班の配置を変更したために、全体の実掘面積は当初計画よりも減少したものの、調査計画が大幅に変動した。また11次区間で本調査を実施した三野町丸山遺跡では約85,00㎡の追加調査が必要となったのをはじめ、一部の調査において大幅な遅延を生じたため、さらに調整を行い休日まで研究員を投入する

事態となったが、さほどの効果を上げるまでには至らなかった。

加えて試掘調査の結果、美馬町荒川遺跡、吉水遺跡、三好町土井遺跡、大柿遺跡などでは、当初見込みを上回る調査面積が確実に became ため、県教育委員会は工事工程上、調整可能な調査箇所を平成8年度に先送りすることを決めた。こうしたことから、必然的に平成8年度が事業ピークを迎える見込みになった。JHと次年度体制について協議を進めていた県教育委員会は、年末までに8年度を35班体制で臨むことを決定し、不足人員を若干の専門職員採用と30数名の教員派遣で対応することを決定した。

この大量の教員派遣計画に対して、平成8年2月10日付文化財保存全国協議委員会から徳島県知事・徳島県教育長宛「四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査及び文化財保護行政の適正化を求める要望書」、同年3月6日付日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会から「四国縦貫自動車道建設に伴う文化財保護行政ならびに埋蔵文化財発掘調査に関する要望書」が提出された。

これに対し県教育委員会は県教育長名で考古学研究会に同年3月22日付、日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会には同年4月15日付で回答している。

8年度は調査体制が一新された。県教育委員会に埋蔵文化財担当参事(センター常務理事兼事務局長)を設置し、文化財課の埋蔵文化財担当係の強化を図ると共に、前年度に続いてセンターの組織改革が行われた。調査関係では7年度の事務分掌が全面的に改正され、三好町に埋蔵文化財センター西部事務所が設置された。調査第二課調査第一係は西部事務所勤務となり、8年度は新設の所長(センター常務理事兼次長)以下143名、9年度は95名体制、8年度最大稼働時35班(通年28.5班)、9年度最大稼働時24班(通年20.5班)、計49班で事業に対応することとなった。

第1表に年次ごとの進捗状況を示した。8年度は第11次区間美馬～井川池田間の調査に目途をたてることを最大の主眼とした。8年度前半に10次区間及び全年度からの継続調査の完了、用地の取得がまとまった11次区間の中規模遺跡の概成、後半での大規模遺跡への効果的稼働を目指した。

東原遺跡は平成7年度より試掘調査が開始されるが用地買収の都合により2度に渡って行われた。その結果15,825㎡が本調査面積として確定した。翌年の平成8年度に2班体制で調査面積15,825㎡について本調査が行われている。

調査組織及び整理体制は以下である。

総括

所長	筒井 豊祐 (平成8年度)	寒川 光明 (平成11年度)
	本浄 敏之 (平成13～15年度)	
事務所長	庄野 徳保 (平成8年度)	細川 靖夫 (平成11年度)
	伊丹 康裕 (平成13年度)	西村 和博 (平成14・15年度)
総務課長	長江 仁 (平成8年度)	井後 伸一 (平成11年度)
	高野 明 (平成13年度)	山本 高史 (平成14・15年度)
総務課主査兼係長	福本紀美子 (平成13・14年度)	坂尾 俊一 (平成15年度)
主事	集堂 正士 (平成8・11年度)	佐藤 真記 (平成11年度)
	田所 正義 (平成13年度)	布川 純子 (平成14・15年度)
技師	青木 雅和 (平成8年度)	笠井 達雄 (平成8年度)

西部事務所

所 長（常務理事兼事務局次長兼務） 谷 一郎（平成8年度）
 次 長（調査第二課長兼務） 菅原 康夫（平成8年度）
 縦貫担当係長（調査第二課第一係長兼務） 南 信義（平成8年度）
 臨時補助員 森 礼子（平成9年度）

調査担当 研究員 武市 文雄（平成8年度） 市原 健次（平成8年度） 九十九 肇（平成8年度）
 大栗 悟（平成8年度） 笠井 啓介（平成8年度） 久保 雅仁（平成8年度）

調査報告書作成業務

整理普及課長 島巡 賢二（平成11・13～15年度）
 整理係長 西谷 泰幸（平成11年度） 貞野 保仁（平成13・14年度）
 貞野 雅己（平成15年度）
 研究員 横田 温生（平成11年度）
 金森 英人（平成13年度） 久保協義郎（平成13年度）
 小泉 信司（平成14・15年度）

第1表 四国縦貫自動車道（脇～美馬・美馬～川之江）埋蔵文化財調査地一覧表

番号	遺跡名	所在地	表 面 積 (m ²)								備 考
			実掘面積	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	
1	原(I)	美馬郡脇町北庄	380		380						報告書第41集所収
2	原(II)	美馬郡脇町北庄	1,560		1,560						報告書第41集所収
3	鶴射	美馬郡脇町北庄	1,544		240	1,304					報告書第41集所収
4	佐城(I)	美馬郡脇町脇町	565	165	400						報告書第41集所収
5	佐城(II)	美馬郡脇町脇町	779	89	70	620					報告書第41集所収
6	佐城(III)	美馬郡脇町脇町	146	146							
7	田上(I)	美馬郡脇町田上	891			873	18	170			報告書第27集所収
8	田上(II)	美馬郡脇町西田上	9,258			4,610	4,478				報告書第27集所収
9	田上(III)	美馬郡脇町西田上	6,062		150	1,822	4,090				報告書第27集所収
10	井口	美馬郡脇町井口	150		150						報告書第41集所収
11	薬師(薬師)	美馬郡美馬町芝坂	9,335			330	9,005				報告書第34集所収
12	薬師(芝坂)	美馬郡美馬町芝坂	6,937			41	4,613	2,283			報告書第34集所収
13	坊僧(坊僧)	美馬郡美馬町坊僧	12,455		750	56	11,649				報告書第34集所収
14	坊僧(中黒)	美馬郡美馬町坊僧	229			154	75				報告書第34集所収
15	坊僧(東段)	美馬郡美馬町坊僧	5,850			116	5,734				報告書第34集所収
16	坊僧(西段)	美馬郡美馬町坊僧	63			63					報告書第34集所収
17	池ノ浦	美馬郡美馬町池ノ浦	26			26					報告書第41集所収
18	滝ノ宮	美馬郡美馬町滝ノ宮	2,563	350	500		1,713				報告書第41集所収
19	下突出	美馬郡美馬町中横尾	2,600				2,600				報告書第41集所収
脇～美馬			61,393	750	4,200	10,015	43,975	2,453			

20	荒川	美馬郡美馬町荒川	17,782				202	15,530	2,050		
21	吉水	美馬郡美馬町吉水	3,820				120	3,700			報告書第20集所収
22	西屋敷	美馬郡美馬町山本	288				288				
23	中山	美馬郡美馬町中山	172				172				
24	西大佐古	美馬郡美馬町突落	153				108	45			
25	清水	三好郡三野町清水	10,692		692			10,000			
26	塩塚	三好郡三野町清水	2,332		310	72		1,950			
27	加茂野宮(Ⅱ)	三好郡三野町加茂野宮	300		300						
28	加茂野宮(Ⅰ)	三好郡三野町加茂野宮	340		340						
29	大谷尻	三好郡三野町北原	4,595		95	4,500					
30	丸山	三好郡三野町勢力	14,760			11,110	3,650				報告書第45集所収
31	花園	三好郡三野町太刀野	3,456			356	3,100				報告書第42集所収
32	太刀野山(Ⅱ)	三好郡三野町アミダ堂	157		103	54					報告書第42集所収
33	太刀野山(Ⅰ)	三好郡三野町アミダ堂	450		450						報告書第42集所収
34	台	三好郡三好町足代	1,203					1,203			報告書第42集所収
35	宮ノ岡(Ⅱ)	三好郡三好町足代	345					345			報告書第42集所収
36	宮ノ岡(Ⅰ)	三好郡三好町足代	898					898			報告書第42集所収
37	東原	三好郡三好町足代	16,365		217	323	15,825				本報告書所収
38	西原	三好郡三好町足代	10,853		157	616	8,153	1,927			
39	円通寺	三好郡三好町足代	42,453			808	30,375	11,270			報告書第28集所収
40	土井	三好郡三好町昼間	35,630		140	378	19,520	15,592			報告書第38集所収
41	大柿	三好郡三好町昼間	53,012			1,562	22,960	28,490			報告書第37集所収
42	八幡	三好郡井川町八幡	1,250			20	1,230				報告書第29集所収
43	井内	三好郡井川町西井川	277					277			報告書第29集所収
44	井出上	三好郡井川町西井川	6,336			30	6,306				
45	相知	三好郡井川町西井川	15,500			120	15,380				
46	坊	三好郡井川町西井川	420				120	300			報告書第29集所収
47	須賀	三好郡井川町西井川	3,869				689	3,180			報告書第29集所収
48	末	三好郡井川町西井川	240					240			報告書第29集所収
49	お塚	三好郡池田町トウゲ	5,314		354	1,238	3,722				
50	供養地	三好郡池田町クヨウジ	1,811		111	1,700					
51	山田(Ⅱ)	三好郡池田町ヤマダ	1,515		285	1,230					
52	山田(Ⅰ)	三好郡池田町ヤマダ	703		53		650				
53	馬路	三好郡池田町馬路	970					320	650		
54	源氏岡	三好郡池田町馬路	175						175		
55	林	三好郡池田町佐野	130					130			
56	和田	三好郡池田町佐野	1,220				1,220				
57	森常	三好郡池田町初草	90					90			
58	高毛	三好郡池田町高毛	25					25			
美馬～川之江											
計											

2 調査の経過

(1) 調査の経緯

東原遺跡は分布調査により33,730m²が試掘調査の対象地として認定されていた。試掘調査は用地買収の都合により2度行われた。1回目は平成7年2月20日～平成7年3月17日まで対象面積は8,300m²につき217m²の調査が行われた。対象地は東西に長く地形状況により調査地を東よりA・B・C区の3カ所に分けて行われた。試掘調査の結果東側A調査区から中世の遺構面が確認され、西端C調査区からは弥生時代の包含層を確認している。また今回の試掘調査によりA調査区の東側にさらに中世の遺構面が広がる可能性が新たに出了ため対象面積の変更が求められた。2回目の試掘調査は平成7年7月17日～8月7日まで行われた。対象面積は25,430m²につき323m²の調査が行われた。その結果前回の試掘調査をうけて拡張された東側の調査対象地からは中世の遺構面が確認された。また西側対象地からは前回試掘調査を行った時と同様弥生の包含層が確認できたことから本調査面積は15,825m²に確定した。

本調査は対象面積と調査期間を勘案して調査班2班を投入して翌年度の平成8年4月3日～平成9年3月31日まで行われた。(第1図)

(2) 発掘調査の方法

調査対象地は東西に離れて設定されていることから、調査に当たってのグリット配置は東西2カ所ごとに行われた。グリット配置は発掘調査統一基準にならい次のように設定している。第IV系国土座標を基準とし、5mメッシュを1グリットとして調査対象地を包み込み、南西隅を基準とし北にA、B、C……、東に1、2、3……の順に記号・番号を振り、その組み合わせで各グリットを表すこととした。なお、調査対象地が広範囲にわたるため、調査区の設定はその間を横切る道路や用水路などの保守の必要性があるもの、および地形を考慮した上で、便宜上田畑の現地割りのまとまりごとに東から西へA調査区からE調査区とした。

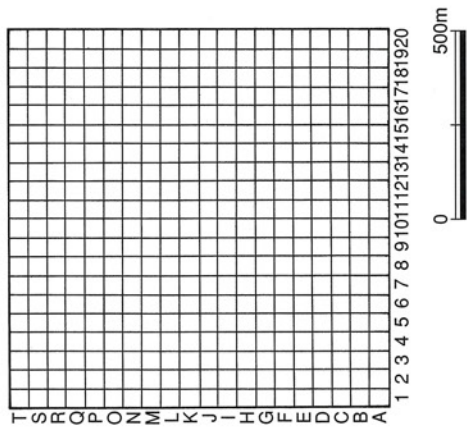
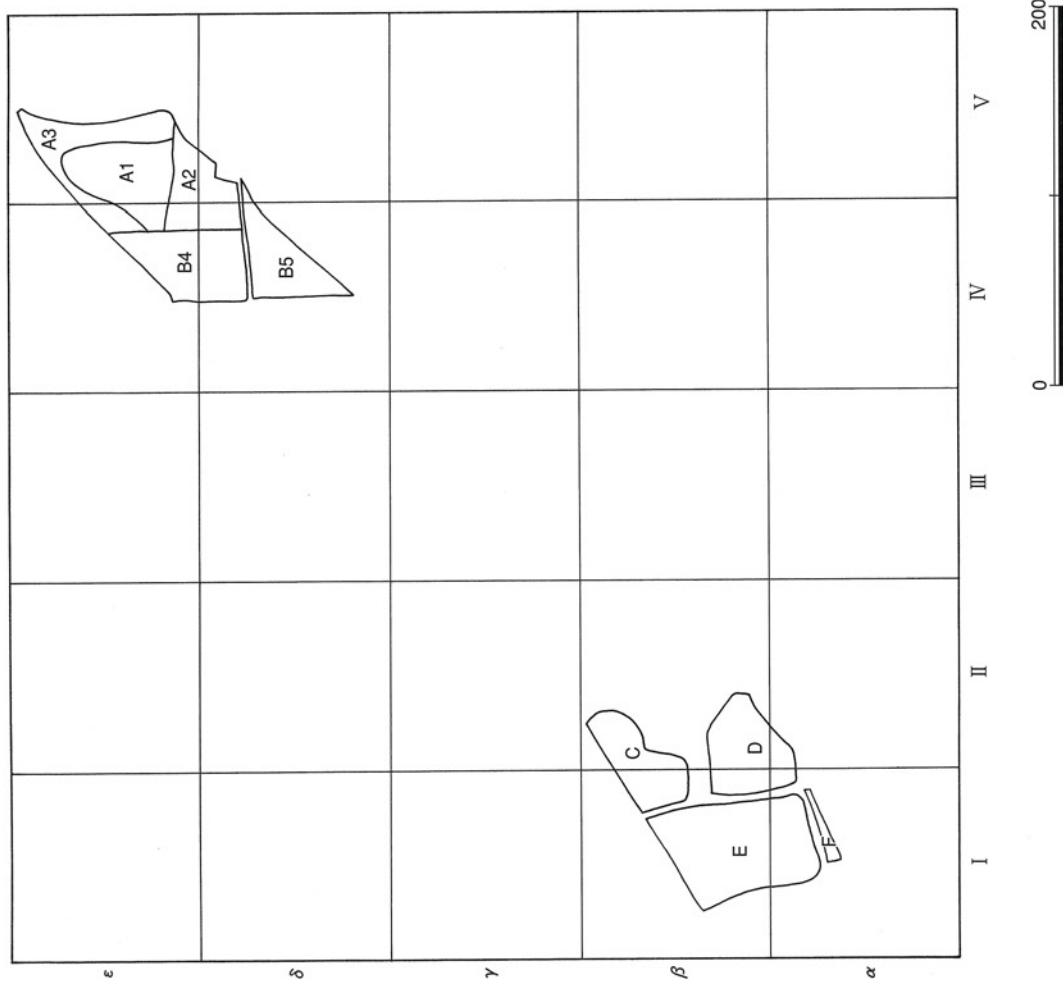
遺構記号・番号は検出時に決定されているが掘削後に遺構としての確実性に乏しいものは欠番とした。これは遺構記号・番号の変更による混乱を避ける目的であり、変更は必要最小限にとどめた。しかし、調査区ごとに遺構番号を決定していることより同一の遺構番号を持つ物が各調査区に存在し混乱を呈しそうなので整理段階で各遺構番号を西側のB5調査区から通し番号を振り直している。また掘立柱建物の遺構番号は整理段階で新たに振り直している。

(3) 調査日誌抄

5月9日	A-1・2区機械掘削開始。	11月13日	西区機械掘削開始。
5月21日	A-1・2区機械掘削終了。	11月26日	西区機械掘削終了。
5月22日	B-4区機械掘削開始。	12月11日	B-5区機械掘削開始。
6月3日	B-4区機械掘削終了。	12月19日	B-5区機械掘削終了。
6月5日	西区人力掘削開始。	1月7日	西区機械掘削開始。
6月11日	西区機械掘削終了。	1月13日	B-4区遺構完掘作業開始。
6月13日	A-1・2区遺構検出作業開始。		B-4区人力掘削作業開始。
6月19日	A-1・2区遺構半裁作業開始。	1月14日	B-5区遺構検出作業開始。
9月17日	A-1・2区遺構完掘作業開始。	1月16日	B-5区遺構半裁作業開始。
10月17日	西区精査作業開始。	1月17日	西区機械掘削開始。
10月23日	A-1・2区空撮写真撮影。	1月31日	B-4区空撮写真撮影。
	西区完掘写真撮影。	2月6日	B-5区遺構完掘作業開始。
10月24日	B-4区人力掘削作業開始。	2月15日	B-5区空中写真撮影。
10月29日	B-4区遺構検出作業開始。	3月13日	現場撤収。調査終了。
11月5日	B-4区遺構半裁作業開始。		



第1図 調査区位置図



第2図 グリット配置図

Ⅱ 立地と環境

1 地理的環境

徳島県は四国東部に位置し、北部は阿讃山脈を挟んで香川県と接し、南部は高知県、西部は愛媛県と接している。また、東部は紀伊水道を経て和歌山県と向かい合っている。徳島県の総面積は4,140kmを測り、県内の大部分は山地が占め、平野部は全体の2割ほどにしか過ぎない。徳島県北部には東西方向に横断する日本有数の断層帯である中央構造線とその南側に中央構造線に沿っていくつかの断層が存在している。この中央構造線を境とし北側は「内帯」、南側は「外帯」と呼ばれている。また中央構造線の北側には阿讃山脈、南側には四国山脈がある。この阿讃山脈と四国山脈に挟まれた部分には谷底平野が存在し吉野川が東流し東側に開けた地形を展開している。四国最大の河川である吉野川は愛媛県と高知県の県境にある瓶ヶ森山(1,897m)を源泉とし四国山地を北流し、池田町で90度東に向きを変え中央構造線に沿って東に流れる。

東原遺跡は三好町大字足代東原に所在する。三好町は徳島県の北西部に位置し、東に三野町、西に池田町、吉野川を挟んで井川町、北に香川県仲多度郡仲南町、三豊郡財田町に接している。北部には阿讃山脈、南部に吉野川の谷底平野が分布し、境界には中央構造線断層系が東西に走る。阿讃山脈は和泉層群海成層から出来ている。谷底平野には段丘、扇状地が発達している。三好町は大きく分けて山地部分と台地・低地部分に分かれる。台地部・低地部分に当たる平野部は吉野川の氾濫によって出来た沖積層と段丘面に分けることが出来るが、沖積層、段丘面には阿讃山脈より流れる中小河川の砂礫を表層に堆積し扇状地状の地形を形成しており厳密な区分は難しい。中央構造線の北側には砂岩、泥岩、礫岩、凝灰岩から成る和泉層群が形成される。また南側には青石と呼ばれる緑色片岩、石英片岩が主体となる三波川帯が形成されている。

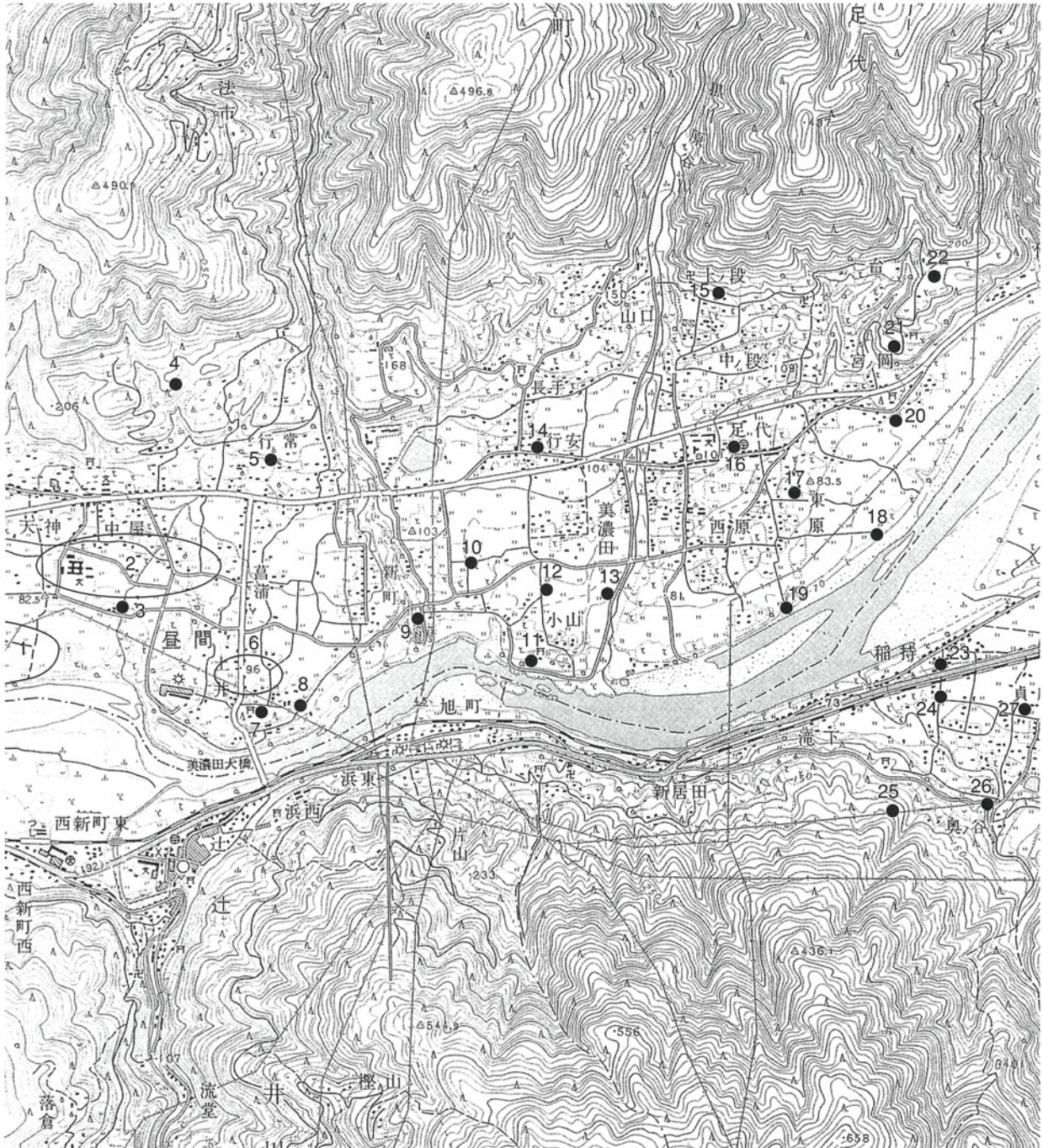
遺跡は標高78~73mを測る吉野川からの流失土で形成される沖積層(下位面)に位置している。この沖積層の上には阿讃山脈から流れ出す黒川原谷川の堆積物が堆積した扇状地形を形成している。

2 歴史的環境

三好郡内において旧石器時代から現在に至る遺跡は阿讃山脈南麓と四国山脈北麓、吉野川による沖積地、及び扇状地上に各時期事に生活が営まれた痕跡が確認されている。

旧石器時代については主に山腹や山稜で確認されている。主な遺跡は池田町井ノ久保A遺跡、白地峰遺跡、新山A遺跡、洞草遺跡、三好町土取遺跡、三野町東上野遺跡、井川町猿渡遺跡、三加茂町丹田遺跡が挙げられる。土取遺跡は阿讃山脈の支脈、標高149m付近に位置しサヌカイト製横剥ぎナイフ型石器、宮田山型ナイフ形石器、剥片が採取されている。また、四国山脈北麓標高320mに位置する丹田遺跡からは国府型ナイフ形石器が検出されている。

縄文時代の遺跡は山腹、河岸段丘、吉野川沿いの沖積地で確認されている。三加茂町加茂谷川岩陰遺跡群からは早期の複合山形文土器及び円形押型文土器、前期の爪形文土器、中期~後期・晩期の土器が出土し当地の土器編年の指標となる。また、貝類や獣骨の出土も確認されており、季節により洞窟を転々としたベースキャンプ的な利用が考えられる。吉野川の沖積地上には三加茂町稲持遺跡が存在し晩期前



- | | | | |
|---------------------------|---------------|-----------|----------|
| 1 大柿遺跡 | 7 東昼間遺跡 | 14 行安遺跡 | 21 足路城跡 |
| 2 昼間遺跡
(京田・天神前・正力・荒神前) | 8 西成行古墳 | 15 上の段遺跡 | 22 台遺跡 |
| 3 妙見七夕塚古墳 | 9 西貝川遺跡 | 16 中の段遺跡 | 23 稲持遺跡 |
| 4 土器ノ丸城跡 | 10 円通寺跡 | 17 足代東原遺跡 | 24 稲持塚古墳 |
| 5 行常遺跡 | 11 円通寺遺跡小山地区 | 18 東原遺跡 | 25 鴨壘跡 |
| 6 土井遺跡 | 12 円通寺遺跡柳ノ坪地区 | 19 西原遺跡 | 26 姫塚古墳 |
| | 13 円通寺遺跡小原地区 | 20 宮の岡遺跡 | 27 雀塚古墳 |

第3図 東原遺跡周辺の遺跡

半の集落遺跡として知られている。住居内からは磨製石器、石鋏等の未製品が多量に出土しており、石器制作に関わった集落と考えられている。また吉野川の中州性微高地上には三好町大柿遺跡が所在している。晩期後半の土器が出土しているが、石鋏埋納遺構を初め多くの結晶片岩性石鋏が出土しており植

物栽培の可能性が考えられている。

弥生時代には前期～中期にかけて低位段丘上および沖積地に遺跡は集まっている。三好町大柿遺跡は前期末～中期初頭にかけての灌漑用水路と大規模な棚田を有する遺跡である。これは当期における水田開発を知る上で重要である。また大柿遺跡の東側段丘上には三好町土井遺跡が所在し大柿遺跡と同じ時期の遺構・遺物が確認されている。弥生時代中期～後期になると遺跡は沖積地上よりは段丘上で確認される傾向がある。弥生時代中期末には三野町丸山遺跡、大谷尻遺跡等の高地性集落が現れる。この時期には生活圏の高地化がうかがえ、吉野川の氾濫等低地では生活できなかつた何らかの理由が考えられる。後期にはいと段丘上と再び沖積地上で生活が営まれる。三加茂町稲持遺跡では後期中葉の集落が確認されている。出土遺物は蛇紋岩製の勾玉、勾玉の未製品等が多量に出土した玉造遺跡である。終末期には三好町足代東原遺跡から積石墓群が確認されている。全長16.5mの前方後円形積石墓を中心に35基以上の円形積石墓が検出されている。また土器溜まりからは猪形・猿形の土製品が出土しており、葬送儀礼の一環として狩猟儀礼が行われていたものと思われる。足代東原遺跡の南西500mには標高80m前後に位置する段丘上の遺跡西原遺跡が位置している。この遺跡は、弥生時代後期～終末を主体とした造墓集団集落と考えられている。

古墳時代の前期の集落は未確認の状況であり実態は不明である。中期～後期にかけて三好町大柿遺跡から多数の竪穴住居、掘立柱建物跡、鍛冶工房等が検出され県西部最大規模の大集落が確認されている。古墳については前期から確認されている。吉野川に臨む加茂山の支脈標高320mの位置から三加茂町丹田古墳が確認されている。全長35mの積石による合掌型竪穴式石室を持つ県西部唯一の前方後円墳である。出土遺物には獣形鏡、鉄剣、袋状鉄斧が出土している。後期にはいと三好町七夕妙見古墳、西成古墳、三加茂町では天神塚古墳等が確認されている。

古代には調査事例は少ないが三好町の大柿遺跡、三加茂町末石遺跡、中庄東遺跡が確認されている。大柿遺跡では平安時代の土器焼成土坑、掘立柱建物跡、水田が検出されている。対岸の三加茂町には7世紀の集落遺跡の末石遺跡が所在する。また末石遺跡の東側には三加茂町中庄東遺跡が方形地割の条理遺構が残る中に所在している。主な遺構は掘立柱建物跡、土壙墓等の8世紀代の集落遺跡が検出されている。遺物は帯金具(丸鞆)、和同開珎等が出土しており周辺に官的な施設の存在が考えられる。また、条理遺構も検出されており吉野川下流域国府周辺のN-10°-Wとは違った方向に施行されている事が確認された。

中世には近年縦貫自動車道の発掘調査により事例報告は増加している。三好町大柿遺跡からは平安末～鎌倉期に至る大集落が確認されている。掘立柱建物跡の柱穴からは白磁四耳壺、瓦質四耳壺等の出土遺物を確認した。これは建物廃絶に伴う埋納遺構と考えられている。大柿遺跡の東側段丘面には三好町土井遺跡が所在している。土井遺跡は鎌倉・室町期にかけての集落跡で、西村系須恵器碗を焼成したと思われる煙管状窯跡と灰原が検出されている。更に東側には三好町円通寺遺跡が所在している。円通寺遺跡は方形区画溝に囲まれた屋敷地と外側の堀と土塁の一部を確認した。時期は鎌倉～室町期にかけてである。特に15世紀末～16世紀初頭にかけて堀と土塁が構築されて城館と呼ぶにふさわしい体裁を整える。古文書等から明確な城館居住者についての資料は確認されていない。城館居住者は三野田保の荘官もしくは地頭クラスの人を想定している。対岸の三加茂町では三加茂町中庄東遺跡において吉野川に隣接した沖積地上で堀に区画された屋敷地が確認されている。調査は屋敷地と堀の一部について行われた。出土遺物からは14～16世紀代と考えられている。また、三好郡内では荘園、郷、保の記録が伝えら

れている。寛治4年(1090)に成立した福田庄、西園寺領で三好町昼間付近にあたる田井庄、文治元年(1185)に源頼朝によって山城石清水八幡宮に寄進された三野田保、鎌倉中期に山城醍醐寺領になった金丸庄、稲用庄などが挙げられる。

参考文献

- 天羽 利夫・岡山真知子 1985『徳島の歴史散歩』 徳島市民双書・19 徳島市立図書館
- 石田 啓祐他 1993「阿讃山脈西部の和泉層群と中央構造線—徳島県三好町地域の地質と地形—」『総合学術調査報告「三好町」』 郷土研究発表会紀要 第39号 阿波学会・徳島県立図書館
- 大北 和美 2001『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査19 土井遺跡』 徳島県教育委員会・(財)徳島県埋蔵文化財センター・日本道路公団
- 奥村 清他 1998『自然の歴史シリーズ④徳島「自然の歴史」』 コロナ社
- 菅原 康夫 1986『日本の古代遺跡 37 徳島』 保育社
- 辻 佳伸 2000『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査15 円通寺遺跡』 徳島県教育委員会・(財)徳島県埋蔵文化財センター・日本道路公団
- 早瀬 隆人 1992「旧石器遺跡の立地についての一視点—吉野川北岸域を中心として—」 徳島県埋蔵文化財センター研究紀要『真朱』創刊号
- 森 浩一・松藤和人 1999『徳島県三好郡三加茂町所在 加茂谷川岩陰遺跡』 同志社大学文学部考古学調査報告書第10冊 同志社大学文学部文化学科
- 『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 8 1996年度』 1997 (財)徳島県埋蔵文化財センター
- 『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 9 1997年度』 1998 (財)徳島県埋蔵文化財センター
- 『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.10 1998年度』 1999 (財)徳島県埋蔵文化財センター
- 三好町史編集委員会 1996『三好町史 地域誌 民俗編』 徳島県三好郡三好町
- 三好町史編集委員会 1997『三好町史 歴史編』 徳島県三好郡三好町
- 「三好郡」『徳島県の地名』 日本歴史地名体系37 2000 平凡社

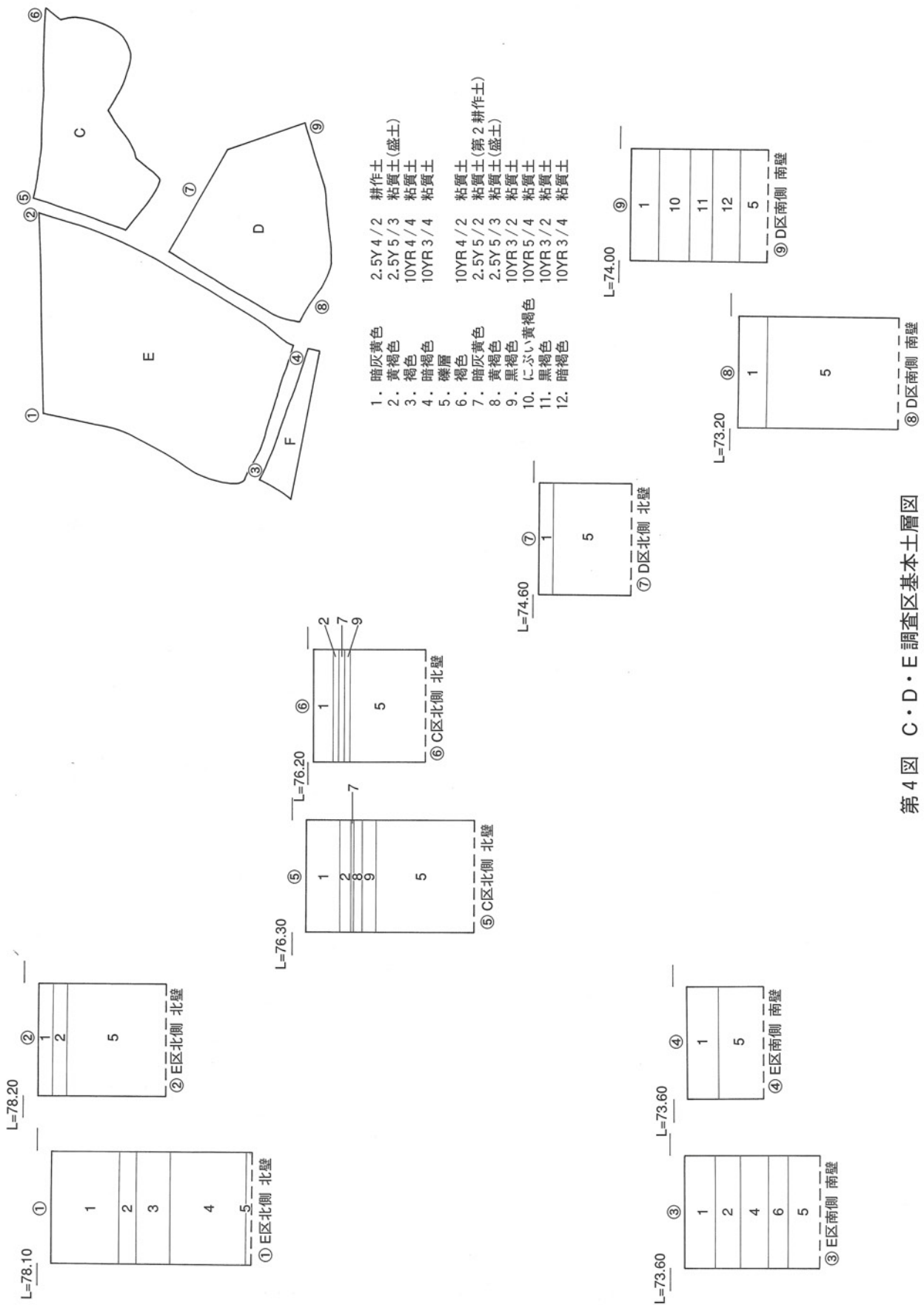
Ⅲ 調査成果

1 基本層序

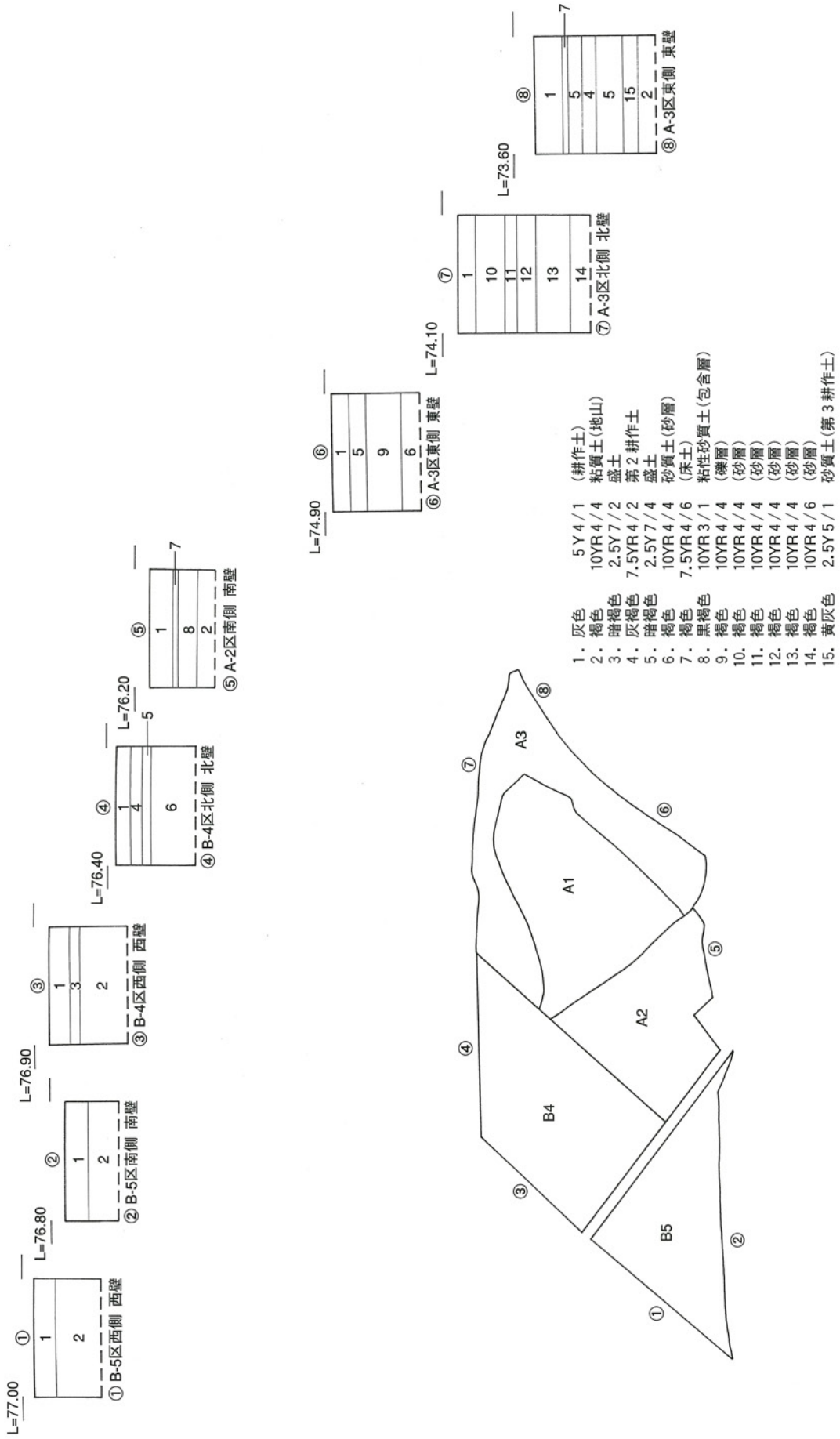
本遺跡は吉野川により形成された沖積層とその沖積層の上に表層として形成された黒川原谷川による扇状地上に位置する。調査地は扇状地上を横断する形で東西方向に調査地を2カ所設定している。調査の結果、西側の調査地からは阿讃山脈から吉野川に向かって南流する旧自然流路、東側の調査地からは微高地を確認した。

調査地は三好郡三好町大字足代東原に位置する。調査地南側100mには吉野川が走っている。現況は水田である。調査地は大きく2カ所に設定されている。西側調査地はC～Fの4カ所に調査地を分けて設定している。一番高い北側で標高78m、南側では標高73.1mを測り北から南に向かって下がるやや急峻な地形を呈している。現況の地形は高低差があるため水田面も水田ごとに段差を持って存在している。西側調査地ではやや不安定な包含層を確認したが、明確な遺構面を確認することは出来なかった。各調査区の土層は以下のとおりである。C区は耕作土直下に礫層が来るため礫層上面に盛土をし、その上に耕作土をのせ耕作を行っている。D区は調査区西側から耕作土直下に礫層が確認され東に行くほど礫層は下層に下がり自然堆積層のにおい黄褐色、黒褐色、暗褐色粘質土が堆積する。E調査区では東側で礫層がD調査区と同様耕作土直下に確認される。しかし西側では礫層は下層に下がっていき褐色粘質土、暗褐色粘質土の自然堆積層が堆積する。遺物包含層は各調査区の礫層が下がった部分の上層に堆積した自然堆積層に当たる黒褐色粘質土、におい黄褐色粘質土、暗褐色粘質土中に弥生土器片や土師器片が確認されている。しかし確認された包含層は層位的には調査区全域では認められておらず包含層はやや不安定な堆積状況を呈している層である。(第4図)

東側の調査地は大きく2つの調査区に分けさらにそれぞれの調査区を地形の状況で細分している。標高はもっとも高い所で標高76.7m、低いところで標高73.4mを測る。地形的には西から東に向かってなだらかに下がっている。東側の調査区はA3調査区を除きほぼ全域で遺構面が確認でき、また部分的ではあるが包含層を確認した。現況は水田であるが西側調査区と違い地続きで営まれている。以下個々の調査区の堆積状況について述べる。B調査区では耕作土直下に褐色粘質土の地山面が存在し、その地山面が遺構面となる。調査区北側では部分的に褐色砂質土の砂層が地山面の上面に位置しており盛土を入れて土地を水平にしている。A調査区ではA2調査区南側部分で包含層に当たる黒褐色粘性砂質土が部分的に残存している。A1調査区では四壁が存在していないがA2調査区の出土状況とあまり変化が認められないことからA1・A2調査区では同じ堆積状況を示している物と思われる。A3調査区は標高73.4m前後を測りA1調査区北端より崖上に3m下がっている。A3調査区の堆積状況は耕作土以下褐色砂層と礫層の互層となっており、堆積状況からは河川堆積の可能性が考えられ吉野川による影響か阿讃山脈からの旧河川の影響が考えられる。(第5図)



第4図 C・D・E調査区基本土層図



第5图 A·B 调查区基本土层图



第6図 遺構配置図

0 20m



第7图 B4区掘立柱配置图

2 遺構と遺物

平成8年度(1996)に調査した遺構の配置状況は第6・7図及び付図に示すとおりである。調査は大きく東側調査地と西側調査地に分かれ、東側調査地からは弥生時代と古代から中世にかけての遺構と遺物が確認されている。特に古代から中世にかけての遺構は区画溝に囲まれた集落遺跡を確認した。また西側調査地からは当初調査地北側に足代東原遺跡や西原遺跡が位置する事から弥生時代の遺構面が確認される物と期待された。しかし調査の結果、明確な遺構面は確認できなかったが、弥生時代のやや不安定な包含層を確認した。

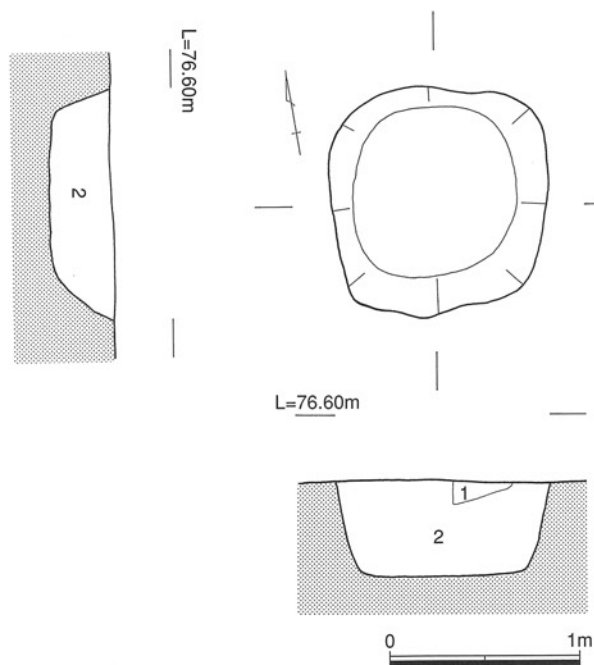
弥生時代の遺構と遺物

本遺跡からの弥生時代の遺構はA1調査区より土坑1基、柱穴3基を検出している。包含層出土遺物も細片は認められるがまばらに検出されたのみである。弥生時代の遺構面は中世の遺構面と同じ耕作土直下に位置しており、中世段階の土地開発、近世、近代の開墾等により削平されたことも考えられ本来は弥生時代の遺構面が存在していた可能性は高いものと思われる。

土坑

144号土坑 (SK1144) (第8・9図)

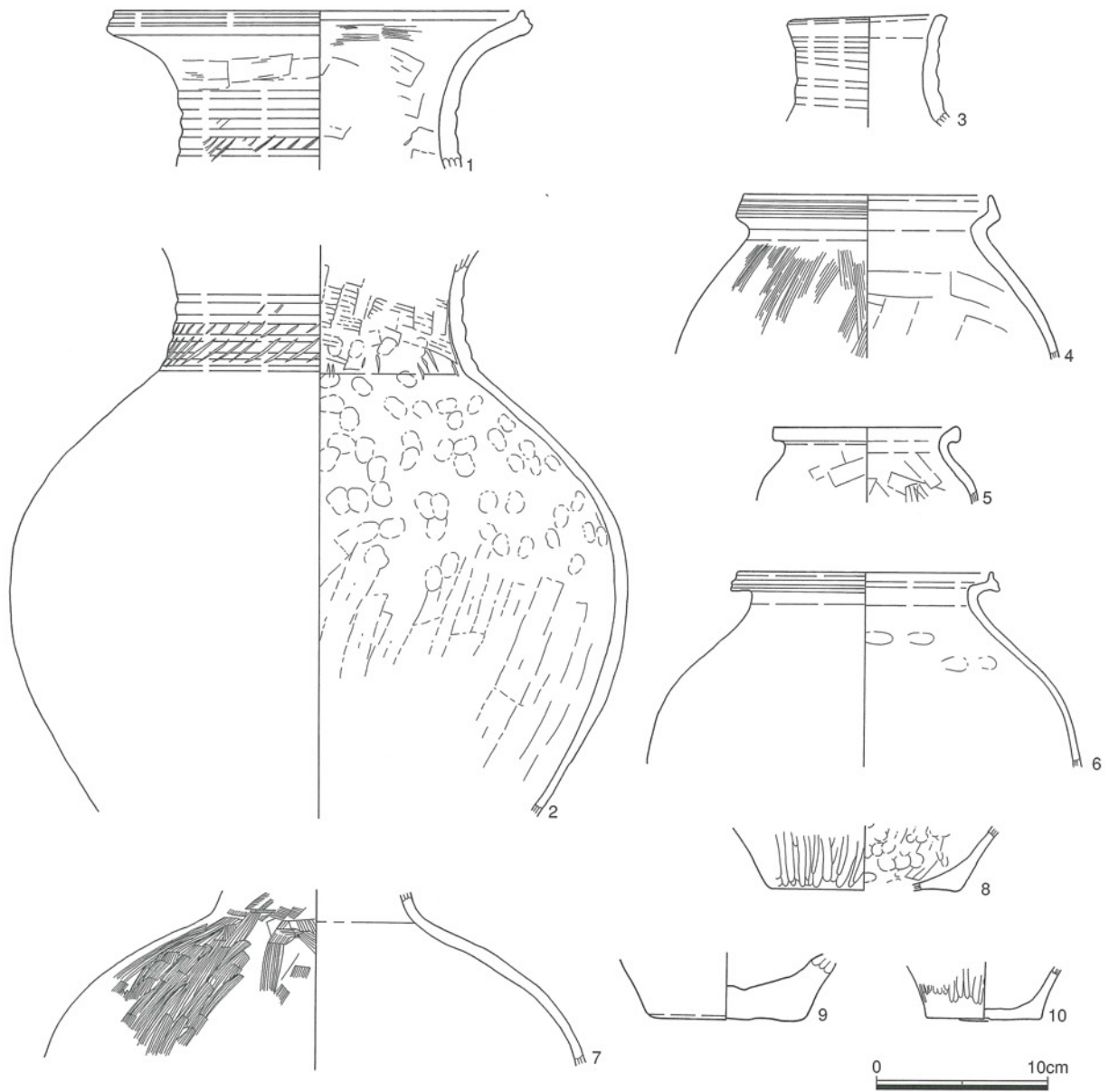
A1調査区I-2グリットから検出された土坑で長軸1.2m、短軸1.12m、深さ0.52mを測り平面形態は楕円形を呈している。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は暗褐色砂質土で遺構内からは上部より径10~30cmの川原石が折り重なるように検出され遺構下部からは土器と川原石が折り重なるように出土している。



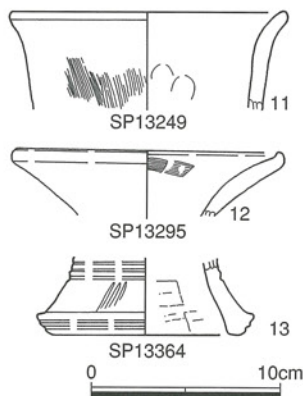
1. 暗褐色 10YR 3/4 砂質土
2. 褐色 10YR 4/4 砂質土 炭化物含む

第8図 SK1144実測図

実測可能遺物は10点である。遺物は壺型土器(1~3)と甕型土器(4~6)、体部片(7)、底部(8~10)である。1と2は同一個体の可能性がある。1は口縁端部方形に収めやや拡張し、頸部に凹線文を施している。3は口縁部方形に収め頸部に凹線文を施している。4は口縁端部を上方に拡張し端部は方形に収める。体部外面は縦方向のハケメ調整を施している。5は口縁端部を丸く収め口縁部は外方に屈曲して立ち上がる。6は口縁端部を上下に拡張し口縁端部にはやや強いナデを施している。7は体部の調整は摩滅が入りやや不明瞭であるがハケメが認められる。8~10は底部片である。平底を呈し外面にタテハラミガキが認められる。



第9図 SK1144出土遺物実測図



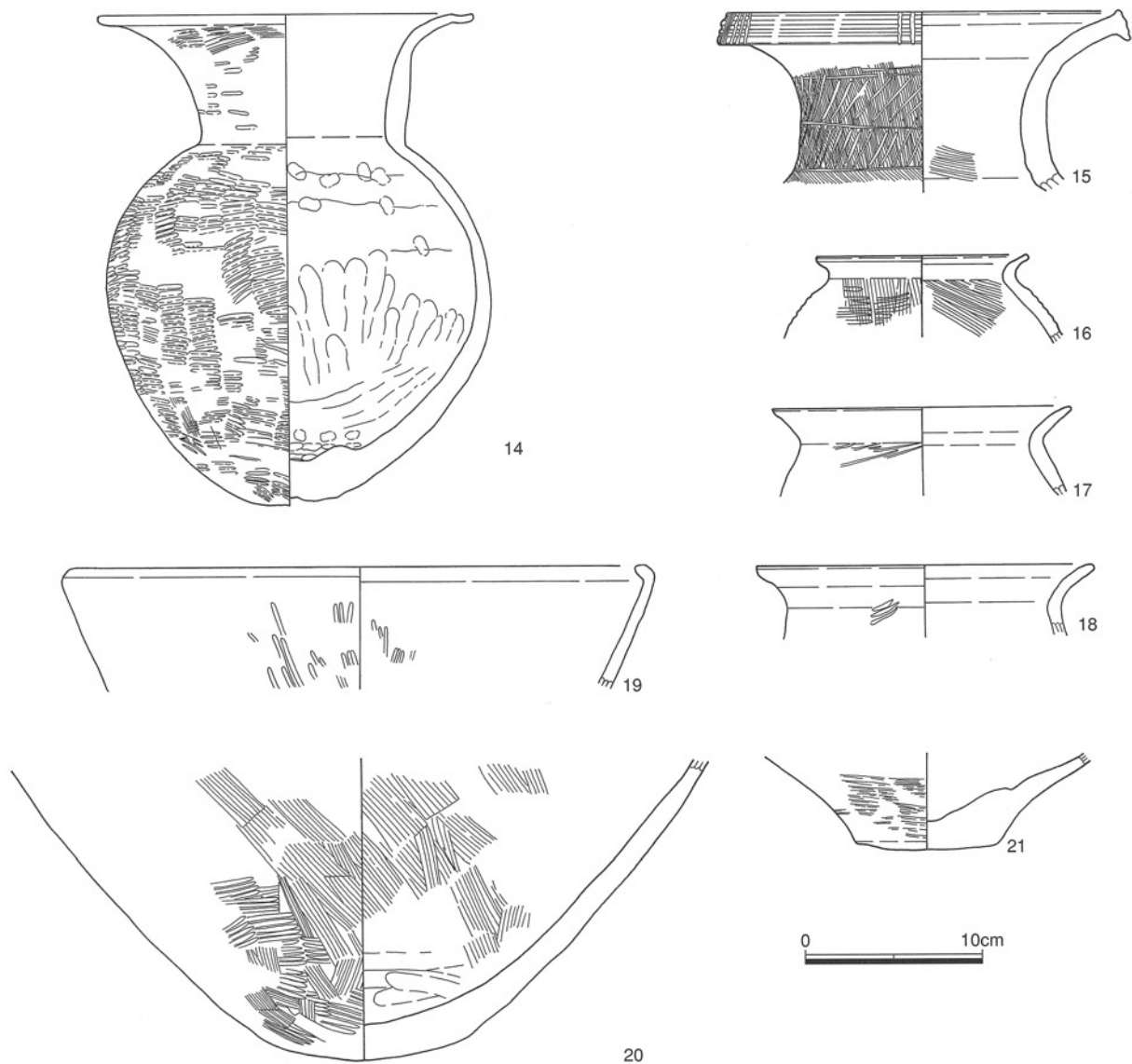
第10図 柱穴出土遺物実測図

柱穴出土遺物（第10図）

11はA1調査区J-3グリットSP13249より出土した甕型土器で口縁部はやや外反気味に立ち上がり、体部外面は縦方向のハケを施している。

12はA1調査区J-3グリットSP13295より出土した壺型土器であるが脚部の可能性を残す。口縁端部はやや拡張されている。

13はA1調査区K-3グリットSP13364より出土した高坏の脚部である。



第11図 包含層出土遺物実測図

包含層出土遺物（第11図）

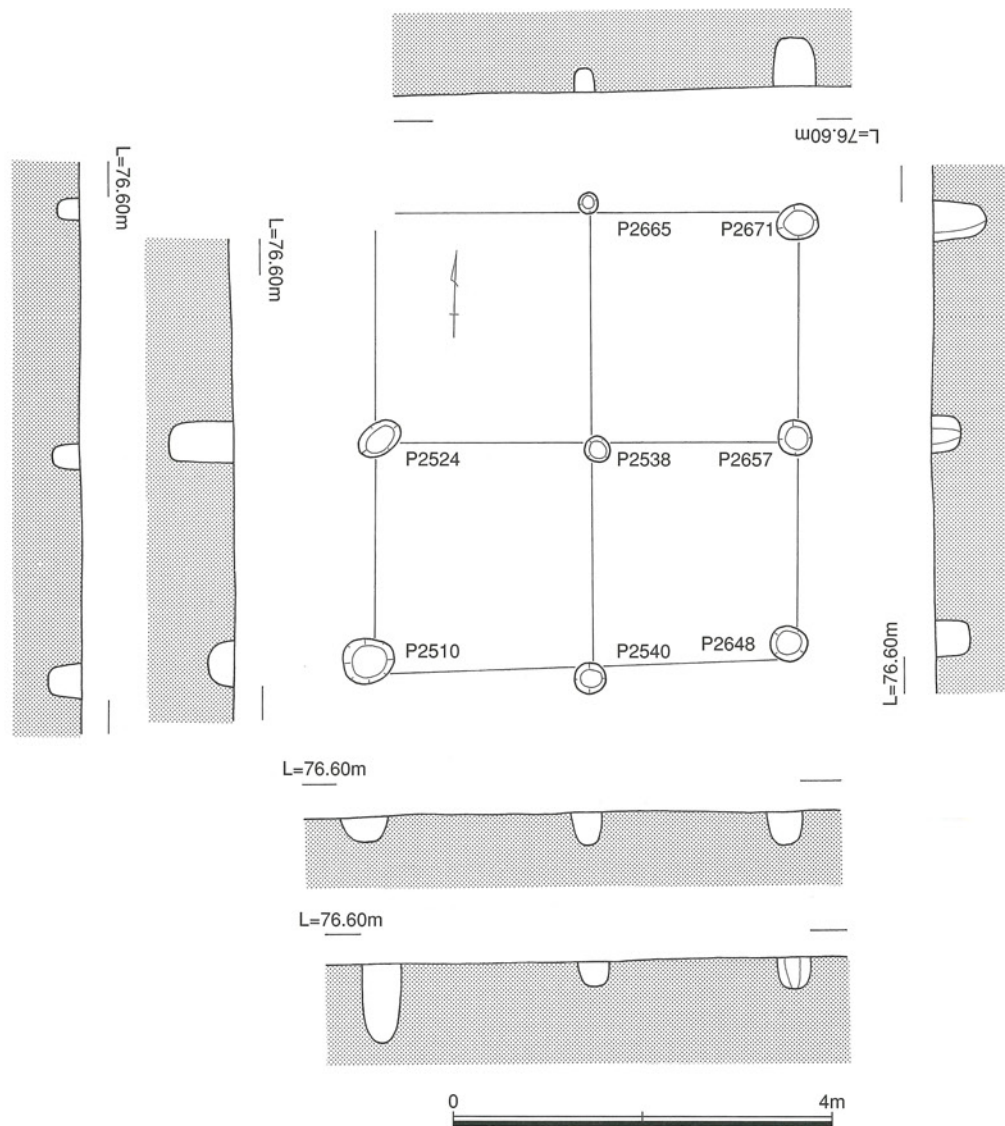
14・15は壺型土器である。14はほぼ完形で出土している。14は口縁部はラップ状に開き頸部から体部にかけてタタキを施している。15は口縁部は頸部からラップ状に開き口縁端部をやや拡張し凹線を施している。頸部にはヘラ状工具で圧痕文を施している。16～18は甕型土器の口縁部である。口縁部は丸く収め外方に屈曲している。19は鉢型土器である。口縁部は端部を丸く収め内彎し体部外面にはタテヘラミガキが施されている。20・21は底部片である。外面にはタタキ後タテハケメ調整が行われている。

古代・中世の遺構と遺物

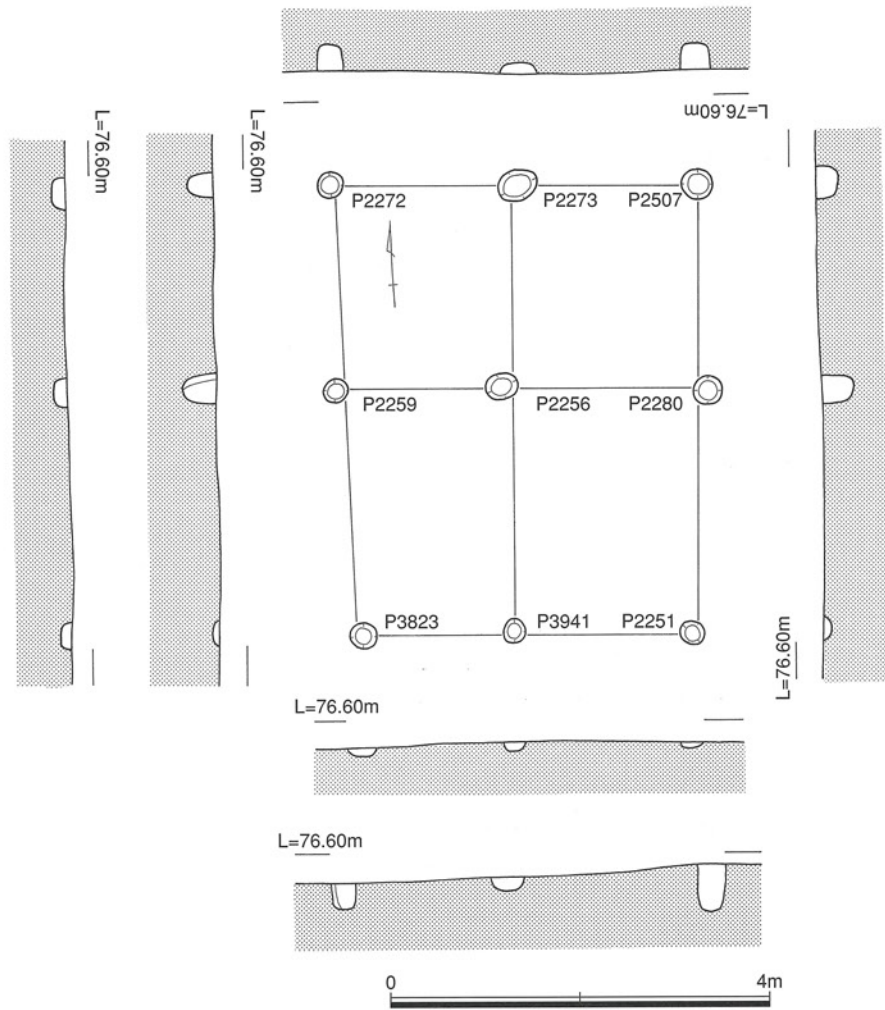
中世の遺構面は東側調査地のほぼ全域で確認されている。遺構の総数は土坑166基、不明遺構25基、溝10条、柱穴4,035基である。掘立柱建物跡は柱穴より図上復元を行っているが50軒確認されている。東原遺跡は東西、南北方向に走る多数の溝が検出され、その溝を区画とし溝の内側から多数の柱穴が出土している事から中世前半から形成された区画溝を伴う集落群に当たるものと思われる。遺跡の中央部付近には池状を呈した不明遺構も検出されており中世前半から営まれているものと思われる。

掘立柱建物跡

東側調査地内からは柱穴が約4,035基検出されている。掘立柱建物の検討には柱穴の検出数が多い事より柱穴の柱痕跡の有無や柱穴内部の土層の堆積状況、柱穴内の出土遺物の有無、建物の主軸方位等を頼りとしながら50軒の建物を確認している。柱穴出土遺物が多い割に掘立柱建物跡からの出土遺物が少ないことから時代が中世以降と漠然とした時期に限定される建物が多いのが現状である。以下個々の建物跡について述べていく。



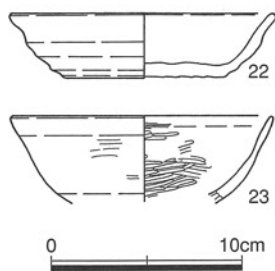
第12図 SA1001実測図



第13図 SA1002実測図

1号掘立柱建物跡 (SA1001) (第12図)

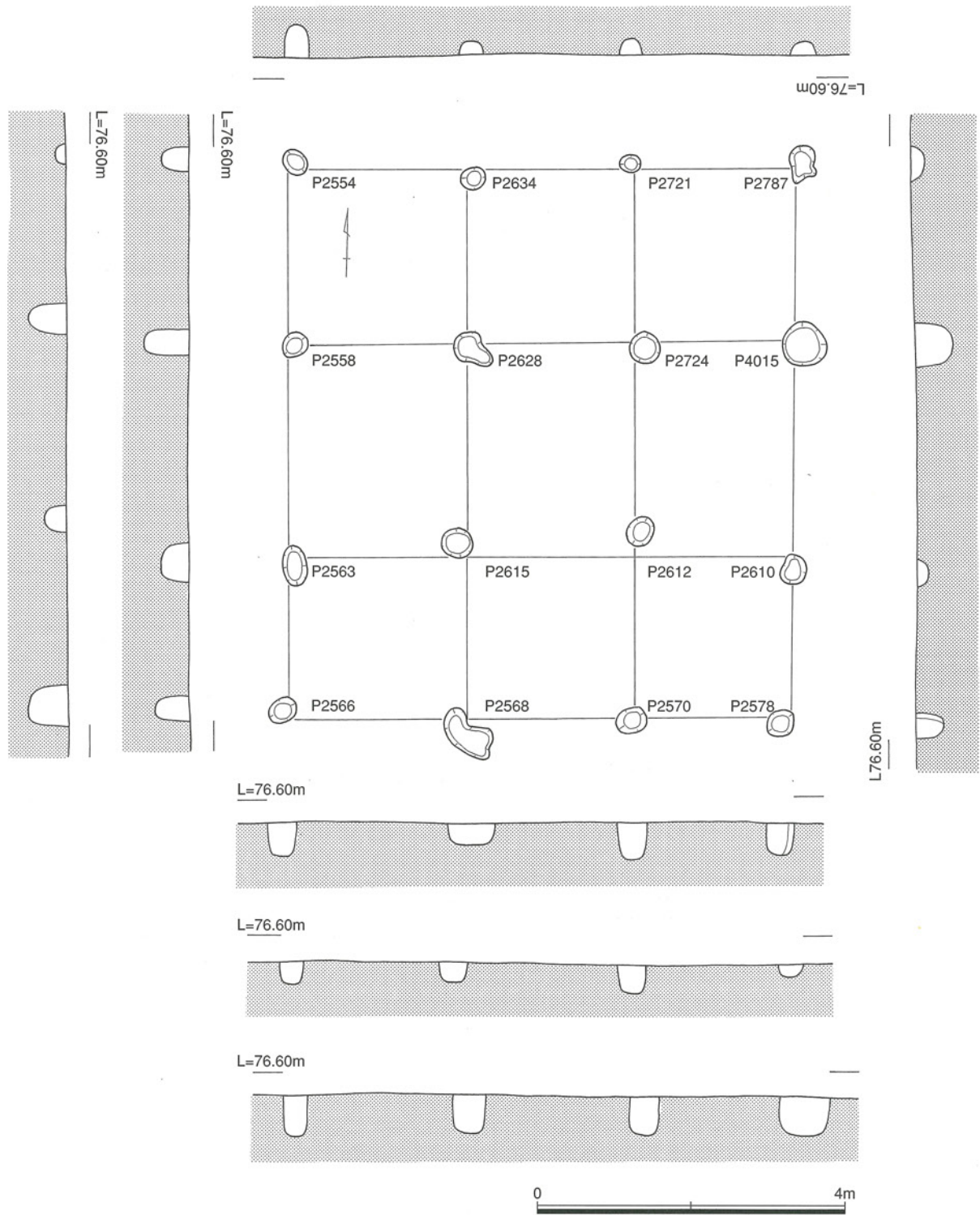
A1調査区H・I-11, 12グリットより検出された8基の柱穴を伴う総柱建物跡である。本来は9基の柱穴が確認されるはずであるがSP12524の北側の柱穴は確認されていない。建物の規模は梁間2間(5.52m)、桁行2間(5.56m)、床面積20.84m²を測り平面形態は正方形である。主軸はN-2°-Eを測る。柱間寸法は梁間2.2~2.32m、桁行2.16~2.4mを測る。柱穴の平面形態は円形を呈し、SP12657からは柱痕跡を確認している。出土遺物は土師質土器杯・搗鉢・小片が確認されたが図化可能遺物はない。



第14図 SA1002出土遺物実測図

2号掘立柱建物跡 (SA1002) (第13・14図)

A1調査区G・H-1グリットより検出された9基の柱穴を伴う総柱建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.92m)、桁行2間(4.8m)、床面積17.32m²を測り平面形態はやや長方形を呈している。主軸はN-2°-Eを測る。柱間寸法は梁間1.6~2m、桁行2.2~2.6mを測る。柱穴の平面形態は円形を呈している。遺物は土師質土器杯・小皿・小片等が出土している。22は土師質土器の杯である。底部は

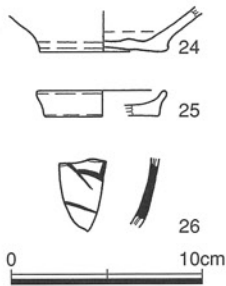


第15図 SA1003実測図

回転ヘラ切りを施す。23は黑色土器の椀である。

3号掘立柱建物跡 (SA1003) (第15・16図)

A1調査区F・G-3、4グリットより検出された16基の柱穴を伴う総柱建物跡である。建物の規模は梁間3間(6.6m)、桁行3間(7.36m)、床面積47.6m²を測り平面形態はやや長方形状を呈している。

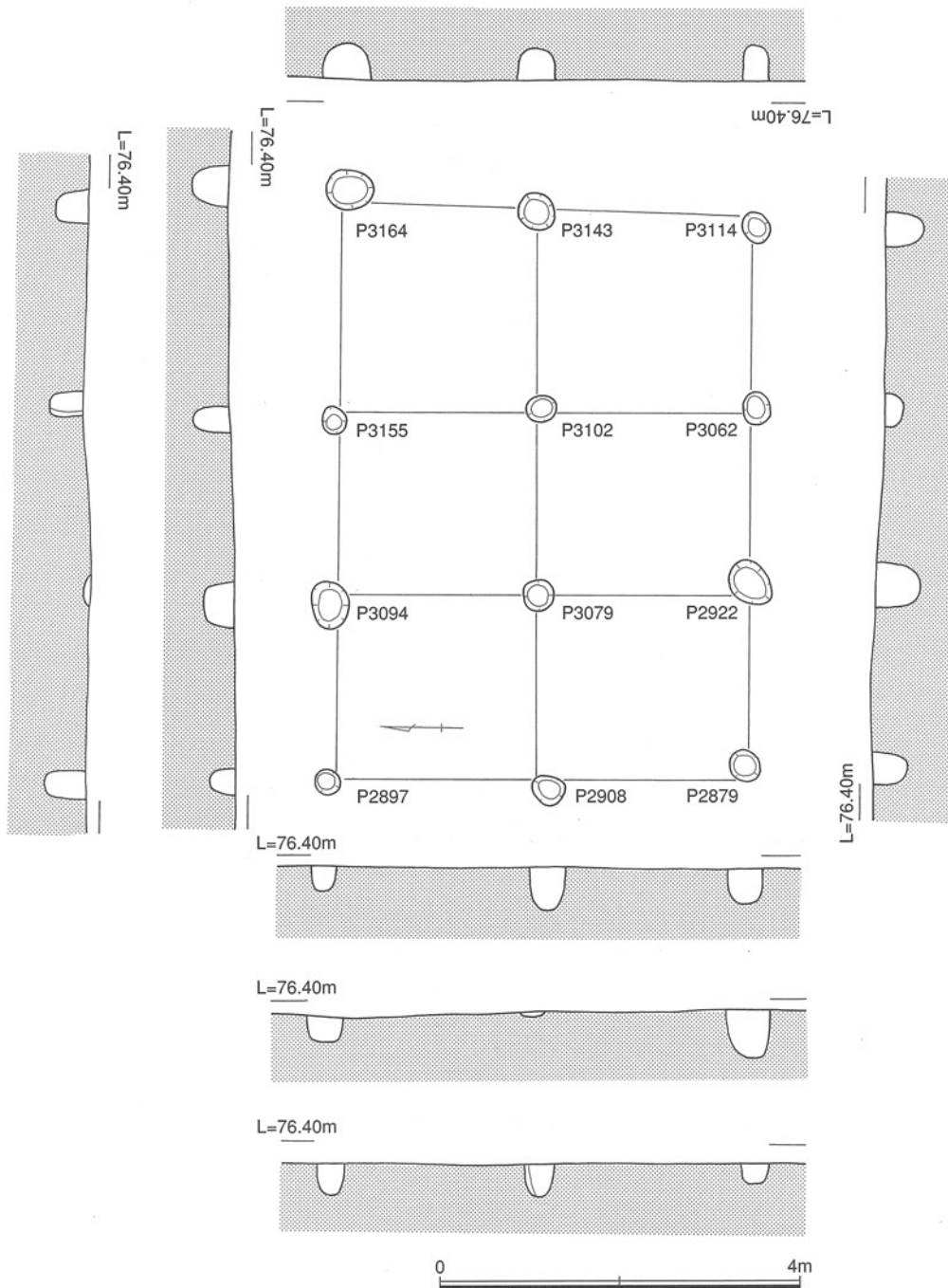


第16図 SA1003出土
遺物実測図

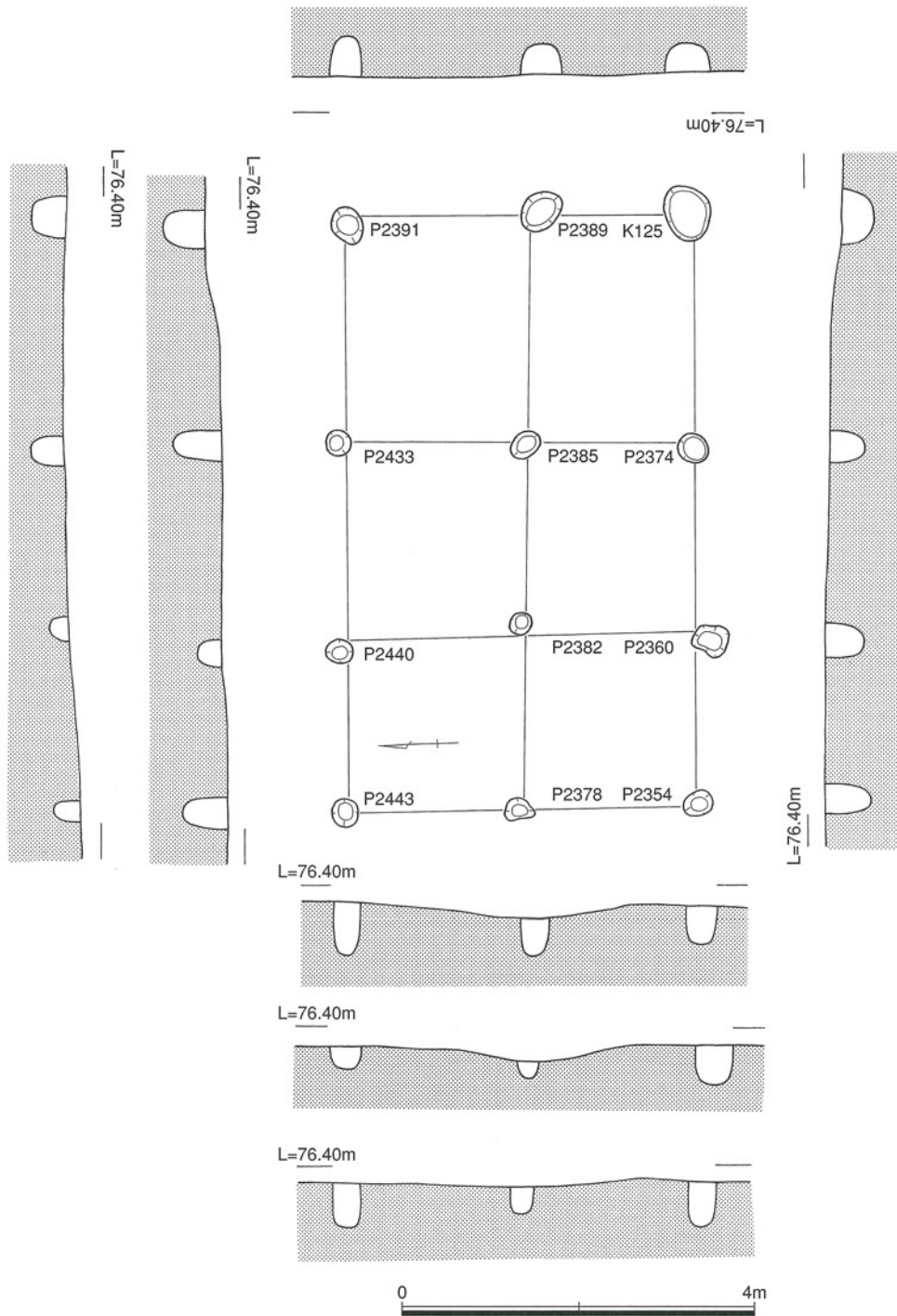
主軸方位はN-1°-Eを測る。柱間寸法は梁間1.92~2.48m、桁行2~2.96mを測る。柱穴の平面形態は円形と楕円形を呈するものが認められる。遺物は土師質土器杯・小皿・播鉢・小片が出土している。24は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。25は土師質土器小皿である。26は染付碗である。

4号掘立柱建物跡 (SA1004) (第17・18図)

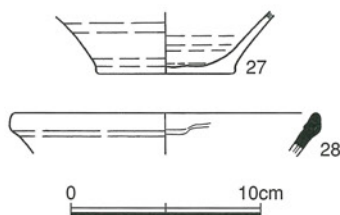
A1調査区I・J-4・5グリッドより検出された12基の柱穴を伴う総柱建物跡である。建物の規模は梁間2間(4.32m)、桁行3間(6.24m)、床面積29.78m²



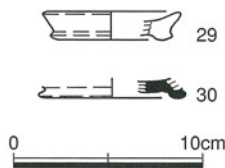
第17図 SA1004実測図



第19図 SA1005実測図

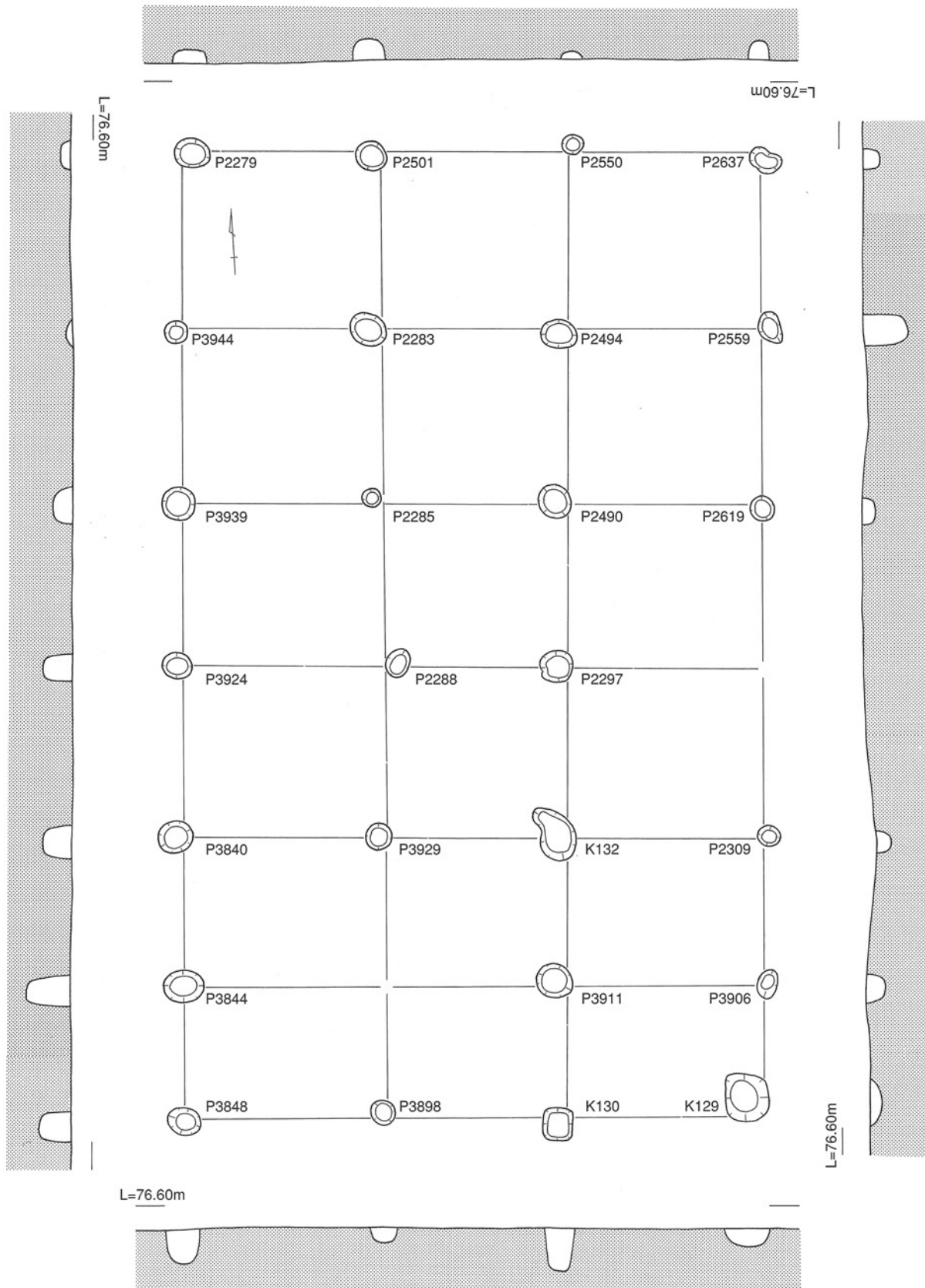


第18図 SA1004出土
遺物実測図

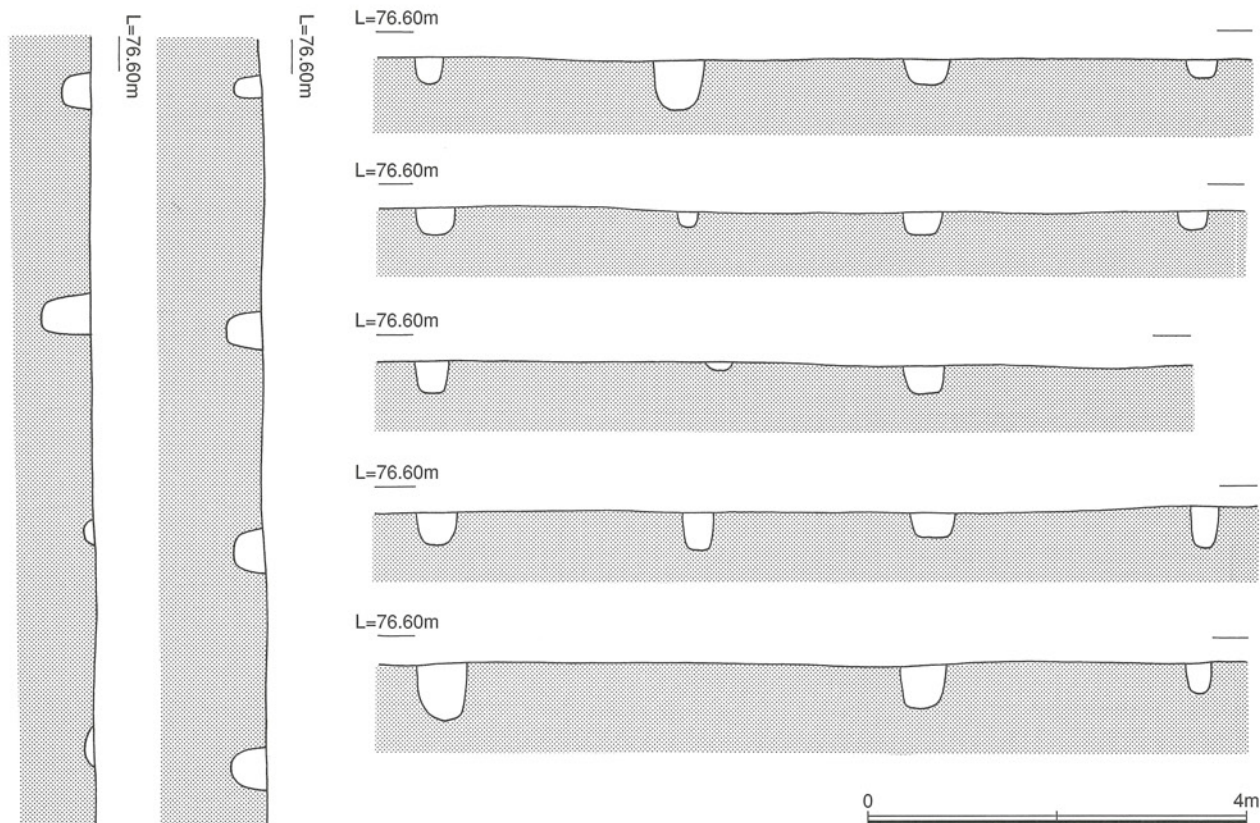


第20図 SA1005出土
遺物実測図

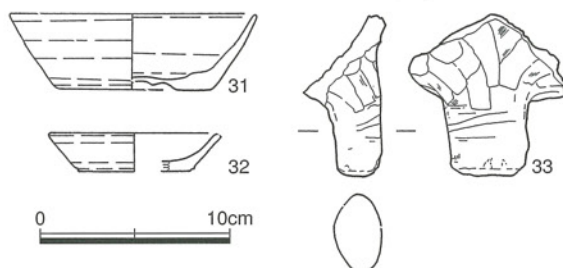
を測り平面形態は長方形を呈する。主軸方位は $N-90^{\circ}-E$ を測る。柱間寸法は梁間2.12~2.44 m、桁行2~2.64mを測る。柱穴の平面形態は円形を呈する。遺物は土師質土器杯・小皿・小片、輸入貿易陶磁が出土している。27は土師質土器杯である。底部回転ヘラ切り後ナデを施す。28は白磁碗である。口縁端部は玉緑状を呈し、大宰府編年IV期に位置づけられる。



第21図 SA1006実測図(1)



第22図 SA1006実測図(2)



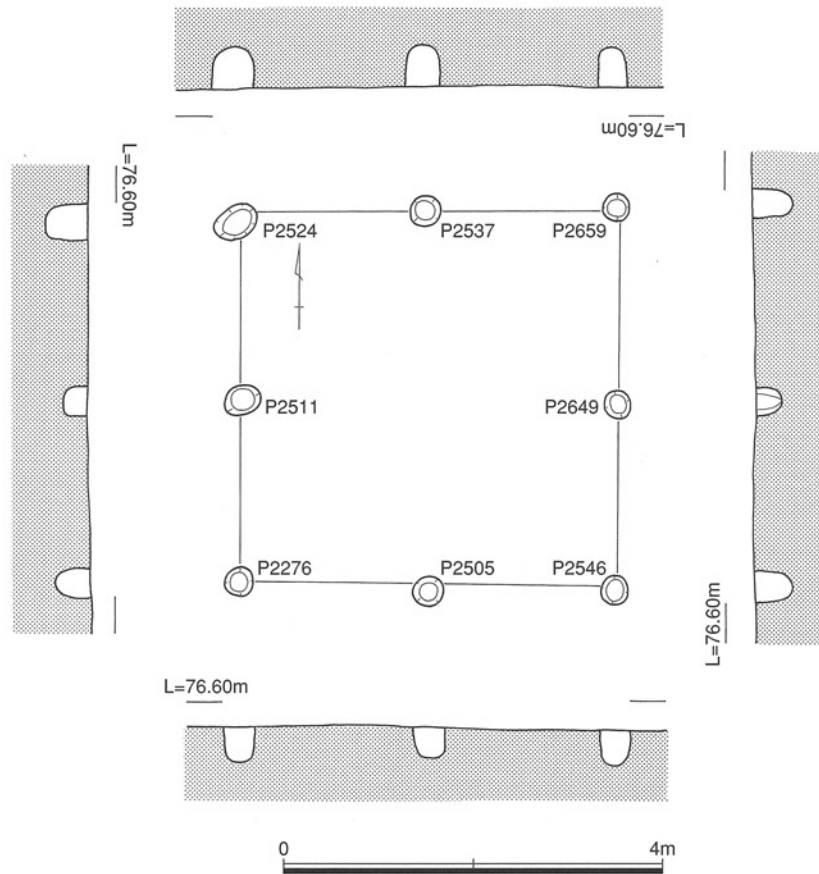
第23図 SA1006出土遺物実測図

5号掘立柱建物跡 (SA1005) (第19・20図)

A1調査区D・E-4・5グリットから検出された12基の柱穴を伴う総柱建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.44m)、桁行3間(6.24m)、床面積27.31m²を測り平面形態は長方形を呈する。主軸方位はN-91°-Eである。柱間寸法は梁間1.68~2.16m、桁行1.84~2.52mを測る。柱穴の平面形態は円形と楕円形を呈するものが認められる。遺物は柱穴より土師質土器杯・鍋・小片が出土している。29は土師質土器小皿である。30は須恵器碗底部片である。

6号掘立柱建物跡 (SA1006) (第21・22・23図)

A1調査区E~H-1~3グリットから検出された26基の柱穴を伴う総柱建物跡である。本来は28基の柱穴が検出されるはずであるがSP12309とSP13898の北側の柱穴が確認されていない。建物の規模は梁間3間(7.32m)、桁行6間(12.56m)、床面積103.21m²を測り平面形態は長形状を呈する。主軸



第24図 SA1007実測図



第25図 SA1007出土
遺物実測図

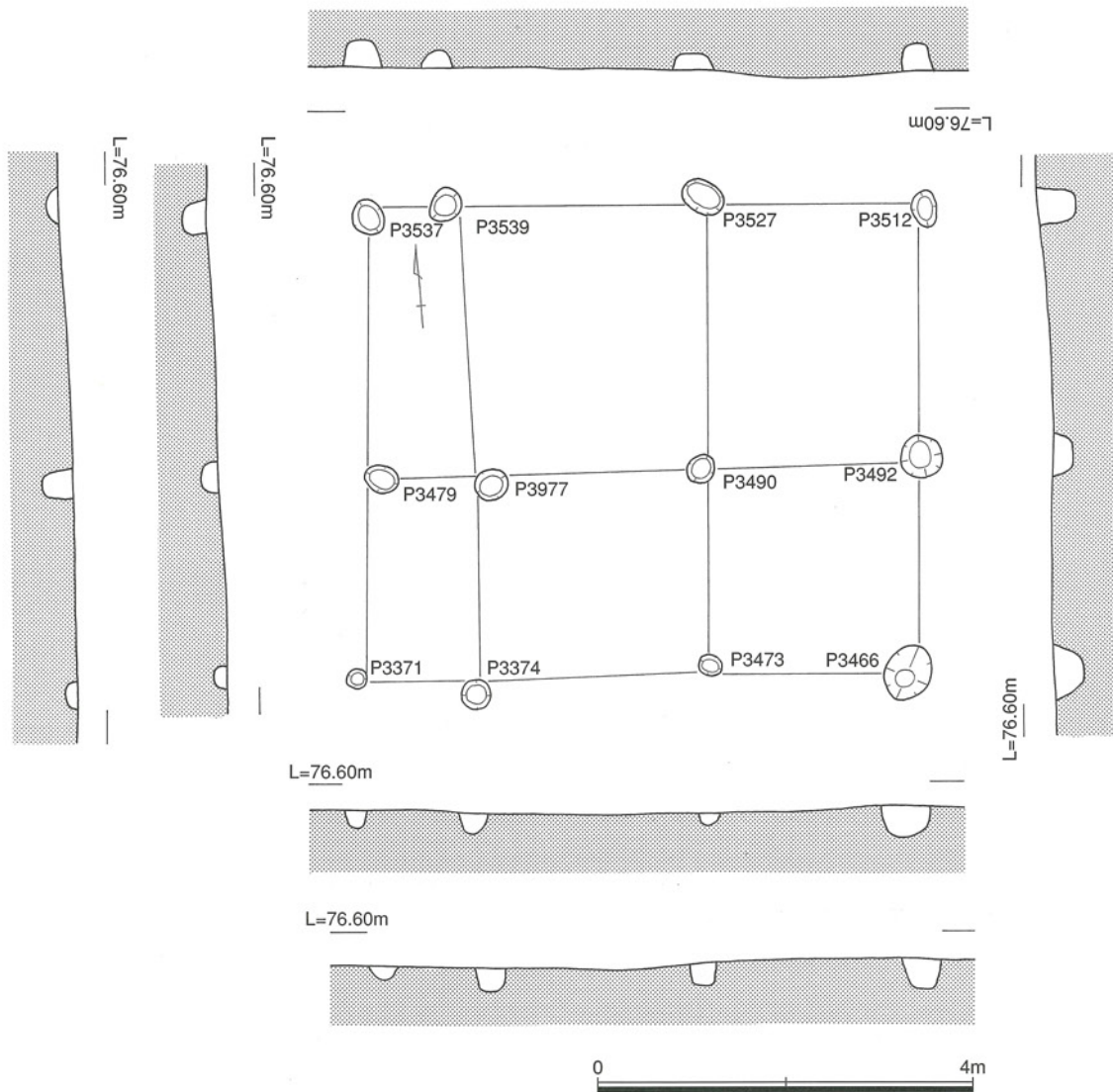
方位はN-5°-Eを測る。柱間寸法は梁間2.4~2.76m、桁行1.88~2.52mを測る。柱穴の平面形態は円形状と方形状を呈するものが認められる。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・煮沸具片・小片が出土している。31は土師質土器杯で底部は回転ヘラ切り後板ナデを施す。32は土師質土器小皿で底部回転ヘラ切りである。

7号掘立柱建物跡 (SA1007) (第24・25図)

A1調査区H・I-1・2グリットから検出された8基の柱穴を伴う側柱建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.56m)、桁行2間(3.6m)、床面積15.76m²を測り平面形態は正方形を呈する。主軸方位は真北を示している。柱間寸法は梁間1.88~2.12m、桁行1.92~2mを測る。SP12505、12649、12659からは柱痕跡が確認されている。柱穴の平面形態は円形状を呈し出土遺物は土師質土器杯・小片が出土している。34は土師質土器杯で底部は静止糸切りを施している。このことから時期は中世後半に位置づけられる。

8号掘立柱建物跡 (SA1008) (第26・27図)

A1調査区L・M-3・4グリットから検出された12基の柱穴を伴い西側に庇を伴う総柱建物跡である。建物の規模は梁間2間(4.48m)、桁行2間(4.64m)、床面積は44.33m²、庇部は梁間1間(0.88m)、桁行2間(5m)、床面積5.8m²を測る。主軸方位はN-4°-Eである。平面形態は正方形を呈し、柱間寸法は梁間2.08~2.8m、桁行2.28~3.08mを測る。柱穴の平面形態は円形状を呈し出土遺物は土師質土器杯・小片が出土している。35は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。



第26図 SA1008実測図

9号掘立柱建物跡 (SA1009) (第28・29図)

A1調査区K-4グリットから検出された9基の柱穴を伴う総柱建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.56m)、桁行2間(4.44m)、床面積18.9m²を測り平面形態はやや長方形状を呈する。主軸方位はN-4°-Eである。柱間寸法は梁間1.96~2.04m、桁行2.28~2.48mを測る。柱穴の平面形態は円形状を呈し、出土遺物は土師質土器杯・煮沸具片・小片が出土している。36は土師質土器釜である。37は青磁の水柱、38は青磁の碗である。

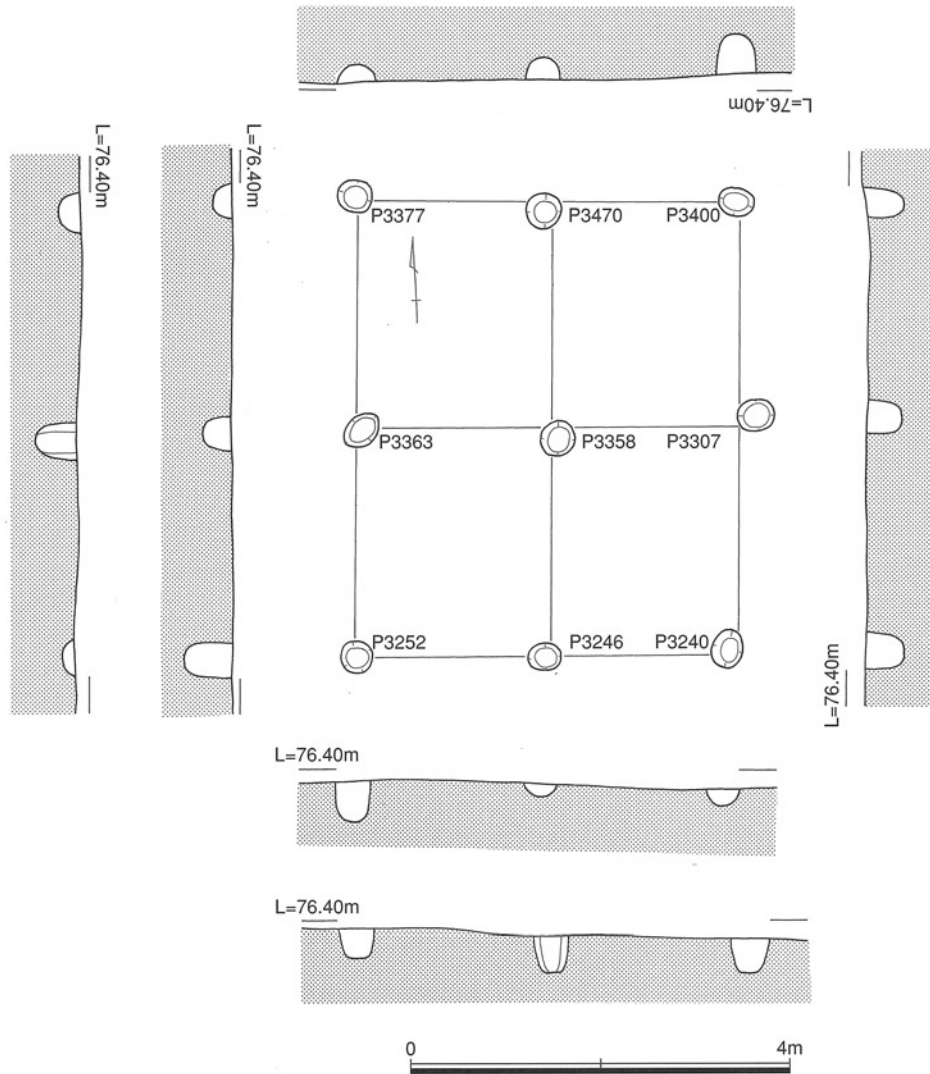
10号掘立柱建物跡 (SA1010) (第30・31図)

A1調査区J・K-4・5グリットから検出された15基の柱穴を伴う総柱建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.68m)、桁行4間(7.92m)、床面積33.73m²を測り平面形状はやや長方形状を呈する。

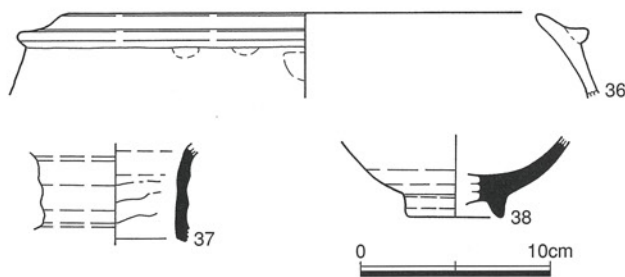


主軸方位はN-1°-Wである。柱間寸法は梁間1.8~2.16m、桁行2~2.4mを測り、柱穴の平面形態は円形状と楕円形状を呈しSP13187とSP13190からは柱痕跡が確認されている。出土遺物は土師質土器杯

第27図 SA1008出土遺物実測図 片・小片が出土している。39は陶器碗片である。



第28図 SA1009実測図



第29図 SA1009出土遺物実測図

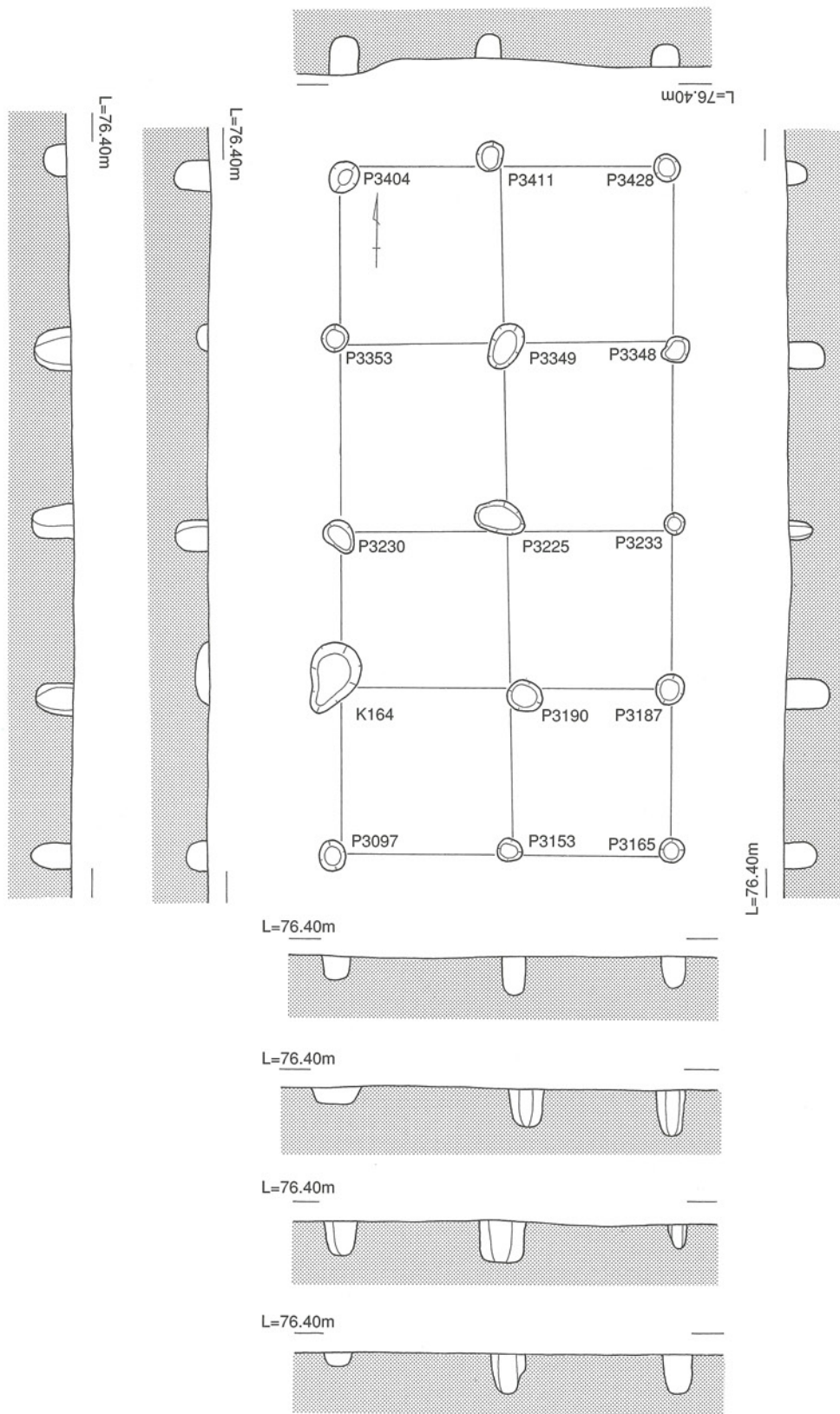
11号掘立柱建物跡 (SA1011) (第32・33図)

A1調査区I-5・6グリットから検出された9基の柱穴を伴う総柱建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.52m)、桁行2間(4.52m)、床面積19.66²mを測り平面形状は正方形状を呈する。主軸方位はN-3°-Wである。柱間寸法は梁間1.72~2.16m、桁行2.36~2.64mを測り、柱穴の平面形態は円形状を呈し、SP13032とSP

13141からは柱痕跡が確認されている。出土遺物は土師質土器杯底部片で底部は静止糸切りを施す。陶器甕小片が出土している。40は土師質土器釜口縁部片である。時期は中世後半に位置づけられる。

12号掘立柱建物跡 (SA1012) (第34・35図)

A1調査区E・F-5・6グリットから検出された9基の柱穴を伴う総柱建物跡である。建物の規模は

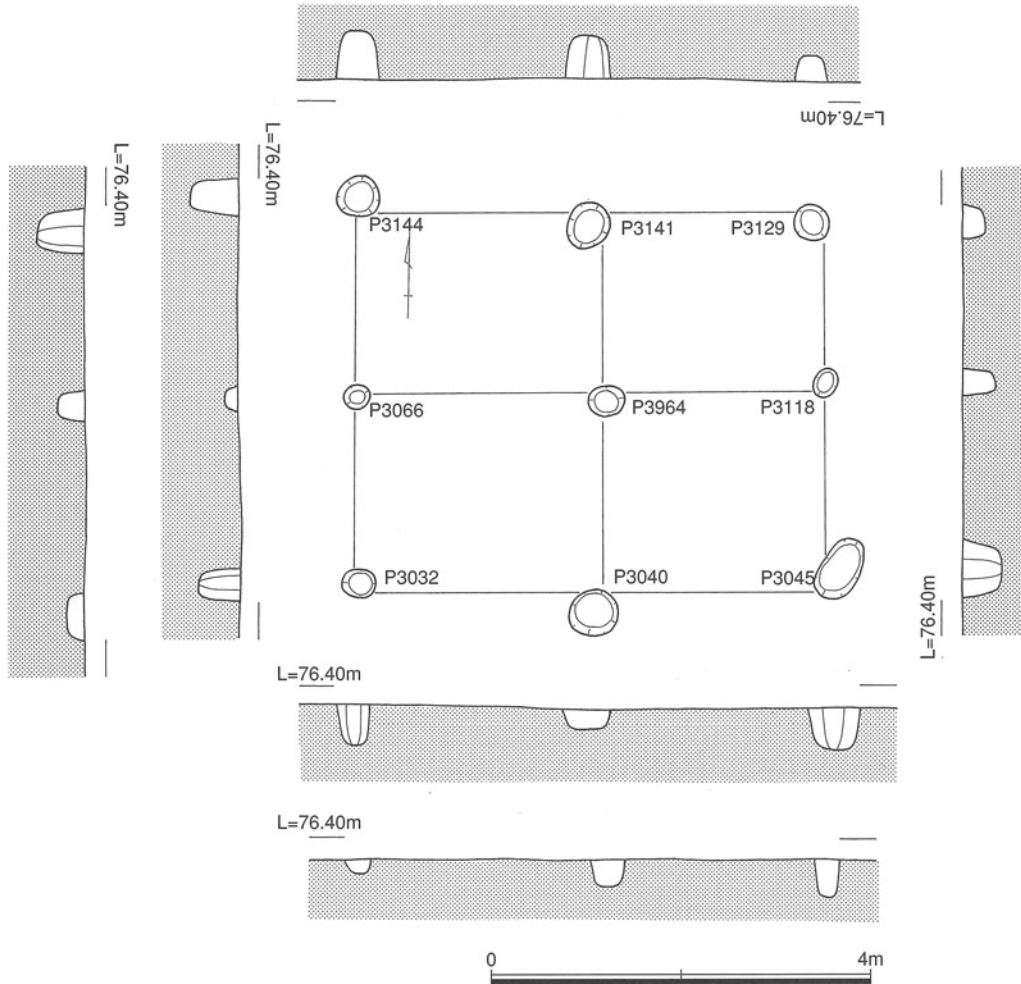


第30図 SA1010実測図

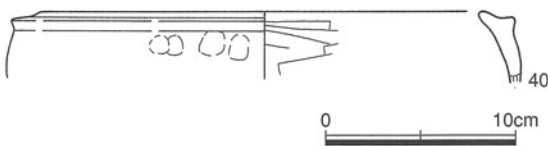


第31図 SA1010出土遺物実測図

梁間2間(3.52m)、桁行2間(3.56m)、床面積15.4m²を測り平面形状は正形状を呈する。主軸方位はN-3°-Eである。柱間寸法は梁間1.92~2m、桁行1.92~2mを測り、柱穴の平面形態は円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯片(手づくね)・杯底部片の底



第32図 SA1011実測図

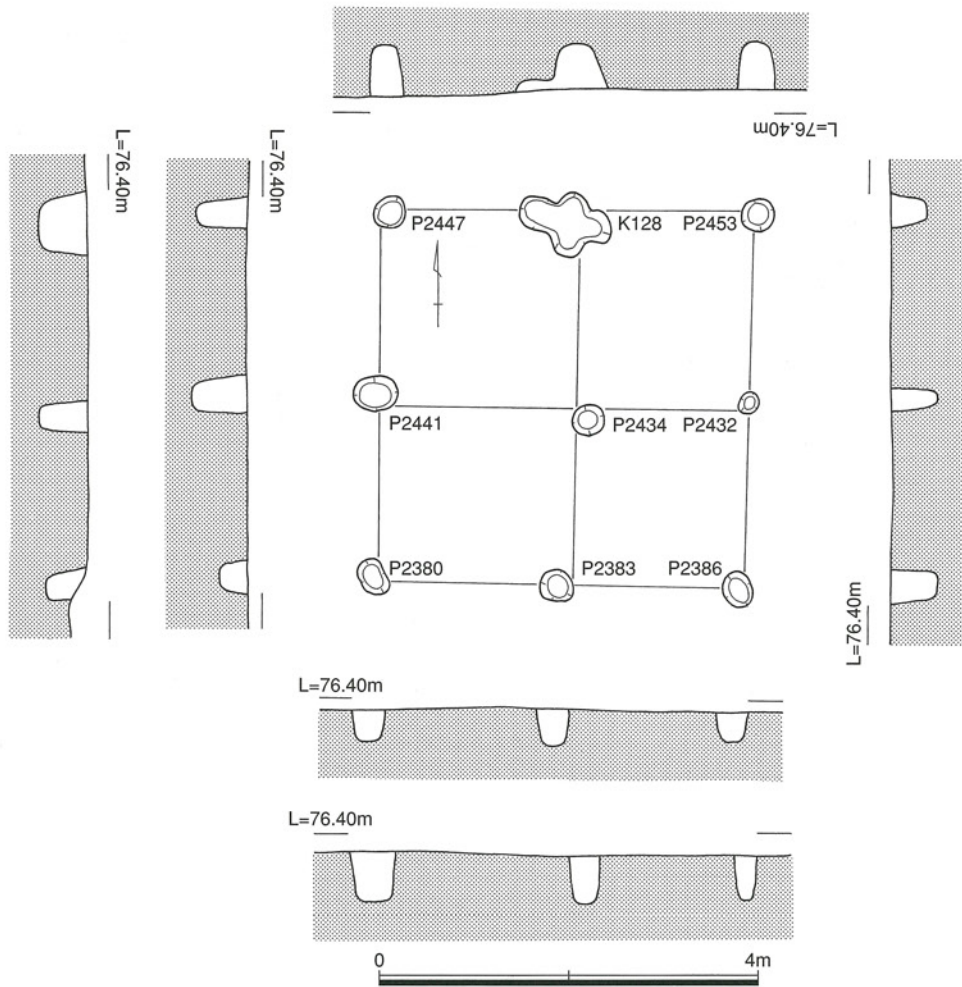


第33図 SA1011出土遺物実測図

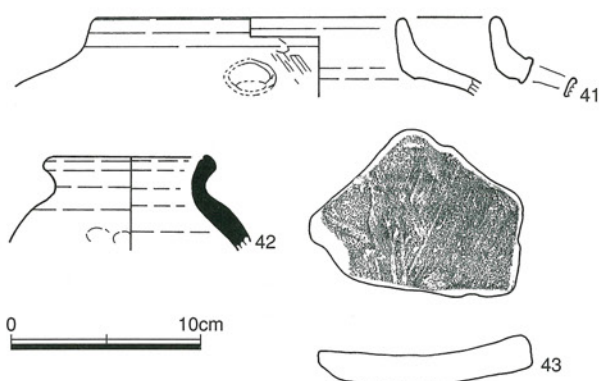
部は回転ヘラ切りを施している。41は土師質土器の茶釜の口縁部である。42は須恵器甕である。43は瓦片である。時期は13世紀後半~14世紀代に位置づけられる。

13号掘立柱建物跡 (SA1013) (第36・37・38・39図)

A2調査区B・C-18・19グリットから検出された20基の柱穴を伴う総柱建物跡である。建物の規模は梁間3間(5.16m)、桁行4間(8.16m)、床面積49.41m²を測り平面形状は長形状を呈する。主軸方位はN-2°-Eを示す。柱間寸法は梁間1.44~2.08m、桁行1.84~2.72mを測る。柱穴の平面形態は円形状と楕円形状を呈する。SP11924は長軸0.58m、短軸0.4m、深さ0.4mを測る。遺構内からは土師器の杯の上に銭を載せた状態で出土している。地鎮に関するものと思われる。出土遺物は土師質土器杯片で底部は静止糸切りと回転ヘラ切りを施している。土師質土器鍋片・羽釜片が出土している。44~



第34図 SA1012実測図

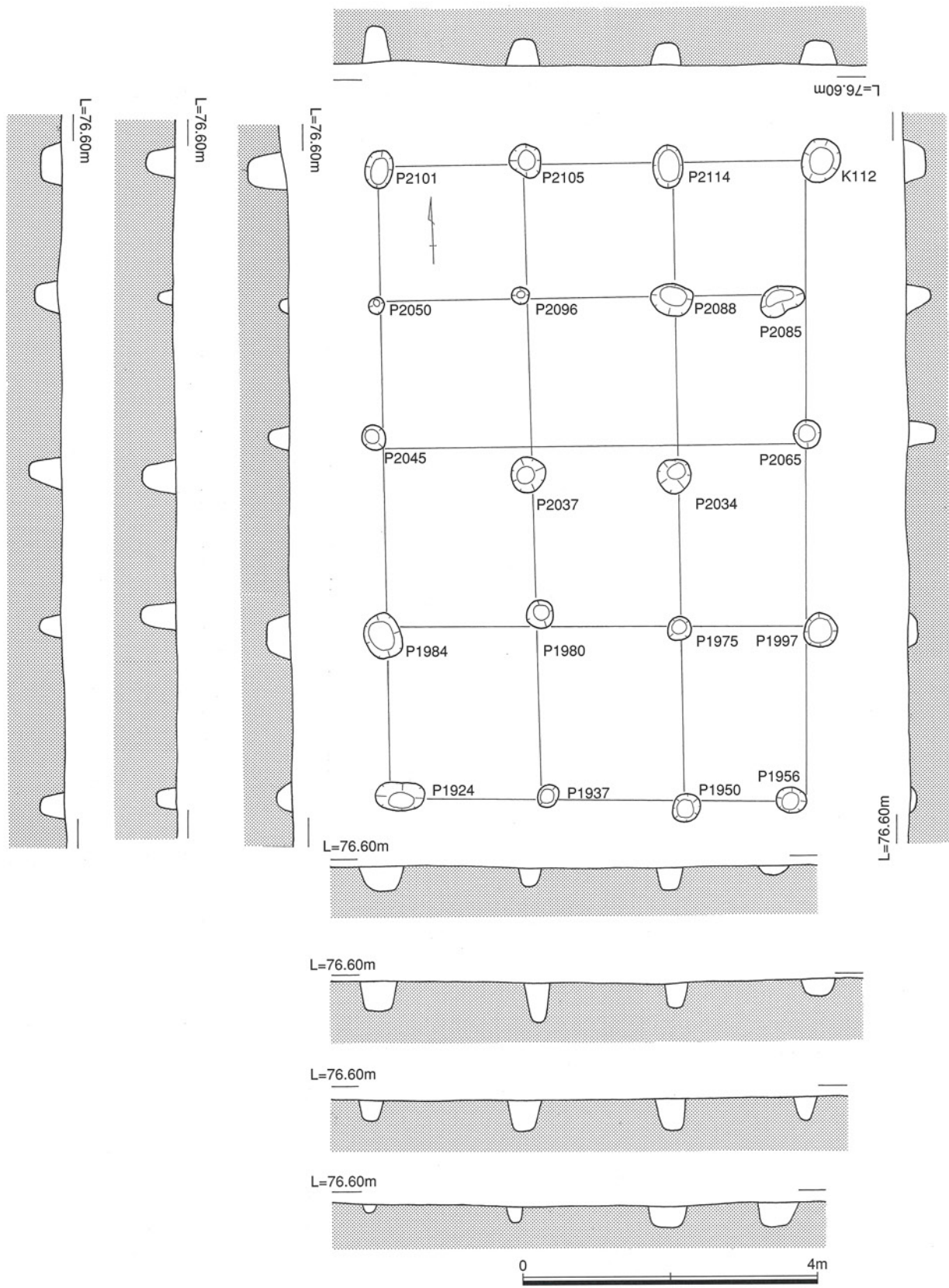


第35図 SA1012出土遺物実測図

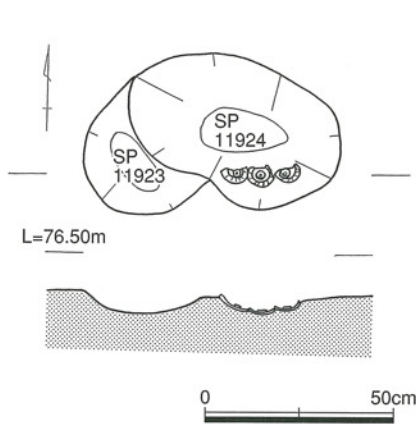
46は土師質土器杯である。44は底部に回転糸切り、45は底部に回転ヘラ切りである。46は底部静止糸切りの後ヘラ圧痕を施す。47～49は土師質土器小皿である。47・48は底部回転ヘラ切り、49は底部回転糸切りである。50・51は紡水車であり。52～54は銅銭である。時期は中世後半に位置づけられる。

14号掘立柱建物跡 (SA1014) (第40・41図)

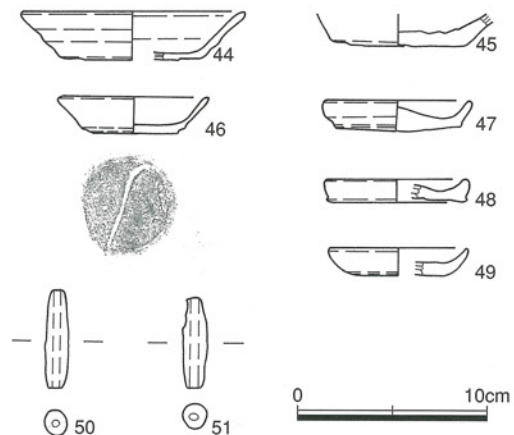
A2 調査区 A-5 グリットから検出された8基の柱穴を伴う総柱建物跡である。南東隅の柱穴は調査区外にあるために検出出来なかった。建物の規模は梁間2間 (3.2m)、桁行2間 (4.24m)、床面積15.95m²を測り平面形状は長形状を呈する。主軸方位はN-8°-Eである。柱間寸法は梁間1.52～2m、桁行2.16～2.4mを測る。柱穴の平面形態は円形状と楕円形状を呈する。出土遺物は土師質土器杯片で底部は回転ヘラ切りを施す。土師質土器小片が出土している。55は土師質土器杯である。



第36図 SA1013実測図



第37図 SP11923・11924実測図



第38図 SA1013出土遺物実測図(1)



第39図 SA1013出土遺物実測図(2)

15号掘立柱建物跡 (SA1015)

(第42・43図)

A2調査区S・T-20・1グリットから検出された9基の柱穴を伴う総柱建物跡である。建物の規模は梁間2間(4.68m)、桁行2間(4.04m)、床面積23.74m²を測り平面形状は正形状を呈する。主軸方位はN-1°-Wを示す。

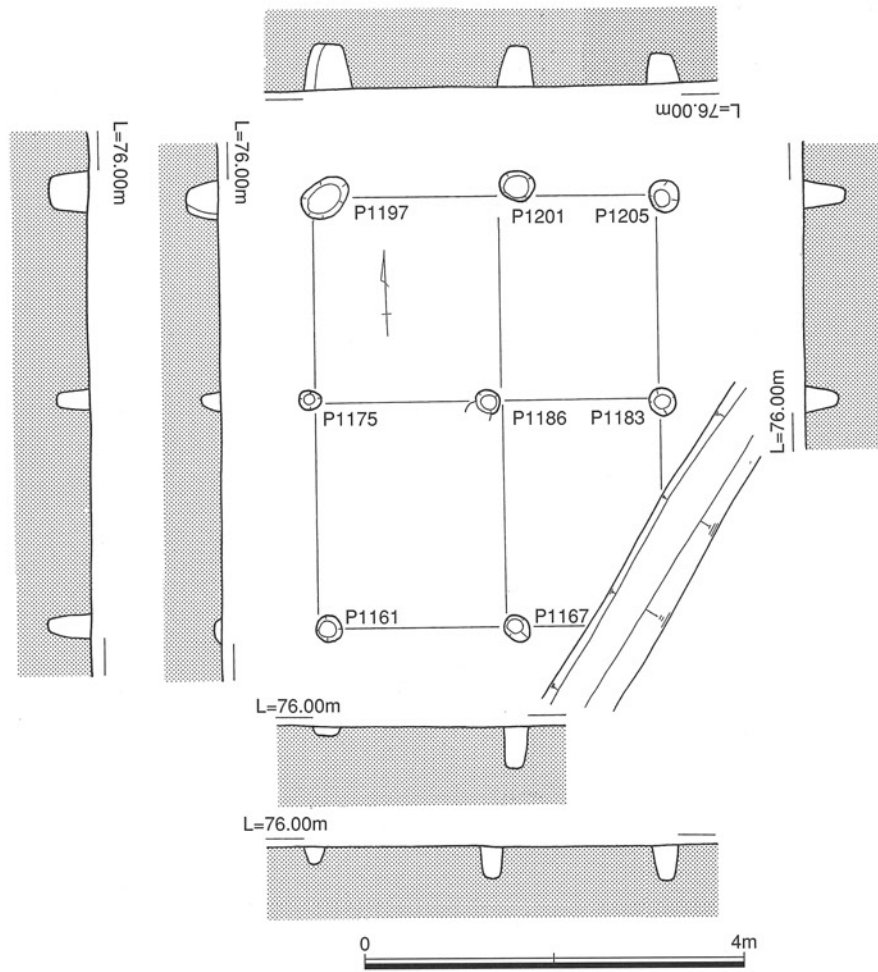
ほぼ南北方位を主軸としている。柱間寸法は梁間2.16~2.48m、桁行2.24~2.8mを測る。柱穴の平面形状は円形状を呈するものと楕円形状を呈するものがある。出土遺物は土師質土器杯片、杯底部片には回転ヘラ切りを施す。土師質土器小片が出土している。56~59は土師質土器杯である。59は手づくねの杯で外面に指頭圧痕を残す。60は土師質土器小皿で底部回転ヘラ切りを施す。61は土師質土器羽釜、62は土師質土器鍋である。口縁部は受け口状を呈しやや内彎気味に立ち上がる。

16号掘立柱建物跡 (SA1016) (第44図)

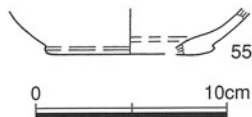
A2調査区R-19・20グリットから検出された8基の柱穴を伴う側柱式建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.64m)、桁行2間(3.72m)、床面積16.5m²を測り平面形状は正形状を呈する。主軸方位は真北を示している。柱間寸法は梁間1.84~2.4m、桁行1.92~2.16mを測る。柱穴の平面形状は円形状を呈する。出土遺物は土師質土器手づくねの杯片・皿片・播鉢片・小片が出土している。出土遺物中に実測可能遺物は確認できなかった。

17号掘立柱建物跡 (SA1017) (第45図)

A2調査区R-1・2グリットから検出された8基の柱穴を伴う側柱式建物跡である。建物の規模は梁間1間(1.84m)、桁行3間(4.92m)、床面積10.92m²を測り平面形状は長形状を呈する。主軸方位はN-89°-Wを示す。柱間寸法は梁間2~2.24m、桁行1.48~2.2mを測る。柱穴の平面形状は円形状を呈する。出土遺物は土師質土器皿片、杯底部片は底部回転ヘラ切りを施す。土師質土器小片が出土している。図化可能遺物は確認出来なかった。



第40図 SA1014実測図



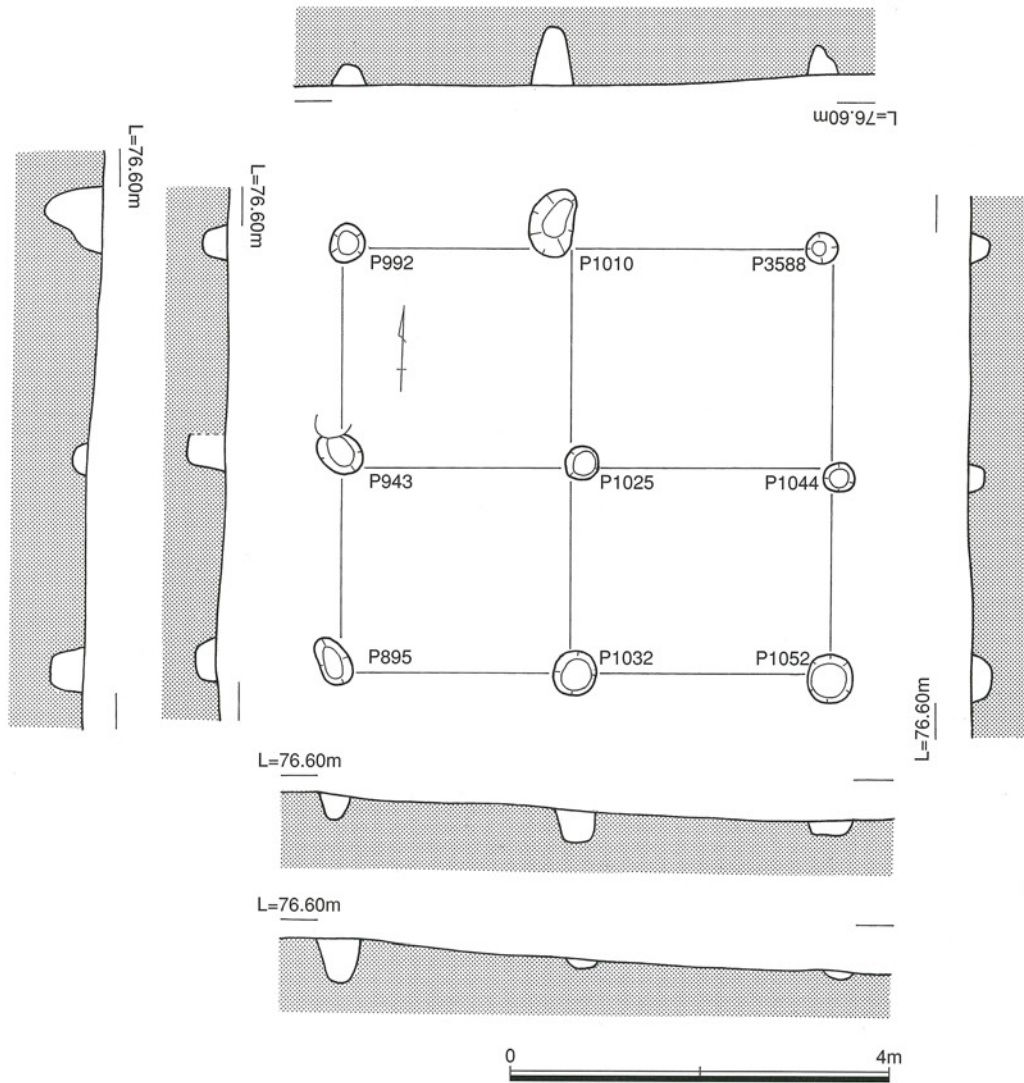
第41図 SA1014出土遺物実測図

18号掘立柱建物跡 (SA1018) (第46図)

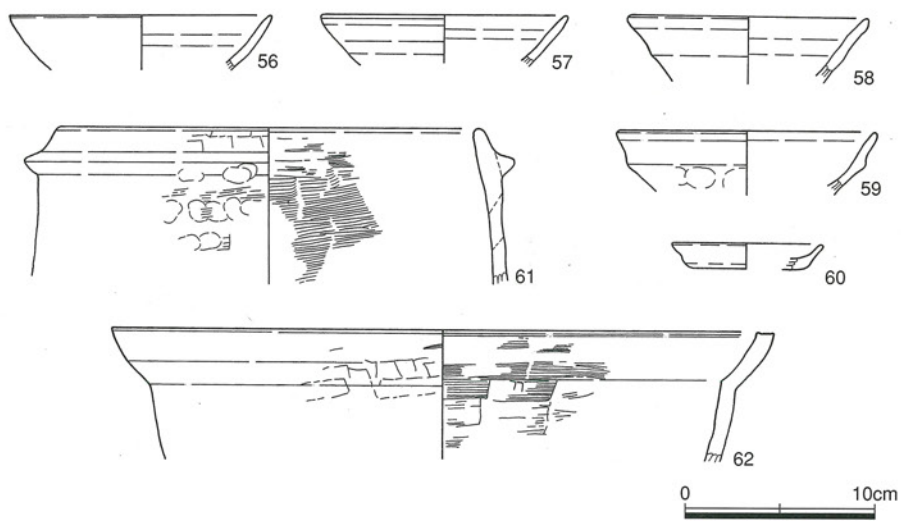
A 2 調査区 S・T-2・3グリットから検出された8基の柱穴を伴う側柱式建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.64m)、桁行2間(3.68m)、床面積16.38m²を測り平面形状は正方形を呈する。主軸はN-1°-Eを示す。柱間寸法は梁間1.92~2m、桁行1.92~2.08mを測る。柱穴の平面形状は円形状を呈する。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片が出土しているが図化可能遺物はない。

19号掘立柱建物跡 (SA1019) (第47・48図)

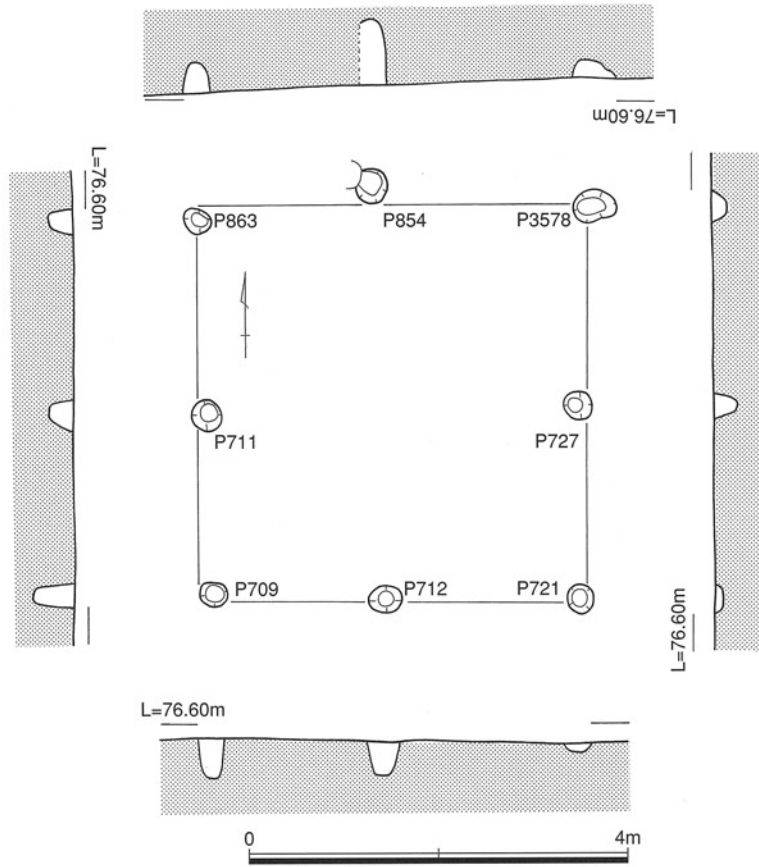
A 2 調査区 S・T-18グリットから検出された9基の柱穴を伴う総柱式の建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.84m)、桁行2間(4.28m)、床面積20.26m²を測り平面形状は正方形を呈する。主軸方位はN-4°-Eを示す。柱間寸法は梁間2.08~2.32m、桁行2.16~2.4mを測る。柱穴の平面形状は円形を呈する。出土遺物は土師質土器杯・小皿片、瓦質土器片等が出土している。63~72は土師質土器杯である。63・64・69・72は底部回転ヘラ切り後ナデ、70・71は底部回転ヘラ切り、65は回転ヘラ切りを施す。73~75は土師質土器小皿、76は土師質土器の紡錘車である。



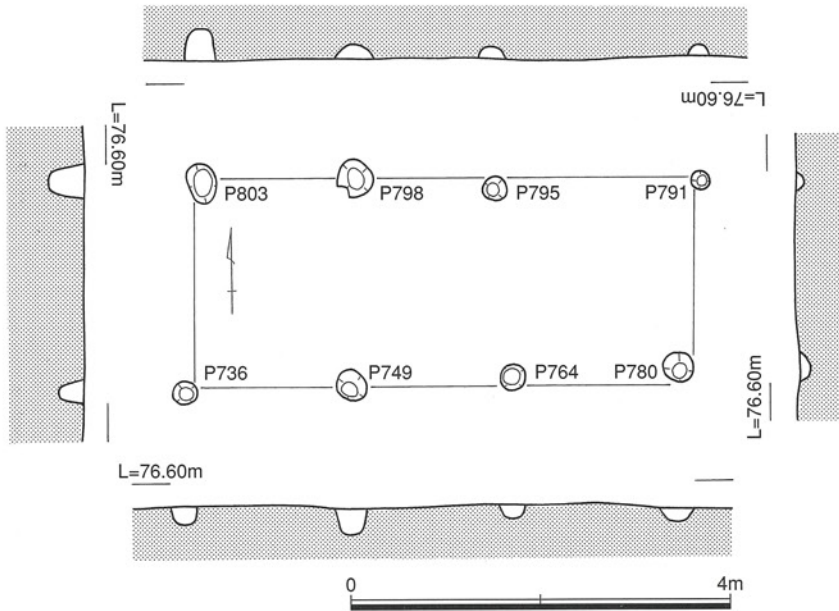
第42図 SA1015実測図



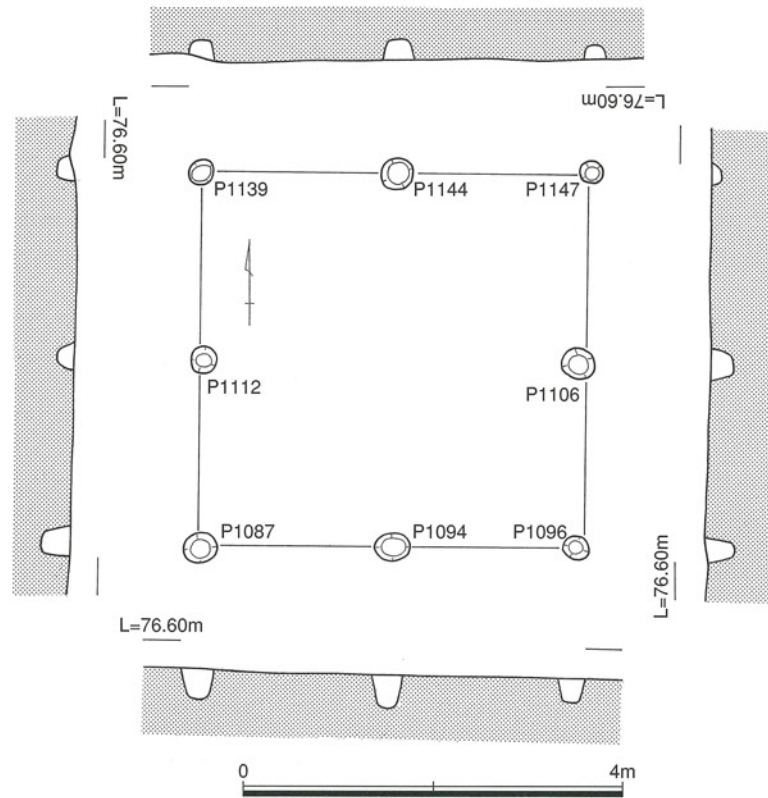
第43図 SA1015出土遺物実測図



第44図 SA1016実測図



第45図 SA1017実測図



第46図 SA1018実測図

20号掘立柱建物跡 (SA1020) (第49・50図)

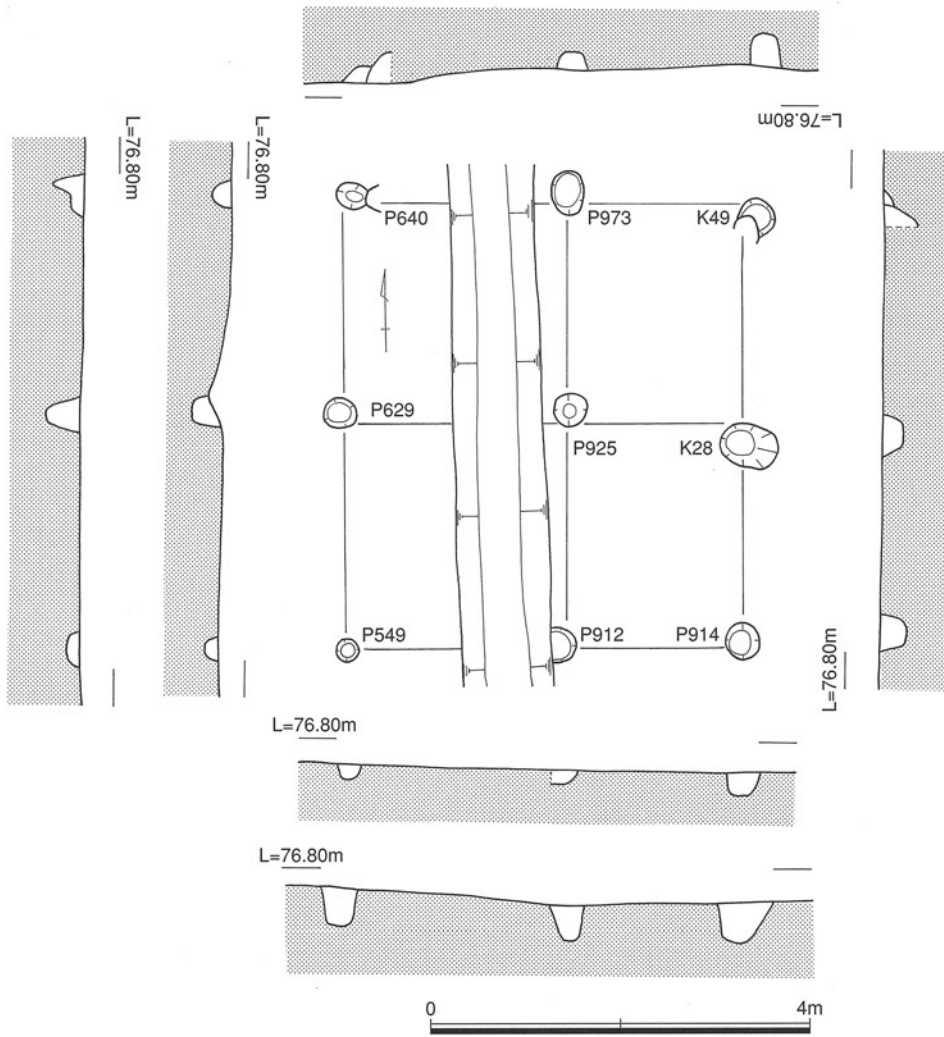
A2調査区S・T-19・20グリットから検出された15基の柱穴を伴う総柱式の建物跡である。建物の規模は梁間3間(5.8m)、桁行3間(6m)、床面積39.88㎡を測り平面形状は正方形を呈する。主軸方位はN-1°-Eを示す。柱間寸法は梁間1.92~2.32m、桁行1.84~2.4mを測る。柱穴の平面形状は円形と楕円形を呈する。出土遺物は土師質土器杯・小皿片・煮沸具片、瓦質土器小片が出土している。77~80は土師質土器杯である。77・80は底部は回転ヘラ切りである。81は土師質土器小皿、82は青磁である。

21号掘立柱建物跡 (SA1021) (第51図)

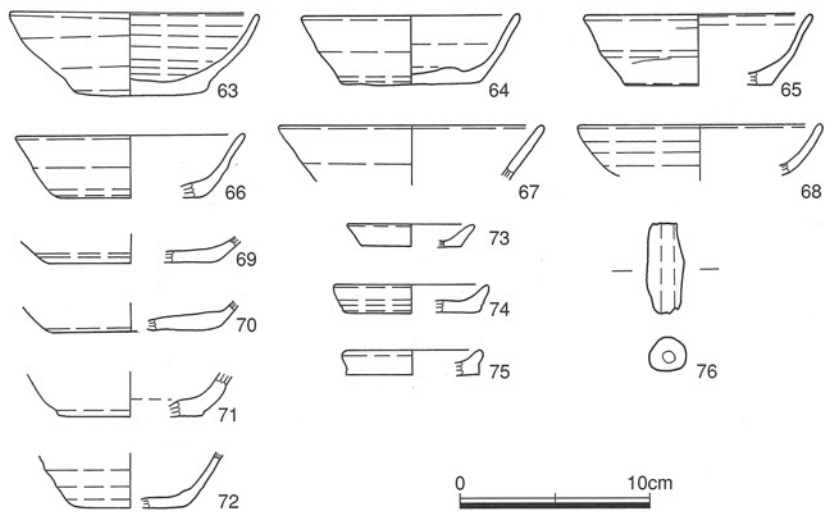
A2調査区A-1グリットから検出された9基の柱穴を伴う総柱式の建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.84m)、桁行2間(3.84m)、床面積17.72㎡を測り平面形状は正方形を呈する。主軸方位はN-1°-Eを示す。柱間寸法は梁間2~2.16m、桁行1.6~2.56mを測る。柱穴の平面形状は円形状を呈する。出土遺物は土師質土器杯片・小皿片・小片が出土している。出土遺物中に図化可能遺物はない。

22号掘立柱建物跡 (SA1022) (第52図)

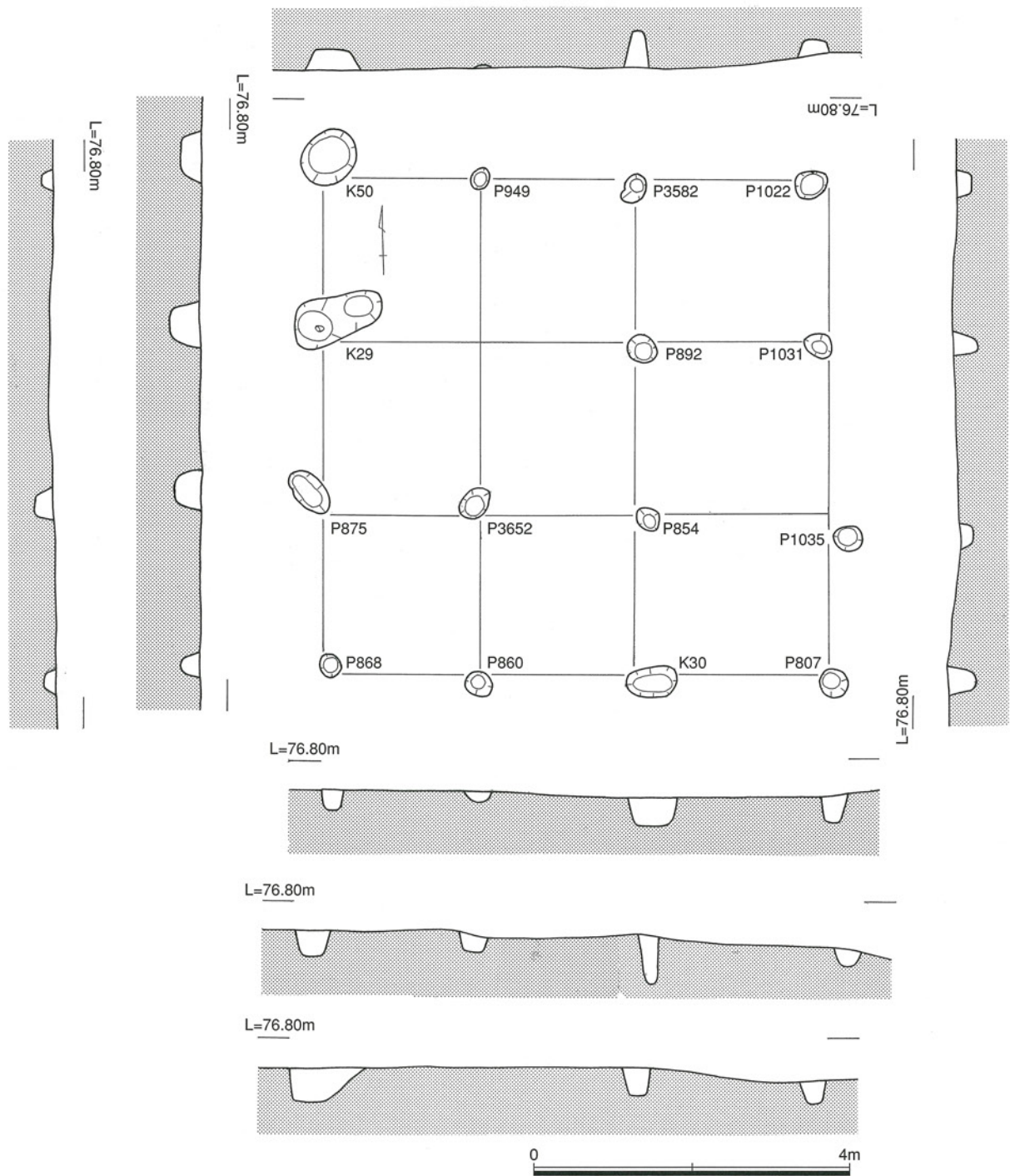
A2調査区B-3グリットから検出された6基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。建物の規模は梁間1間(1.56m)、桁行2間(3.36m)、床面積7.14㎡を測り平面形状は長方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eを示す。柱間寸法は梁間1.84~2m、桁行1.84~2.16mを測る。柱穴の平面形状は円形状



第47図 SA1019実測図



第48図 SA1019出土遺物実測図

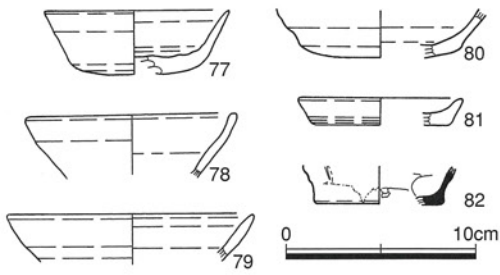


第49図 SA1020実測図

を呈する。出土遺物は確認できなかった。

23号掘立柱建物跡 (SA1023) (第53図)

A2調査区Q・R-2グリットから検出された6基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。建物の規模は梁間1間(2.4m)、桁行2間(4.08m)、床面積12.53m²を測り平面形状は長方形を呈する。主軸方位はN-2°-Eを示す。柱間寸法は梁間2.8m、桁行2.16~2.4mを測る。柱穴の平面形状は円形状を

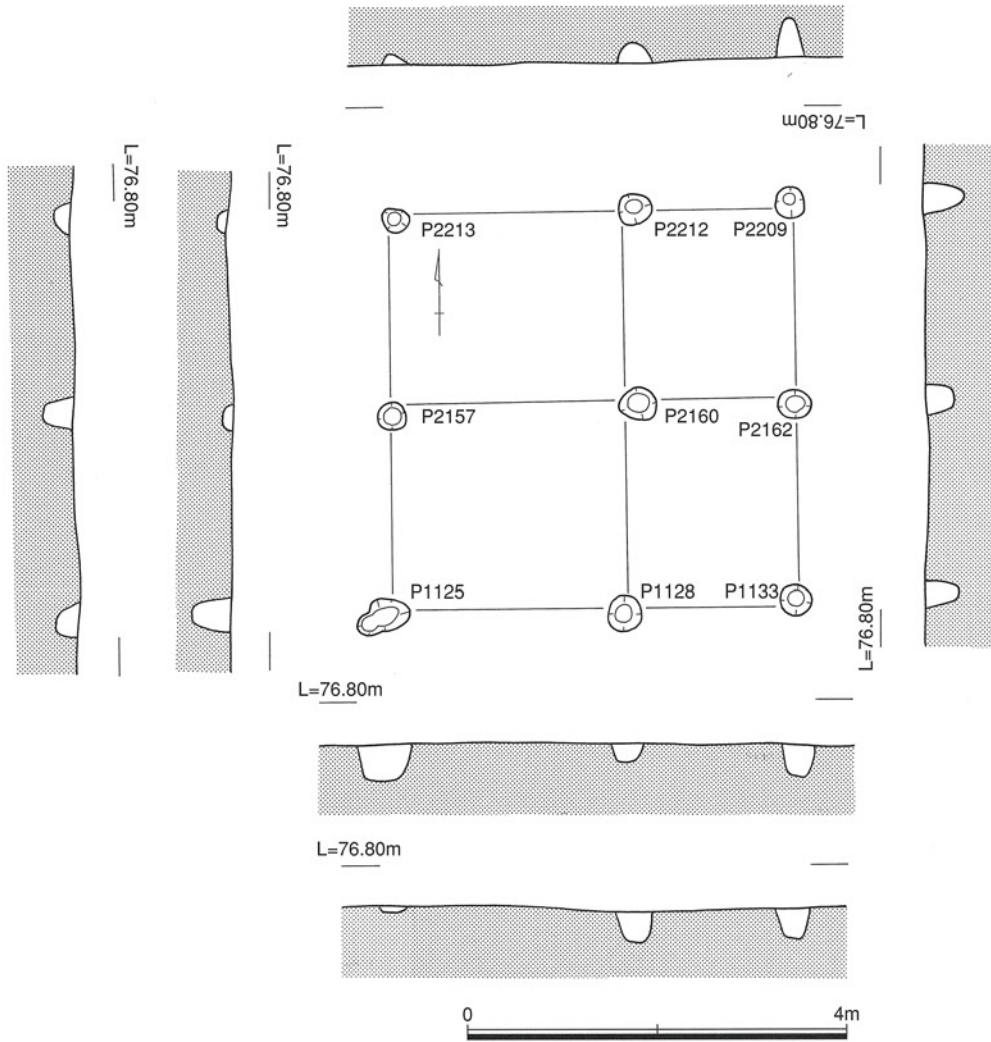


第50図 SA1020出土遺物実測図

呈する。出土遺物は土師質土器杯片・皿片が出土している。出土遺物中に図化可能遺物は確認できていない。

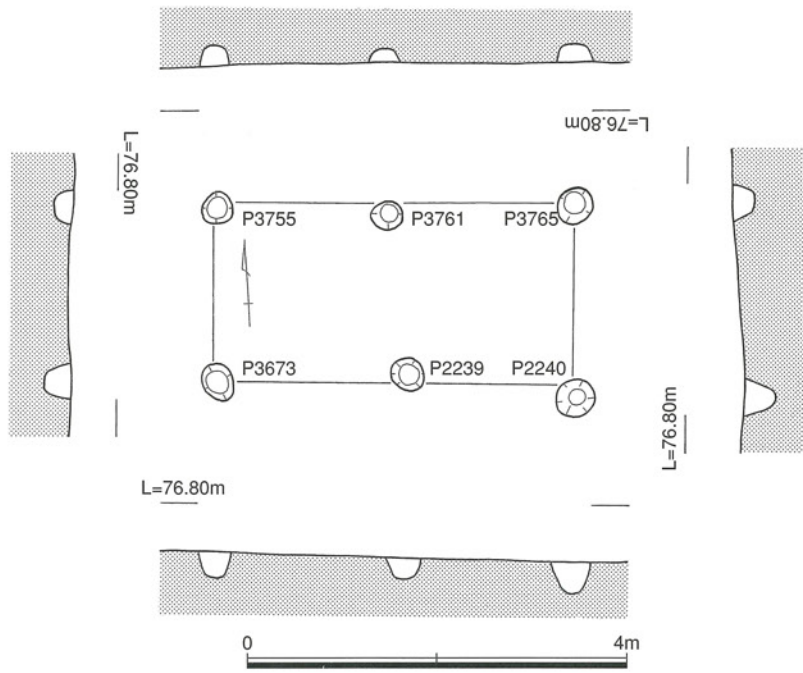
24号掘立柱建物跡 (SA1024) (第54図)

A2調査区 T・A-20・1グリットから検出された11基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。建物の規模は梁間2間 (3.92m)、桁行2間 (4.56m)、床面積21.27m²を測り

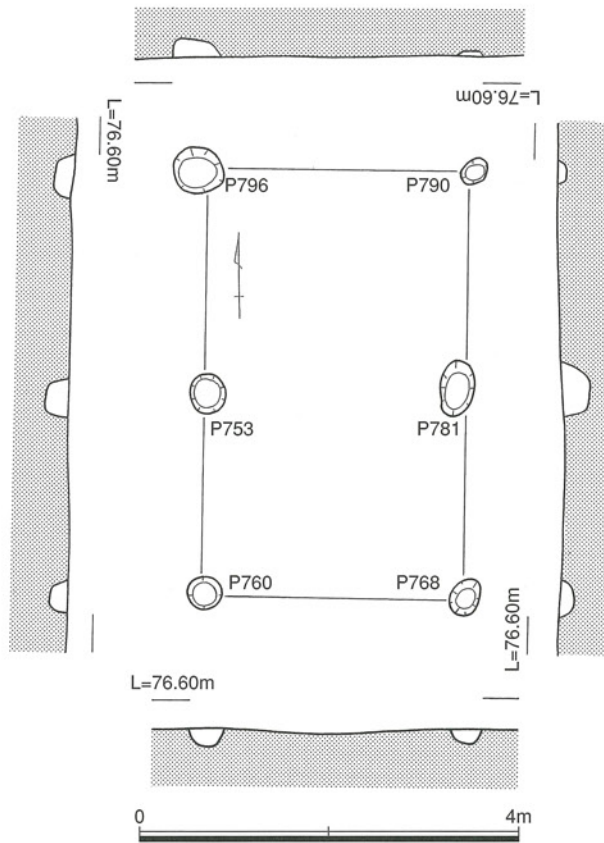


第51図 SA1021実測図

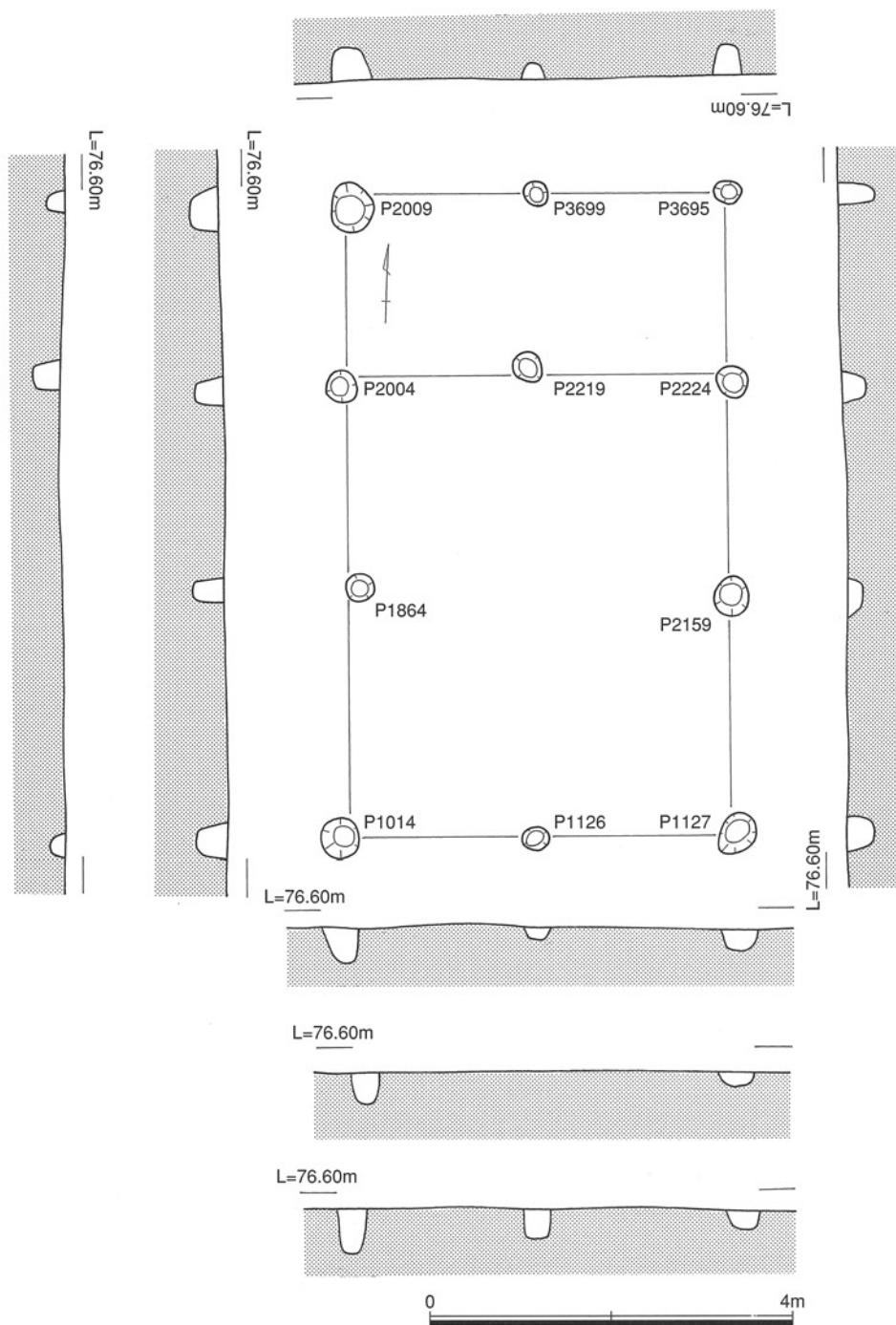
平面形状は長方形を呈する。主軸方位はN-2°-Wを示す。底部分は梁間1間 (1.92m)、桁行2間 (4.08m)、床面積8.54m²を測る。柱間寸法は梁間2.08~2.32m、桁行2.24~2.64mを測る。柱穴の平面形状は円形状を呈する。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片が出土している。図化可能遺物は確認できなかった。



第52図 SA1022実測図



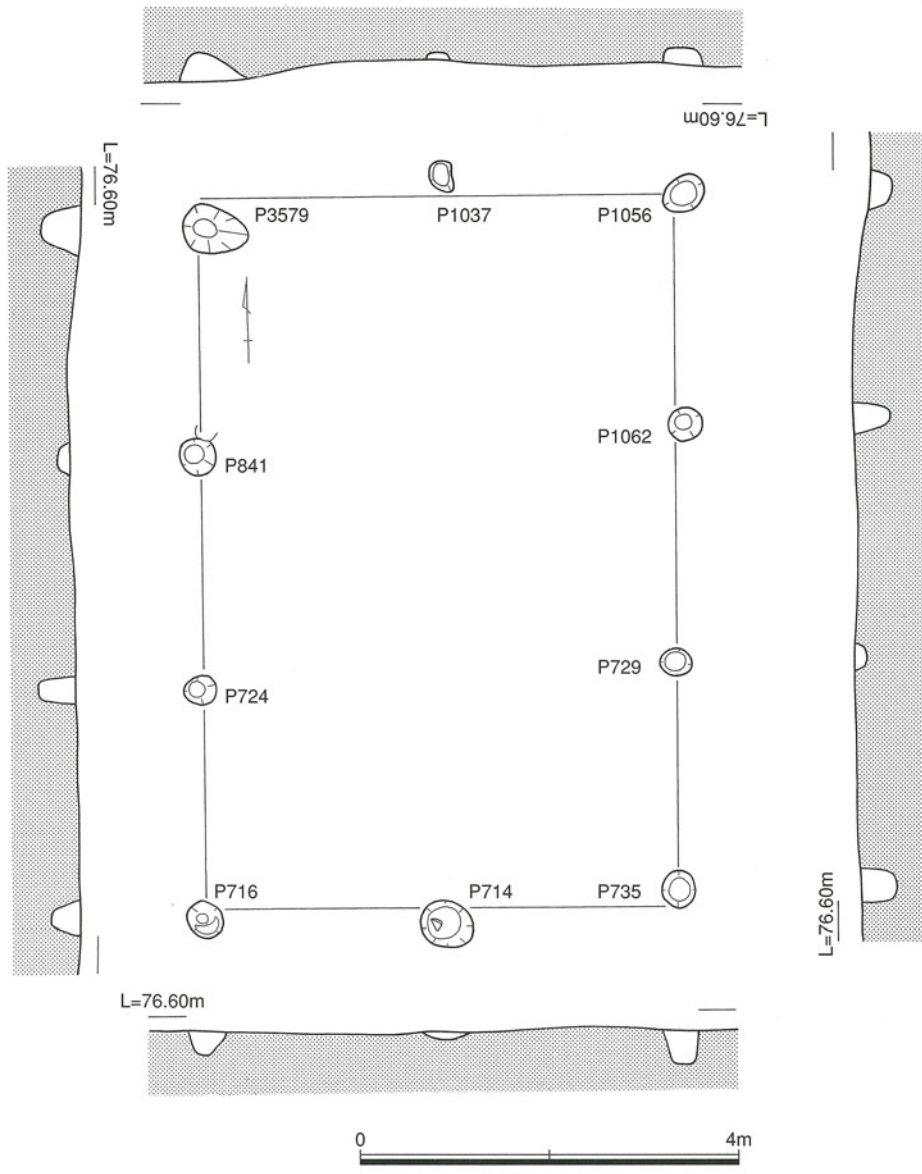
第53図 SA1023実測図



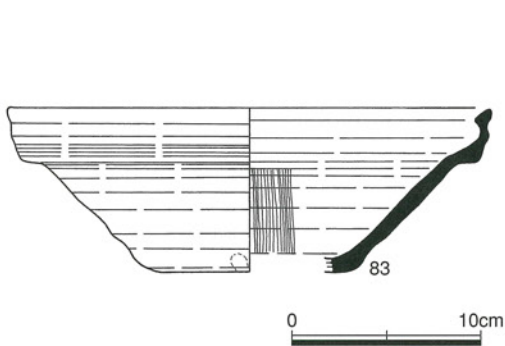
第54図 SA1024実測図

25号掘立柱建物跡 (SA1025) (第55・56図)

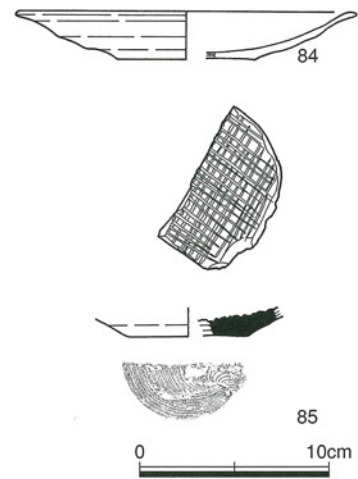
A2調査区R・S-20・1グリットから検出された10基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。建物の規模は梁間2間(4.52m)、桁行3間(6.88m)、床面積36.53m²を測り平面形状は長方形を呈する。主軸方位はN-2°-Eを示す。柱間寸法は梁間2.56~2.64m、桁行2.32~2.56mを測る。柱穴の平面形態は円形状を呈する。出土遺物は土師質土器杯片・小皿片・小片が出土している。83は備前の播鉢である。播鉢は間壁編年V期にあたるものと思われ、16世紀代に位置づけられる。



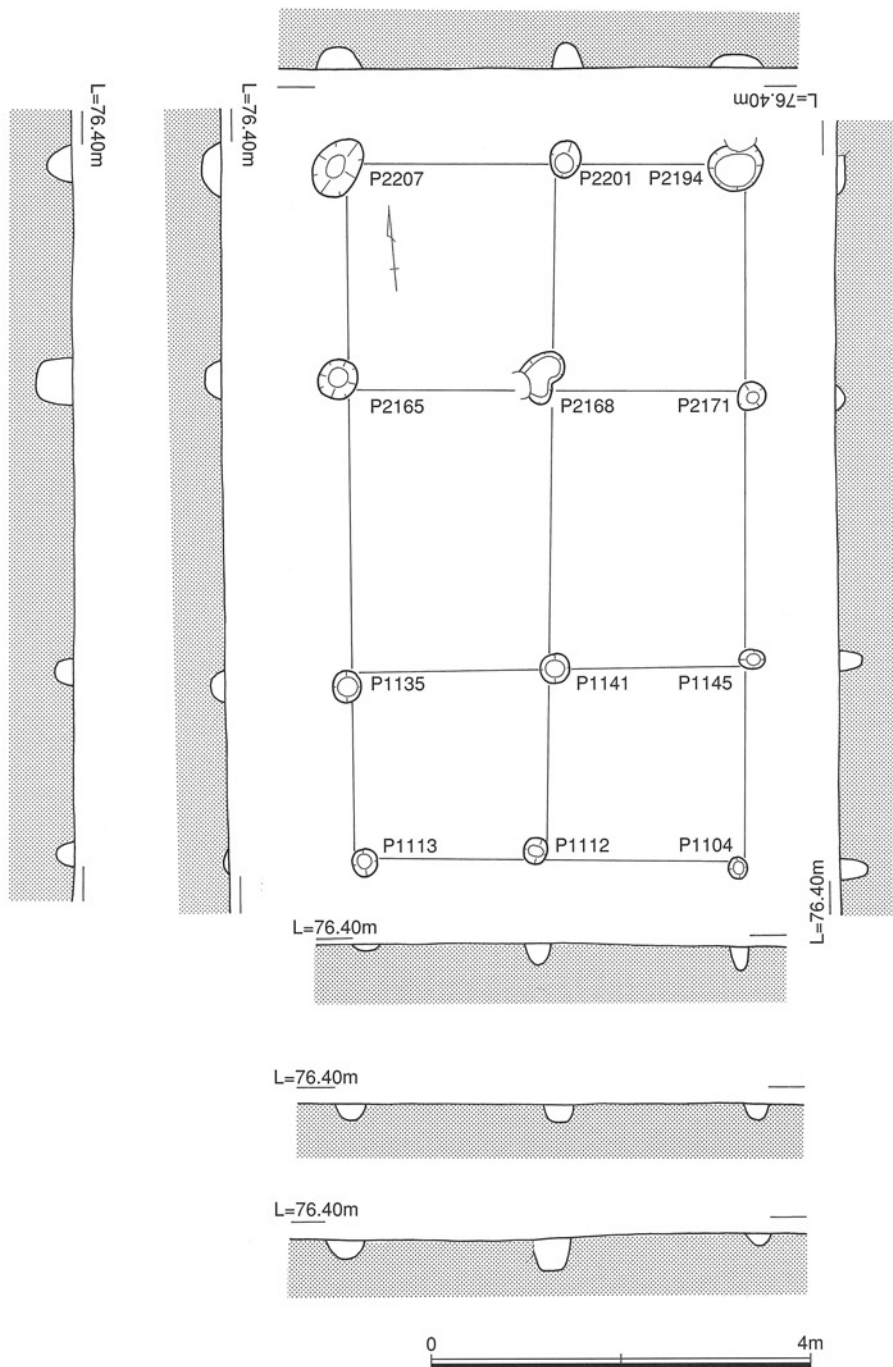
第55図 SA1025実測図



第56図 SA1025出土遺物実測図



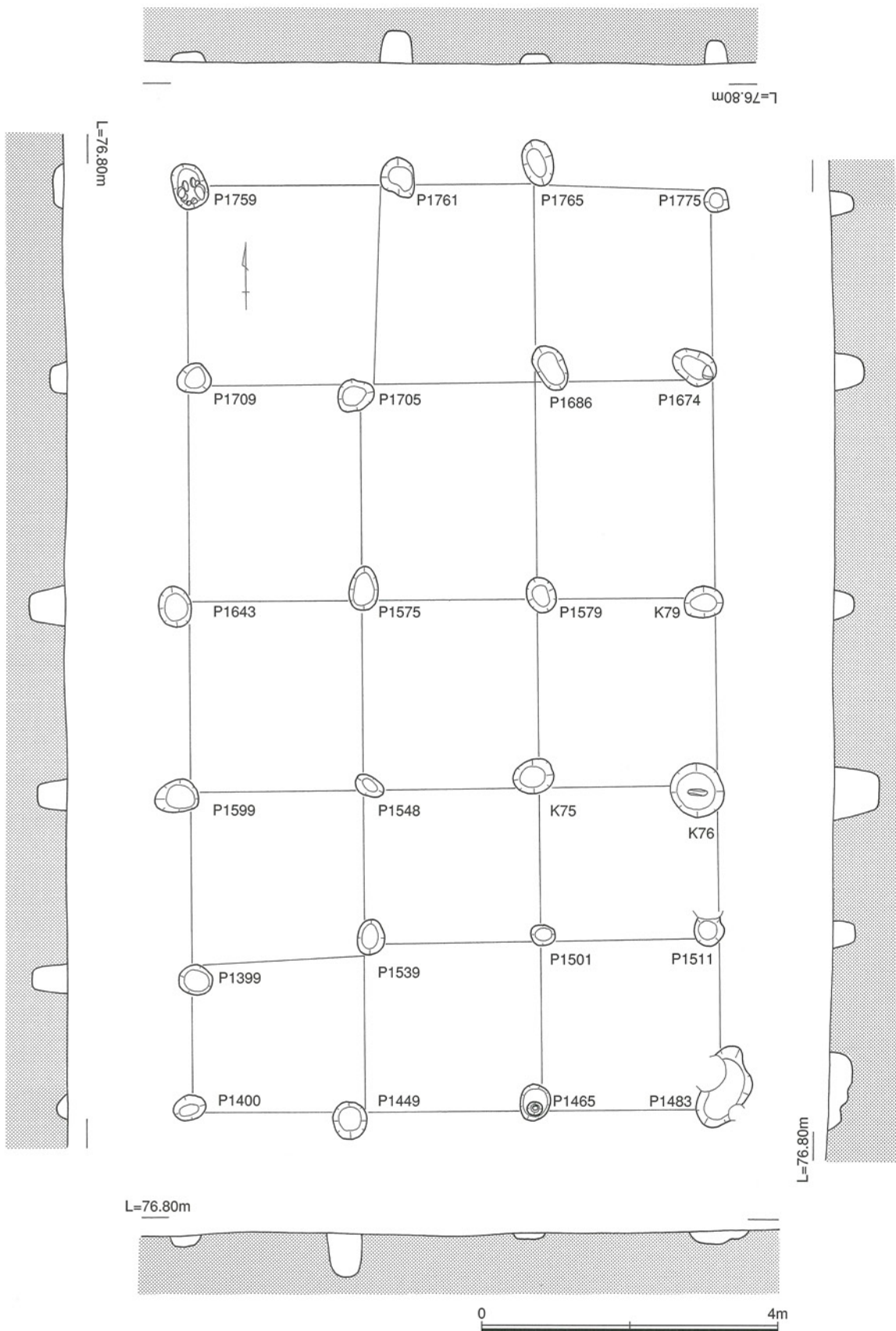
第58図 SA1026出土遺物実測図



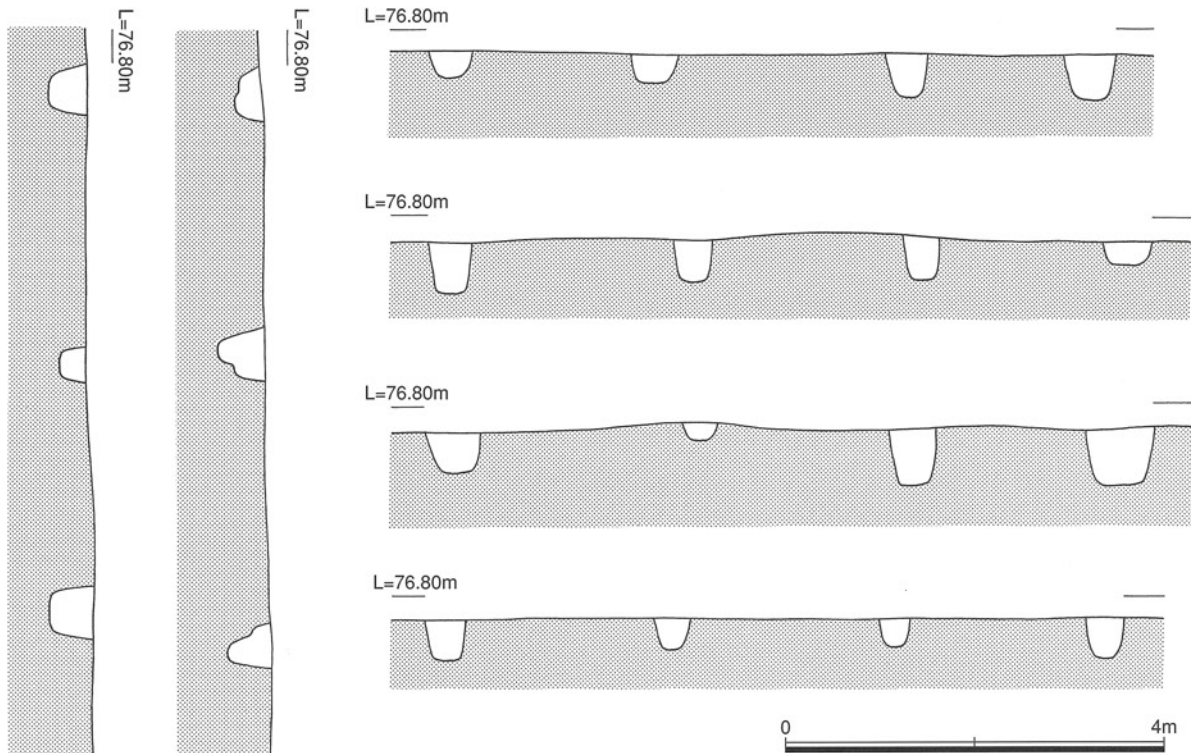
第57図 SA1026実測図

26号掘立柱建物跡（SA1026）（第57・58図）

A2調査区T・A-2グリットから検出された12基の柱穴を伴う総柱式の建物跡である。建物の規模は梁間2間（3.64m）、桁行3間（7m）、床面積30.82m²を測り平面形状は長方形を呈している。主軸方位はN-4°-Eである。柱間寸法は梁間1.84~2.4m、桁行1.84~3.2mを測る。柱穴の平面形状は円形状を呈しSP11135からは柱痕跡が検出されている。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片が出土している。84は土師質土器皿である。底部は静止糸切りを施している。85は瀬戸卸目皿である。底には卸目が施されている。本遺構は中世後半に位置づけられる。



第59図 SA1027実測図(1)



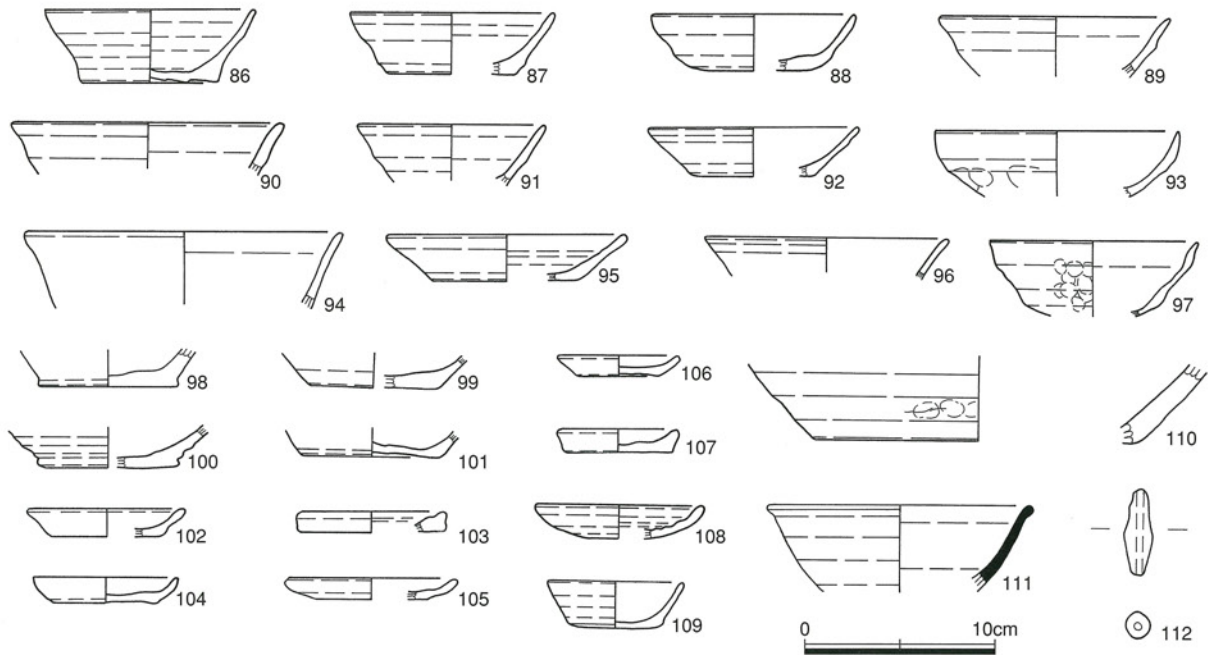
第60図 SA1027実測図(2)

27号掘立柱建物跡 (SA1027) (第59・60・61図)

B4 調査区 B～D-16・17グリットから検出された24基の柱穴を伴う総柱式の建物跡である。建物の規模は梁間3間(6.6m)、桁行5間(11.72m)、床面積80.9m²を測り平面形状は長方形を呈している。柱間寸法は梁間1.92～2.88m、桁行1.76～3.04mを測る。主軸方位はN-1°-Eを示す。柱穴の平面形状は円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・煮沸具片、備前播鉢片を含む。86～101は土師質土器杯である。93・97は手づくねの杯である。86・88・95・101は底部回転ヘラ切りを、98・99は底部に回転ヘラ切り後ナデを施す。102～109は土師質土器小皿である。102～104、106・107は底部回転ヘラ切りを施す。109は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。110は瓦質土器の鉢である。111は青磁の碗である。112は土錘である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

28号掘立柱建物跡 (SA1028) (第62・63図)

B4 調査区 S・T-16・17グリットから検出された12基の柱穴を伴い東側に庇を伴う建物跡である。建物の規模は梁間1間(2.84m)、桁行3間(7.48m)、床面積25.54m²を測り平面形状は長方形を呈している。東側庇部分は梁間1間(1.84m)、桁行3間(7.44m)、床面積17.13m²を測る。主軸方位はほぼ真北に向きを示す。柱間寸法は梁間3.20m、桁行2.16～3.04mを測る。柱穴の平面形状は円形状と楕円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯・皿片・小片が出土している。113～116は土師質土器杯である。113は底部回転ヘラ切り、116は底部に回転ヘラ切り後ナデを施す。117は土師質土器小皿である。底部は静止糸切り後ナデを施す。このことより時期は中世後半に位置づけられる。



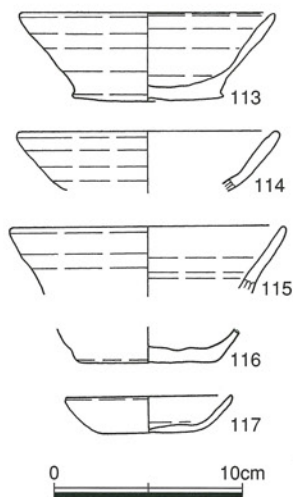
第61図 SA1027出土遺物実測図

29号掘立柱建物跡 (SA1029) (第64・65図)

B4 調査区 A・B-16・17グリットから検出された15基の柱穴を伴う総柱式の建物跡である。建物の規模は梁間2間 (4.64m)、桁行4間 (8.44m)、床面積43.32m²を測り平面形状は長方形を呈している。主軸方位はN-3°-Wを示す。柱間寸法は梁間2.24~2.8m、桁行1.6~2.48mを測る。柱穴の平面形状は円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯・皿片・羽釜片・小片が出土している。118~128は土師質土器杯である。125は手づくねの杯である。119・120・122・127・128は底部回転ヘラ切りである。129~141は土師質土器小皿で132・133・136~140は底部回転ヘラ切りである。134は底部に回転糸切りを施す。142は土師質土器の土錘である。

30号掘立柱建物跡 (SA1030) (第66図)

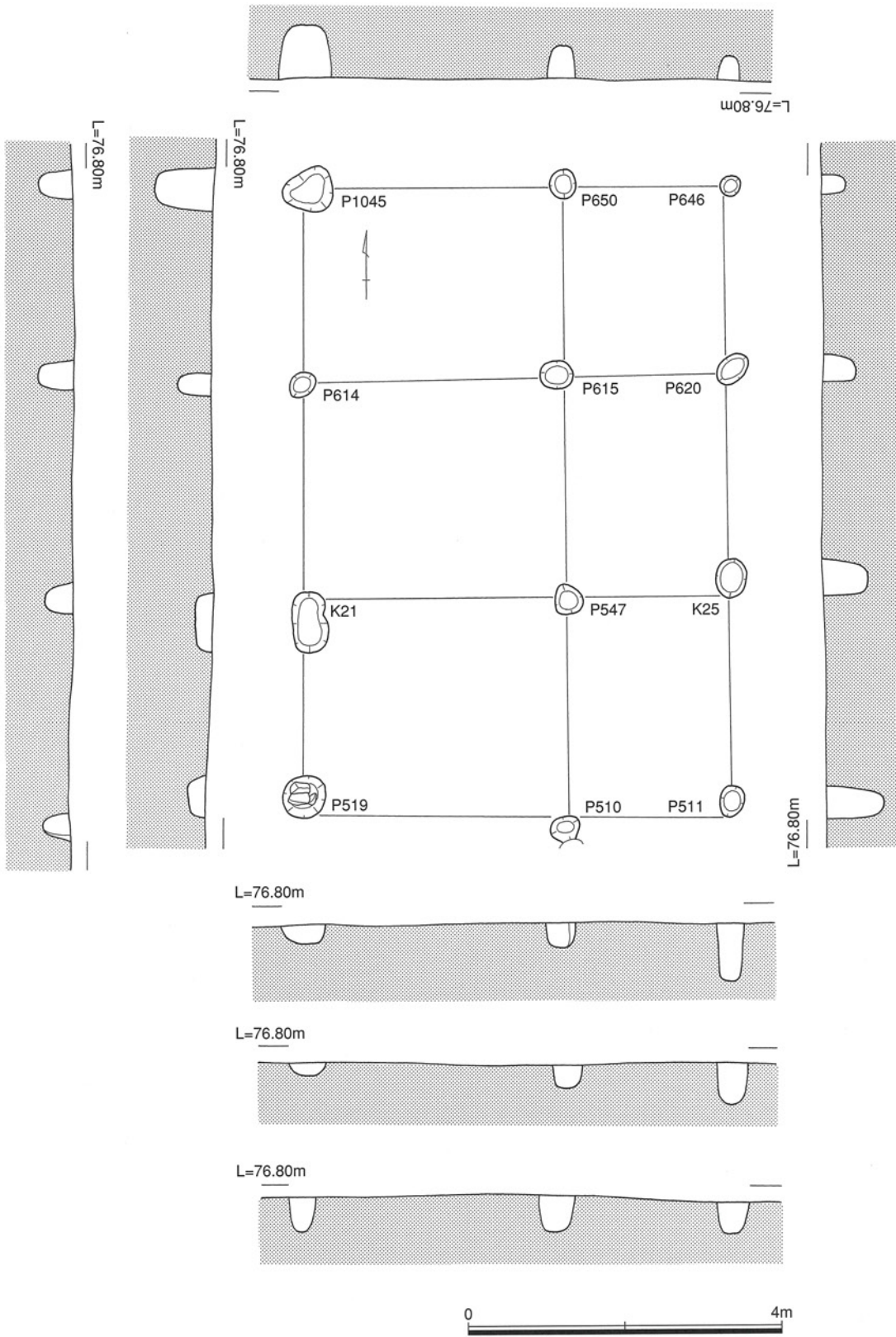
B4 調査区 S-16グリットから検出された9基の柱穴を伴う総柱式の建物跡である。建物の規模は梁間2間 (3.36m)、桁行2間 (4.52m)、床面積18.84m²を測り平面形状は長方形を呈している。主軸方位は真北の方向を示している。柱間寸法は梁間1.68~2.18m、桁行2.16~2.56mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯・皿片・煮沸具片・小片が出土している。しかし実測可能遺物は確認できなかった。



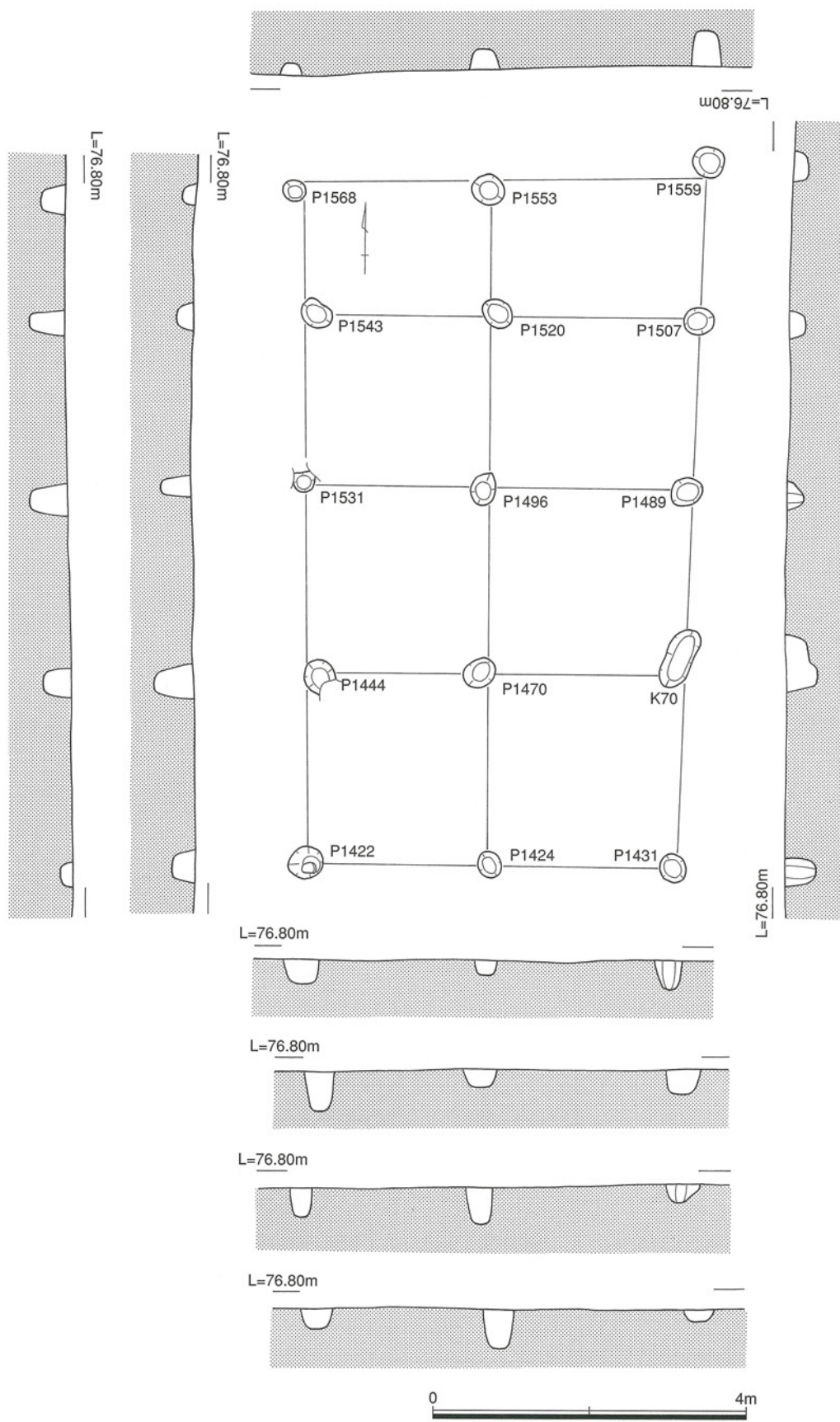
第63図 SA1028出土遺物実測図

31号掘立柱建物跡 (SA1031) (第67・68図)

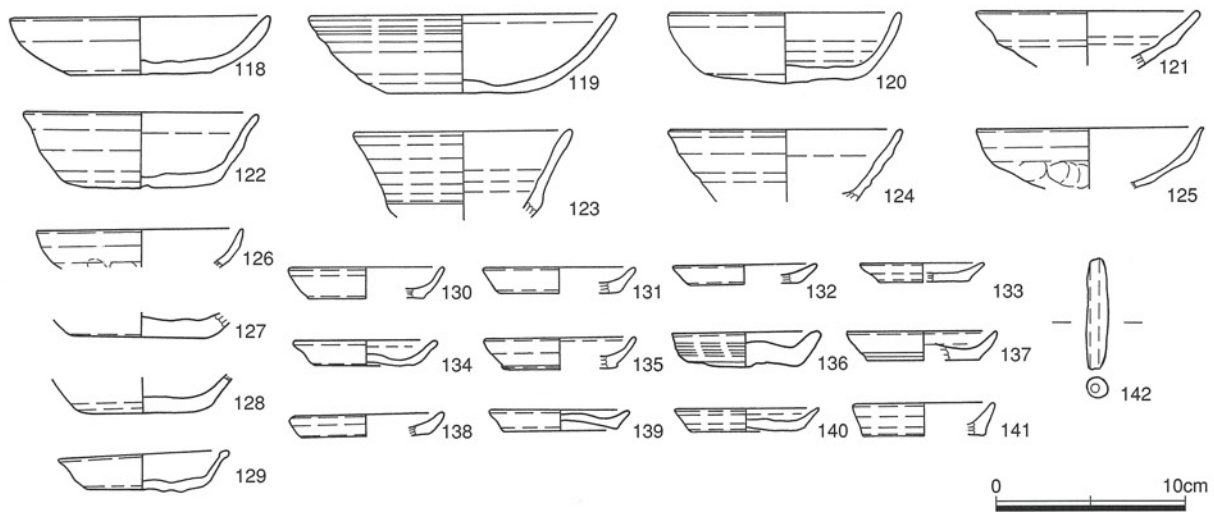
B4 調査区 A・B-17グリットから検出された9基の柱穴を伴う総柱式の建物跡である。建物の規模は梁間2間 (4.32m)、桁行2間 (4.52m)、床面積23.76m²を測り平面形状は正方形を呈してい



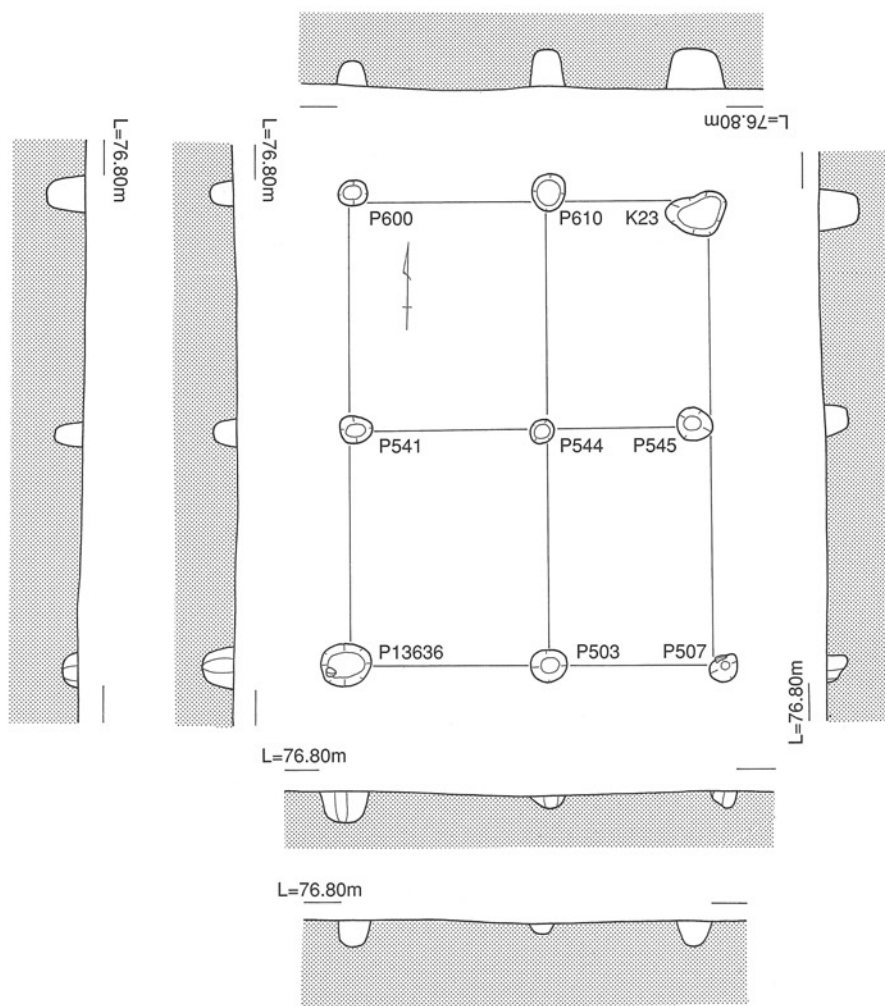
第62図 SA1028実測図



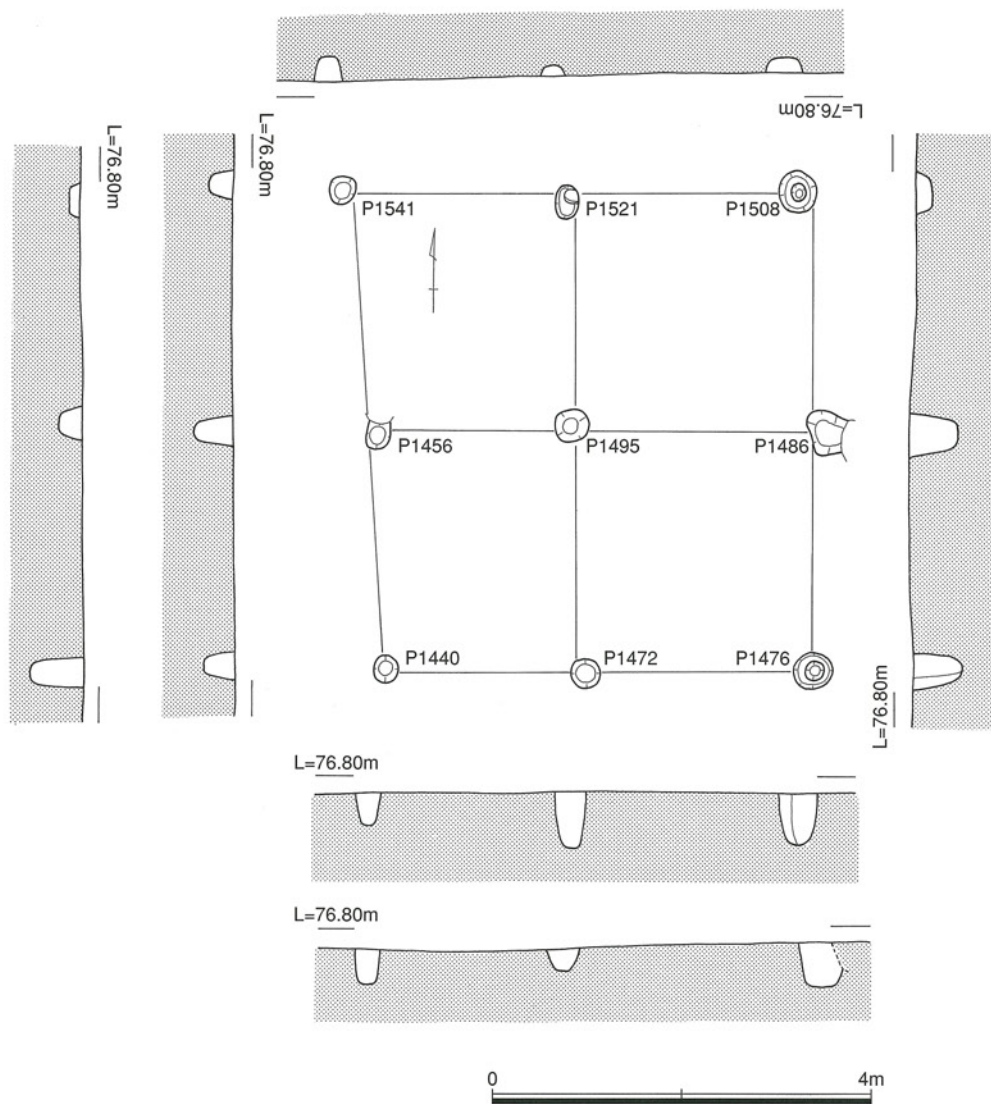
第64図 SA1029実測図



第65図 SA1029出土遺物実測図

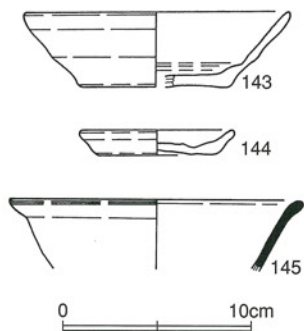


第66図 SA1030実測図



第67図 SA1031実測図

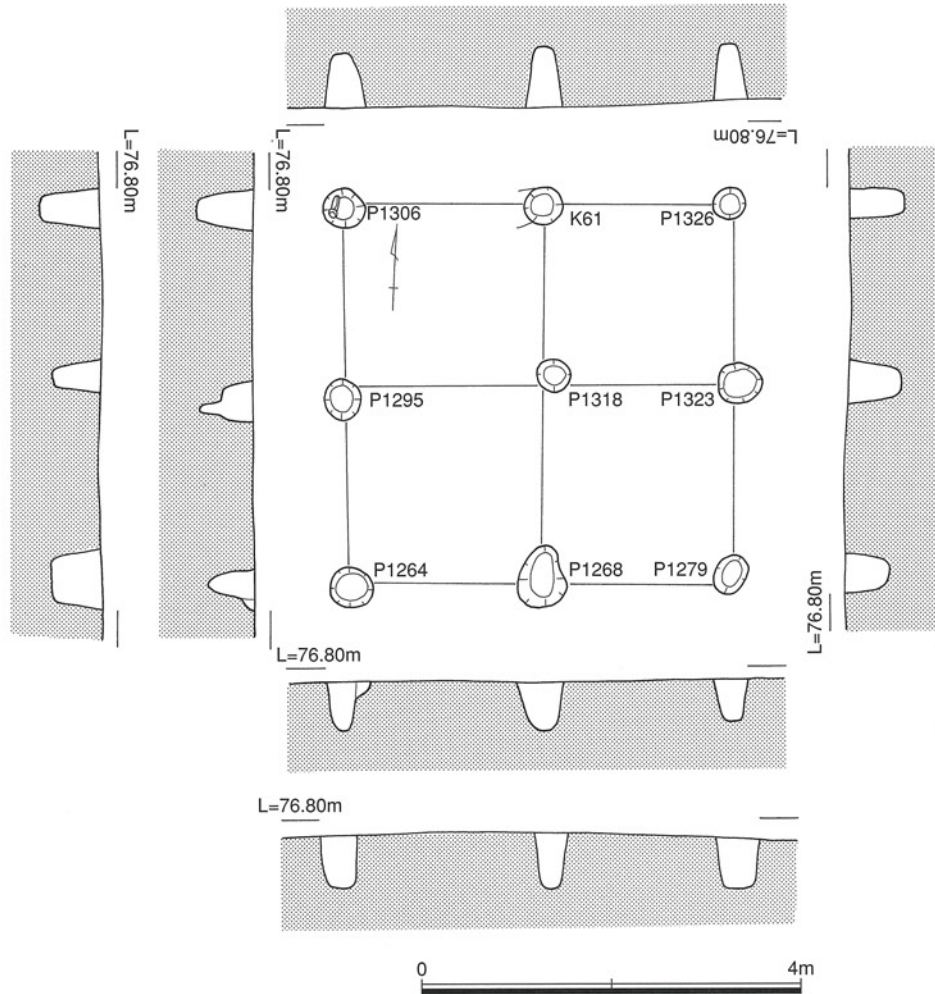
る。主軸方位は $N-4^{\circ}-W$ を示す。柱間寸法は梁間 $2.08\sim 2.4m$ 、桁行 $2.56\sim 2.64m$ を測る。柱穴の平面プランは円形状と楕円形状を呈する。出土遺物は土師質土器杯片・小皿片・小片が出土している。143は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。144は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。145は白磁碗である。白磁碗は大宰府編年Ⅸ類にあたる。



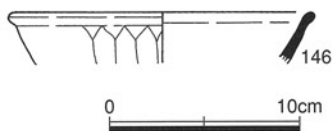
第68図 SA1031出土遺物実測図

32号掘立柱建物跡 (SA1032) (第69・70図)

B4調査区B-13グリットから検出された9基の柱穴を伴う総柱の建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.56m)、桁行2間(3.64m)、床面積 $16.88m^2$ を測り平面形状は正方形を呈している。主軸方位は $N-4^{\circ}-W$ を示す。柱間寸法は梁間 $1.92\sim 2m$ 、桁行 $2\sim 2.16m$ を測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片が出土している。146は青磁碗である。龍泉窯系で大宰府編年Ⅰ-5類にあたるものと思われる。



第69図 SA1032実測図



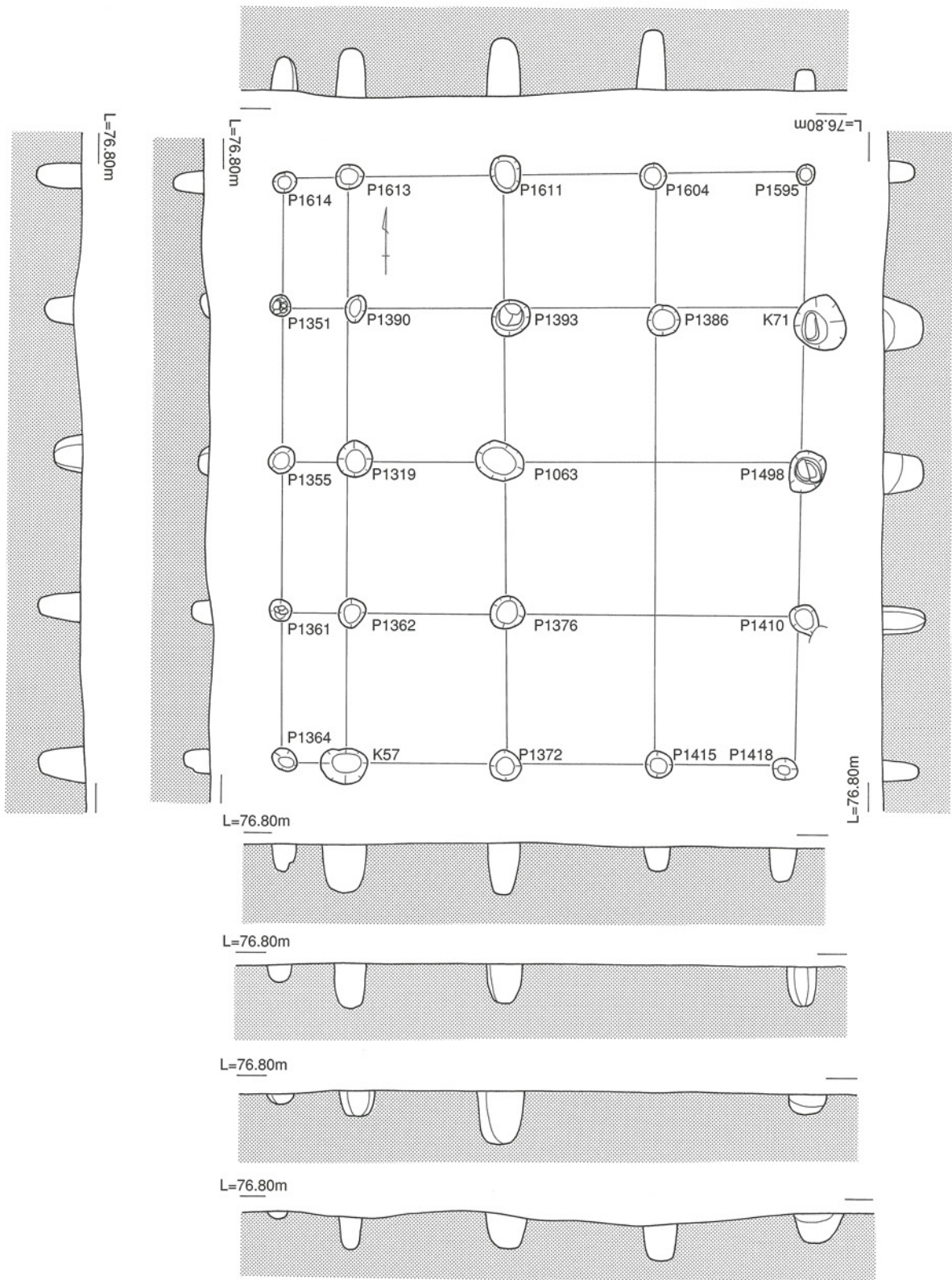
第70図 SA1032出土遺物実測図

33号掘立柱建物跡 (SA1033) (第71・72図)

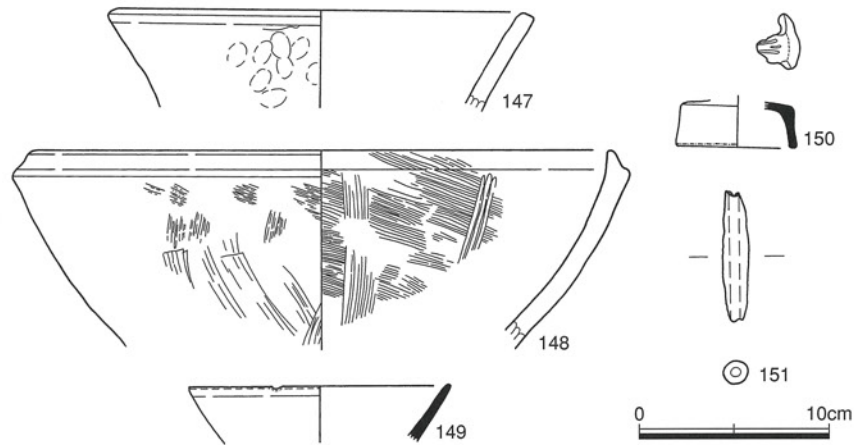
B4 調査区 A・B-15・16グリットから検出された23基の柱穴を伴う総柱の建物跡で西側に庇を備えている。建物の規模は梁間3間(5.44m)、桁行4間(7.4m)、床面積44.76m²を測り庇部分は梁間1間(0.44m)、桁行4間(7.24m)、床面積6.51m²を測る。主軸方位はN-1°-Eを測る。平面形状は長方形を呈する。柱間寸法は梁間1.68~2.08m、桁行2.00~2.08mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈する。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・煮沸具片・小片が出土している。147は土師質土器こね鉢である。口縁端部方形に収め体部外面に指頭圧痕をとどめる。148は土師質土器播鉢である。口縁端部を方形に収め口縁部はやや内彎気味に立ち上がる。体部内外面には板ナデの痕跡が認められる。149・150は貿易陶磁で149は青磁碗である。龍泉窯系で大宰府編年I-1類にあたるものと思われる。151は土師質土器の紡錘車である。

34号掘立柱建物跡 (SA1034) (第73・74図)

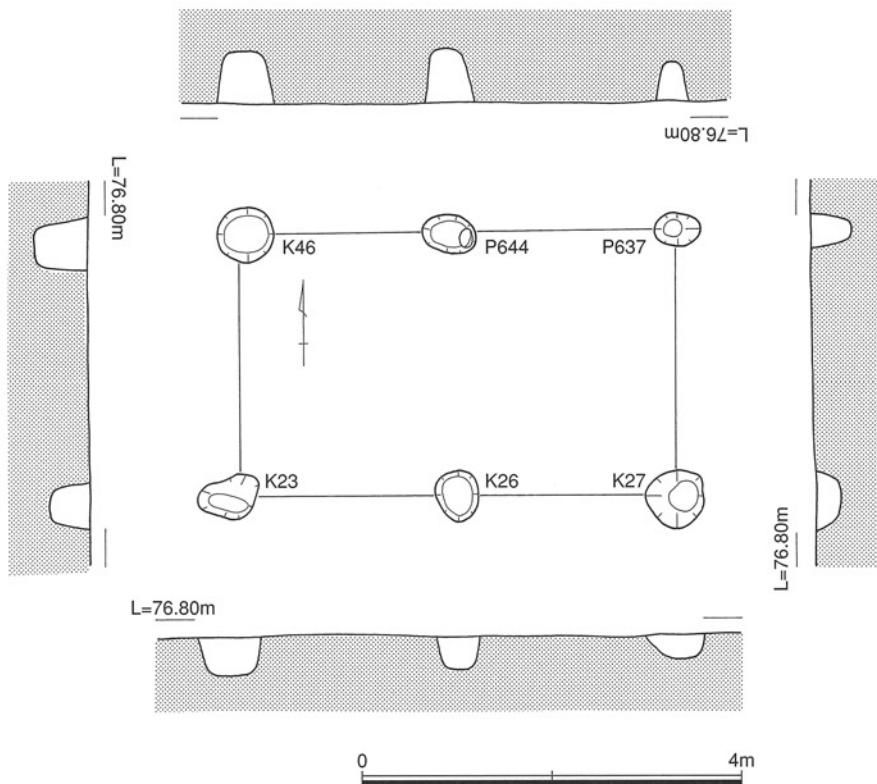
B4 調査区 T-17グリットから検出された6基の柱穴を伴う側柱の建物跡である。建物の規模は梁間1間(2.32m)、桁行2間(3.96m)、床面積13.12m²を測り平面形状は長方形を呈する。主軸はN-



第71図 SA1033実測図



第72図 SA1033出土遺物実測図

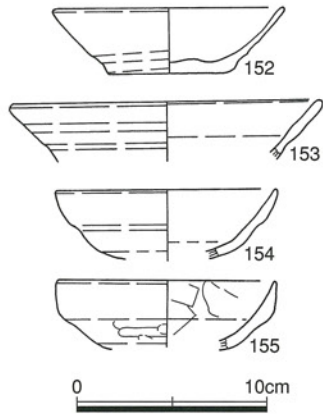


第73図 SA1034実測図

90°-W でほとんど西に振っている。柱間寸法は梁間2.8m、桁行2.24~2.4mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯・小皿片・小片が出土している。152~155は土師質土器の杯である。152は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。154・155は手づくねの杯である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

35号掘立柱建物跡 (SA1035) (第75・76図)

B4 調査区 M-15グリッドから検出された6基の柱穴を伴う側柱の建物跡である。建物の規模は梁間1間 (3.2m)、桁行2間 (3.6m)、床面積14.39m²を測り平面形状は長方形を呈する。主軸方位はほと

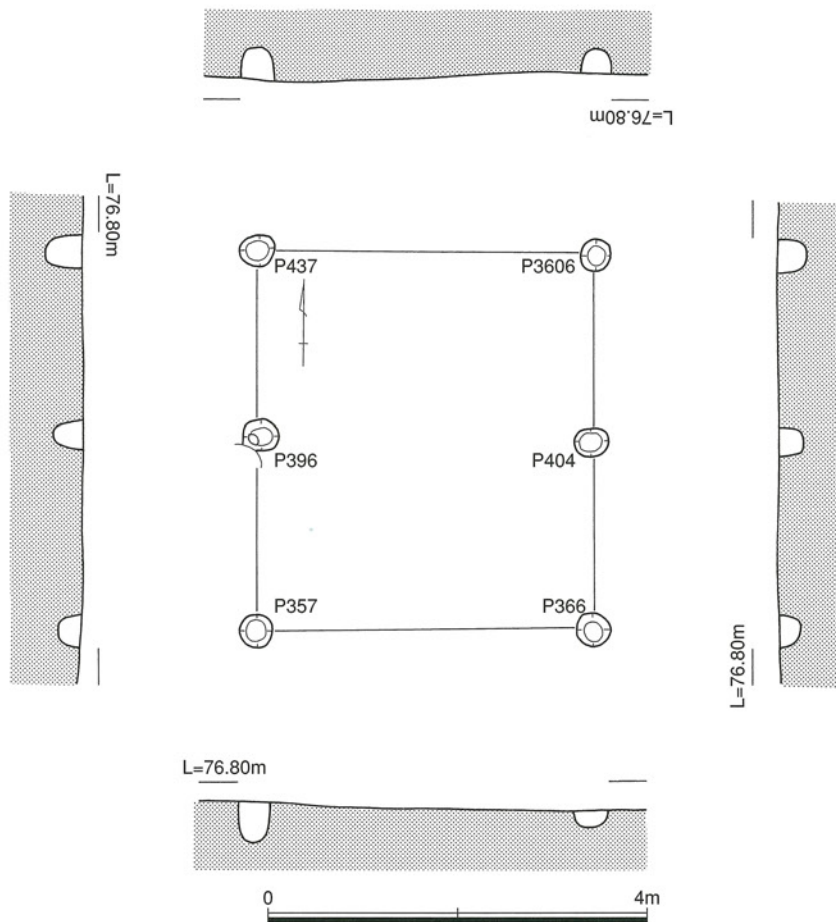


第74図 SA1034出土遺物実測図

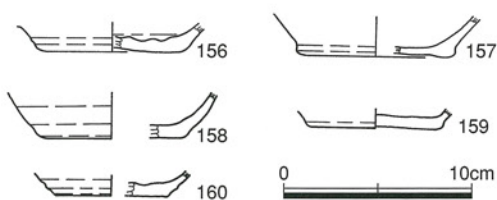
んど真北向きである。柱間寸法は梁間3.52m、桁行1.92~2.08mを測る。柱穴の平面プランは円形を呈している。出土遺物は土師質土器杯片・小皿片・小片が出土している。156~160は土師質土器杯の底部片である。156・160は底部回転ヘラ切りを施す。157~159は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。

36号掘立柱建物跡 (SA1036) (第77・78図)

B4 調査区 A・B-13・14グリットから検出された9基の柱穴を伴う総柱の建物跡である。建物の規模は梁間2間 (3.6m)、桁行2間 (3.8m)、床面積16.78m²を測り平面形状は正方形を呈する。主

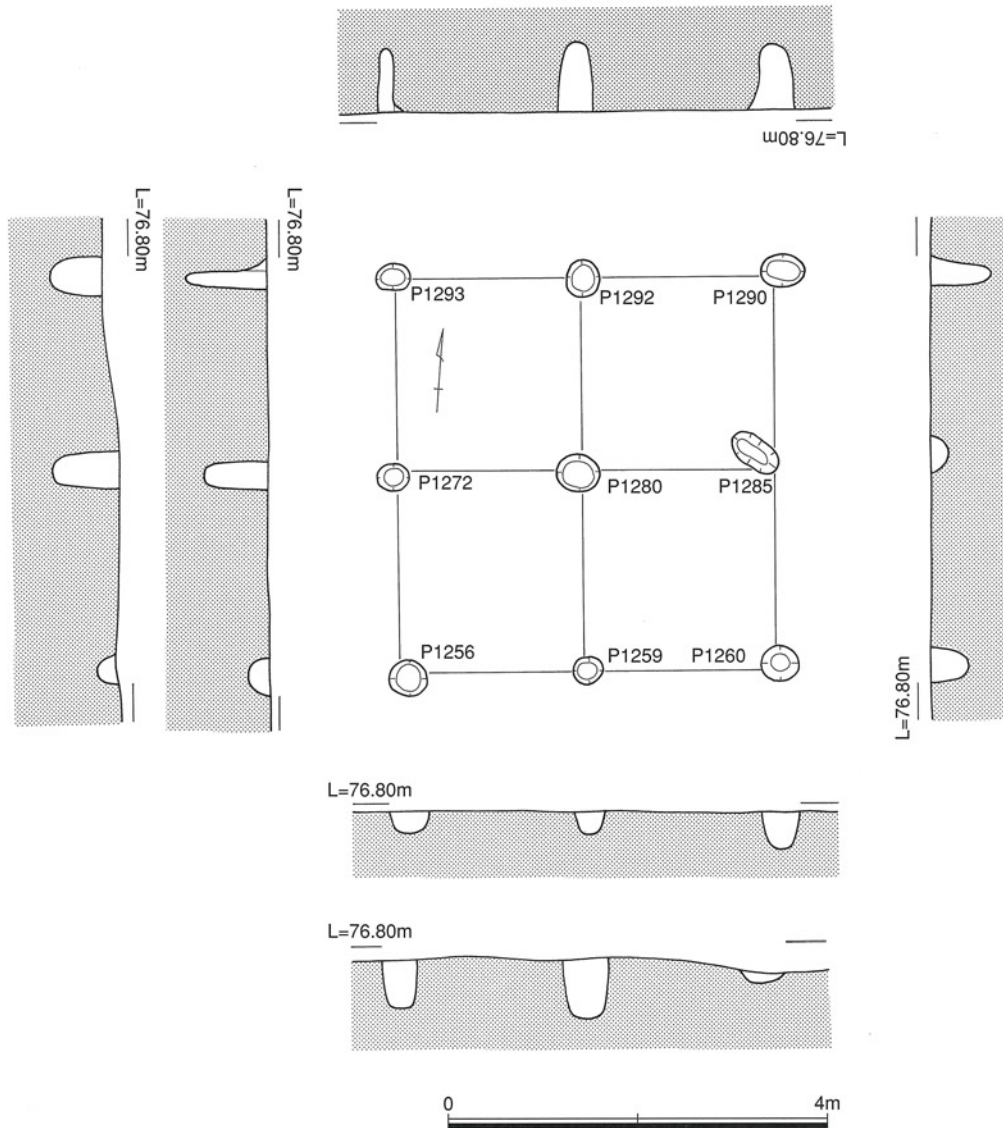


第75図 SA1035実測図

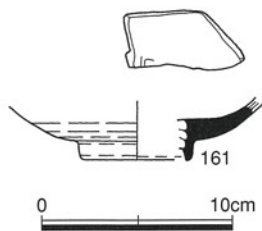


第76図 SA1035出土遺物実測図

軸方位はN-2°-Eを示す。柱間寸法は梁間1.92~2.08m、桁行1.92~2.24mを測る。柱穴の平面プランは円形状と楕円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯片・小片が出土している。161は青磁碗である。



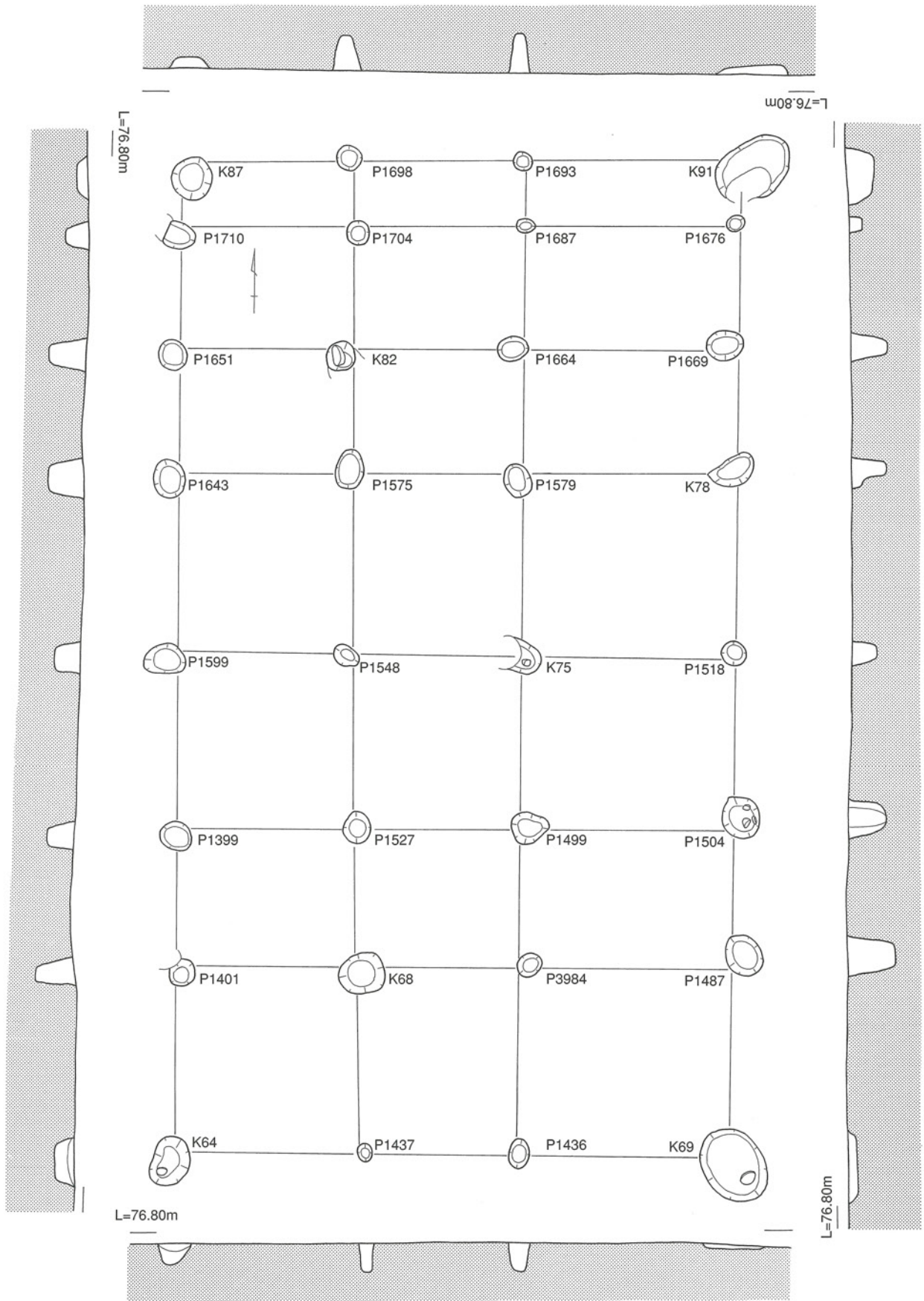
第77図 SA1036実測図



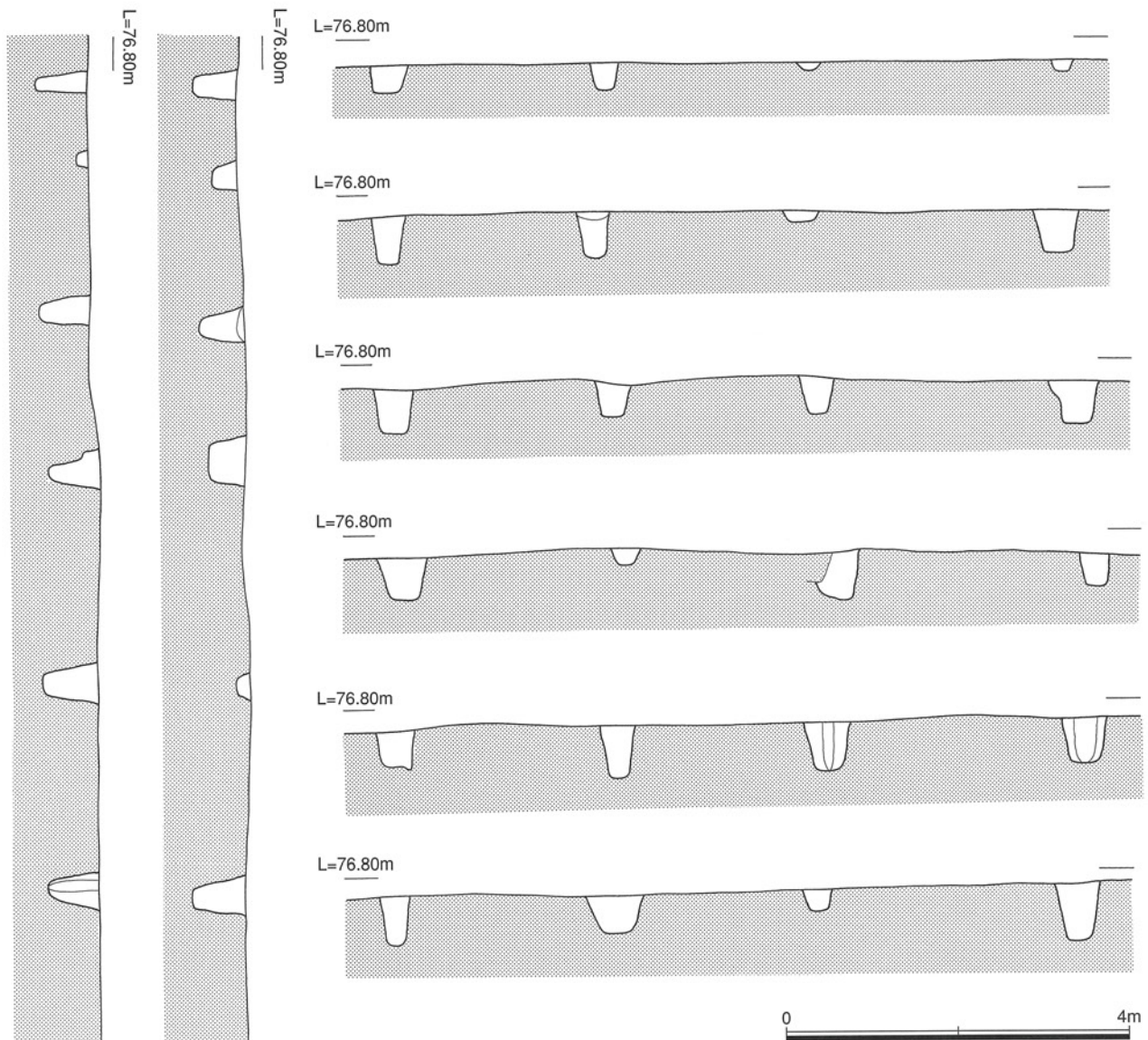
第78図 SA1036出土遺物実測図

37号掘立柱建物跡 (SA1037) (第79・80・81図)

B4 調査区 A・D-16・17グリットから検出された32基の柱穴を伴う総柱の建物跡で北側に庇を確認できる。建物の規模は梁間3間 (7.36m)、桁行6間 (12.56m)、床面積101.72m²を測り北側には梁間1間 (0.32m)、桁行3間 (7.36m)、床面積7.68m²を測る庇を備えている。主軸方位は真北を示している。平面形状は長形状を呈する。柱間寸法は梁間2.56~2.96m、桁行1.68~2.64mを測る。柱穴の平面プランは円形と楕円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯・皿片・煮沸具片・小片が出土している。162~175は土師質土器杯である。162は回転ヘラ切りである。165・168・172・175は回転ヘラ切り後ナデを施す。176~182は土師質土器小皿である。178・180・181は回転ヘラ切りを施す。183~185は土師質土器羽釜である。186・187は青磁碗である。186は龍泉窯系で体部に蓮弁文を施す。大宰府編年 I - 5 類に当たる。188は白磁碗の底部である。



第79図 SA1037実測図(1)



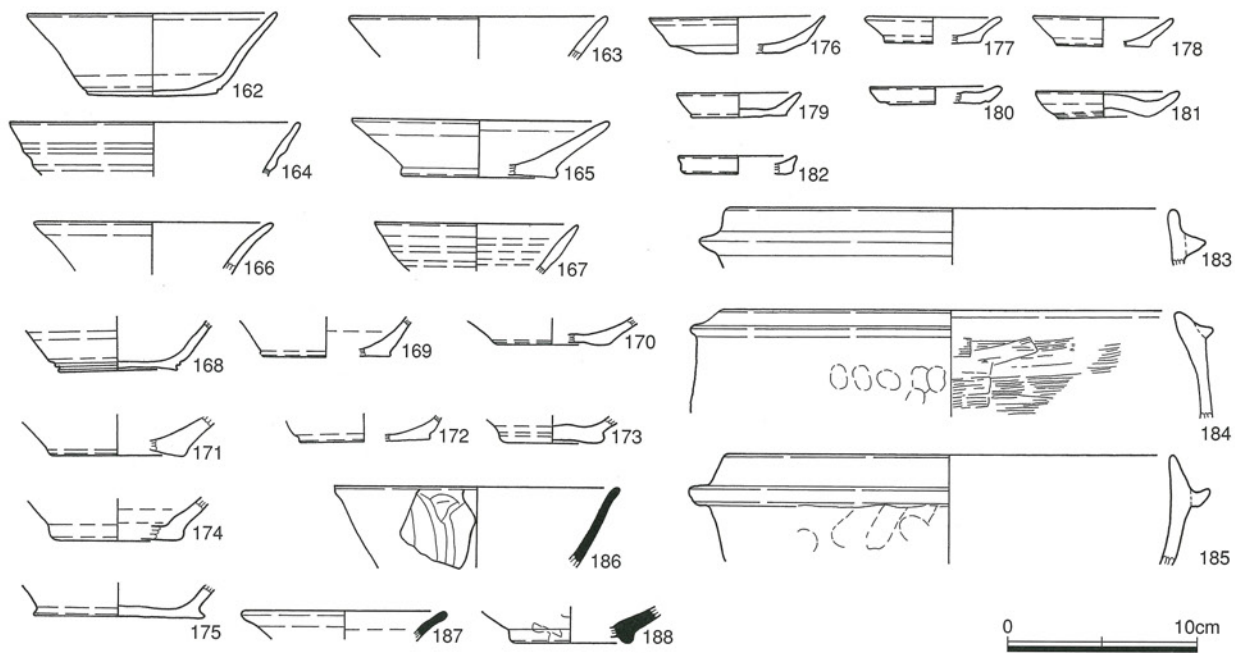
第80図 SA1037実測図(2)

38号掘立柱建物跡 (SA1038) (第82・83図)

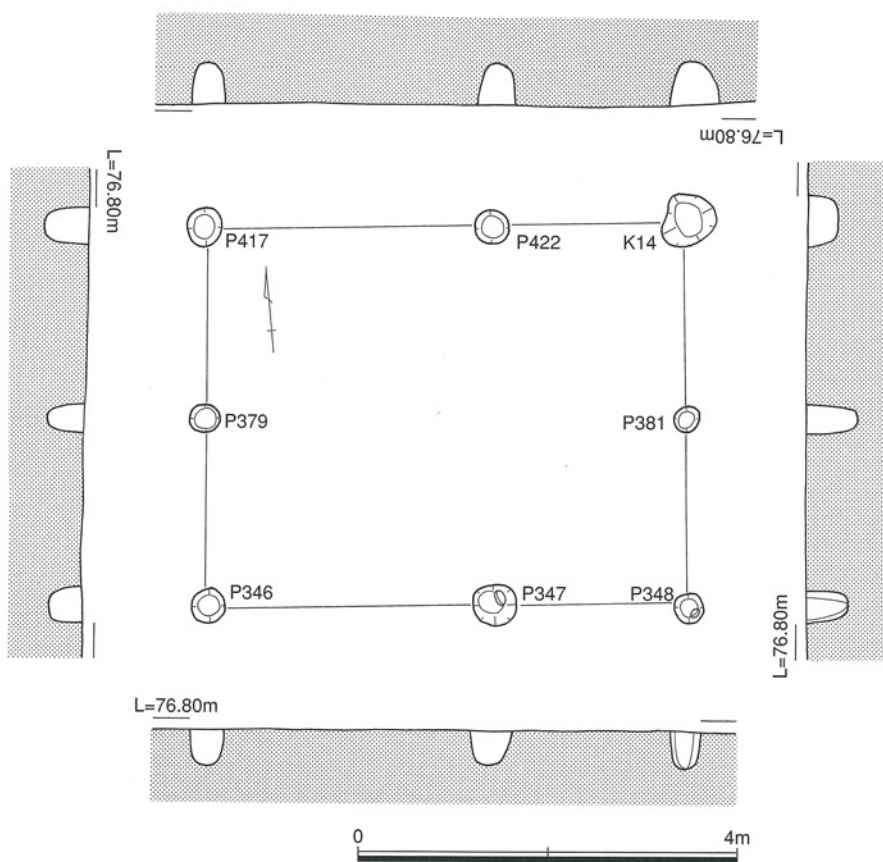
B4 調査区 Q・R-12・13グリットから検出された8基の柱穴を伴う側柱式の建物である。建物の規模は梁間2間(3.6m)、桁行2間(4.64m)、床面積20.27m²を測り平面形状は長方形を呈する。主軸方位はN-84°-Wを示す。柱間寸法は梁間1.92~2m、桁行2.08~3.04mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・煮沸具片が出土している。189は土師質土器杯である。190は土師質土器の紡錘車である。

39号掘立柱建物跡 (SA1039) (第84・85図)

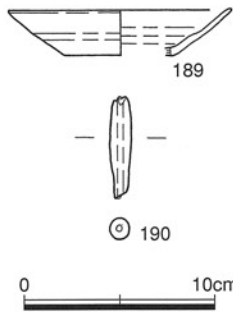
B4 調査区 R・S-14・15グリットから検出された16基の柱穴を伴う総柱式の西側に庇を持つ建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.04m)、桁行3間(5.44m)、床面積18.03m²を測り、西側に梁間1



第81图 SA1037出土遺物実測図



第82图 SA1038实测图

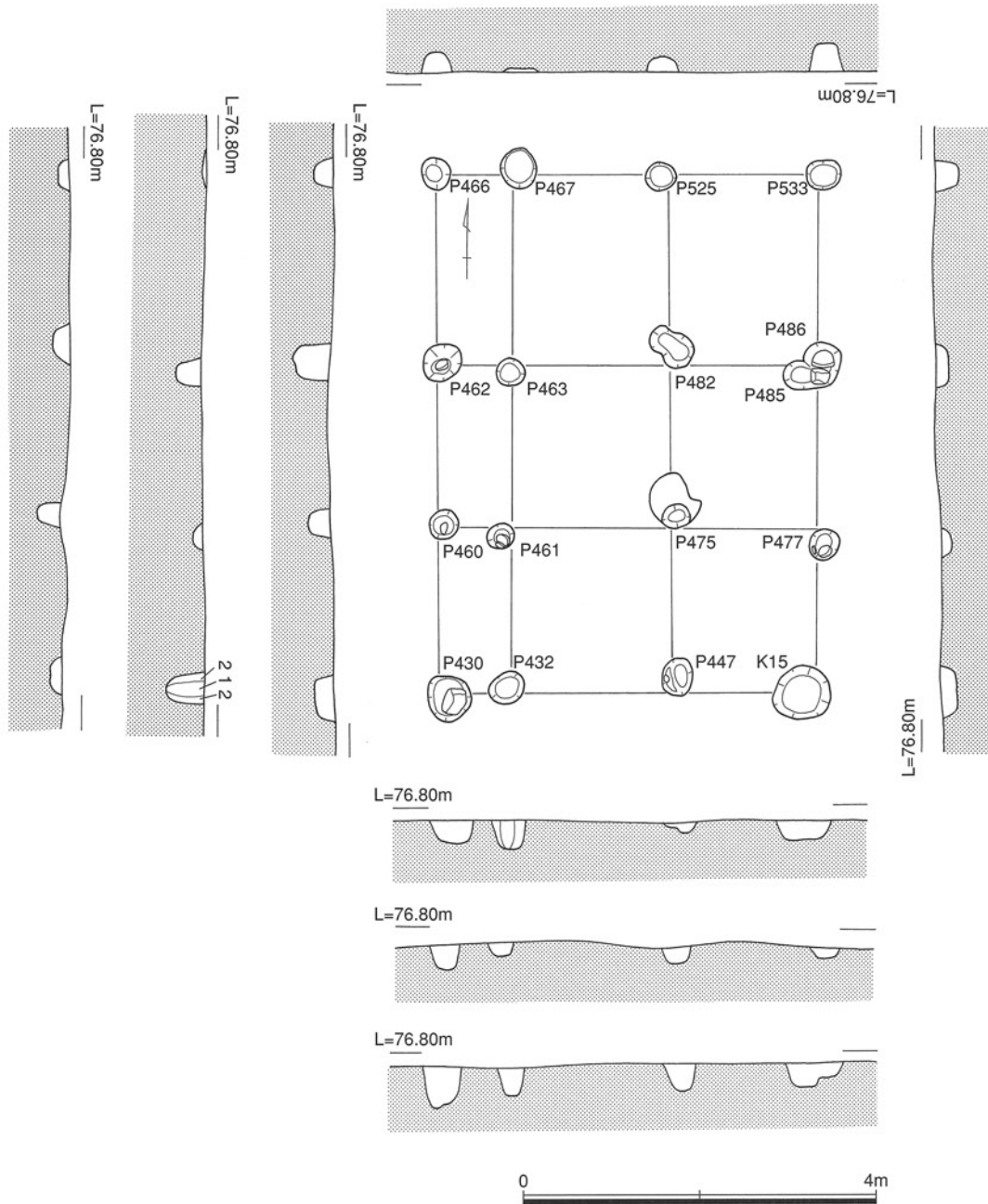


第83図 SA1038出土
遺物実測図

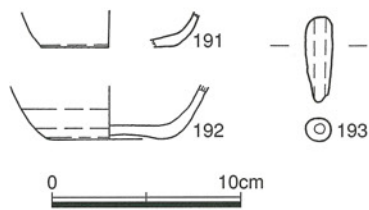
間 (0.4m)、桁行3間 (5.52m)、床面積 5 m²を測る庇を持つ建物跡である。主軸方位は N-1°-W を示す。平面プランは長形状を呈し柱間寸法は梁間1.44~1.94m、桁行1.76~2.32mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。遺物は土師質土器杯小片が出土している。191・192は土師質土器杯である。191は回転ヘラ切り後ナデを施す。193は土師質土器の紡錘車である。

40号掘立柱建物跡 (SA1040) (第86・87図)

B4 調査区 S-16グリットから検出された6基の柱穴を伴う側柱式の建

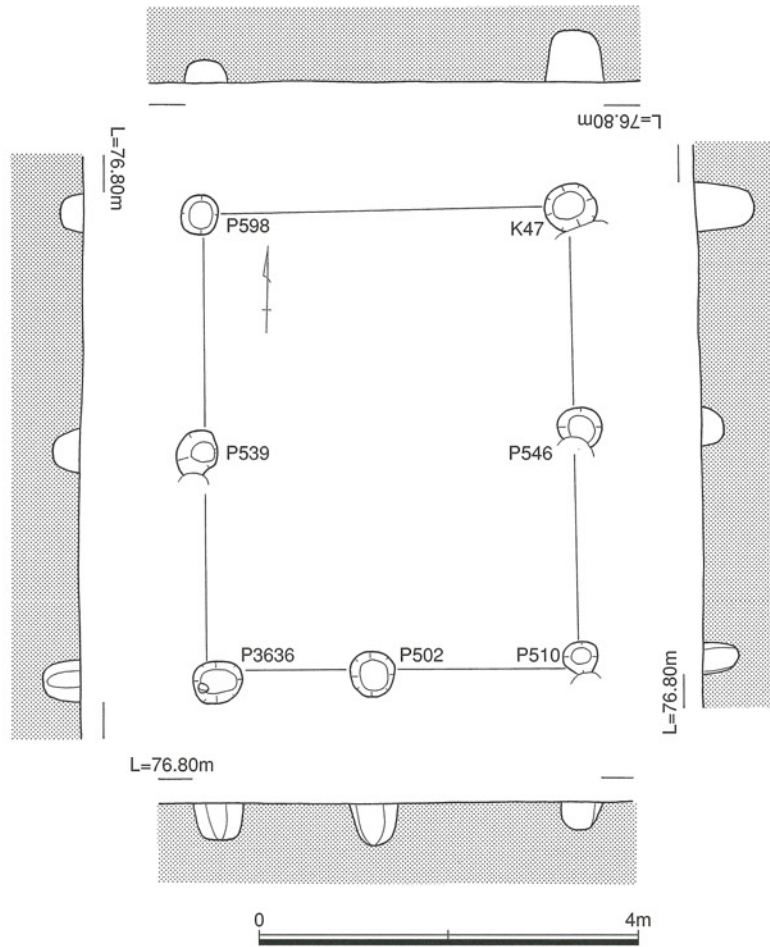


第84図 SA1039実測図

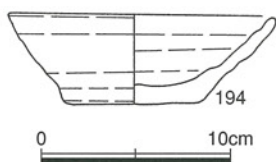


第85図 SA1039出土遺物実測図

物跡である。建物の規模は梁間1間(3.4m)、桁行2間(4.4m)、床面積20.34㎡を測る建物跡である。主軸方位はN-4°-Wである。平面プランは長形状を呈し柱間寸法は梁間3.84m、桁行2.4~2.56mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。遺物は土師質土器の杯片・皿片・煮沸具片・小片が出土している。194は土師質土器の杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。



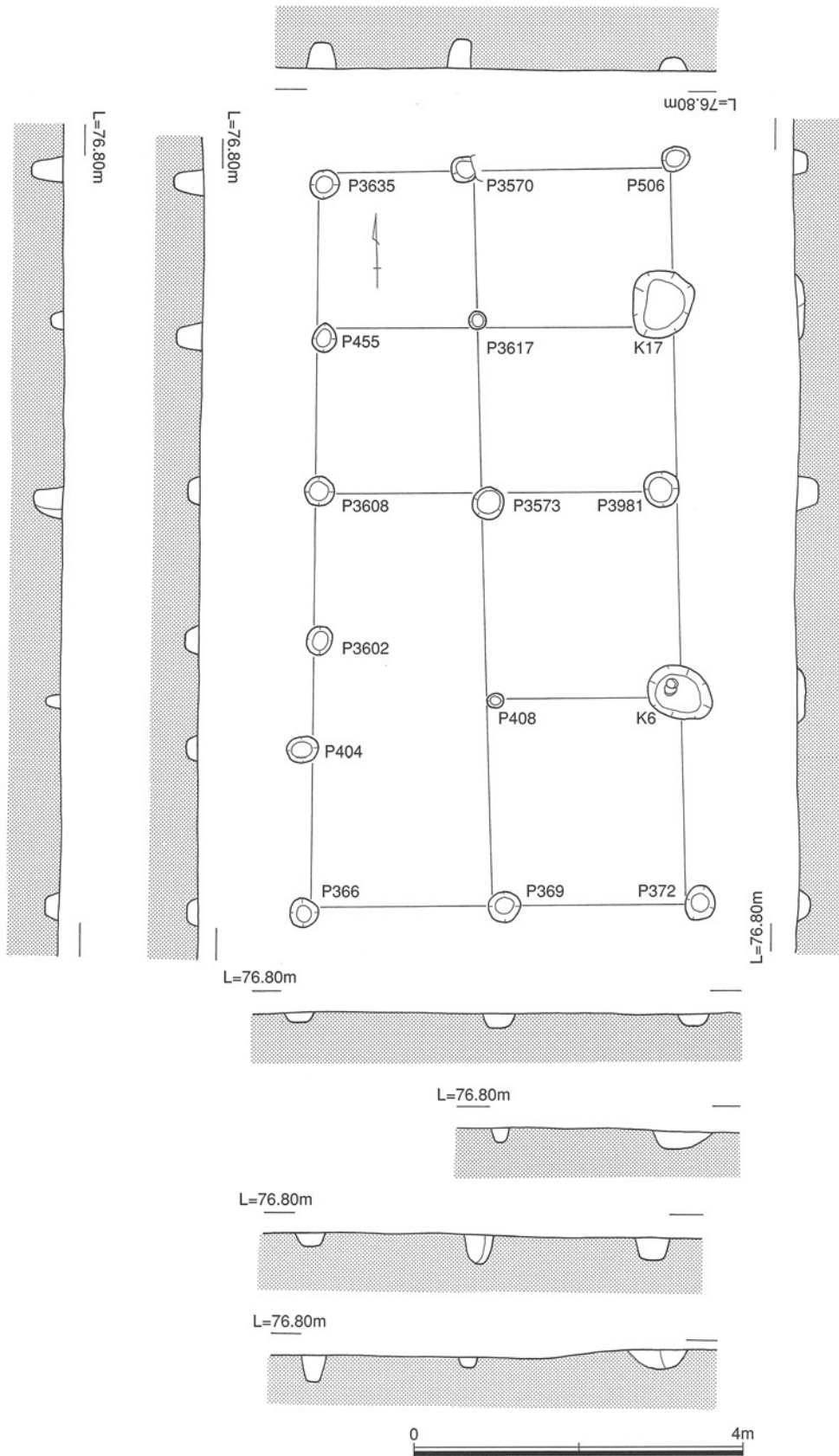
第86図 SA1040実測図



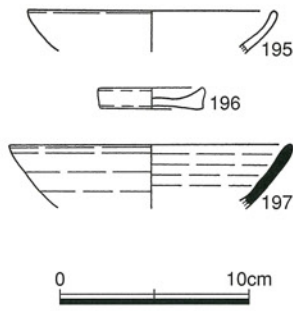
第87図 SA1040出土遺物実測図

41号掘立柱建物跡 (SA1041) (第88・89図)

B4 調査区 Q・R-16グリッドから検出された16基の柱穴を伴う総柱式の建物跡で西側に庇を備えている。建物の規模は梁間1間(2.24m)、桁行4間(8.8m)、床面積22.27㎡を測り底部分は梁間1間(1.72m)、桁行3間(8.6m)、床面積18.62㎡を測る建物跡である。平面プランは長形状を呈し、柱間寸法は梁間2~2.64m、桁行1.92~2.64mを測る。SP13570からは柱痕跡が確認されている。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片が出土している。195は土師質土器の杯である。196は土師質土器小皿である。197は陶器の口縁部片である。



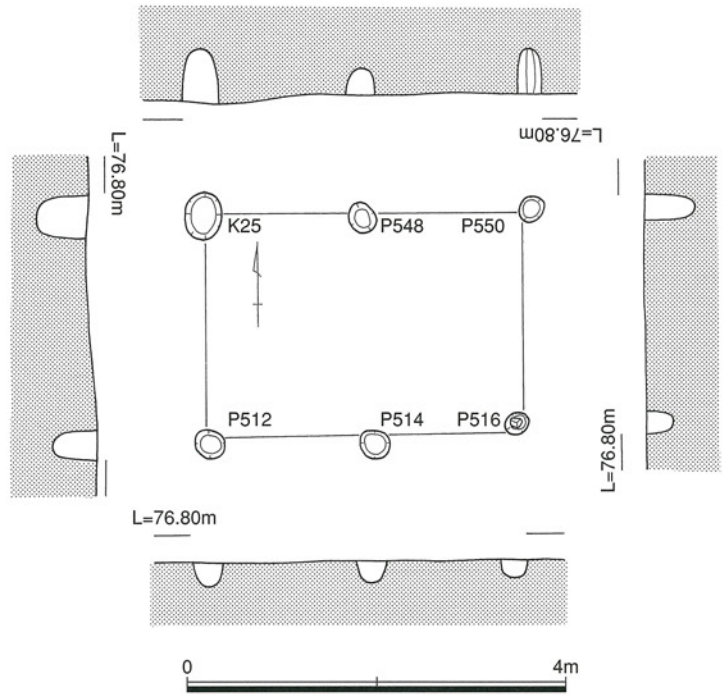
第88図 SA1041実測図



第89図 SA1041出土遺物実測図

42号掘立柱建物跡(SA1042)(第90図)

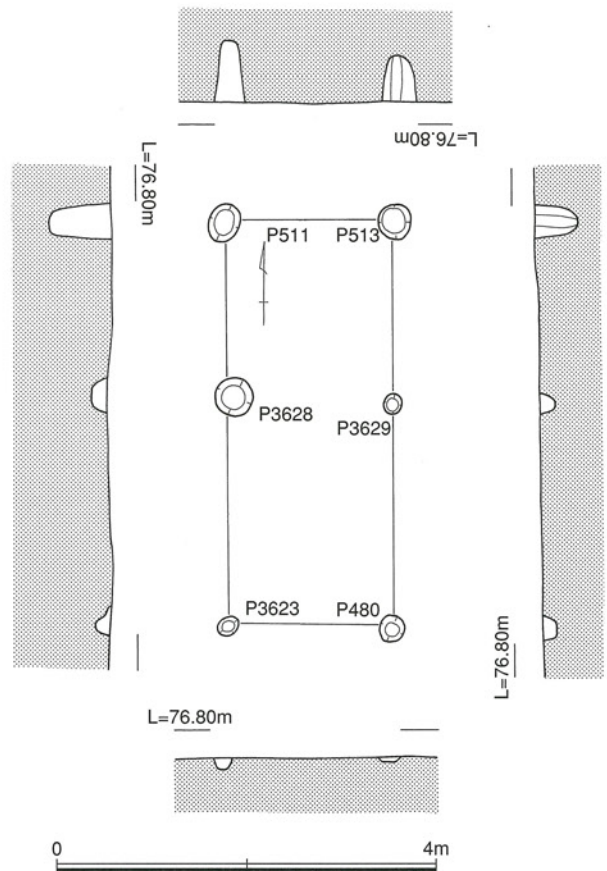
B4 調査区 S-17グリットから検出された6基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。建物の規模は梁間1間(2.04m)、桁行2間(3.04m)、床面積8.67㎡を測る。平面プランは長方形を呈し柱間寸法は梁間2.32~2.48m、桁行1.6~1.76mを測る。主軸方位はN-88°-Eを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯片・小片が出土している。出土遺物の中に実測可能遺物は確認できなかった。



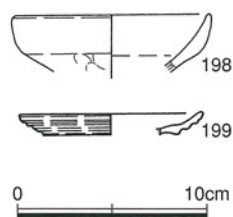
第90図 SA1042実測図

43号掘立柱建物跡(SA1043)(第91・92図)

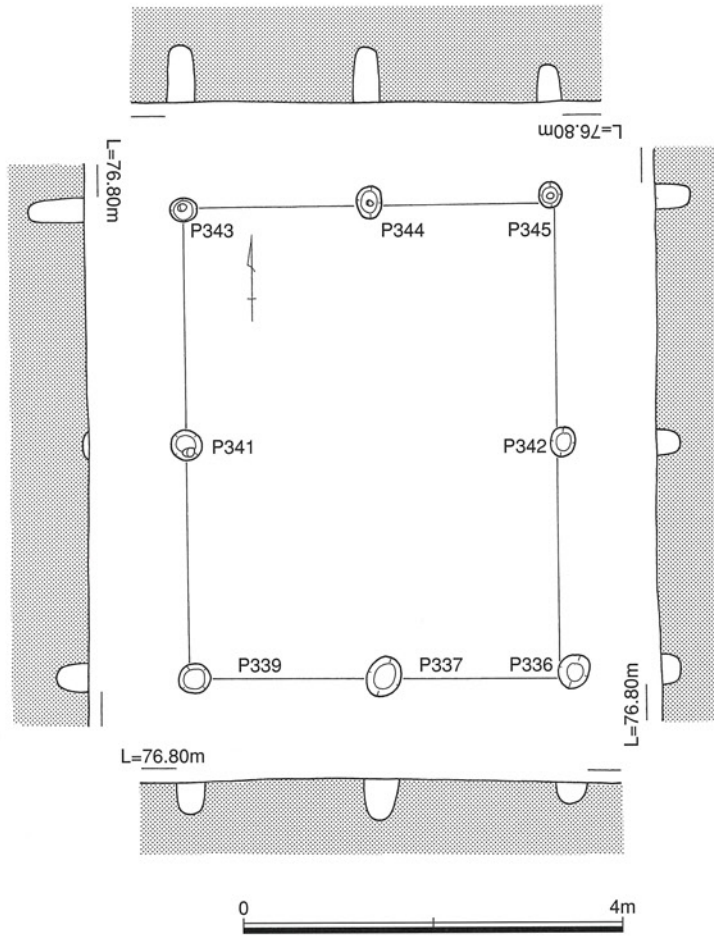
B4 調査区 R-17グリットから検出された6基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。建物の規模は梁間1間(1.44m)、桁行2間(3.92m)、床面積7.48㎡を測る。主軸方位は真北に向かって垂直である。平面プランは長方形を呈し柱間寸法は梁間1.68~1.84m、桁行1.8~2.4mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯・小皿片・小片が出土している。



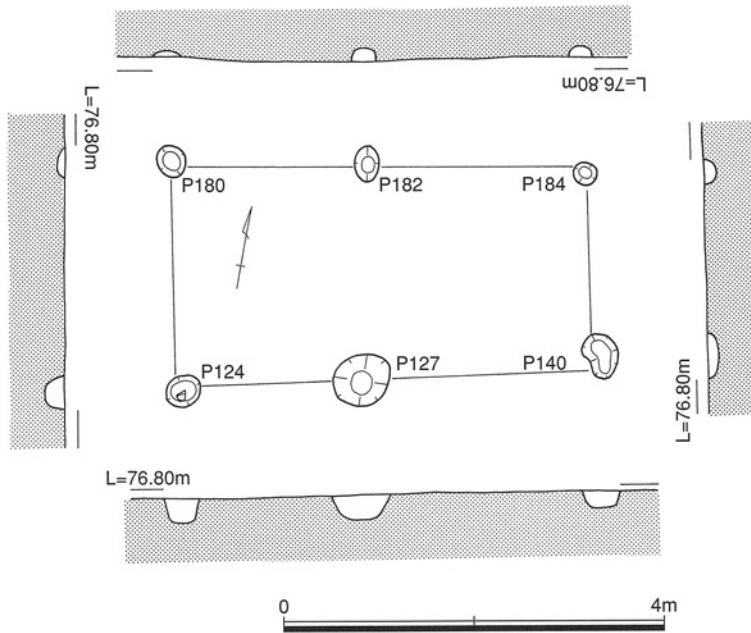
第91図 SA1043実測図



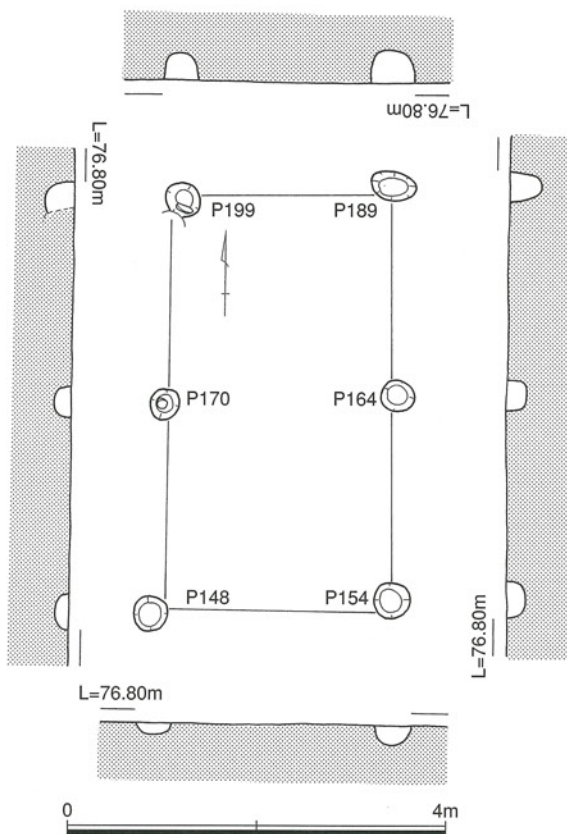
第92図 SA1043出土遺物実測図



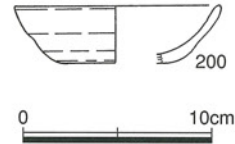
第93図 SA1044実測図



第94図 SA1045実測図



第95図 SA1046実測図

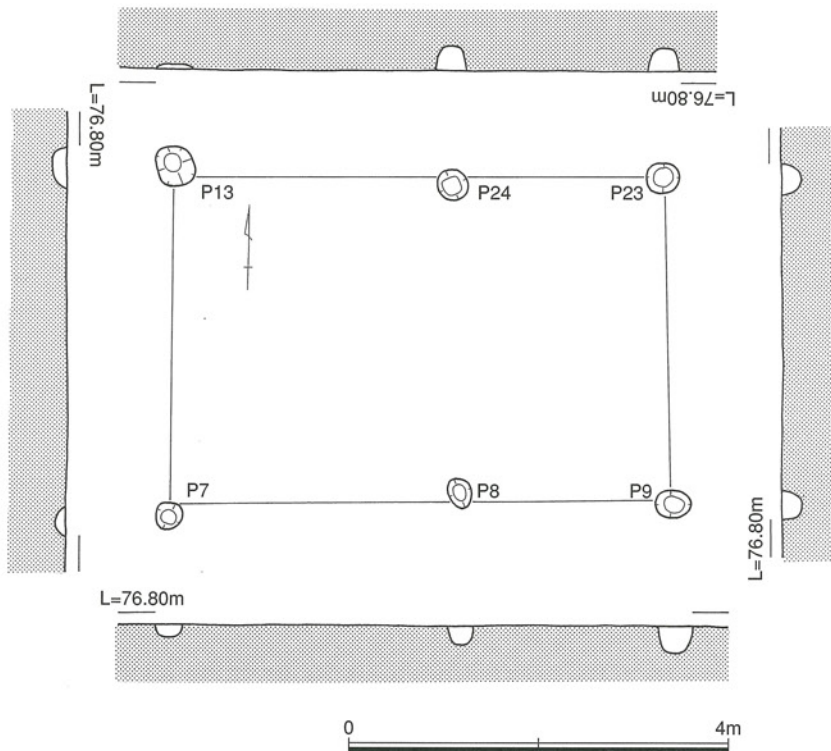


第96図 SA1046出土遺物実測図

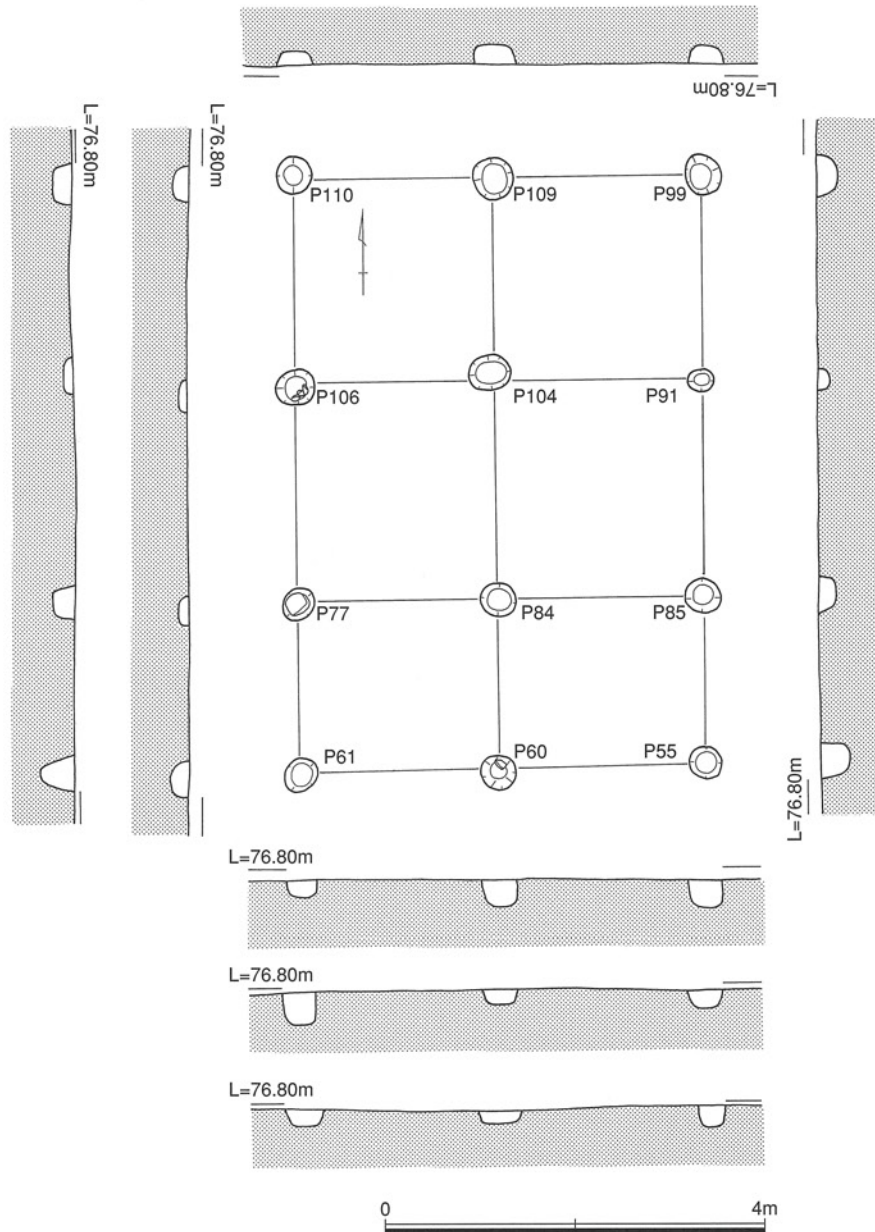
198は土師質土器の手づくねの杯である。199は土師質土器小皿である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

44号掘立柱建物跡 (SA1044) (第93図)

B5調査区N-12グリットから検出された8基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.6m)、桁行2間(4.72m)、床面積19.77m²を測る。主軸方位はN-2°-Wを示し、ほぼ南北に向いている。平面プランは長方形を呈し柱間寸法は梁間1.92~2m、桁行2.48~2.72mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈し北側の柱穴SP10343・SP10344・SP10345からは柱痕跡が確認されている。出土遺物は土師質土器杯片・小片が出土している。出土遺物中に実測可能遺物は確認できなかった。



第99図 SA1048実測図



第97図 SA1047実測図



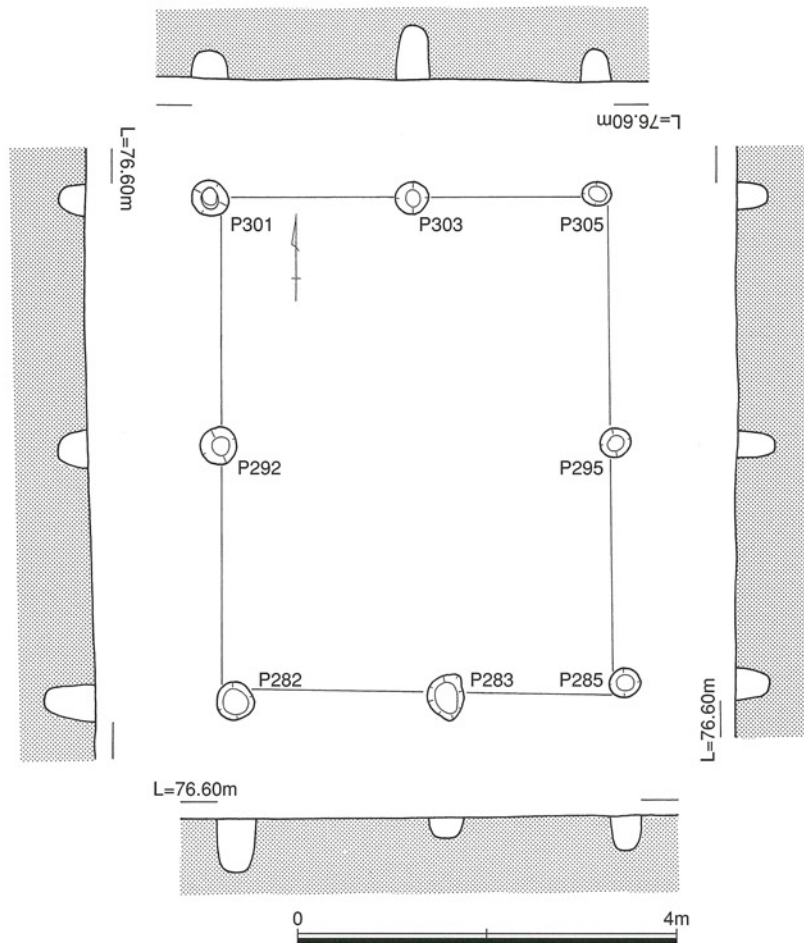
第98図 SA1047出土
遺物実測図

45号掘立柱建物跡 (SA1045) (第94図)

B5調査区L-12グリットから検出された6基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。建物の規模は梁間1間(1.8m)、桁行2間(4m)、床面積9.18m²を測る。主軸方位はN-78°-Eを示す。平面プランは長方形を呈し柱間寸法は梁間1.92~2.4m、桁行1.92~2.56mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は確認できておらず図化可能遺物は確認できなかった。

46号掘立柱建物跡 (SA1046) (第95・96図)

B5調査区L-13グリットから検出された6基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。建物の規模は梁間1間(2m)、桁行2間(4m)、床面積10.55m²を測る。主軸方位はN-2°-Eを示す。平面プラン



第100図 SA1049実測図

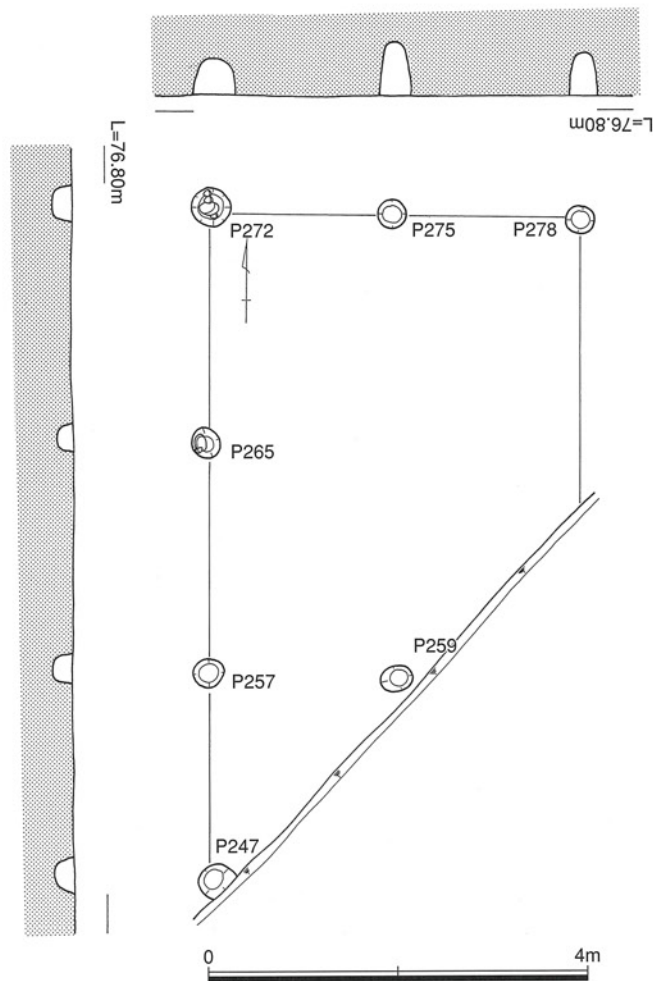
は長方形を呈し柱間寸法は梁間2.24～2.56m、桁行2.16～2.24mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯片・小片が出土している。200は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデである。

47号掘立柱建物跡 (SA1047) (第97・98図)

B5調査区J・K-13グリットから検出された12基の柱穴を伴う総柱式の建物跡である。建物の規模は梁間2間(3.92m)、桁行3間(5.84m)、床面積27.14m²を測る。主軸方位はほぼ真北の方向に位置している。平面プランは長方形を呈し柱間寸法は梁間2.08～2.16m、桁行1.76～2.32mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯・皿片・小片が出土している。201は土師質土器である。口縁端部を尖り気味におさめ体部外面に指頭圧痕を留める手づくねの杯である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

48号掘立柱建物跡 (SA1048) (第99図)

B5調査区H-12・13グリットから検出された6基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。建物の規模は梁間1間(3.2m)、桁行2間(4.84m)、床面積19.72m²を測る。主軸方位はN-88°-Eを示す。平面プランは長方形を呈し柱間寸法は梁間3.44～3.68m、桁行2.24～3.12mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯片・小片が出土している。



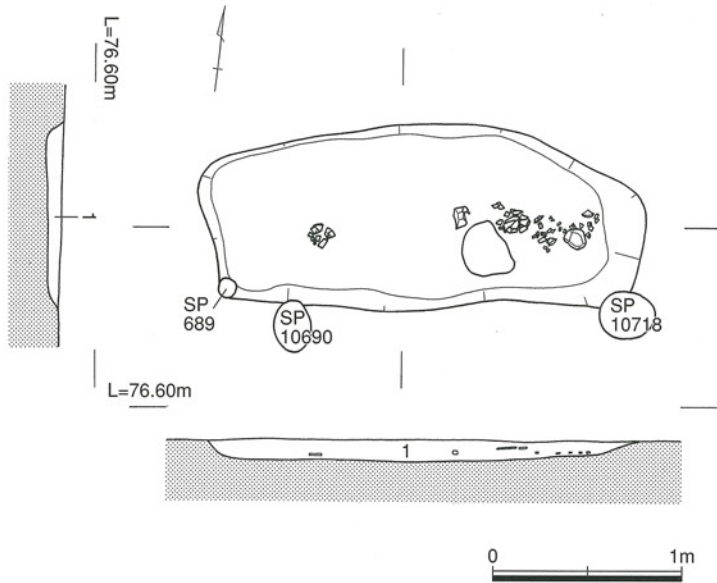
第101図 SA1050実測図

49号掘立柱建物跡 (SA1049) (第100図)

B5 調査区 L・M-16・17グリットから検出された8基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。建物の規模は梁間2間 (3.76m)、桁行2間 (4.92m)、床面積21.68m²を測る。主軸方位はN-2°-Wを示す。平面プランは長方形を呈し柱間寸法は梁間1.92~2.24m、桁行2.56~2.72mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈している。出土遺物は土師質土器杯片で底部静止糸切りを施している。土師質土器煮沸具片・小片が出土している。出土遺物は小片のため実測可能遺物を確認することは出来なかった。時期は中世後半に位置づけられる。

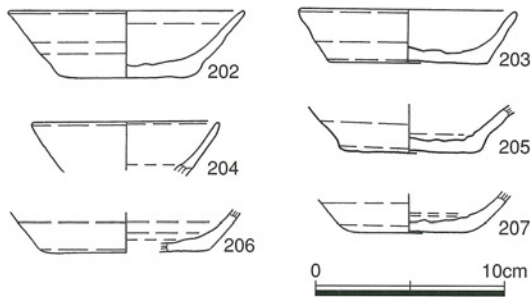
50号掘立柱建物跡 (SA1050) (第101図)

B5 調査区 F・G-12グリットから検出された7基の柱穴を伴う側柱式の建物跡である。南側は調査区外に当たり検出できておらず全容は不明である。北東部分の柱穴が確認出来ていないが現状で建物の規模は梁間2間 (3.64m)、桁行3間以上 (6.8m)、床面積20.22m²を測る。主軸方位はほぼ真北に向かっている。平面プランは長方形を呈し柱間寸法は梁間1.92~2m、桁行2.16~2.48mを測る。柱穴の平面プランは円形状を呈し SP10265、SP10275からは柱痕跡が確認されている。出土遺物は土師質土器杯片・小片が出土している。出土遺物は細片が多く遺物中に実測可能遺物を確認できなかった。



1. 黒褐色 25Y 3/1 砂質土 (土器片、炭化物を含む)

第102図 SK1010実測図



第103図 SK1010出土遺物実測図

土坑

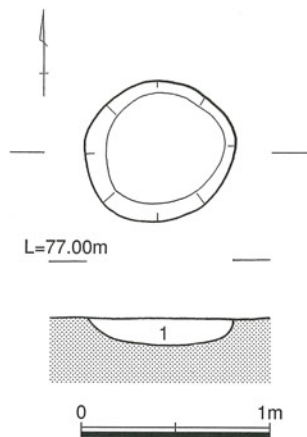
10号土坑 (SK1010) (第102・103図)

A2調査区Q-20グリットから検出された土坑である。規模は長軸2.32m、短軸1m、深さ0.12mを測る。平面形状は隅丸長方形を呈する。断面形状は浅くなだらかに下がり遺構内は水平な状況である。遺構内東側からは土師質土器杯が集中して出土しており祭祀に伴う可能性もある。土坑自体は浅いが形状から墓の可能性も考えられる。遺構内埋土は黒褐色砂質土で炭化物を混入している。出土遺物は土師質土器杯・皿・小片が出土している。202~207

は土師質土器杯である。202・203・205・207は回転ヘラ切りを底部に施している。

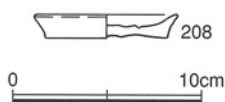
16号土坑 (SK1016) (第104・105図)

B4調査区R-16グリットから検出された土坑である。規模は長軸0.8m、短軸0.76m、深さ0.32mを測る。平面形状は円形状を呈している。断面形状は浅くなだらかな船底状を呈し埋土は褐灰粘質土である。出土遺物は土師質土器杯・皿・小片が出土している。208は底部に回転ヘラ切りを施した土師質土器小皿である。

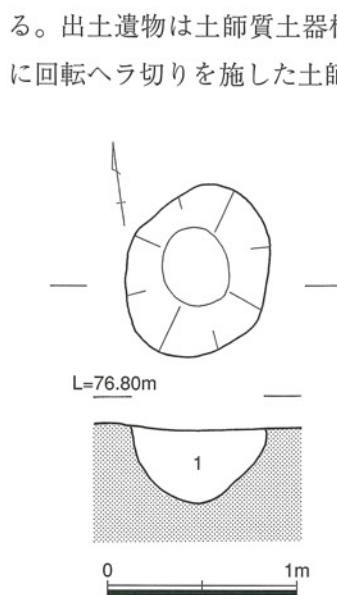


1. 褐灰色 10YR 5/1 粘質土 (土器片を含む)

第104図 SK1016実測図



第105図 SK1016出土遺物実測図

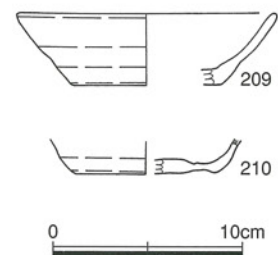


1. 褐灰 10YR 5/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)

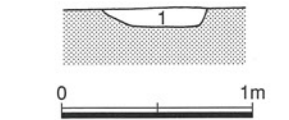
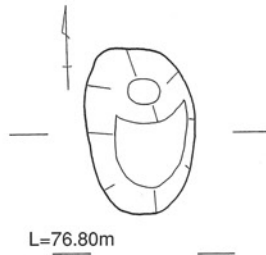
第106図 SK1019実測図

19号土坑 (SK1019) (第106・107図)

B4調査区S-14グリットから検出された土坑である。規模は長軸0.96m、短軸0.8m、深さ0.4mを測る。



第107図 SK1019出土遺物実測図

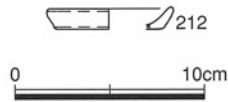


1. 褐灰色 10YR 5/1 粘質土
(土器片を含む)

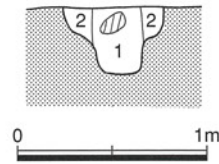
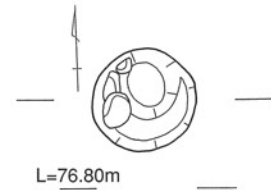
第108図 SK1020実測図



第109図 SK1020出土遺物実測図



第111図 SK1043出土遺物実測図



1. 褐灰色 10YR 5/1 粘質土
(土器片を含む)
2. 褐色 10YR 4/1 粘質土

第110図 SK1043実測図

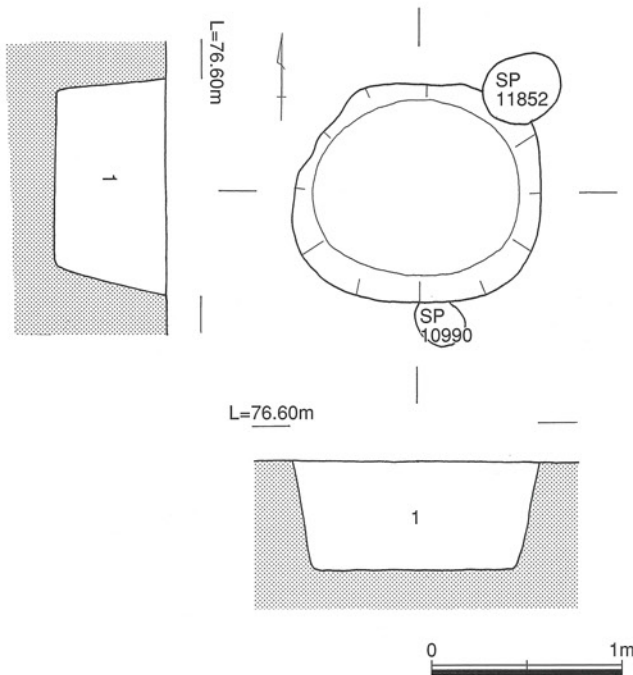
平面形状は円形状を呈している。断面形状はなだらかに傾斜しU字状を呈し埋土は褐灰粘質土である。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片が出土している。209・210は土師質土器の杯である。

20号土坑 (SK1020) (第108・109図)

B4 調査区 S-14グリットから検出された土坑である。規模は長軸0.88m、短軸0.56m、深さ0.12mを測る。平面形状は楕円形状を呈している。断面形状は浅くなだらかに傾斜し埋土は褐灰粘質土。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片が出土している。211は土師質土器小皿である。

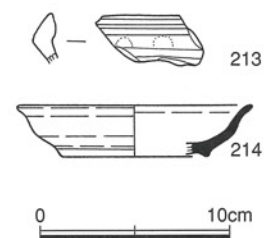
43号土坑 (SK1043) (第110・111図)

B4 調査区 T-15グリットから検出された土坑であるが断面形状等からは柱穴としてとらえられるものと思われる。規模は長軸0.56m、短軸0.56m、深さ0.36mを測る。平面形状は楕円形状を呈している。遺構内からは柱の根石と思われる礫が出土している。埋土は褐灰粘質土と褐粘質土である。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片が出土している。212は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施している。

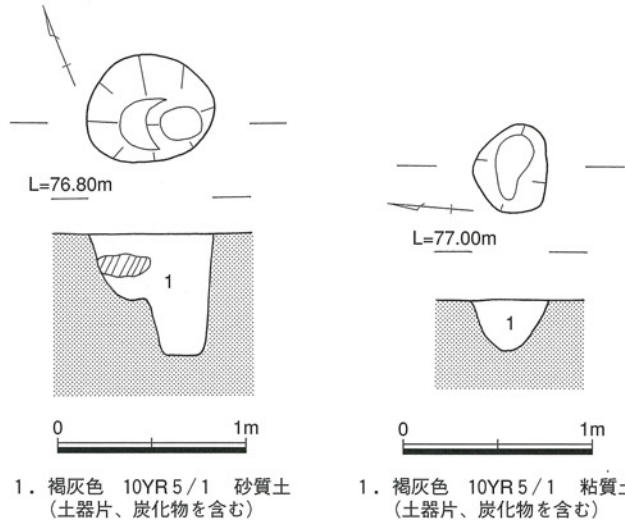


1. 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 (土器片、炭化物を含む)

第112図 SK1052実測図



第113図 SK1052出土遺物実測図

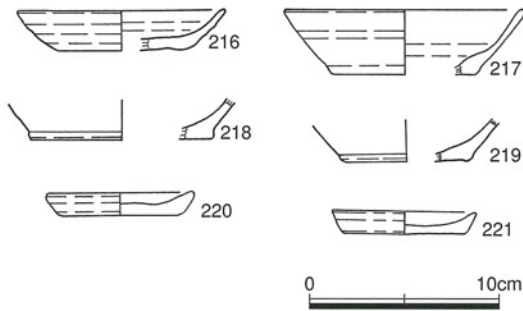


1. 褐灰色 10YR 5/1 砂質土
(土器片、炭化物を含む)

第114図 SK1065実測図

1. 褐灰色 10YR 5/1 粘質土
(土器片、炭化物を含む)

第116図 SK1067実測図

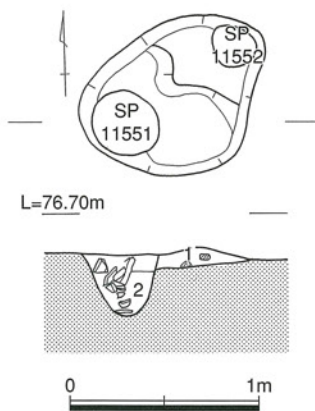


第117図 SK1067出土遺物実測図

65号土坑 (SK1065) (第114・115図)
B4 調査区 A-16グリットから検出された土坑である。規模は長軸0.68m、短軸0.56m、深さ0.64mを測る。平面形状は楕円形状を呈している。断面形状は緩やかに傾斜し、西壁は途中でテラス面を整形している。遺構内からは根石と思われる礫も出土しており柱穴の可能性はある。埋土は褐灰砂質土である。出土遺物は土師質土器杯片・小片、備前播鉢小片が出土している。215は土師質土器の小皿である。

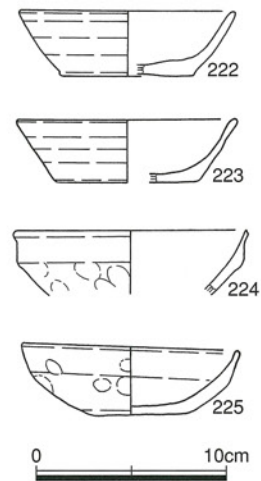
67号土坑 (SK1067) (第116・117図)

B4 調査区 V-17グリットから検出された土坑である。規模は長軸0.48m、短軸0.4m、深さ0.28m

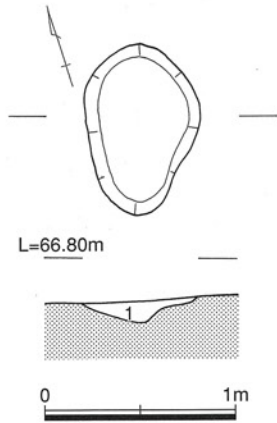


1. 褐灰色 10YR 5/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)
2. 褐灰色 10YR 4/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)

第118図 SK1077実測図

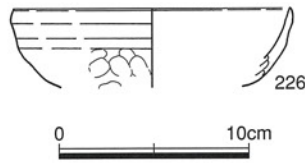


第119図 SK1077出土遺物実測図

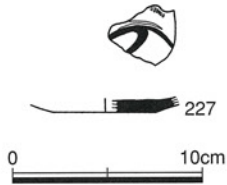


1. 褐灰色 10YR 4/1 粘質土
(土器片、炭化物を含む)

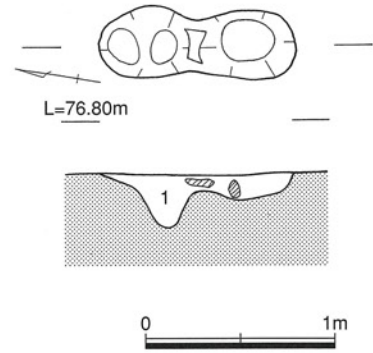
第120図 SK1089実測図



第121図 SK1089出土遺物実測図

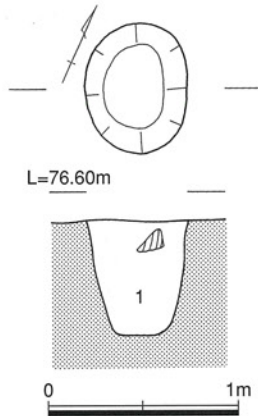


第123図 SK1090出土遺物実測図



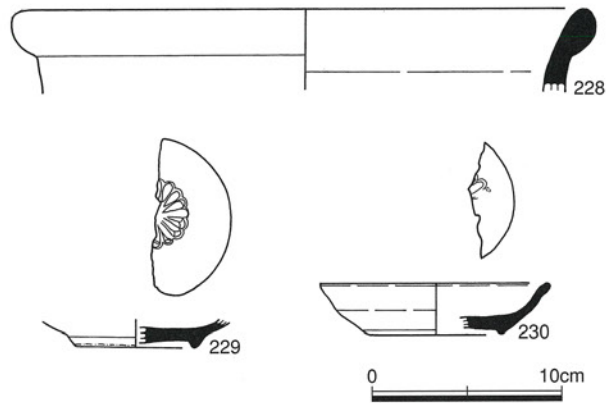
1. 褐灰色 10YR 4/1 粘質土
(土器片、炭化物を含む)

第122図 SK1090実測図



1. 褐灰色 10YR 4/1 粘質土
(土器片、炭化物を含む)

第124図 SK1093実測図



第125図 SK1093出土遺物実測図

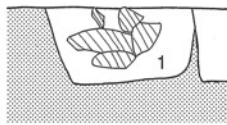
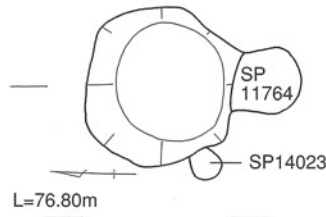
を測る。平面形状は楕円形状を呈している。断面形状は緩やかに傾斜し船底状を呈している。埋土は褐灰粘質土である。216～219は土師質土器杯である。216は底部回転ヘラ切り、219は回転ヘラ切り後ナデを施している。220・221は土師質土器小皿である。220は底部回転ヘラ切り、221は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。

77号土坑 (SK1077) (第118・119図)

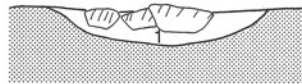
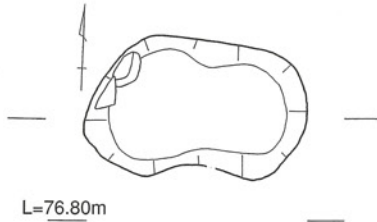
B4 調査区 C-17グリットから検出された土坑で南北を柱穴に切られている。規模は長軸1.04m、短軸0.8m、深さ0.12mを測る。平面形状は楕円形状を呈している。断面形状は浅く埋土は褐灰粘質土である。出土遺物は土師質土器杯片・小片が出土している。222～225は土師質土器杯である。222は底部回転ヘラ切り、225は回転ヘラ切り後ナデを施す。224・225は口縁部を尖り気味におさめ、体部外面には指頭圧痕をとどめる手づくねの杯である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

89号土坑 (SK1089) (第120・121図)

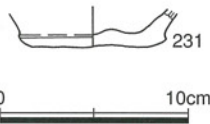
B4 調査区 D-17グリットから検出された土坑である。規模は長軸0.92m、短軸0.6m、深さ0.12mを測る。平面形状は楕円形状を呈している。断面形状は浅く埋土は褐灰粘質土である。出土遺物は土師



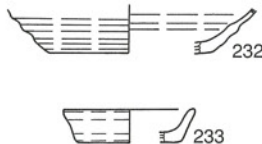
1. 褐灰色 10YR 4/1 粘質土
第126図 SK1094実測図



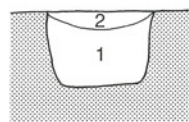
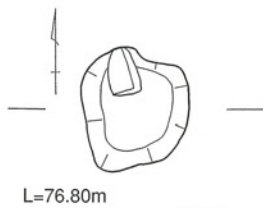
1. 褐灰色 10YR 4/1 粘質土
(土器片、炭化物を含む)
第128図 SK1095実測図



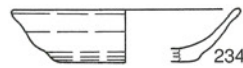
第127図 SK1094出土遺物実測図



第129図 SK1095出土遺物実測図



1. 褐灰色 10YR 5/1 粘質土
(土器片を含む)
2. 褐灰色 10YR 5/1 粘質土
第130図 SK1096実測図



第131図 SK1096出土遺物実測図

質土器杯片・皿片・小片が出土している。226は土師質土器手づくねの杯である。口縁端部は尖り気味におさめ体部外面には指頭圧痕をとどめる。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

90号土坑 (SK1090)

(第122・123図)

B4 調査区 D-17グリットから検出された土坑である。規模は長軸1.04m、短軸0.36m、深さ0.16mを測る。平面形状はひょうたん型を呈している。断面形状は北側が南側より深く南側はテラス状に浅く床面が広がっている。柱穴どうしの斬り合いとも考えられるが断面による落ち込みは確認出来ず単体遺構としてとらえる。埋土は褐灰粘質土1層である。出土遺物は土師質土器杯片・小片、磁器小片が出土している。227は龍泉窯系の青磁皿である。大宰府編年I-1類にあたるものと思われる。

93号土坑 (SK1093)

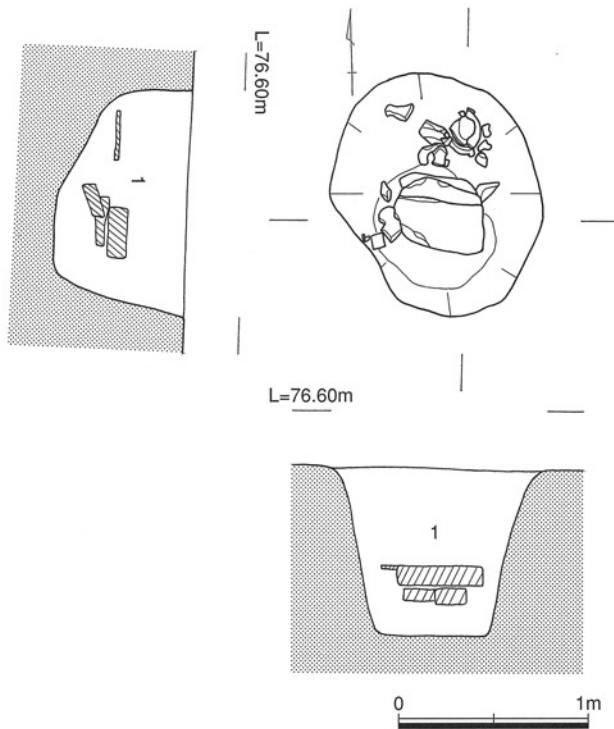
(第124・125図)

B4 調査区 D-18グリットから検出された土坑である。規模は長軸0.72m、短軸0.52m、深さ0.6

mを測る。平面形状は円形状を呈している。断面形状は緩やかに壁面は下がり床面は平平である。埋土は褐灰粘質土1層である。出土遺物は土師質土器杯片が出土している。228は備前焼甕である。間壁編年IV期に位置づけられる。229は陶器椀、230は陶器皿である。

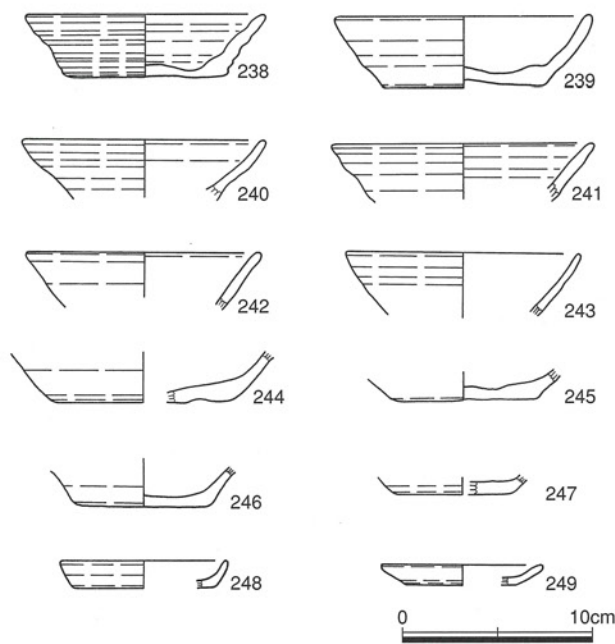
94号土坑 (SK1094) (第126・127図)

B4 調査区 D-17グリットから検出された土坑である。規模は長軸0.88m、短軸0.76m、深さ0.44mを測る。平面形状は円形状を呈している。断面形状は緩やかに壁面は下がり床面は平平である。埋土中央部には礫が多量に確認されている。埋土は褐灰粘質土1層である。出土遺物は土師質土器杯片(手づ



1. 黒褐色 2.5Y3/1 砂質土

第132図 SK1104実測図



第133図 SK1104出土遺物実測図

た土坑である。規模は長軸1.28m、短軸1.08m、深さ0.88mを測る。平面形状は楕円形状を測り。断面形状はやや垂直に壁面は下がり床面は水平である。埋土は黒褐色砂質土である。遺構内からは土師質土器杯の上に石を投げ入れた状態で検出された。出土遺物は土師質土器杯片・小皿片・小片が出土している。238～247は土師質土器杯である。238・244・245・247は底部回転ヘラ切りを施す。248・249は土師質土器小皿である。249は底部回転ヘラ切りを施す。

くね含む)・皿片が出土している。231は土師質土器の杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

95号土坑 (SK1095) (第128・129図)

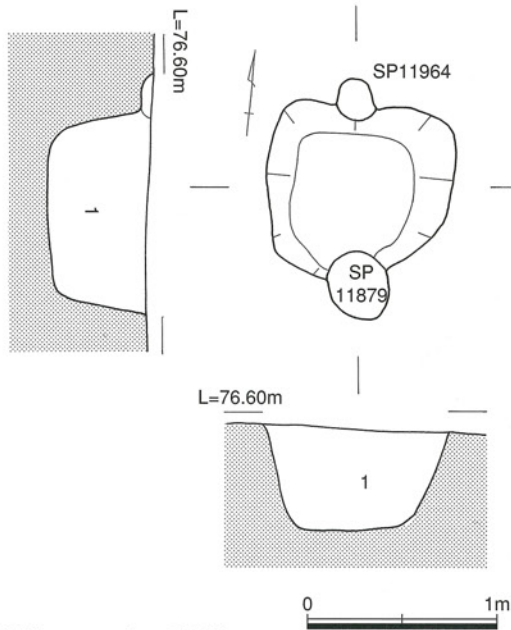
B4 調査区D-16グリットから検出された土坑である。規模は長軸1.2m、短軸0.68m、深さ0.4mを測る。平面形状は楕円形状を呈している。断面形状は緩やかに下がり床面は円形状に掘り込まれている。埋土は褐灰粘質土である。遺構内中央部付近には礫が多量に確認されている。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片、磁器・陶器小片が出土している。232は土師質土器杯底部片である。底部は回転ヘラ切りが施されている。233は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。

96号土坑 (SK1096) (第130・131図)

B4 調査区D-16グリットから検出された土坑である。規模は長軸0.64m、短軸0.6m、深さ0.4mを測る。平面形状は楕円形状を測る。断面形状はやや垂直に壁面は下がり床面は水平である。埋土は褐灰粘質土1層である。出土遺物は土師質土器杯片・小片が出土している。234は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。235～237は土師質土器小皿である。237は回転ヘラ切りを施す。

104号土坑 (SK1104) (第132・133図)

A2 調査区A-20グリットから検出され

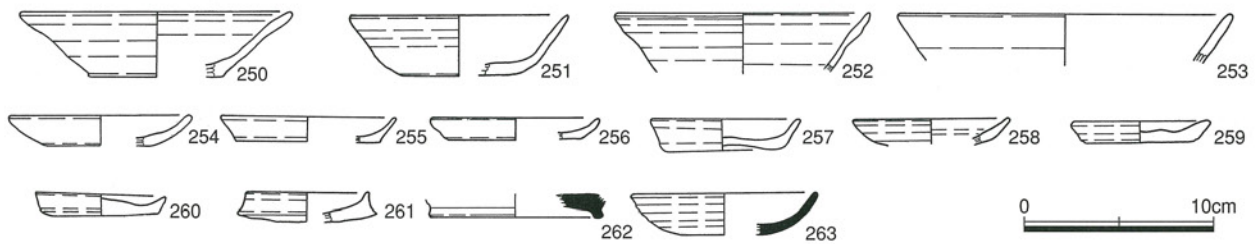


1. 黒褐色 2.5Y3/1 砂質土

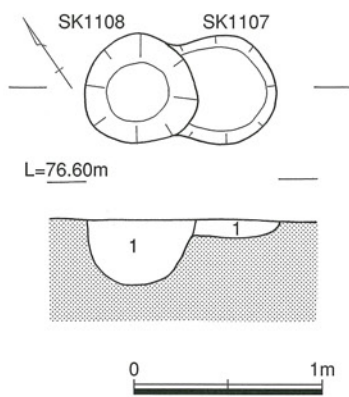
第134図 SK1106実測図

106号土坑 (SK1106) (第134・135図)

A2調査区B-20グリットから検出された土坑である。規模は長軸1.28m、短軸0.96m、深さ0.56mを測る。平面形状は方形状を呈し南北両端に柱穴の切り合いにより半円状に削られている。断面形状は緩やかに壁面は下がり床面は水平である。埋土は黒褐色砂質土1層である。出土遺物は土師器質土器片・皿片、壁土が出土している。250~253は土師質土器杯である。254~261は土師質土器小皿である。260は京都系の土師質土器小皿である。262は須恵器碗底部の破片である。263は瓦質土器小皿である。

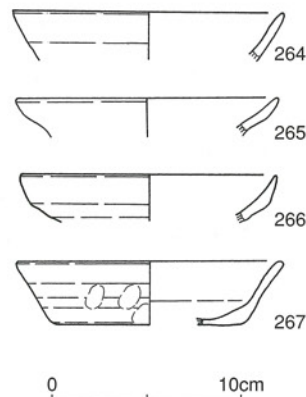


第135図 SK1106出土遺物実測図



1. 黒褐色 2.5Y3/1 砂質土

第136図 SK1107・1108実測図



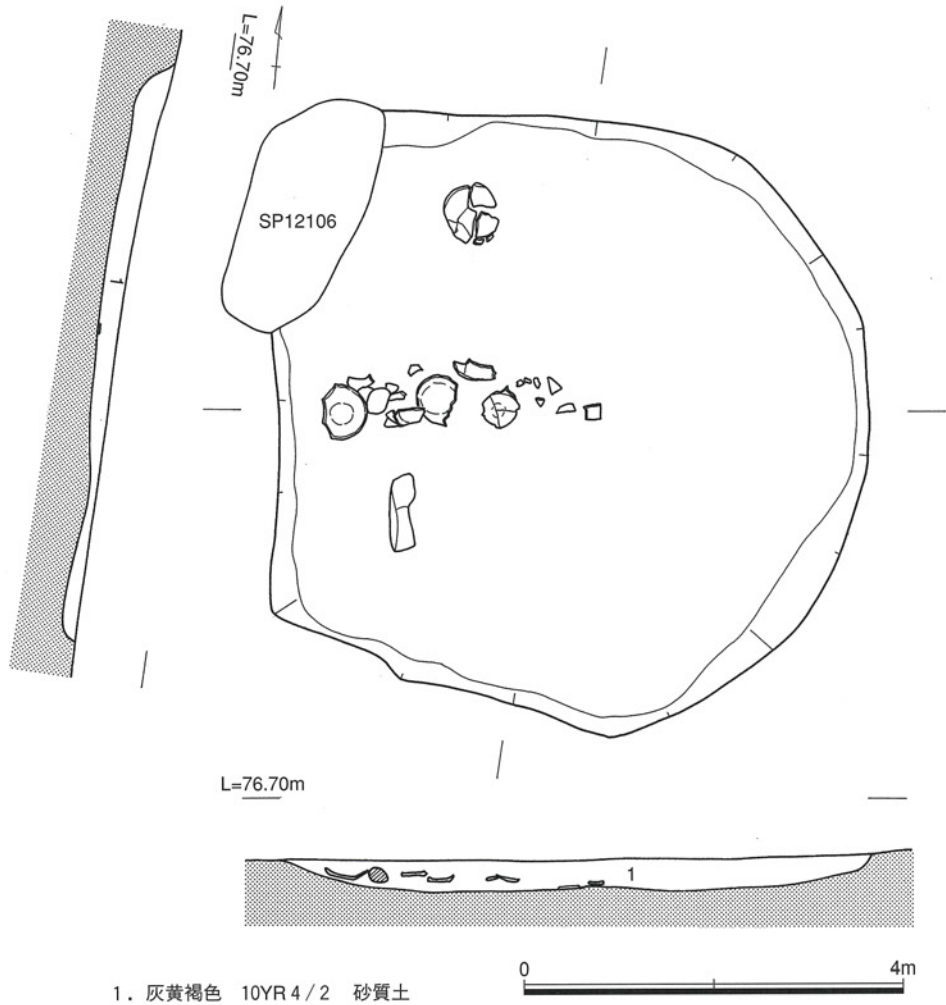
第137図 SK1107・1108
出土遺物実測図

107・108号土坑 (SK1107・1108)

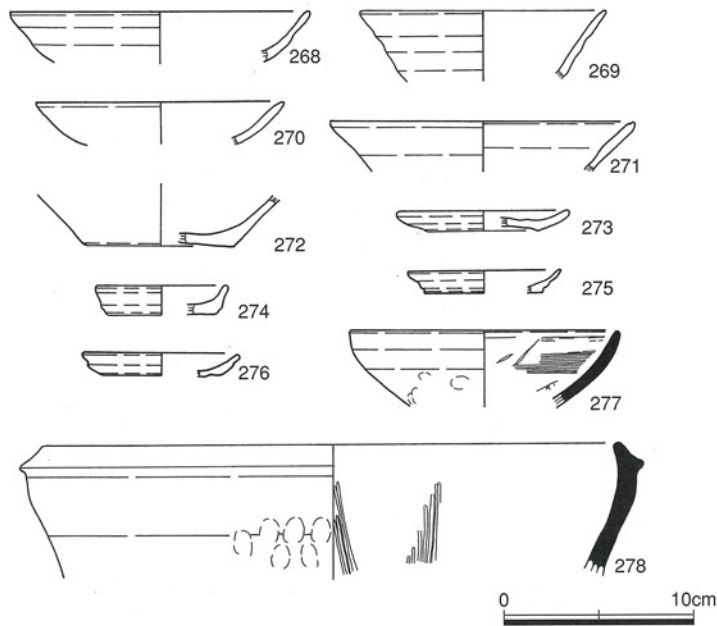
(第136・137図)

A2調査区B-20グリットから検出された土坑である。規模はSK1107が現状で長軸0.6m、短軸0.44m、深さ0.08mを測りSK1108が長軸0.6m、短軸0.6m、深さ0.36mを測る。平面形状は両遺構とも円形状を呈している。断面形状はSK1107が浅く壁面は緩やかに下がり床面を水平におさめている。SK1108は壁面が緩やかに下がり床面を丸く収めている。埋土はどちらも黒褐色砂質土である。出土遺物は土師質土器杯片・小片、壁土が出土している。264~266はSK1107から出土した土師質土器杯である。266は口縁部尖り外面に指押圧痕を残す手づくねの杯である。267はSK1108から出土し土師質土器杯で体部外面に指頭圧痕の後粗いナデを施している。底部は回転ヘラ切り後板ナデである。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

平におさめている。SK1108は壁面が緩やかに下がり床面を丸く収めている。埋土はどちらも黒褐色砂質土である。出土遺物は土師質土器杯片・小片、壁土が出土している。264~266はSK1107から出土した土師質土器杯である。266は口縁部尖り外面に指押圧痕を残す手づくねの杯である。267はSK1108から出土し土師質土器杯で体部外面に指頭圧痕の後粗いナデを施している。底部は回転ヘラ切り後板ナデである。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。



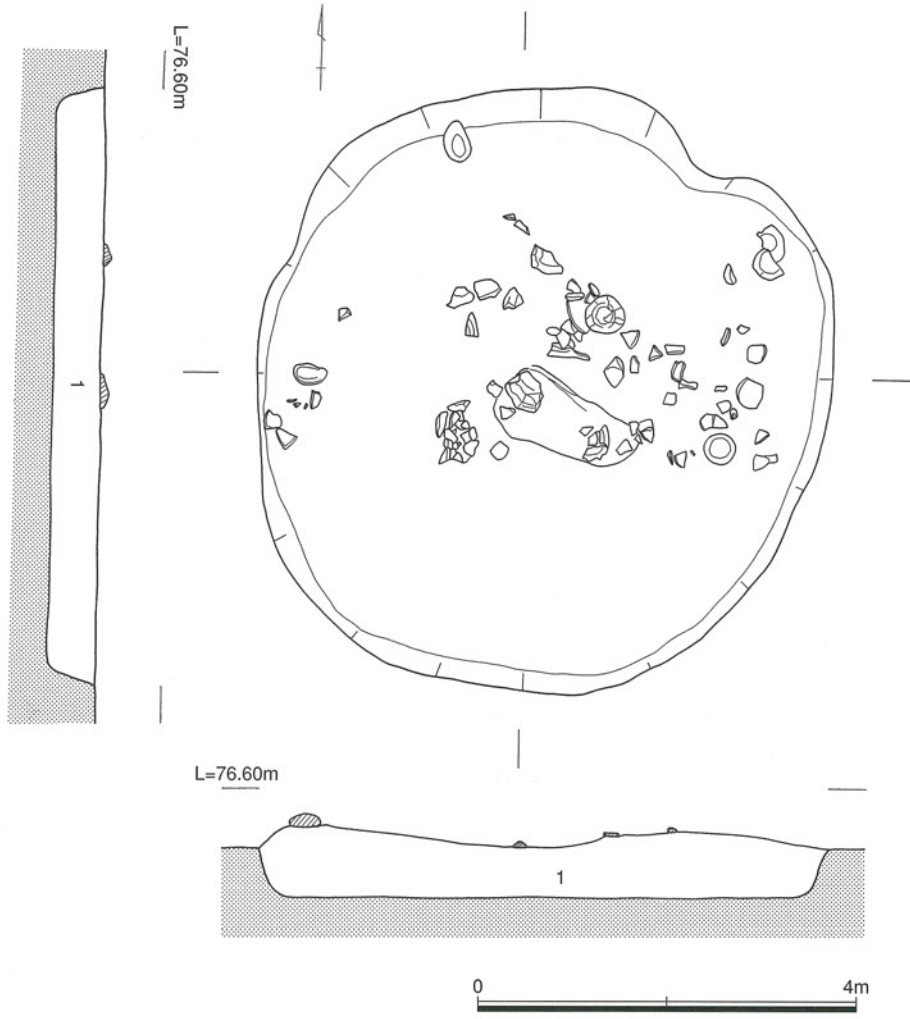
第138図 SK1110実測図



第139図 SK1110出土遺物実測図

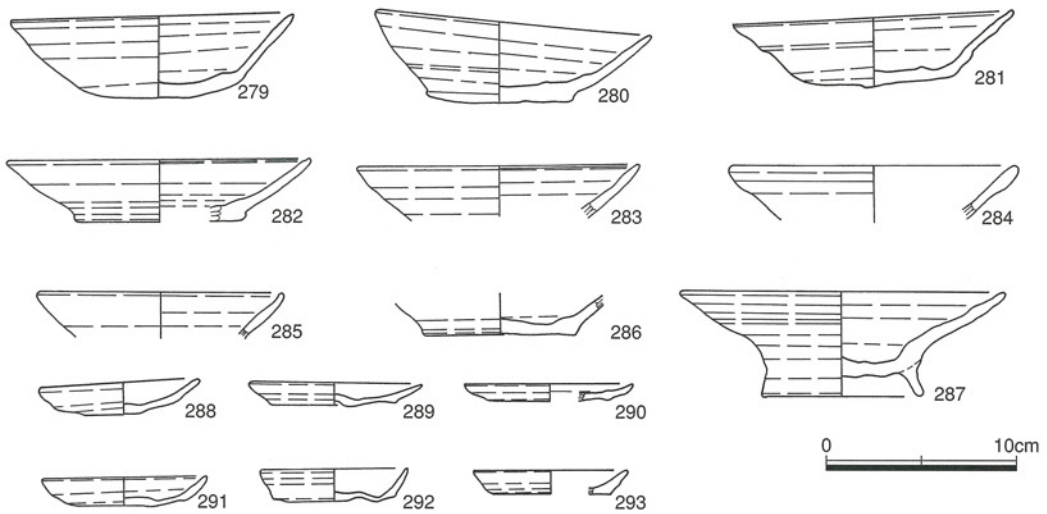
110号土坑 (SK1110) (第138・139図)

A2調査区C・D-18グリットから検出された土坑である。規模は長軸3.2m、短軸3.2m、深さ0.2mを測る。平面形状は楕円形状を呈している。断面形状は壁面が緩やかに下がり床面は水平である。埋土は灰黄褐色砂質土である。遺構内中央やや西よりからは土師質土器杯が3個体出土している。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・播鉢片・小片が出土している。268～272は土師質土器杯である。272は底部回転ヘラ切りを施す。273～276は土師質土器小皿である。273・274は底部回転ヘラ切りを施す。277は西村系の須恵器碗で口縁部は尖り気味におさめ体部外面

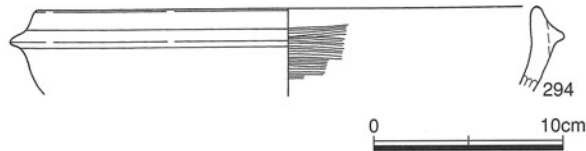
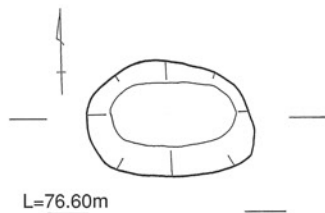


1. 黒褐色 10YR 3/1 砂質土

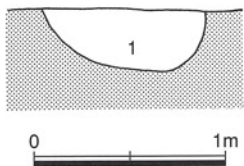
第140図 SK1111実測図



第141図 SK1111出土遺物実測図

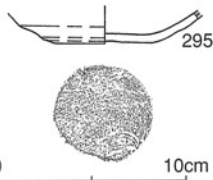


第143図 SK1145出土遺物実測図

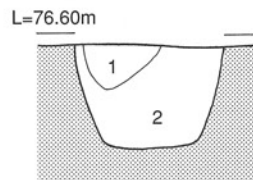
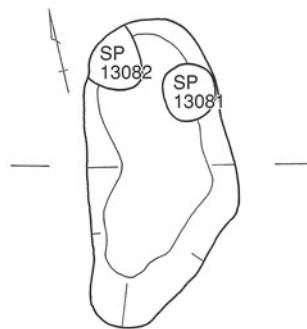


1. 暗褐色 砂質土

第142図 SK1145実測図



第145図 SK1147出土遺物実測図



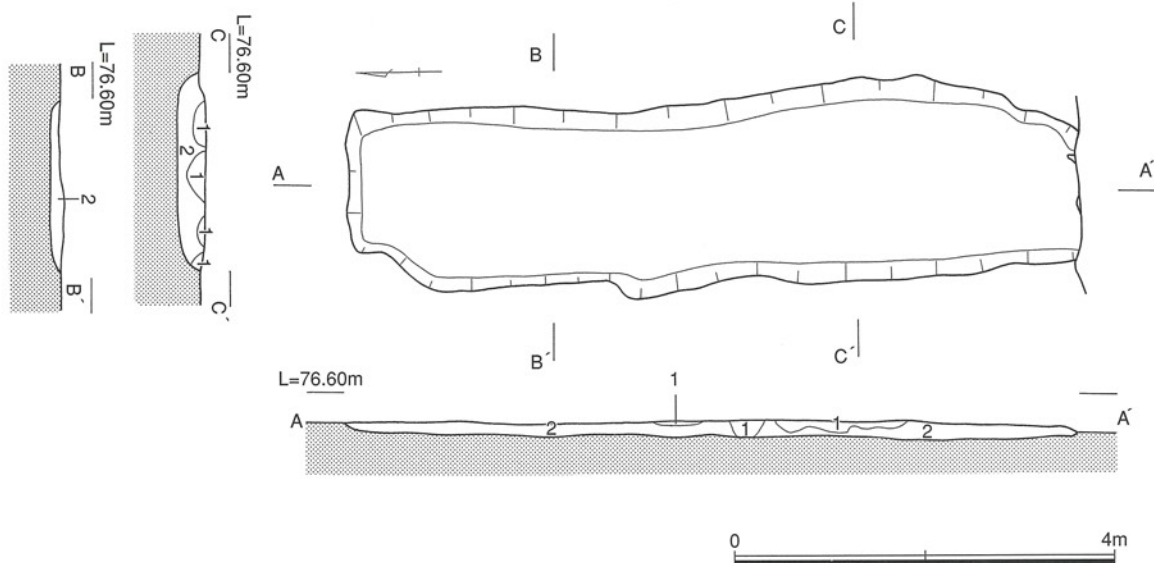
1. 暗褐色 10YR 3/3 砂質土 (砂、炭化物を含む)
2. 褐色 10YR 4/4 砂質土(砂を含む)

第144図 SK1147実測図

に指頭圧痕、内面には板ナデが施されている。278は備前挿鉢である。間壁編年Ⅳ期にあたるものと思われ、15世紀代に位置づけられる。

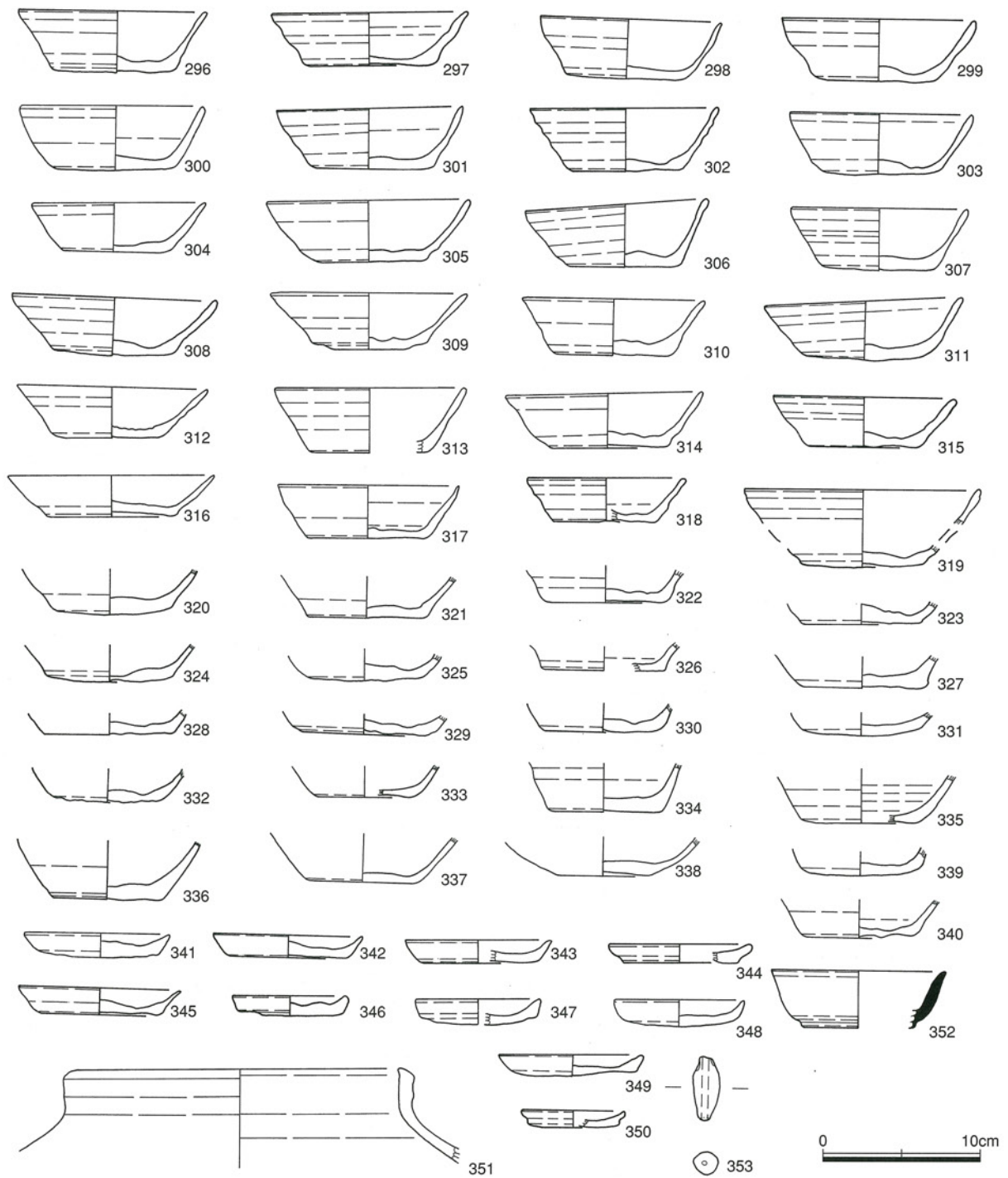
111号土坑 (SK1111) (第140・141図)

A2 調査区D-19グリットから検出された土坑である。規模は長軸3.2m、短軸3m、深さ0.28mを測る。平面形状は楕円形状を呈している。断面形状は壁面が緩やかに下がり床面は水平である。埋土は黒褐色砂質土である。遺構内中央付近からは土師質土器の杯、皿の破片と炭化物が集中して出土している。遺物は土師質土器杯片・皿片・椀片・小片が出土している。279~286は土師質土器杯である。279・281・282・286は底部回転ヘラ切りを施す。287は土師質土器台付杯である。288~293は土師質土器小皿である。289~293は底部回転ヘラ切りを施す。



1. 黄褐色 10YR 5/6 砂質土
2. 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土

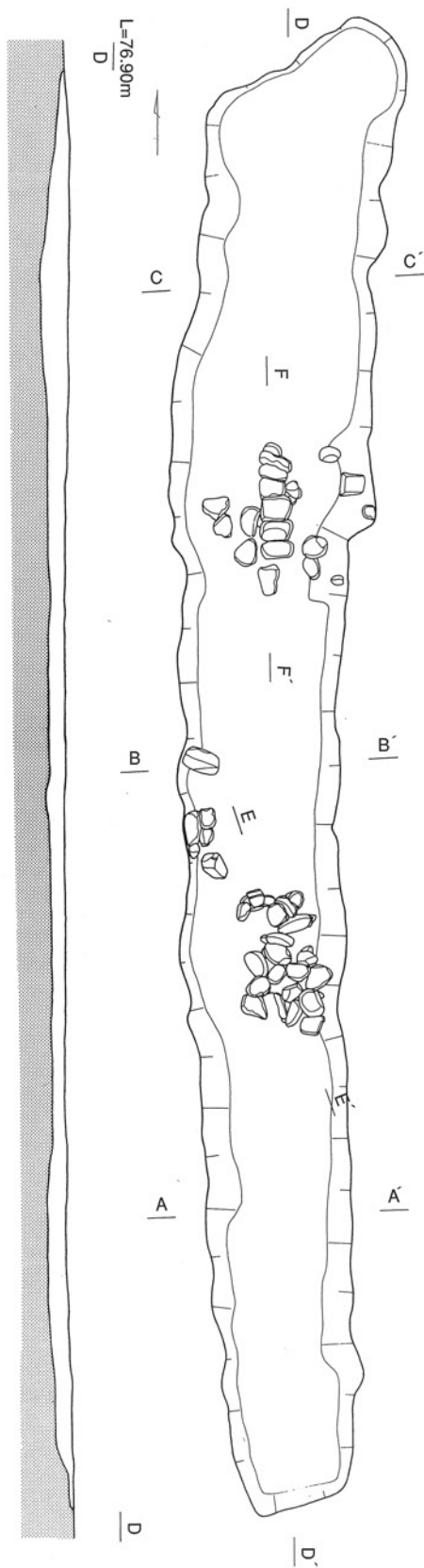
第146図 SD1001実測図



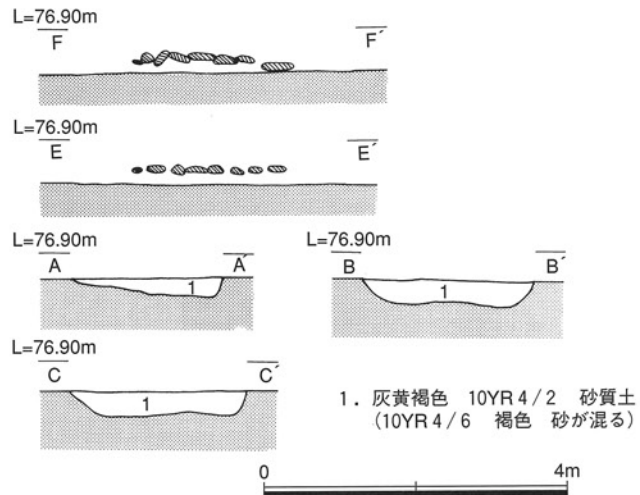
第147図 SD1001出土遺物実測図

145号土坑 (SK1145) (第142・143図)

A1調査区I-13グリットから検出された土坑である。規模は長軸0.88m、短軸0.64m、深さ0.32mを測る。平面形状は楕円形状を呈している。断面形状は壁面は緩やかに下がり床面は円形状に掘りこまれている。出土遺物は土師質土器杯片・煮沸具片、備前小片が出土している。294は土師質土器羽釜である。口縁端部とやや退化した鋳端部は丸く収め口縁部は垂直に立ち上がる。



第148図 SD1002実測図(1)



第149図 SD1002実測図(2)

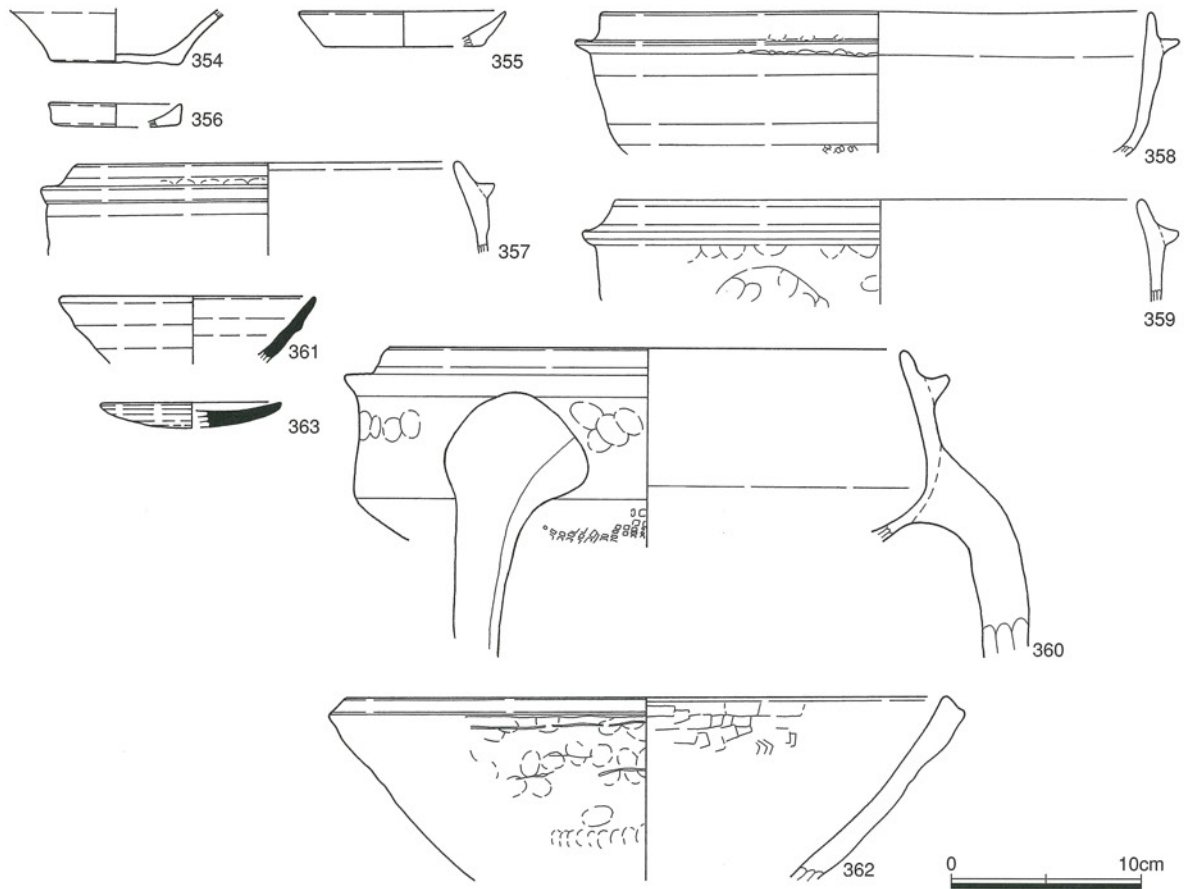
147号土坑 (SK1147) (第144・145図)

A 1 調査区 I-14グリットから検出された土坑である。規模は長軸1.64m、短軸0.8m、深さ1.7mを測る。平面形状は隅丸長方形形状を呈している。断面形状は壁面が緩やかに傾斜し床面は水平である。埋土は褐砂質土である。遺物は土師質土器杯片・播鉢片・小片が出土している。295は土師質土器杯である。底部は静止糸切りを施している。本遺構の時期は中世後半に位置づけられる。

溝

1号溝 (SD1001) (第146・147図)

B 4 調査区 P・Q-11・12グリットから検出された溝である。規模は現状で長軸7.84m、短軸2.08m、深さ0.16mを測る。断面形状は壁面が緩やかに下がり床面は水平である。埋土は灰黄褐色砂質土で粘性土とはほど遠く水の通っていた痕跡は確認出来なかった。7m北側にはSD1002が検出されておりSD1001と直線的につながり東側に展開する柱穴群を囲む溝になるものと思われる。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・煮沸具片、須恵器小片が出土している。296~340は土師質土器杯である。このうち296・297・300・305・307・308・311・318・322・325・328・330・332・335・338は回転ヘラ切りを施す。341~350は土師質土器小皿である。346は回転ヘラ切りを施し、347・350は底部にナデを施しそれ以外は回転ヘラ切り後ナデを施す。351は土師質土器茶釜である。352は須恵器碗である。353は土師質土器土錘である。



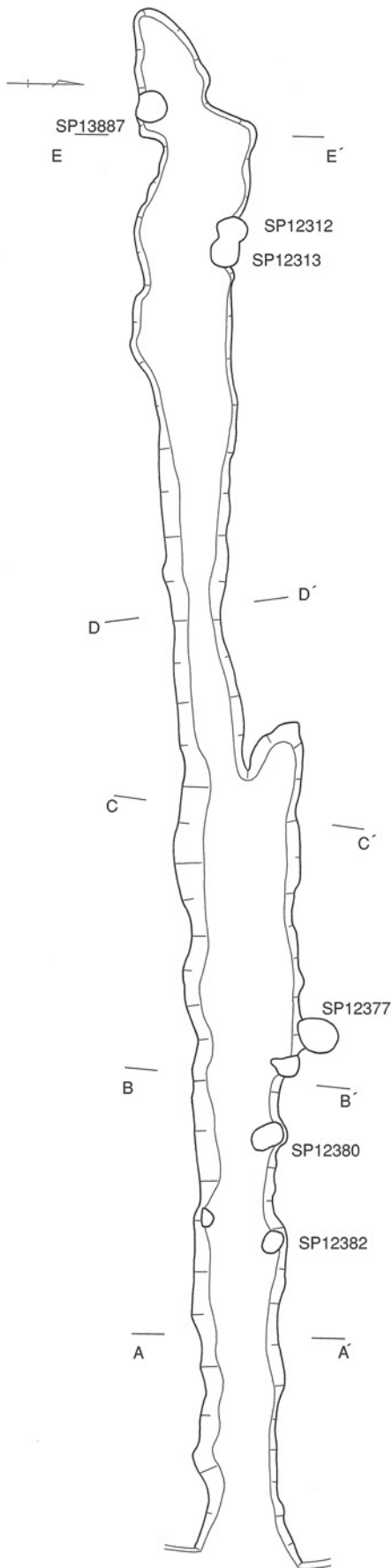
第150図 SD1002出土遺物実測図

2号溝 (SD1002) (第148・149・150図)

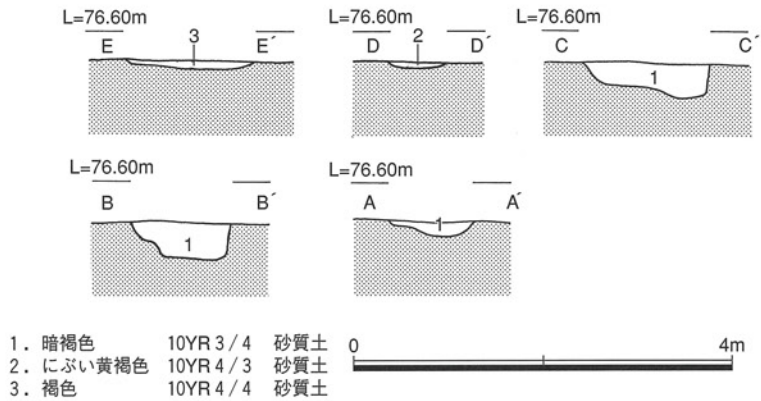
B4調査区S~V-11グリットから検出された溝である。規模は長軸21.2m、短軸2.3m、深さ0.3mを測る。断面形状は壁面が浅く緩やかに下がり床面は水平である。埋土は灰黄褐色砂質土である。埋土に粘性はなく水が通っていた痕跡は確認できなかった。南側にはSD1001が直線距離7mに位置しており、本遺構と共に東側に展開する柱穴群を囲んでいたものと思われる。遺構内からは人頭大の礫が南北2カ所から集中的に検出された。礫は投棄されたものと思われる。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・煮沸具片・こね鉢片、東播系こね鉢片、青磁片が出土している。354は土師質土器杯である。355・356は土師質土器小皿である。356は底部回転ヘラ切りを施す。357~360は土師質土器羽釜である。359・360は三足羽釜である。360は口縁端部と鋤端部を丸く仕上げ体部外面上半部には指頭圧痕をとどめ、体部外面過半にはタタキを施している。361は須恵器碗である。362は瓦質のこね鉢である。端部は方形に収め口縁部は外方に直線的に伸び、体部外面に指頭圧痕をとどめる。363は備前灯明皿である。

8号溝 (SD1008) (第151・152・153図)

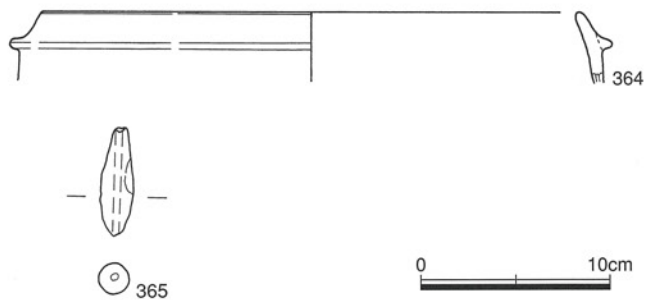
A1調査区S~U-3グリットから検出された溝である。規模は長軸18.56m、短軸0.96m、深さ0.32mを測る。断面形状は壁面は浅く緩やかに下がり床面は水平である。埋土は褐色、暗褐色、にぶい黄褐色で粘性はほとんどなく水の通っていた痕跡は確認できなかった。この溝を通して西側と東側での柱穴の検出状況が違う事から遺構の性格としては区画を意識して作られた可能性がある。出土遺物は土師質



第151図 SD1008実測図(1)



第152図 SD1008実測図(2)



第153図 SD1008出土遺物実測図

土器煮沸具片・小片が出土している。364は土師質土器羽釜である。365は土師質土器の紡錘車である。

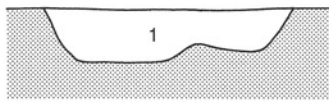
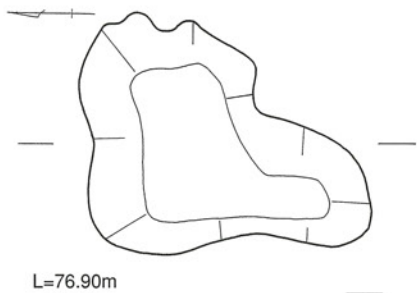
不明遺構

1号不明遺構 (SX1001) (第154・155図)

B4 調査区 Q-11グリットから検出された不明遺構である。規模は長軸1.52m、短軸1.2m、深さ0.28mを測る。平面形状はいびつな楕円形状を呈している。断面形状は壁面が緩やかに下がり床面は南側がテラス状を呈し北側に向かって一段下がっている。平面プランから見ると二つの遺構の切り合いとも考えられたが断面観察による落ちは確認できておらず、単一の遺構と思われる。埋土は灰褐色粘質土である。出土遺物は土師質土器小片が確認されている。366は土師質土器杯である。端部は丸く収め底部に回転ヘラ切り後ナデを施す。

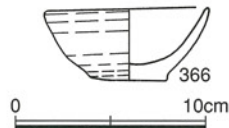
2号不明遺構 (SX1002) (第156・157図)

A2 調査区 Q-19グリットから検出された不明遺構である。規模は長軸3.28m、短軸1.32m、深さ0.08mを測る。平面形状は隅丸不整形形状を呈している。断面形状は浅く壁面は緩やかに下がり床面は水平である。遺構の2.2m東側にはSK1010、



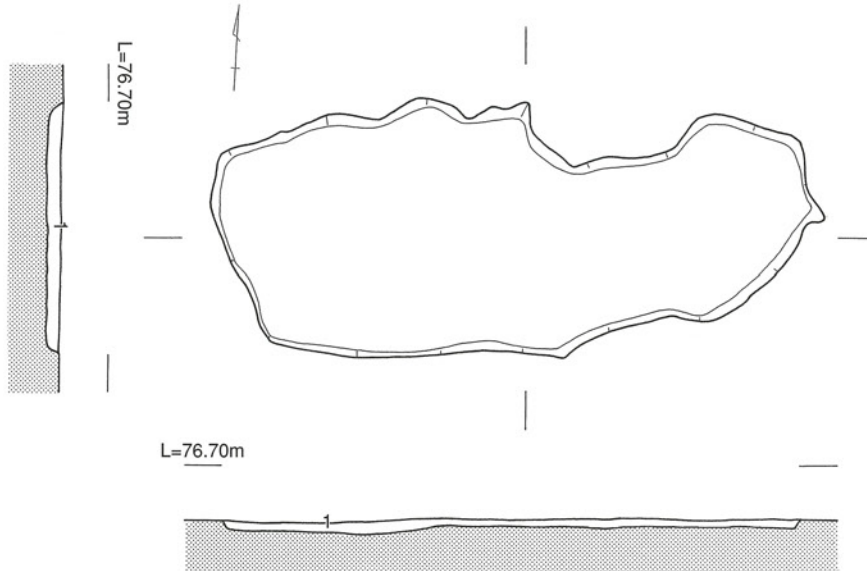
1. 灰褐色 10YR 5/1 粘質土
(土器片、炭化物を含む)

第154図 SX1001実測図



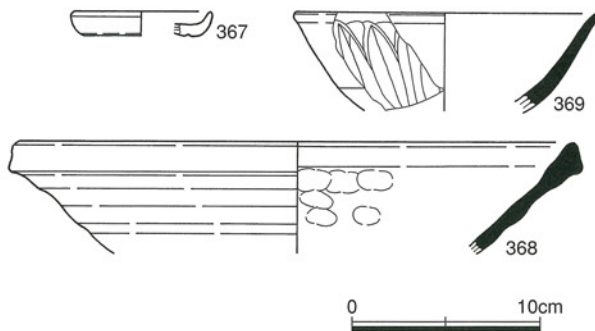
第155図 SX1001出土
遺物実測図

さらに東側3.8mにおいてSX1003が溝状に本遺構東側20m間に直線的に位置している事からSD1001、SD1002と同じように区画的な意味合いを持つ溝として捉える事も出来るものと思われる。埋土は黒褐色粘質土である。埋土は粘性を持っており耐水性を持っていた可能性がある。出土遺物は土師質土器杯片・小皿片・小片が出土している。367は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。368は東播系須恵器こね鉢である。森田編年のⅡ期第2段階に当たるものと思われる。369は青磁碗である。龍泉窯系で体部外面に蓮弁文が認められる。大宰府編年Ⅰ-5類にあたる。本遺構は13世紀代に位置づけられる。



1. 黒褐色 2.5Y 3/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)

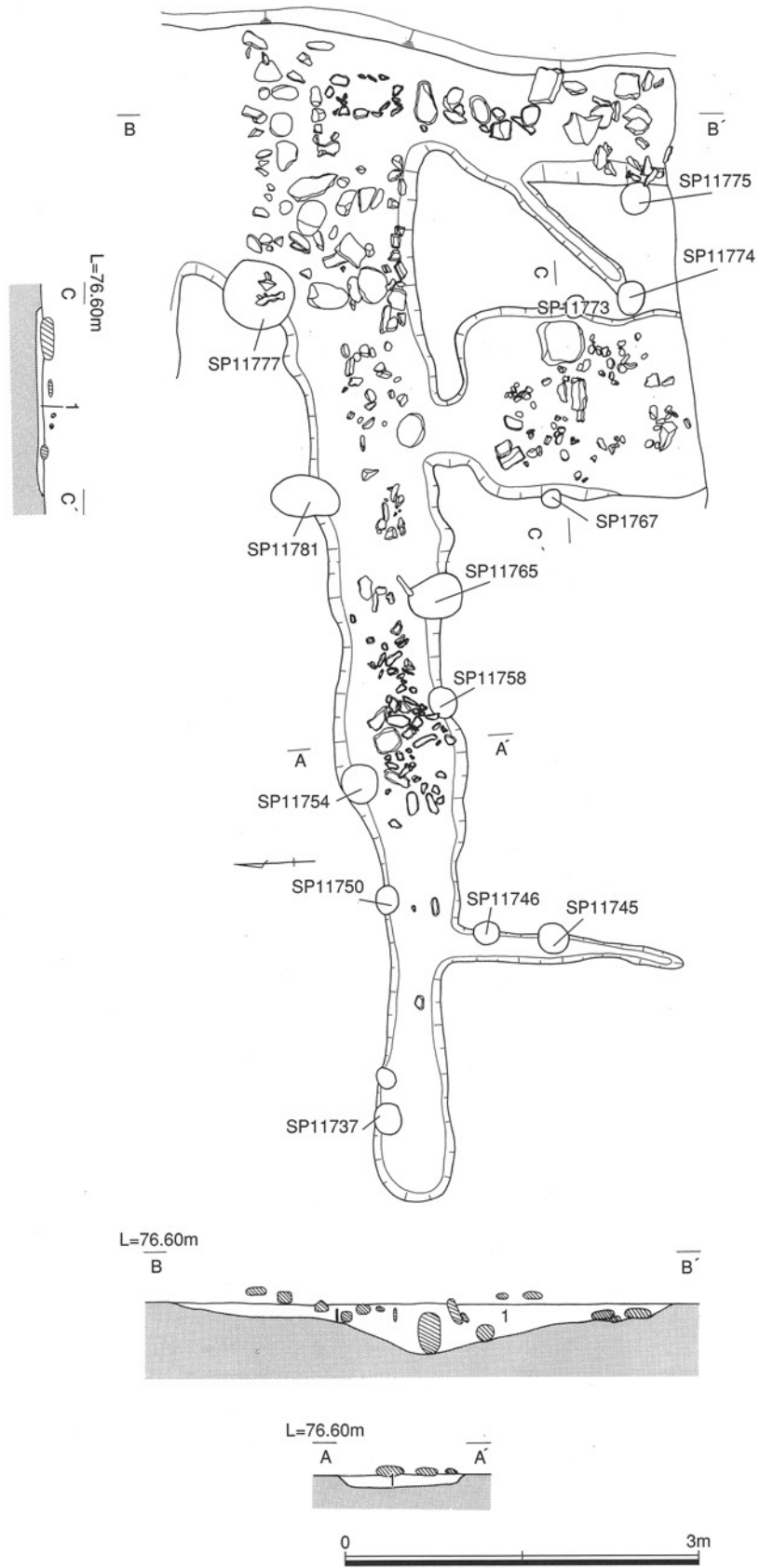
第156図 SX1002実測図



第157図 SX1002出土遺物実測図

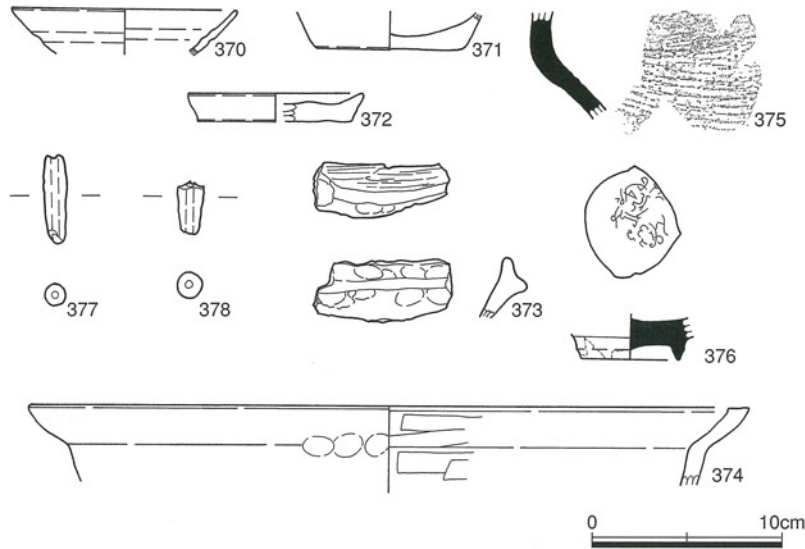
3号不明遺構 (SX1003) (第158・159図)

A2調査区Q-1~3グリットから検出された不明遺構である。遺構北側にはSX1004がほとんどつながった状況で検出されている。南側は調査区外になり溝状の広がりが途中で途切れている。規模は溝状に伸びる東西部分で長軸9.96m、短軸0.84m、深さ0.12mを測る。南側土坑状の広がりが認められる部分は現状で長軸2.1m、短軸1.62m、深さ0.06m



1. 黒褐色 2.5Y3/1 粘質土 (土器片、炭化物を多く含む)

第158図 SX1003実測図



第159図 SX1003出土遺物実測図

を測る。断面形状は溝状部分が壁面は緩やかに落ち床面は水平である。土坑状部分についても壁面は緩やかに下がり床面は水平である。東西、南北の遺構合流地点は床面中央部が凹み壁面は両側に向かって緩やかに立ち上がる。遺構内からは拳大から人頭大の石が多量に検出された。石の出土状況からは石が規則的に並んでいる等の人為的な痕跡は確認できず、遺構の廃棄もしくは祭祀に関する可能性が考えられる。出土遺物は土師

質土器杯片・小皿片・煮沸具片・播鉢片、須恵器甕片、備前甕・播鉢片が出土している。370・371は土師質土器杯である。371は底部回転ヘラ切り後板ナデを施す。372は土師質土器小皿である。373は土師質土器内耳鍋である。374は土師質土器の鍋である。口縁端部方形に収め口縁部は受け口状を呈し外方に立ち上がっている。375は須恵器甕、376は青磁碗である。

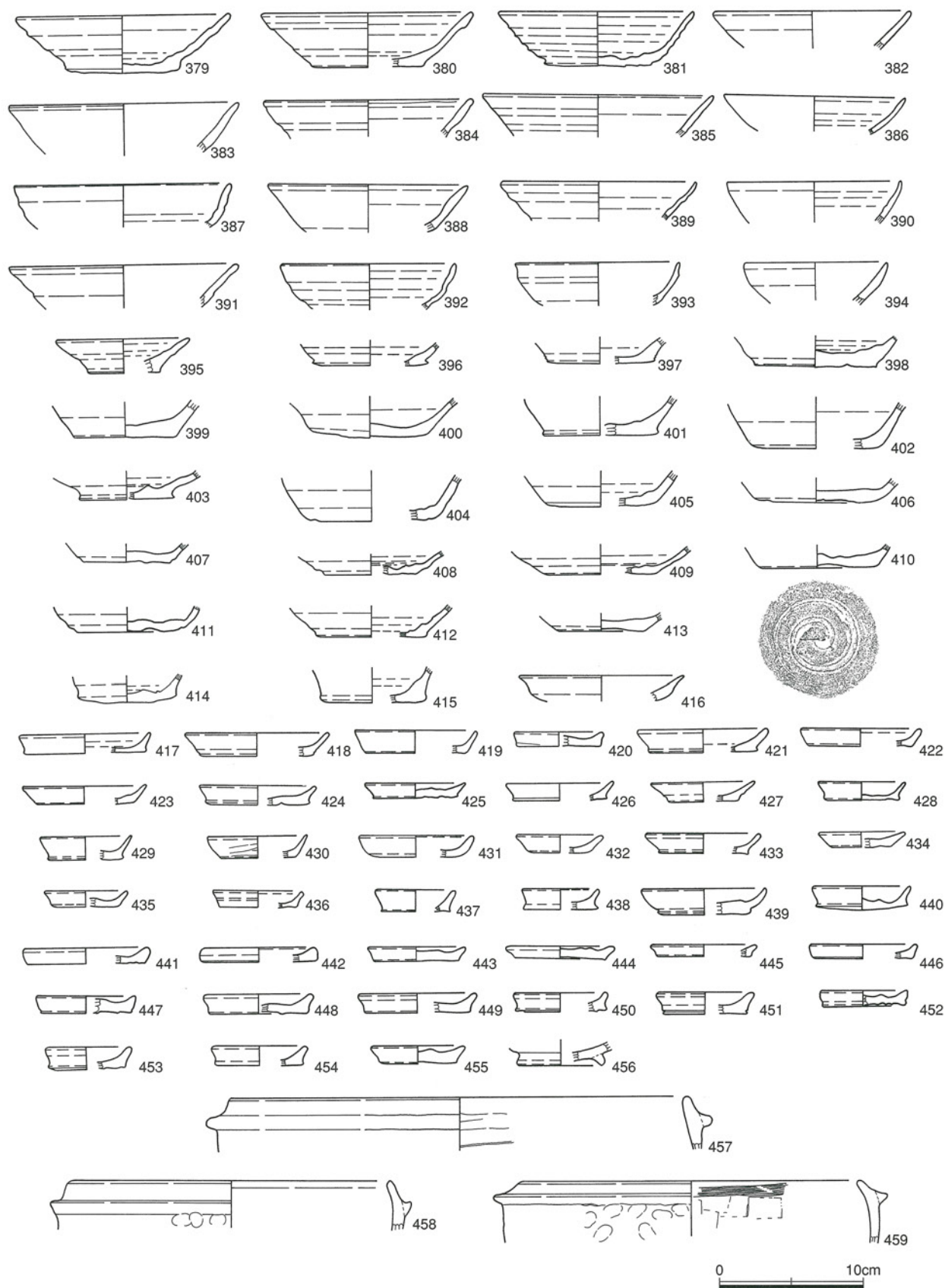
4号不明遺構 (SX1004) (第160・161・162・163・164図)

A2調査区のS・T-20・1グリットから検出された不明遺構である。規模は隅丸長方形部分で長軸8.1m、短軸5.1~5.7m、深さ0.12mを測る。平面形状はL字状を呈しややいびつな形状である。断面形状は壁面は緩やかに傾斜し床面は水平である。遺構内からは拳大から人頭大の礫を土器と一緒に出土しているが礫の出土状況からは規則性などは見受けられず礫と遺物は廃棄等に伴う物と思われる。埋土は黒褐色粘質土でやや粘性があり水が張っていた可能性も考えられる。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・煮沸具片・播鉢片、備前甕片、青磁片が出土している。379~415は土師質土器杯である。380は端部丸く収め口縁部は外方にやや拡張する特異な形を呈している。393・394は端部尖り気味におさめ体部外面に指頭圧痕をとどめる手づくねの杯である。このうち379・381・395・396・398~400・402・404・406・409・410・412・414・415は回転ヘラ切りを施す。397・401・403・405・407・408・411は回転ヘラ切り後ナデを施す。413は静止糸切りを施す。416~455は土師質土器小皿である。417・419・420・422~429・431~437・439・441・443~449・452・454・455は底部に回転ヘラ切りを伴っている。421・440・451・453は回転ヘラ切り後ナデ、438・442はナデを施している。457~470は土師質土器羽釜である。出土した羽釜は口縁部と端部を丸く収め、やや退化傾向にある。460は三足羽釜である。471~479は土師質土器鍋である。471・472・475・476~478は口縁端部方形に収め口縁部は受け口状に外方に伸びている。473・474は口縁部をくの字状に外方に直線的に延ばす。481は土師質土器播鉢である。482・483は西村系須恵器碗、484・485は須恵器甕である。487は内面に摩滅は激しいが退化した暗文をとどめる瓦器碗である。488は瓦質の羽釜、489は瓦質火鉢である。490~497は備前播鉢である。間壁編年のⅢ~Ⅳ期に位置づけられる。498は瀬戸焼の鉢、500は瀬戸焼の碗である。503は白磁の碗、504~506は青磁である。504は外面に蓮弁を施している。龍泉窯系で大宰府編年Ⅰ-5類にあたる。506は龍泉窯系皿でⅠ-

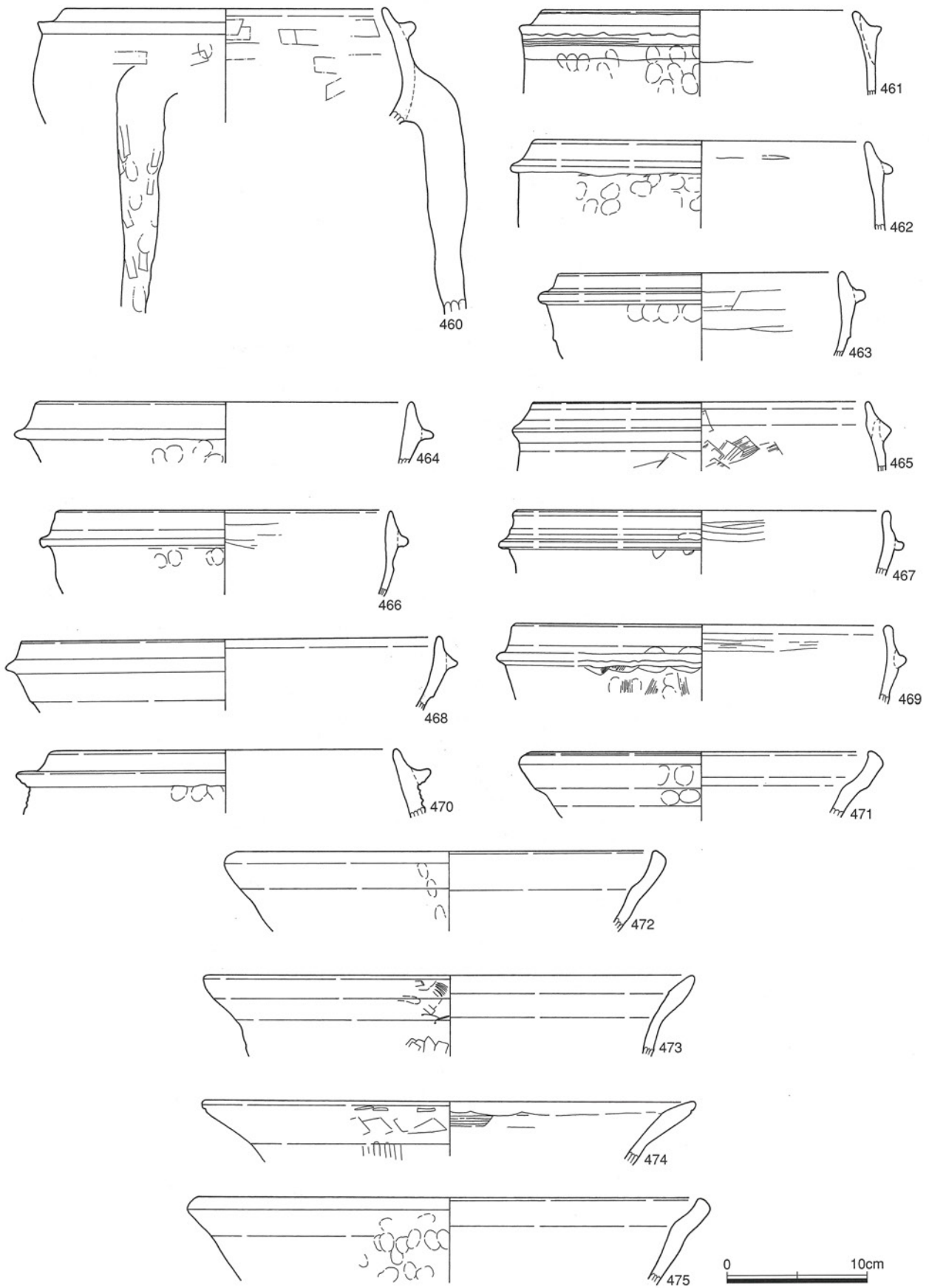


1. 黒褐色 10YR 3/2 粘質土

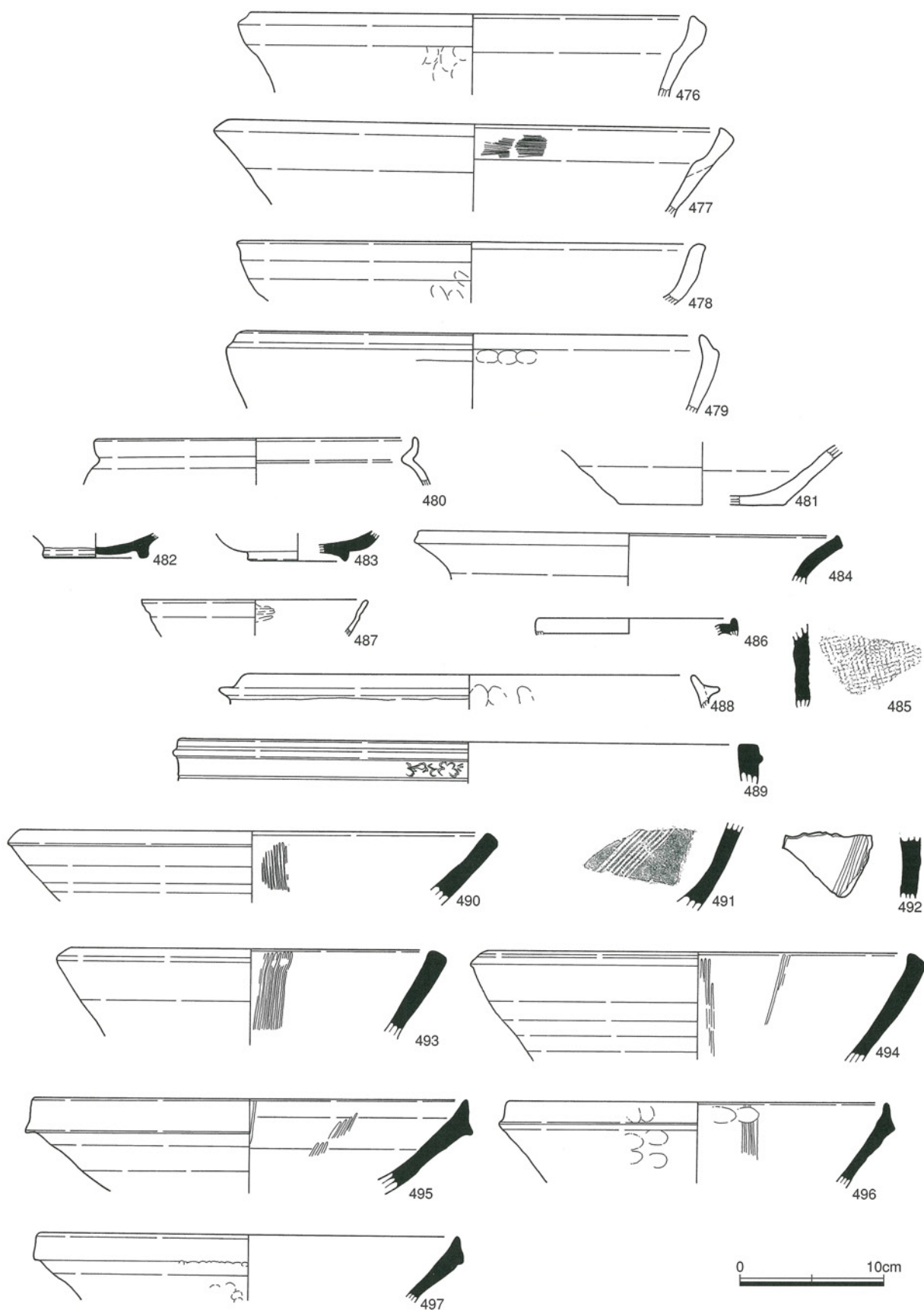
第160図 SX1004実測図



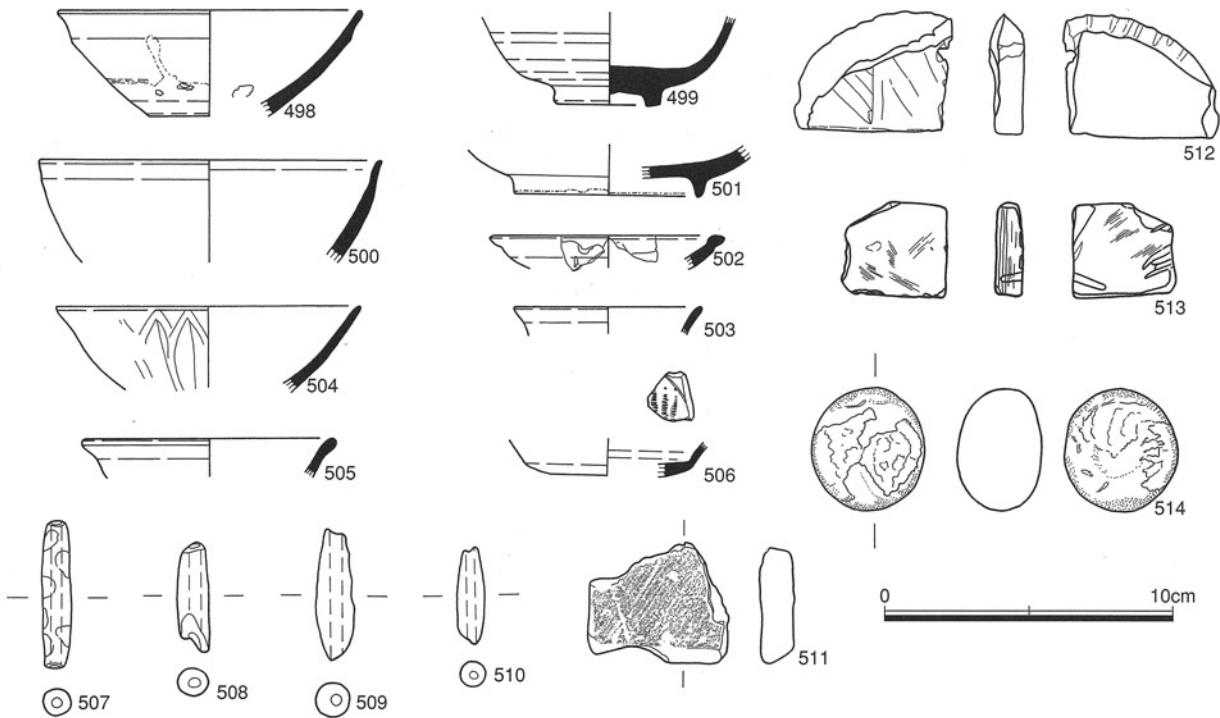
第161图 SX1004出土遺物実測図(1)



第162図 SX1004出土遺物実測図(2)



第163图 SX1004出土遺物実測図(3)



第164図 SX1004出土遺物実測図(4)

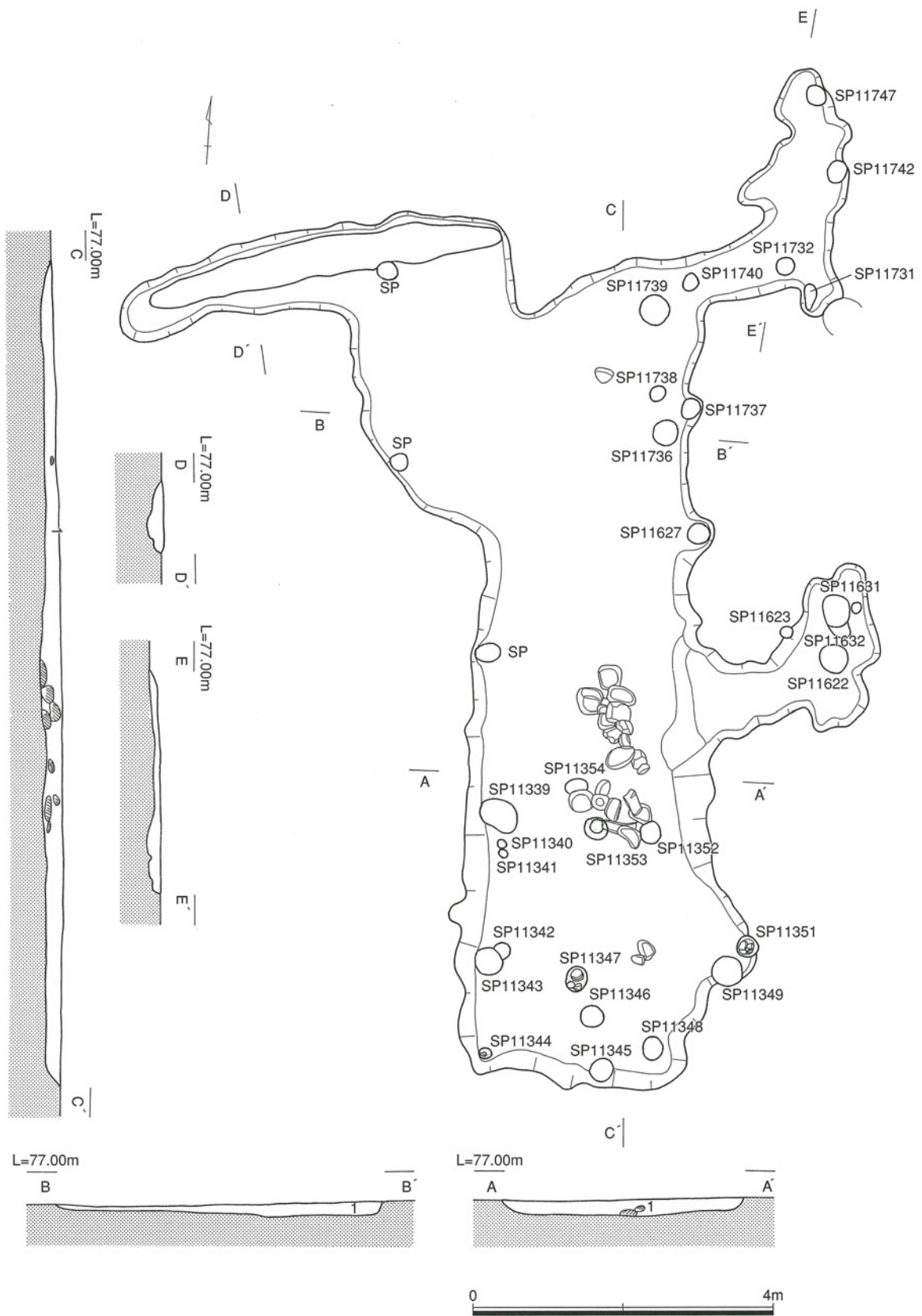
3類にあたる。507～510は土師質土器の土錘である。512は石鍋の体部片である。513は砥石である。内外両面に砥面が認められる。514は叩石である。こう打痕が部分的に認められる。本遺構は13世紀後半から16世紀代の年代が与えられる。

9号不明遺構 (SX1009) (第165・166図)

B4調査区B・C-14・15グリットから検出された不明遺構である。規模は長軸11.2m、短軸3.2m、深さ0.18mを測る。平面形状は不整長方形状を呈している。遺構内中央部やや南側からは拳大から人頭大の大きさの礫が集中的に出土している。埋土は褐灰粘質土で粘性を帯びていることより遺構内に水が張っていた可能性がある。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・羽釜片、東播系こね鉢片、備前甕片が出土している。515～522は土師質土器杯である。515は口縁端部を細くおさめ外方にやや内彎気味に立ち上がる。底部の調整は517は回転ヘラ切り、516・518・519は回転ヘラ切り後ナデを施す。523は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。524は土師質土器こね鉢である。口縁部は方形に収め、体部外面には指頭痕を残す。525・526は備前播鉢で間壁編年のIV期に位置づけられる。528は土師質土器の土錘である。529は石鍋の破片である。

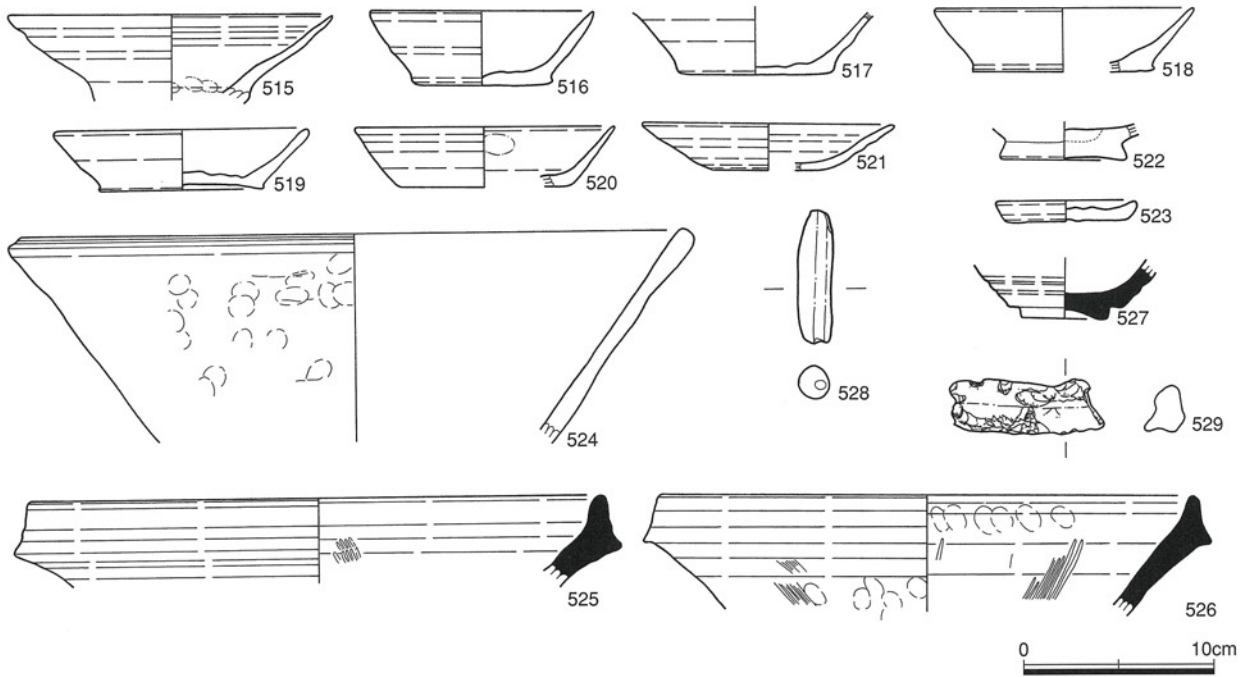
10号不明遺構 (SX1010) (第167図)

B4調査区T・U-13・14グリットから検出された不明遺構である。南西にはSD1002が位置しており遺構の位置関係からすると本遺構は東西方向に走る区画溝の可能性はある。規模は長軸6.4m、短軸1.6m、深さ0.24mを測る。平面形状は不整長方形状を呈している。平面形状からは遺構同士の切り合いも考えられたが断面に落ちの確認出来なかった。断面形状は壁面は緩やかに落ち、床面は水平に構築されている。埋土は褐灰粘質土で粘性があり水の張っていた可能性がある。出土遺物は土師質土器杯片・小

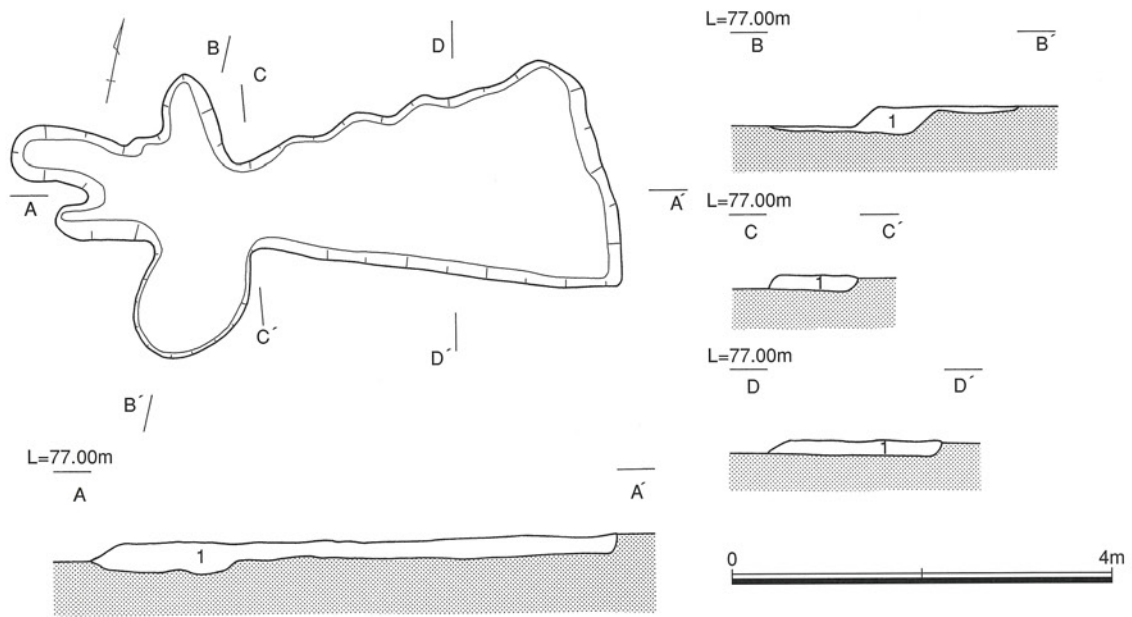


1. 褐灰色 10YR 4/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)

第165図 SX1009実測図



第166図 SX1009出土遺物実測図



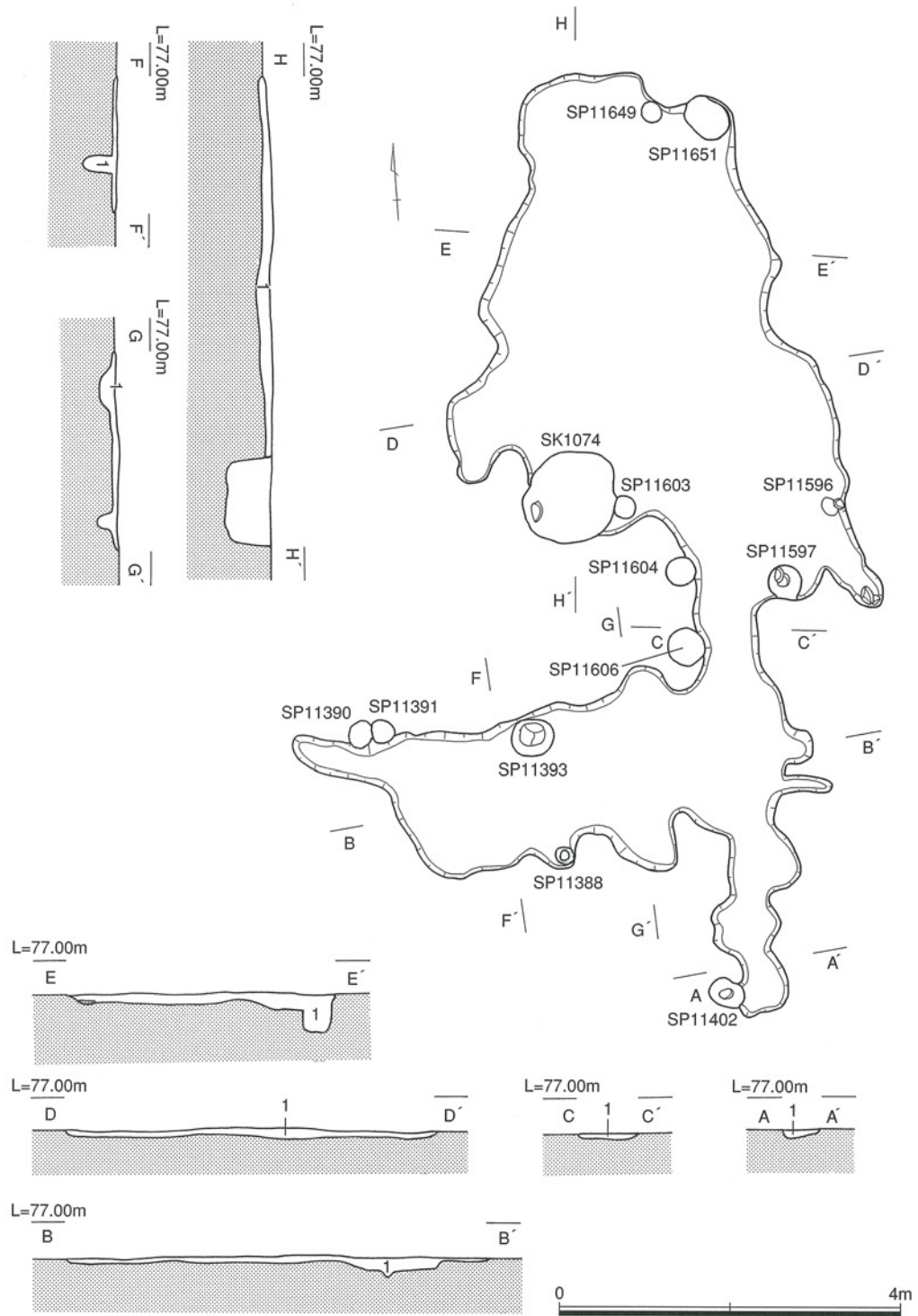
1. 褐灰色 10YR 4/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)

第167図 SX1010実測図

皿片・羽釜片・小片が出土している。遺物は細片が多く、図化可能遺物は確認できていない。

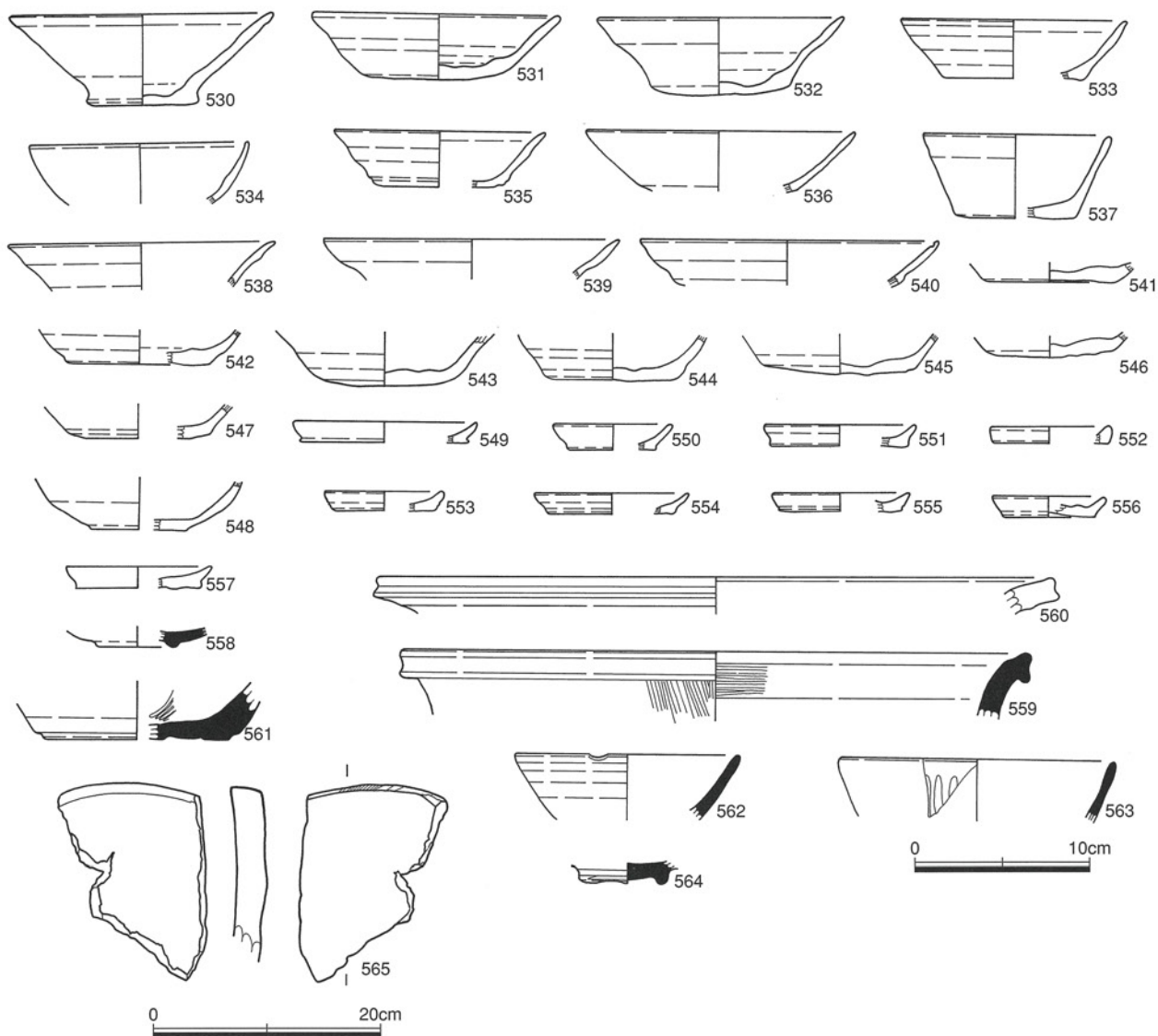
11号不明遺構 (SX1011) (第168・169図)

B4 調査区 A~C-15~16グリットから検出された不明遺構である。西側にはSX1009が位置している。規模は長軸11.2m、短軸は北側で3.36m、南側で6.08mを呈する。深さは0.16mを測る。平面プランは不整長方形形状を呈し、いびつな形状である。断面形状は緩やかに壁面が下がり床面は水平である。



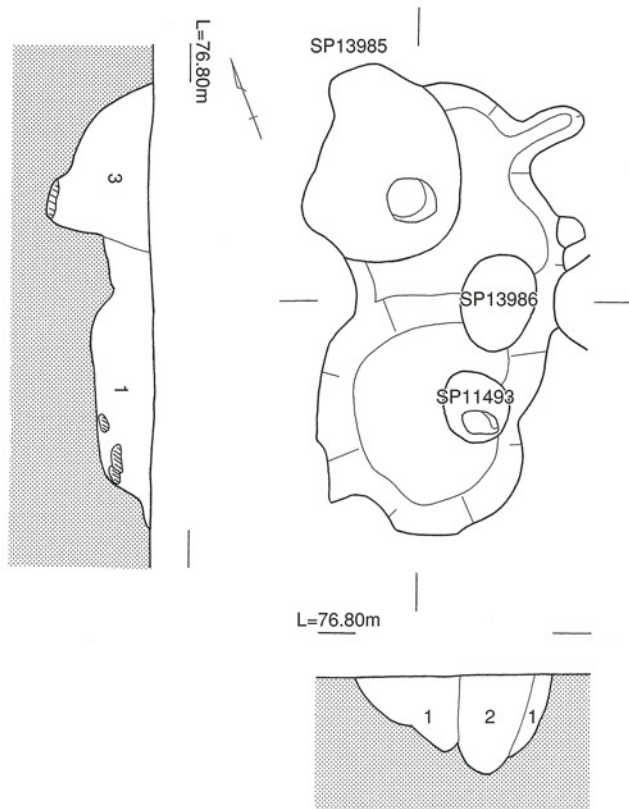
1. 褐灰色 10YR 4/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)

第168図 SX1011実測図



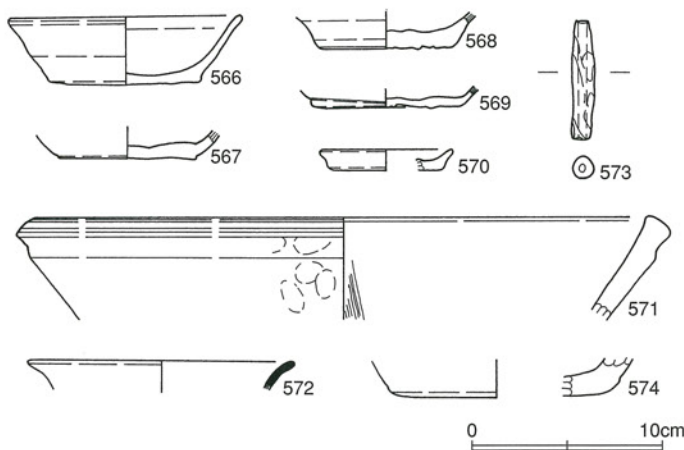
第169図 SX1011出土遺物実測図

埋土は褐灰粘質土でやや粘性があり水の張っていた可能性も考えられる。本遺構は遺構検出段階で遺構面を掘り込んで検出されている事やSX1009と同じ様な遺構埋土を示し、またSX1009との位置的な面を考えるとSX1009と一体の物として考える事も可能である。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片、瓦器小片、備前播鉢片が出土している。530～548は土師質土器杯である。534は口縁端部を尖り気味におさめ体部外面に指頭圧痕を部分的に残す手づくねの杯である。540は口縁端部をつまみ上げ口縁部は直線的に外方に立ち上がっている。底部の調整は530～532・537・542・544は回転ヘラ切り後ナデ、533・535・541・543・545～547は回転ヘラ切りである。549～557は土師質土器の小皿である。549・551～555は回転ヘラ切り、556・557は回転ヘラ切り後ナデを施している。558は西村系須恵器碗底部である。559は須恵器甕。560は瓦質焼成の鍋になる可能性がある。561は備前播鉢である。562～564は輸入貿易陶磁で562・563は青磁で562は口縁部に輪花を持つ龍泉窯系の小碗である。563は体部外面に蓮弁を施している。564は白磁碗の底部である。565は甕の体部片であるが内外両面に研磨痕が認められる。



- 1. 褐灰色 10YR 5/1 粘質土 (土器片を含む)
- 2. 褐灰色 10YR 5/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)
- 3. 褐灰色 10YR 5/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)

第170図 SX1012実測図



第171図 SX1012出土遺物実測図

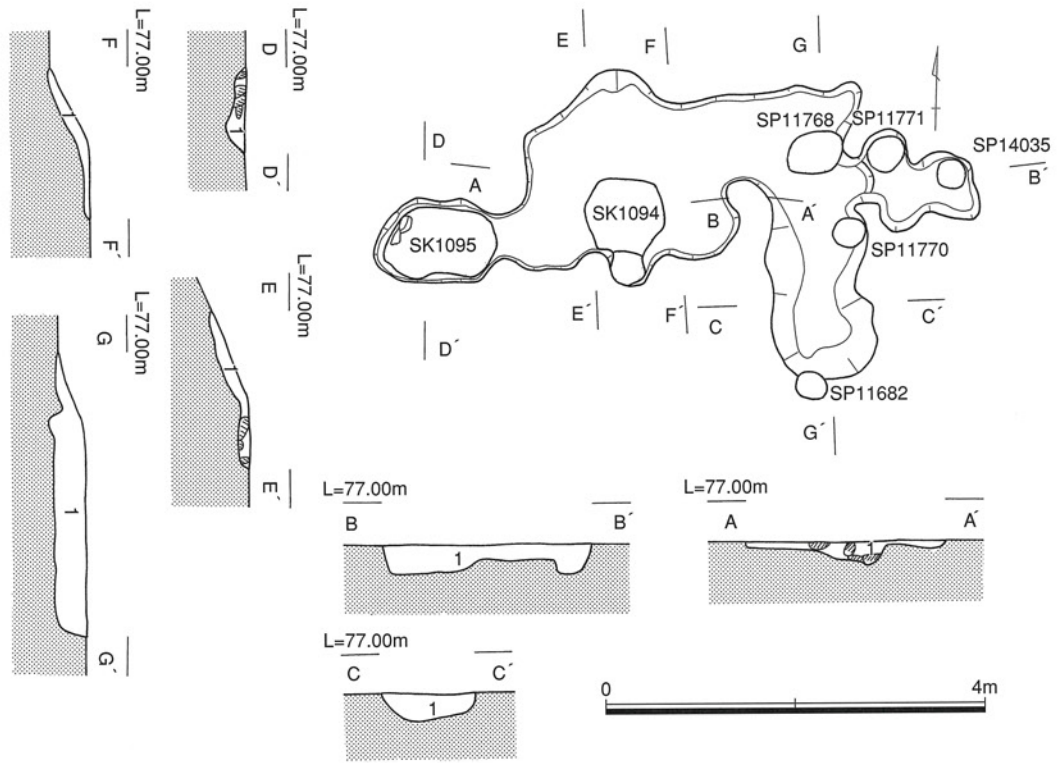
土師質土器杯片である。575は回転ヘラ切り、578・580～582・590・592～595は回転ヘラ切り後ナデ、591はナデを施している。586～589は端部を尖り気味に収め口縁部は内彎気味に立ち上がり体部外面に指頭圧痕を施す手づくねの杯である。596～599は土師質土器小皿である。597・598は回転ヘラ切りを施す。600は土師質土器椀である。601は青磁体部片である。体部外面には蓮弁文を施している。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

12号不明遺構 (SX1012) (第170・171図)

B4調査区B-17グリットから検出された不明遺構である。規模は長軸2.4m、短軸1.2m、深さ0.36mを測る。北側はSP13985、中央部でSP13986、南側でSP11493に切られている。平面形状は隅丸長方形を呈している。壁面は緩やかに傾斜し、床面は南北両側で水平、中央部がやや盛り上がっている。埋土は褐灰粘質土である。出土遺物は土師質土器杯片(手づくね)・小皿片・小片を含む。566～569は土師質土器杯片である。底部の調整は566・568・569が回転ヘラ切り後ナデ、567は回転ヘラ切りを施している。570は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。571は土師質土器播鉢、572は白磁皿の口縁である。574は石鍋である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

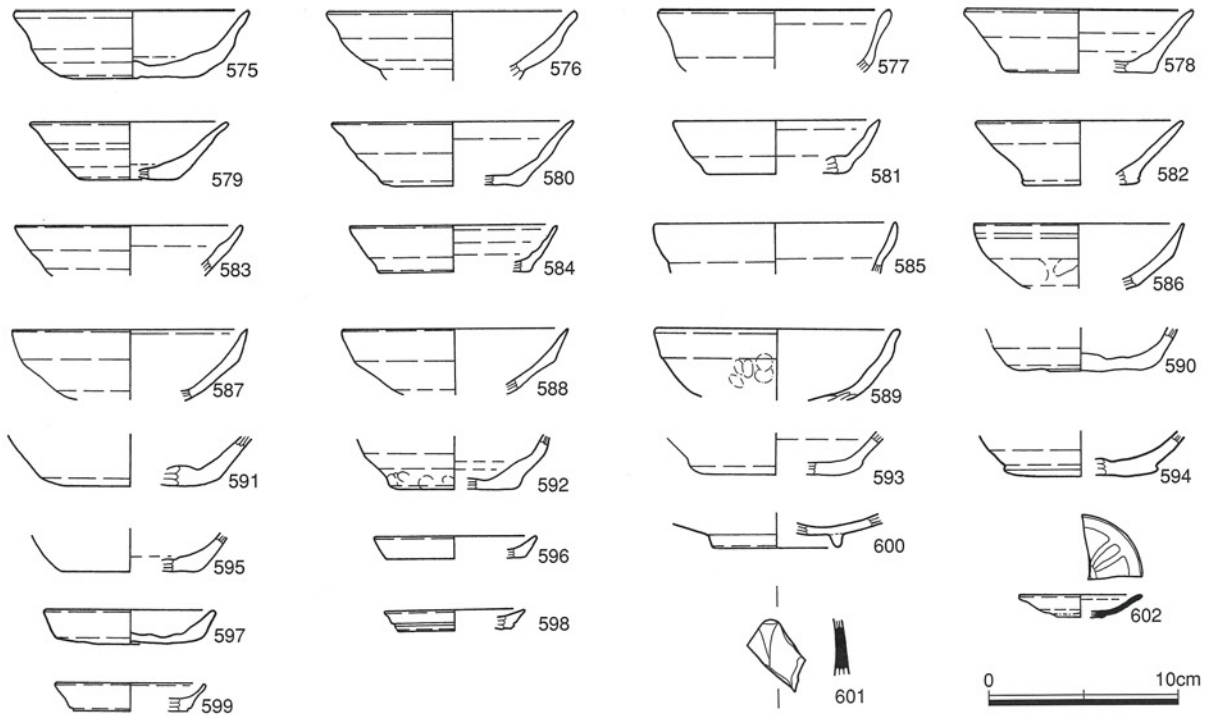
14号不明遺構 (SX1014) (第172・173図)

B4調査区D-17グリットから検出された不明遺構である。規模は長軸5.12m、短軸は東側で3.2m、西側で2m、深さ0.24mを測る。平面プランは不整な長方形を呈している。西側でSK1095、中央付近でSK1094、東側でSP11768、SP11771、SP14035、SP11770に切られている。断面形状は壁面は緩やかに落ちていき、床面は水平に収めている。埋土は褐灰粘質土である。出土遺物は土師質土器杯片・小皿片・羽釜片、須恵器小片、瓦質土器小片が出土している。575～595は

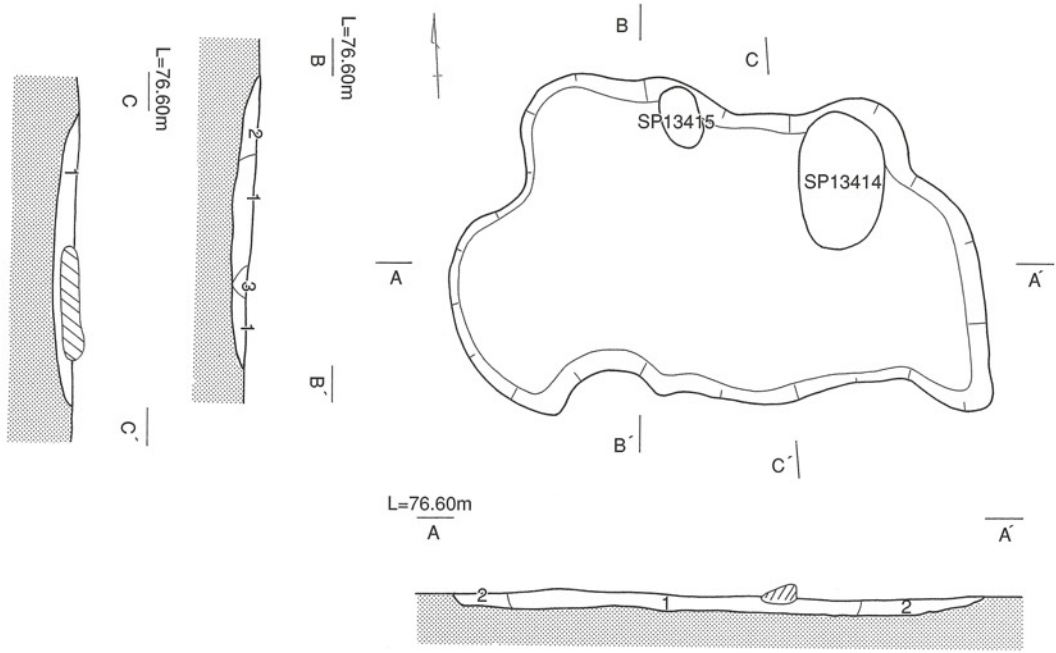


1. 褐灰色 10YR 4/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)

第172図 SX1014実測図



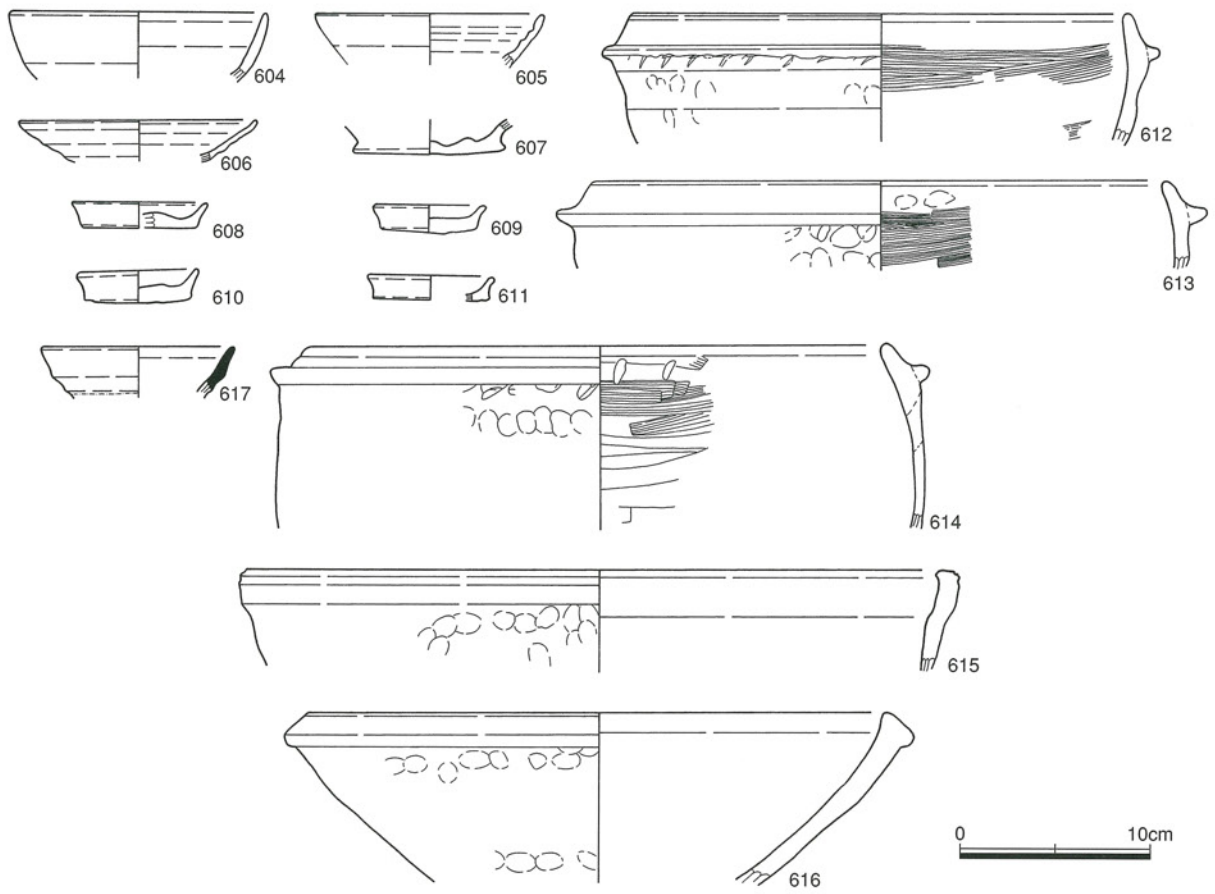
第173図 SX1014出土遺物実測図



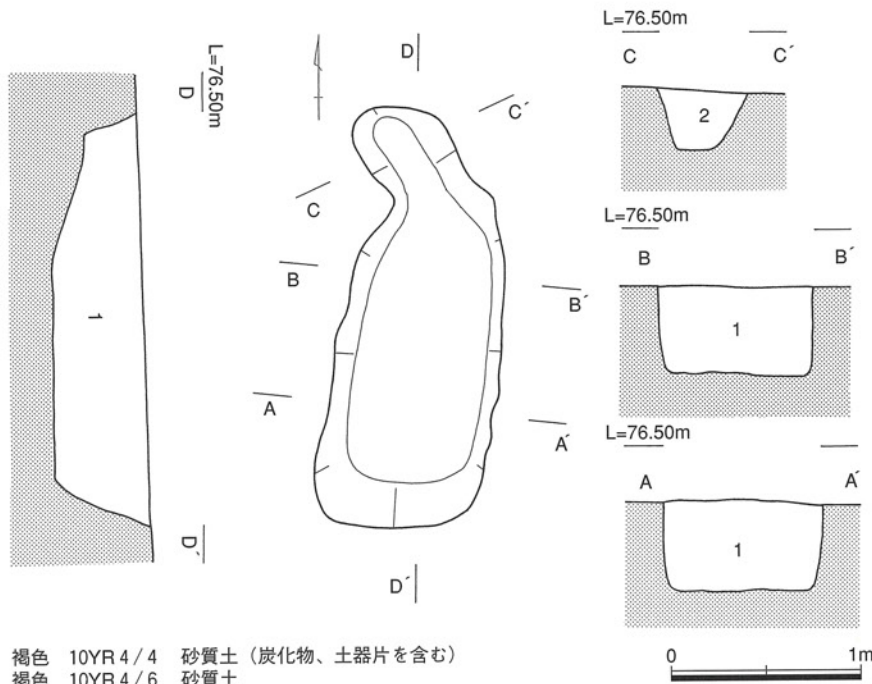
- 1. 暗褐色 10YR 3/3 砂質土 (土器片、炭化物、礫を含む)
- 2. 暗褐色 10YR 3/4 砂質土 (土器片、炭化物、礫を含む)
- 3. にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 (土器片、炭化物、礫を含む)

0 1m

第174図 SX1018実測図



第175図 SX1018出土遺物実測図



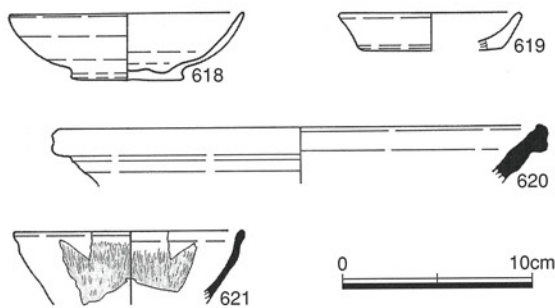
- 1. 褐色 10YR 4/4 砂質土 (炭化物、土器片を含む)
- 2. 褐色 10YR 4/6 砂質土

第176図 SX1021実測図

18号不明遺構 (SX1018)

(第174・175図)

A1調査区J・K-5グリットから検出された不明遺構である。規模は長軸2.92m、短軸1.56m、深さ0.08mを測る。平面プランは不整形形状を呈している。遺構北側をSP13414・SP13415に切られている。埋土は暗褐色砂質土である。出土遺物は土師質土器杯片・小皿片・羽釜片・鍋片が出土している。604~607は土師質土器杯である。607は



第177図 SX1021出土遺物実測図

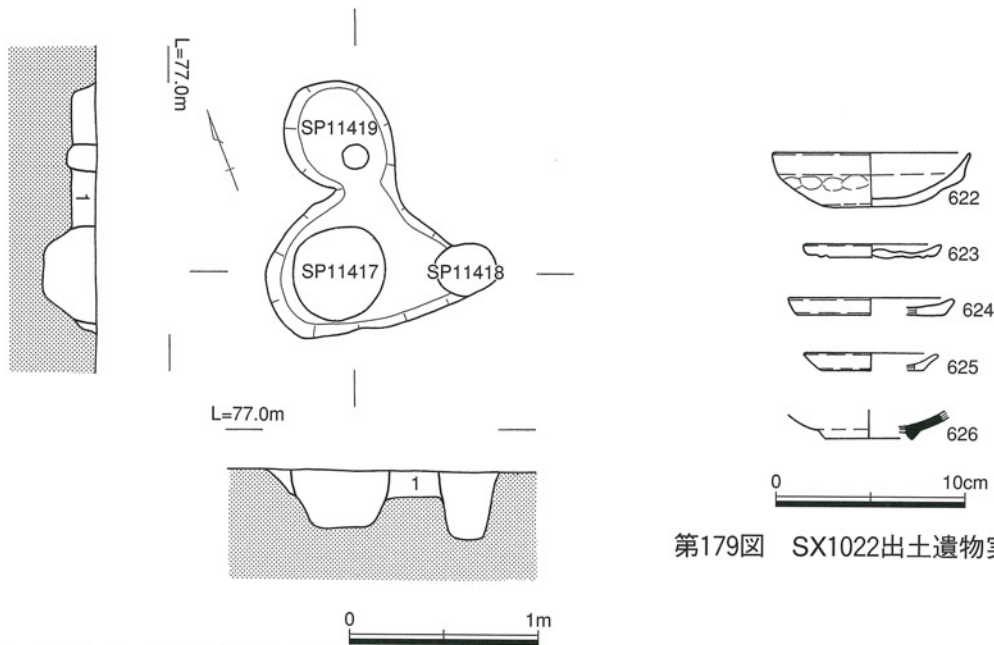
回転ヘラ切りを施す。608~611は土師質土器小皿である。608・609・611は回転ヘラ切り、610は回転ヘラ切り後ナデを施している。612~614は土師質土器羽釜である。鏝は退化し口縁部と鏝先端部を丸く収めている。615は土師質土器鍋である。口縁部が内彎し口縁部は受け口状に立ち上がっている。616は土師質土器こね鉢である。口縁端部を拡張し口縁部は方形に収める。

21号不明遺構 (SX1021) (第176・177図)

A1調査区L-3グリットから検出された不明遺構である。規模は長軸2.2m、短軸0.84m、深さ0.52mを測る。平面プランは不整形形状を呈している。断面形状は壁面がほぼ垂直に落ち、床面は水平な状況で検出されている。埋土は長方形部分が褐色砂質土、北側の突出部分が褐色砂質土であるが調査段階では埋土の色の違いが報告されており、明確な落ちは確認されていないが別遺構同士の切り合いとも考えられる。2つの遺構の切り合いと考えるとSX1021は平面と断面形状からお墓になる可能性もある。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片、東播系須恵器小片等が出土している。618は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施している。619は土師質土器小皿である。620は東播系須恵器こね鉢である。森田編年Ⅱ期第2段階に位置づけられる。

22号不明遺構 (SX1022) (第178・179図)

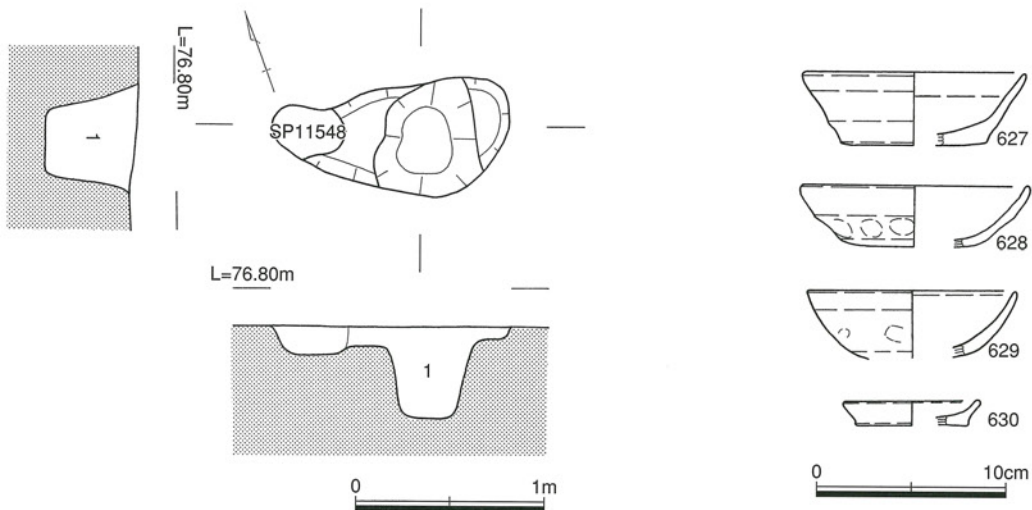
B4調査区A-16グリットから検出された不明遺構である。遺構の南側はSP11417・SP11418に切られている。規模は長軸1.36m、短軸0.88m、深さ0.32mを測る。平面プランは不整な瓢箪形を呈している



第179図 SX1022出土遺物実測図

1. 褐灰色 10YR 5/1 粘質土 (土器片を含む)

第178図 SX1022実測図



第181図 SX1023出土遺物実測図

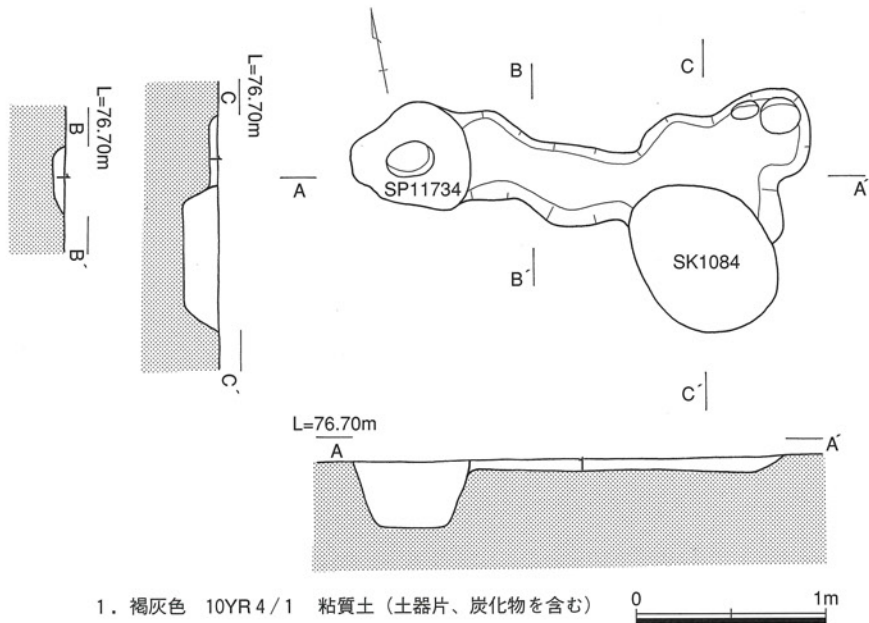
1. 灰褐色 10YR 5/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)

第180図 SX1023実測図

る。断面形状は壁面は緩やかに落ち床面は水平である。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片、須恵器小片が出土している。622は土師質土器杯である。口縁部は尖り気味に収め体部外面に指頭圧痕を施す手づくねである。623～625は土師質土器小皿である。623は底部回転ヘラ切り後ナデ、625は回転ヘラ切りを施す。626は西村系須恵器碗の底部である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

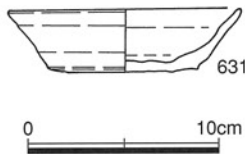
23号不明遺構 (SX1023) (第180・181図)

B4 調査区 A-15グリットから検出された不明遺構である。西側を SP11548 に切られている。規模は長軸1.28m、短軸0.6m、深さ0.52mを測る。平面プランは不整楕円形を呈する。断面形状は壁面は緩やかに下がり床面は水平であるが遺構中央部で更に下がる。遺構中央部には柱穴状の落ちがあるが断面観察による土層上の落ち込みは確認されていない。埋土は灰褐色粘質土である。出土遺物は土師質土器



1. 褐灰色 10YR 4/1 粘質土 (土器片、炭化物を含む)

第182図 SX1024実測図

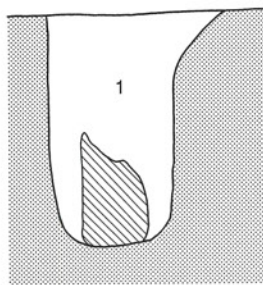
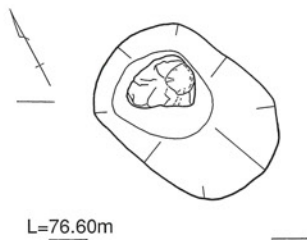


第183図 SX1024出土遺物実測図

杯片・皿片・小片が出土している。627～629は土師質土器杯である。627は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。628・629は手づくねの杯である。630は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。

24号不明遺構 (SX1024) (第182・183図)

B4 調査区 C・D-15グリットから検出された不明遺構である。西側を SP11734、南側を SK1084 に切られている。規模は長軸1.68m、短軸0.48m、深さ0.08mを測る。平面形状は不整な長形状を呈している。断面形状は壁面は緩やかに落ち床面は水平に構築されている。出土遺物は土師質土器杯片・皿片・小片が出土している。631は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。

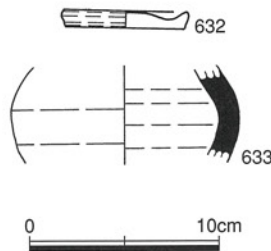


1. 黄灰色 2.5Y 4/1 砂質土
第184図 SP10995実測図

柱穴

995号柱穴 (SP10995) (第184・185図)

A2 調査区 T-19グリットから検出された柱穴である。規模は長軸0.52m、短軸0.36m、深さ0.6mを測る。平面プランは楕円形状を呈する。遺構内からは柱痕跡が確認された。出土遺物は土師質土器杯片・小皿片・小片が出土している。632は土師質土器小皿である底部は回転ヘラ切りを施す。633は須恵器壺である。



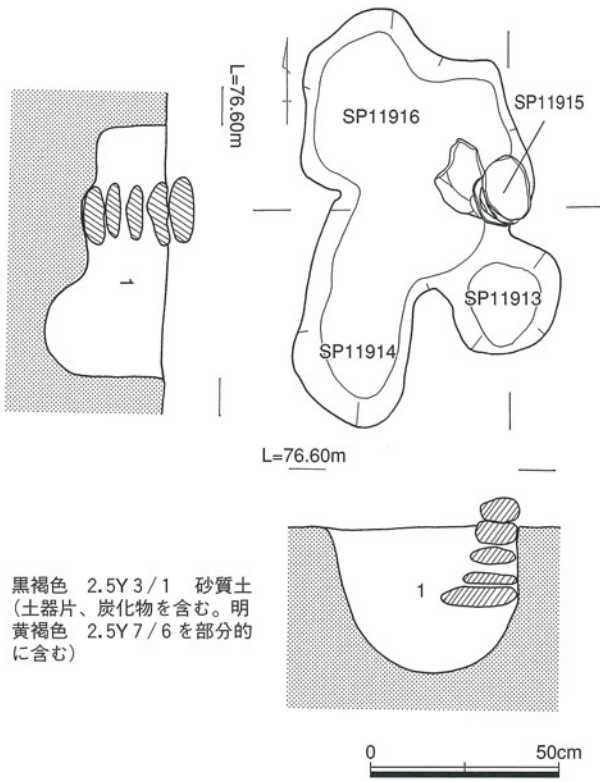
第185図 SP10995出土遺物実測図

913・914・915・916号柱穴

(SP11913・SP11914・SP11915・SP11916)

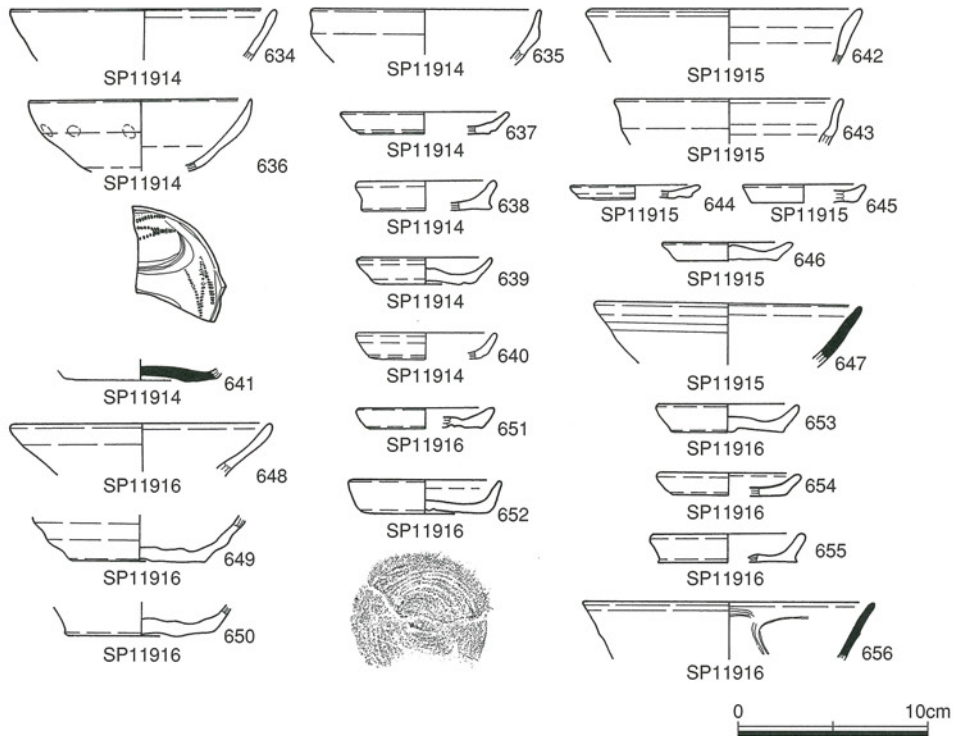
(第186・187図)

A2調査区B-19グリットから検出された柱穴である。個々の柱穴の切り合い関係は落ちが不明瞭なのではっきりしていない。遺構内東側からは人頭大の石を縦方向に積み上げるようにして石積を検出している。埋土は黒褐色砂質土である。遺物は土師質土器杯片・皿片・小片、磁器小片が出土している。SP11914からは634～636は土師質土器杯である。635・636は体部外面に指頭圧痕を残す手づくねの杯である。637～640は土師質土器小皿である。底部は638は回転ヘラ切り後ナデを施し、639は回転ヘラ切りを施す。641は同安窯系の青磁皿である。SP11915からは642～647の実測可能遺物がある。642・643が土師質土器杯である。644～646は土師質土器小皿である。644・645は底部回転ヘラ切り、646は回転ヘラ切り後ナデを施している。

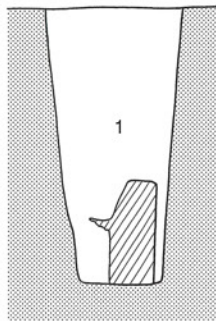
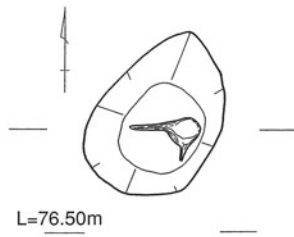


1. 黒褐色 2.5Y3/1 砂質土
(土器片、炭化物を含む。明
黄褐色 2.5Y7/6 を部分的
に含む)

第186図 SP11913・11914・11915・11916実測図



第187図 SP11913・11914・11915・11916出土遺物実測図



1. 黄灰色 2.5Y4/1 砂質土
(砂粒多く含む)

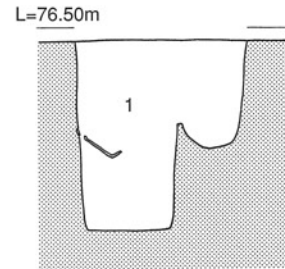
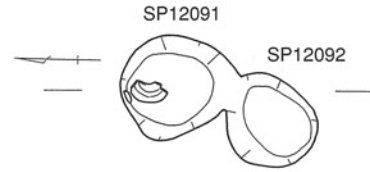
第188図 SP11922実測図



第189図 SP11922出土遺物実測図



第191図 SP12091・12092
出土遺物実測図



1. 褐灰色 10YR4/1 砂質土

第190図 SP12091・12092実測図

647は西村系の須恵器碗である。SP11916からは648～656の実測可能遺物が出土している。648～650は土師質土器杯である。649・650は底部回転ヘラ切りを施す。651～655は土師質土器小皿である。651・653～655は底部回転ヘラ切り、652は底部回転糸切りが施されている。656は龍泉窯系の青磁碗で大宰府編年I-4類にあたる。

1922号柱穴 (SP11922) (第188・189図)

A2調査区B-18グリットから検出された柱穴である。規模は長軸0.48m、短軸0.34m、深さ0.74mを測る。平面プランは楕円形状を呈する。柱穴内からは柱痕跡が確認されている。出土遺物は土師質土器杯片・小片が出土している。657は土師質土器杯である。底部回転ヘラ切り後板ナデである。

2091・2092号柱穴 (SP12091・12092) (第190・191図)

A2調査区C-19グリットから検出された柱穴である。規模は長軸0.3m、短軸0.3m、深さ0.52mを測る。平面プランは楕円形状を測る。出土遺物は土師質土器杯片・小片が出土している。658は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。

柱穴出土遺物 (第192～202図)

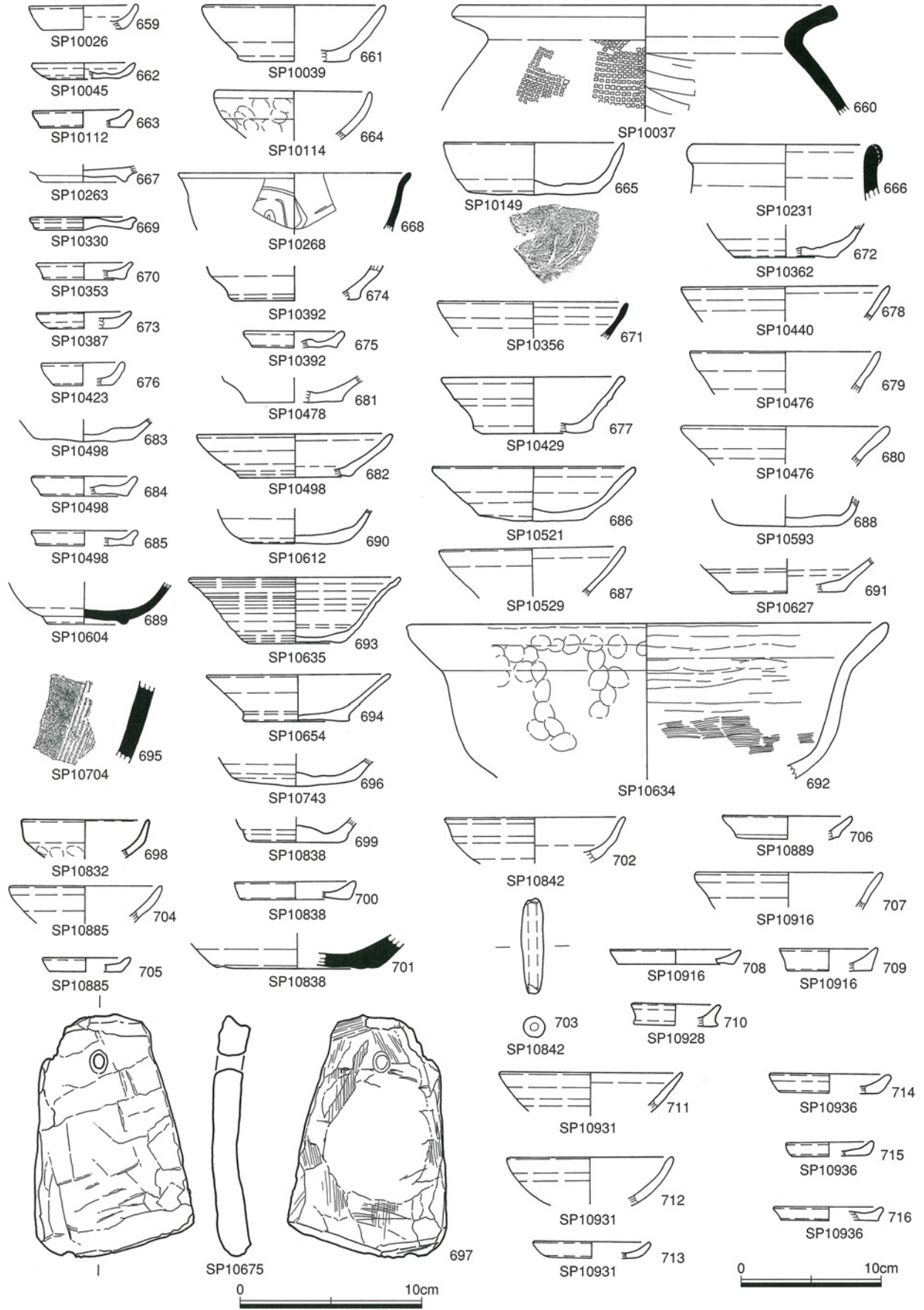
659はB5調査区I-13グリット SP10026から出土した土師質土器小皿である。遺物は土師質土器の杯片・皿片が出土している。(第192図)

660はB5調査区J-13グリット SP10037から出土した須恵器甕である。(第192図)

661はB5調査区I-13グリット SP10039から出土した土師質土器杯である。(第192図)

662はB5調査区I-13グリット SP10045から出土した瓦器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第192図)

663はB5調査区K-12グリット SP10112から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第192図)



第192図 柱穴出土遺物実測図(1)

664はB5調査区K-12グリット SP10114から出土した土師質土器杯である。端部はやや尖り気味におさめ体部外面には指頭圧痕を残す手づくねの杯である。遺物は土師質土器杯片が出土している。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第192図)

665はB5調査区K-13グリット SP10149から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りである。遺物は土師質土器杯片が出土している。(第192図)

666はB5調査区L-13グリット SP10231から出土した備前壺である。口縁端部は丸く収め玉縁状を呈する。間壁編年Ⅳ期に位置づけられる。遺物は土師質土器小皿片が出土している。(第192図)

667はB5調査区K-15グリット SP10263から出土した土師質土器碗である。遺物は土師質土器杯片が出土している。(第192図)

668はB5調査区K-16グリット SP10268から出土した青磁碗である。遺物は土師質土器杯片・皿片が出土している。(第192図)

669はB5調査区N-14グリット SP10330から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを呈する。(第192図)

670はB4調査区Q-15グリット SP10353から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第192図)

671はB4調査区Q-15グリット SP10356から出土した西村系須恵器碗である。遺物は土師質土器杯片が出土している。(第192図)

672はB4調査区P-15グリット SP10362から出土した土師質土器杯片である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。遺物は土師質土器杯片・皿片が出土している。(第192図)

673はB4調査区R-14グリット SP10387から出土した土師質土器小皿である。遺物は土師質土器杯片が出土している。(第192図)

674・675はB4調査区Q-14グリット SP10392から出土した土器である。674は土師質土器杯片である。底部は回転ヘラ切りを施す。675は土師質土器小皿である。遺物は土師質土器杯片・小皿片が出土している。(第192図)

676はB4調査区R-13グリット SP10423から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第192図)

677はB4調査区R-14グリット SP10429から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りである。(第192図)

678はB4調査区S-16グリット SP10440から出土した土師質土器杯である。遺物は土師質土器杯片・小皿片が出土している。(第192図)

679・680はB4調査区R-16グリット SP10476から出土した土器である。679・680は土師質土器杯である。(第192図)

681はB4調査区R-15グリット SP10478から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。遺物は土師質土器杯片・皿片が出土している。(第192図)

682～685はB4調査区R-14グリット SP10498から出土した土器である。682・683は土師質土器杯である。底部は682は回転ヘラ切り、683は回転ヘラ切り後ナデを施す。684・685は土師質土器小皿である。684が底部回転ヘラ切り、685は回転ヘラ切り後ナデを施す。遺物は土師質土器杯片・小皿片が出土している。(第192図)

686は B4 調査区 S-16グリット SP10521から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。(第192図)

687は B4 調査区 S-15グリット SP10529から出土した土師質土器杯である。(第192図)

688は B4 調査区 S-15グリット SP10593から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデ調整を施している。(第192図)

689は B4 調査区 S-16グリット SP10604から出土した西村系須恵器椀である。(第192図)

690は B4 調査区 T-15グリット SP10612から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。(第192図)

691は B4 調査区 T-17グリット SP10627から出土した土師質土器杯で底部に回転ヘラ切り後ナデを施す。(第192図)

692は B4 調査区 T-17グリット SP10634から出土した土師質土器鍋である。口縁端部丸く収め口縁部は直線的に外方に伸びる。(第192図)

693は B4 調査区 T-17グリット SP10635から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。(第192図)

694は B4 調査区 T-16グリット SP10654から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施している。(第192図)

695は A2 調査区 R-19グリット SP10704から出土した備前播鉢体部片である。(第192図)

696は A2 調査区 Q-1グリット SP10743から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。(第192図)

697は A2 調査区 Q-19グリット SP10675から出土した温石である。(第192図)

698は A2 調査区 R-20グリット SP10832から出土した土師質土器手づくねの杯である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第192図)

699～701は A2 調査区 R-20グリット SP10838から出土した土器である。699は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。700は土師質土器小皿である。底部の調整は回転ヘラ切りである。701は須恵器底部片である。(第192図)

702・703は A2 調査区 R-20グリット SP10842から出土した。702は土師質土器杯である。703は土師質土器の土錘である。(第192図)

704・705は A2 調査区 S-19グリット SP10885から出土した土器である。704は土師質土器杯、705は土師質土器小皿で底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。(第192図)

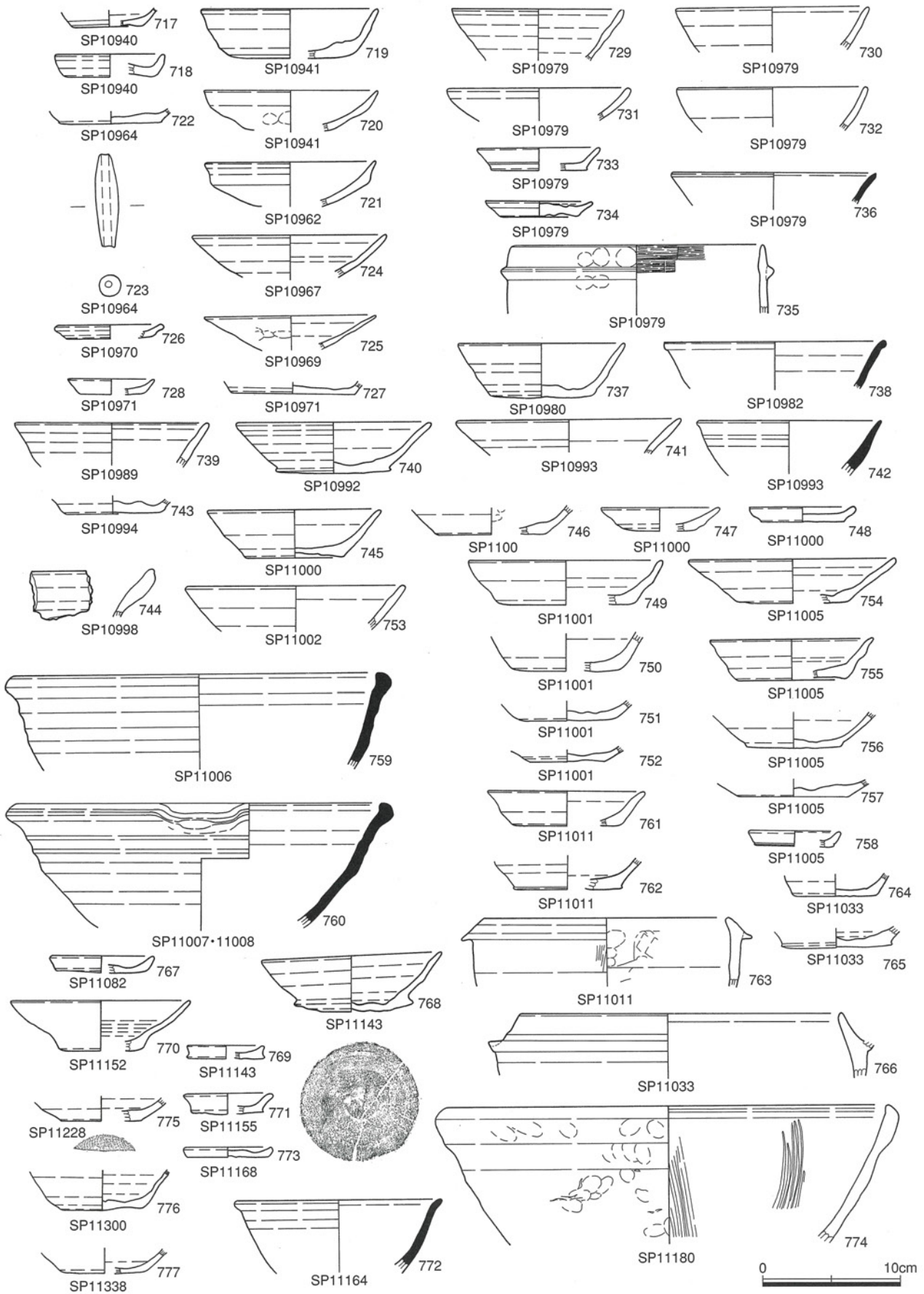
706は A2 調査区 S-19グリット SP10889から出土した土師質土器小皿である。底部にナデを施す。(第192図)

707～709は A2 調査区 S-19グリット SP10916から出土した土器である。707は土師質土器杯である。708・709は土師質土器小皿である。底部は708は回転ヘラ切り後ナデ。709はナデを施す。(第192図)

710は A2 調査区 S-19グリット SP10928から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第192図)

711～713は A2 調査区 S-19グリット SP10931から出土した土器である。711・712は土師質土器杯である。713は土師質土器小皿である。(第192図)

714～716は A2 調査区 S-20グリット SP10936から出土した土器である。714～716は土師質土器小皿



第193图 柱穴出土遺物実測図(2)

である。714・715は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第192図)

717・718はA2調査区T-20グリットSP10940から出土した土器である。717は土師質土器の杯で底部は回転ヘラ切りを施す。718は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。(第193図)

719・720はA2調査区S-20グリットSP10941から出土した土器である。719・720は土師質土器の杯である。720は手づくねの杯である。719は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第193図)

721はA2調査区T-19グリットSP10962から出土した手づくねの土師質土器杯である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第193図)

722・723はA2調査区T-19グリットSP10964から出土している。722は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。723は土師質土器紡錘車である。(第193図)

724はA2調査区S-19グリットSP10967から出土した土師質土器杯である。(第193図)

725はA2調査区S-19グリットSP10969から出土した土師質土器杯である。(第193図)

726はA2調査区S-18グリットSP10970から出土した土師質土器小皿である。(第193図)

727・728はA2調査区S-18グリットSP10971から出土した土器である。727は土師質土器杯、728は土師質土器小皿である。728は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第193図)

729～736はA2調査区T-19グリットSP10979から出土した土器である。729～732は土師質土器杯である。733・734は土師質土器小皿である。733・734は底部回転ヘラ切りを施す。735は土師質土器羽釜である。口縁端部は垂直に立ち上がり退化した鏝は垂直に伸びる。736は口禿げの白磁碗である。大宰府編年IX類にあたり、13世紀中から14世紀前半に位置づけられる。(第193図)

737はA2調査区T-19グリットSP10980から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。(第193図)

738はA2調査区S-19グリットSP10982から出土した西村系須恵器碗である。(第193図)

739はA2調査区T-19グリットSP10989から出土した土師質土器杯である。(第193図)

740はA2調査区T-20グリットSP10992から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第193図)

741・742はA2調査区T-20グリットSP10993から出土している。741は土師質土器杯、742は天目茶碗である。(第193図)

743はA2調査区T-20グリットSP10994から出土した土師質土器杯である。底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第193図)

744はA2調査区T-20グリットSP10998から出土した土師質土器鍋である。端部は丸く収め口縁部は外方に直線的に伸びる。(第193図)

745～748はA2調査区T-20グリットSP11000から出土した土器である。745・746は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。747・748は土師質土器小皿である。748は回転ヘラ切りを施す。(第193図)

749～752はA2調査区T-20グリットSP11001から出土している土師質土器杯である。750・751は回転ヘラ切り後ナデを施す。752は底部静止糸切りを施している。時期は中世後半に位置づけられる。(第193図)

753はA2調査区T-20グリットSP11002から出土した土師質土器杯である。(第193図)

754～758はA2調査区T-20グリットSP11005から出土した土器である。754～757は土師質土器杯である。754・756・757は底部回転ヘラ切りを施す。758は土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。(第193図)

759はA2調査区S-20グリットSP11006から出土した東播系こね鉢である。森田編年Ⅱ期第2段階に位置づけられる。(第193図)

760はA2調査区T-20グリットSP11007・11008から出土した東播系こね鉢である。森田編年Ⅱ期第2段階に位置づけられる。(第193図)

761～763はA2調査区T-20グリットSP11011から出土した。761・762は土師質土器杯である。761は底部回転ヘラ切り、762は回転ヘラ切り後ナデを施す。763は土師質土器羽釜である。(第193図)

764～766はA2調査区S-20グリットSP11033から出土した。764・765は土師質土器杯である。764は回転ヘラ切り、765は回転ヘラ切り後ナデを施す。766は土師質土器羽釜である。(第193図)

767はA2調査区S-2グリットSP11082から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。(第193図)

768・769はA2調査区T-2グリットSP11143から出土した。768は土師質土器杯で底部回転ヘラ切りを施す。769は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第193図)

770はA2調査区T-3グリットSP11152から出土した土師質土器杯である。(第193図)

771はA2調査区T-4グリットSP11155から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施している。(第193図)

772はA2調査区T-5グリットSP11164から出土した青磁碗である。(第193図)

773はA2調査区T-5グリットSP11168から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第193図)

774はA2調査区A-5グリットSP11180から出土した土師質土器播鉢である。口縁端部方形に収め口縁部は内側にやや拡張する。(第193図)

775はA2調査区B-6グリットSP11228から出土した土師質土器杯である。底部は静止糸切りを施す。時期は中世後半に位置づけられる。(第193図)

776はB4調査区B-13グリットSP11300から出土した土師質土器杯である。(第193図)

777はB4調査区C-14グリットSP11338から出土した土師質土器杯である。底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第193図)

778はB4調査区A-16グリットSP11402から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第194図)

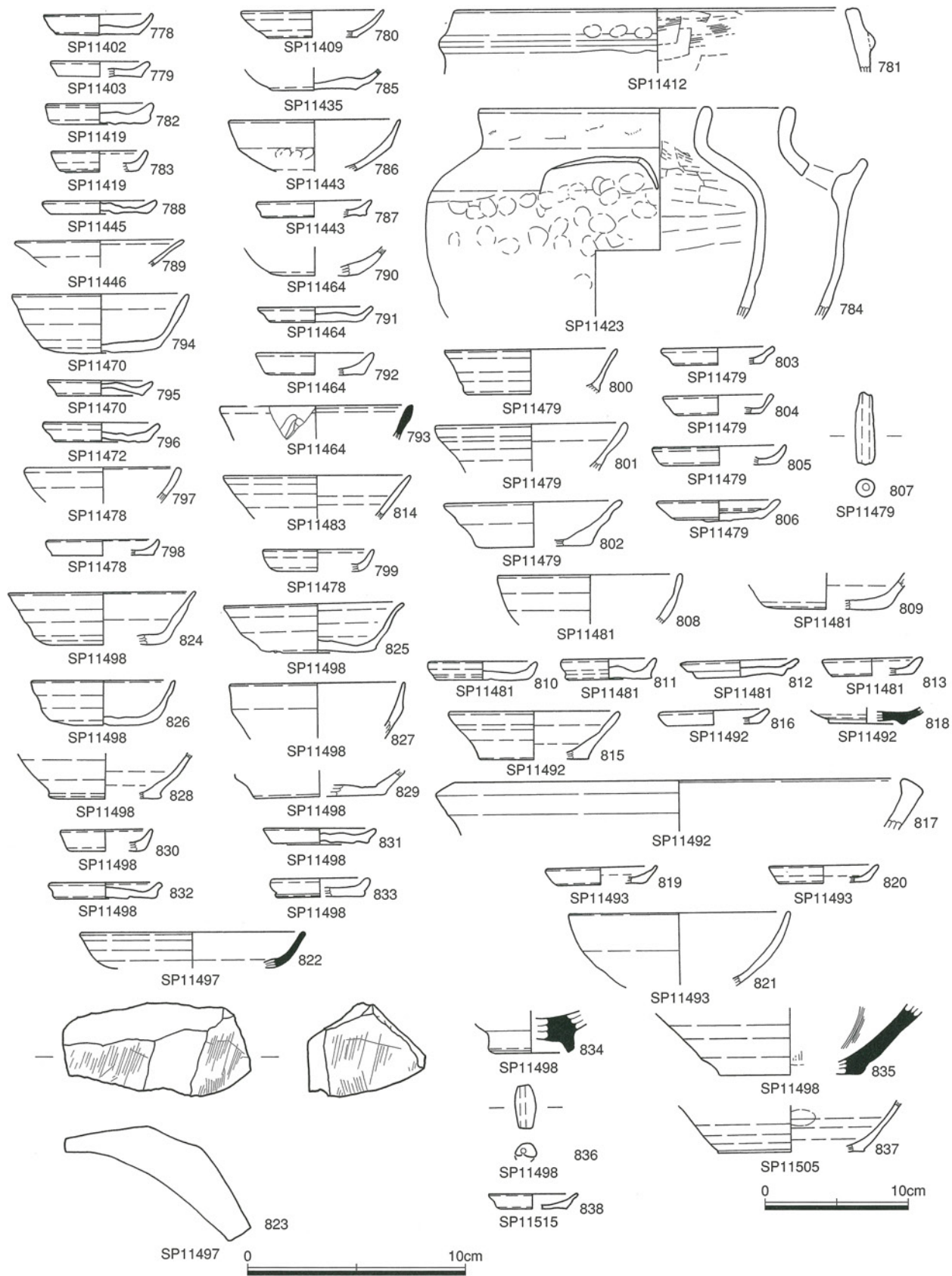
779はB4調査区A-16グリットSP11403から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第194図)

780はB4調査区A-16グリットSP11409から出土した土師質土器杯である。(第194図)

781はB4調査区A-16グリットSP11412から出土した土師質土器羽釜である。端部はやや内彎し退化した鏝はやや上向きに付く。(第194図)

782・783はB4調査区A-16グリットSP11419から出土した土器である。782は土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切り後ナデを施す。783は瓦器小皿である。(第194図)

784はB4調査区A-17グリットSP11423から出土した土師質土器茶釜である。(第194図)



第194図 柱穴出土遺物実測図(3)

785はB4調査区A-17グリットSP11435から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第194図)

786・787はB4調査区A-17グリットSP11443から出土した土器である。786は手づくねの土師質土器杯である。787は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第194図)

788はB4調査区A-15グリットSP11445から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第194図)

789はB4調査区A-16グリットSP11446から出土した土師質土器杯である。(第194図)

790～793はB4調査区A-16グリットSP11464から出土した。790は土師質土器杯である。791・792は土師質土器小皿である。791は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。793は龍泉窯系青磁碗で体部に蓮弁文を施す。大宰府編年I-5類にあたる。(第194図)

794・795はB4調査区A-17グリットSP11470から出土した土器である。794は土師質土器杯で底部回転ヘラ切り後ナデを施す。795は土師質土器小皿で底部回転ヘラ切りを施す。(第194図)

796はB4調査区A-17グリットSP11472から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第194図)

797～799はB4調査区A-17グリットSP11478から出土した土器で797は土師質土器杯である。798・799は土師質土器小皿である。798は底部回転ヘラ切りを施す。(第194図)

800～807はB4調査区A-17グリットSP11479から出土した土器である。800～802は土師質土器杯である。802は底部回転ヘラ切りを施す。803～806は土師質土器小皿である。804～806は底部回転ヘラ切りを施す。807は土師質土器の土錘である。(第194図)

808～813はB4調査区B-16グリットSP11481から出土した土器である。808・809は土師質土器杯である。809は底部回転ヘラ切りを施す。810～813は土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。(第194図)

814はB4調査区B-17グリットSP11483から出土した土師質土器杯である。(第194図)

815～818はB4調査区B-17グリットSP11492から出土した土器である。815は土師質土器杯である。底部回転ヘラ切りを施す。816は土師質土器小皿である。817は土師質土器こね鉢である。818は西村系須恵器碗である。(第194図)

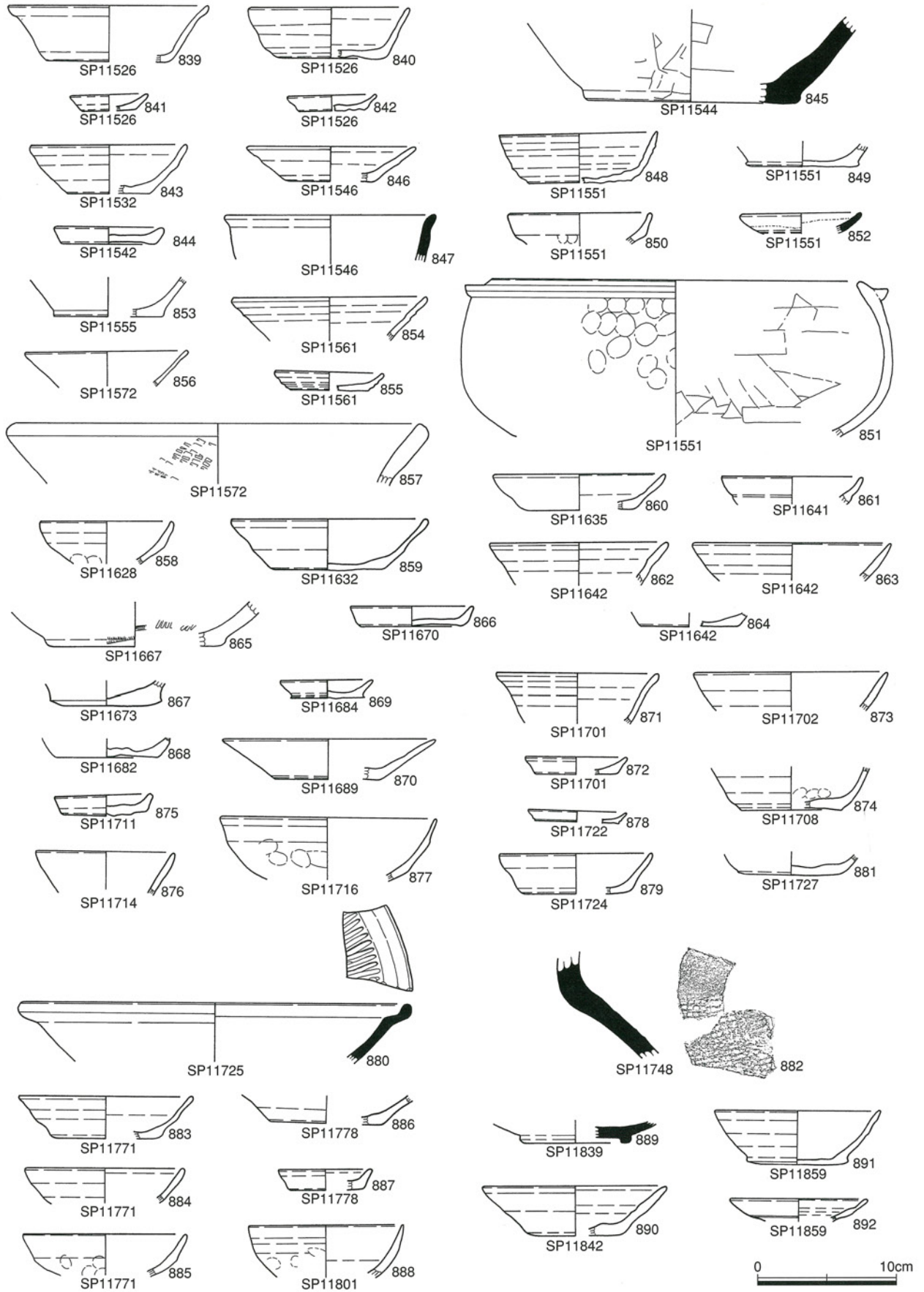
819～821はB4調査区B-15グリットSP11493から出土した土器である。819・820は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第194図)

822・823はB4調査区B-17グリットSP11497から出土した土器である。822は青磁皿である。823は砥石である。(第194図)

824～836はB4調査区B-17グリットSP11498から出土した土器である。824～829は土師質土器杯である。827は手づくねの杯である。825・829は底部回転ヘラ切り後ナデ、826は回転ヘラ切りを施す。830～833は土師質土器小皿である。底部は831・832は回転ヘラ切り、833は回転ヘラ切り後ナデを施す。834は白磁碗底部である。835は備前播鉢である。836は土師質土器紡錘車である。(第194図)

837はB4調査区B-17グリットSP11505から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第194図)

838はB4調査区B-17グリットSP11515から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切り



第195図 柱穴出土遺物実測図(4)

を施す。(第194図)

839～842はB4調査区B-17グリットSP11526から出土した土器である。839・840は土師質土器杯である。839は底部回転ヘラ切り、840は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。841・842は土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。(第195図)

843はB4調査区B-16グリットSP11532から出土した土師質土器杯である。底部回転ヘラ切りを施す。(第195図)

844はB4調査区B-14グリットSP11542から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。(第195図)

845はB4調査区B-16グリットSP11544から出土した備前播鉢である。(第195図)

846・847はB4調査区B-17グリットSP11546から出土した。846は土師質土器杯である。847は青磁碗である。(第195図)

848～852はB4調査区C-17グリットSP11551から出土した土器である。848～850は土師質土器杯である。850は手づくねの杯である。849は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。851は土師質土器羽釜、852は白磁皿である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第195図)

853はB4調査区C-17グリットSP11555から出土した土師質土器杯である。(第195図)

854・855はB4調査区C-18グリットSP11561から出土した土器である。854は土師質土器杯、855は土師質土器小皿である。(第195図)

856・857はB4調査区C-16グリットSP11572から出土した土器である。856は土師質土器杯である。857は瓦質土器鍋である。(第195図)

858はB4調査区C-15グリットSP11628から出土した土師質土器手づくねの杯である。(第195図)

859はB4調査区C-15グリットSP11632から出土した土師質土器杯である。底部回転ヘラ切りを施す。(第195図)

860はB4調査区C-15グリットSP11635から出土した土師質土器杯である。(第195図)

861はB4調査区C-16グリットSP11641から出土した土師質土器杯である。(第195図)

862～864はB4調査区C-16グリットSP11642から出土した土器である。862～864は土師質土器杯である。864は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第195図)

865はB4調査区C-17グリットSP11667から出土した土師質土器播鉢である。(第195図)

866はB4調査区C-18グリットSP11670から出土した土師質土器小皿である。(第195図)

867はB4調査区C-18グリットSP11673から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデである。(第195図)

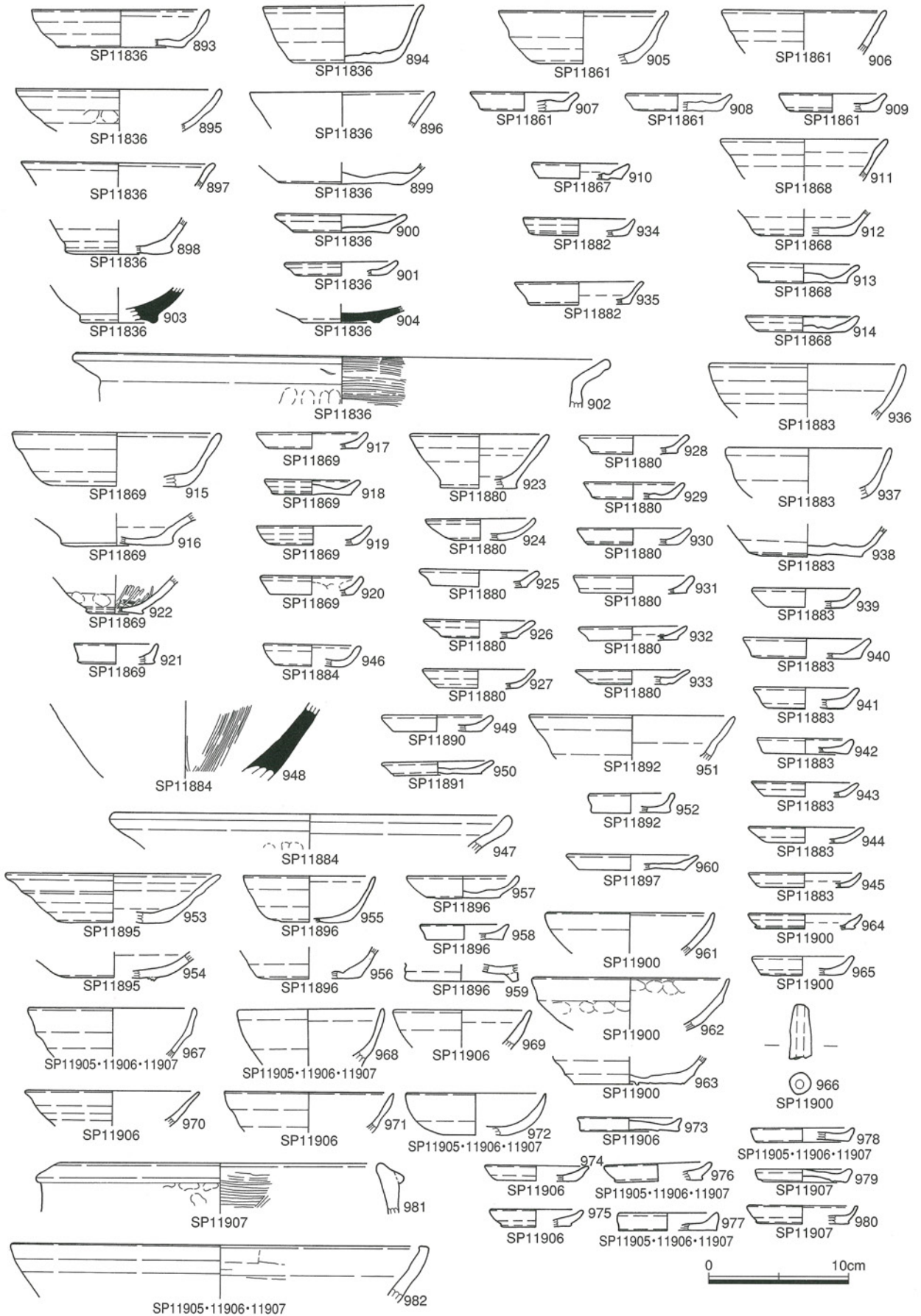
868はB4調査区D-17グリットSP11682から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデである。(第195図)

869はB4調査区D-17グリットSP11684から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第195図)

870はB4調査区D-17グリットSP11689から出土した土師質土器杯である。(第195図)

871・872はB4調査区D-17グリットSP11701から出土した土器である。871は土師質土器杯である。872は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りである。(第195図)

873はB4調査区D-17グリットSP11702から出土した土師質土器杯である。(第195図)



第196図 柱穴出土遺物実測図(5)

874は B4 調査区 D-16グリット SP11708から出土した土師質土器杯である。底部はナデを施している。(第195図)

875は B4 調査区 D-16グリット SP11711から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第195図)

876は B4 調査区 D-16グリット SP11714から出土した土師質土器杯である。(第195図)

877は B4 調査区 D-16グリット SP11716から出土した土師質土器手づくねの杯である。(第195図)

878は B4 調査区 D-16グリット SP11722から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。(第195図)

879は B4 調査区 D-15グリット SP11724から出土した土師質土器杯である。(第195図)

880は B4 調査区 C-15グリット SP11725から出土した青磁盤である。(第195図)

881は B4 調査区 D-15グリット SP11727から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後板ナデを施す。(第195図)

882は B4 調査区 D-15グリット SP11748から出土した須恵質土器甕の頸部である。体部外面には格子目タタキを施す。(第195図)

883～885は B4 調査区 D-17グリット SP11771から出土した土師質土器杯である。883は底部回転ヘラ切りを施す。885は手づくねの杯である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第195図)

886・887は B4 調査区 E-17グリット SP11778から出土した土器である。886は土師質土器杯である。887は土師質土器小皿で底部は回転ヘラ切りを施す。(第195図)

888は B4 調査区 E-16グリット SP11801から出土した土師質土器手づくねの杯である。(第195図)

889は A2 調査区 A-19グリット SP11839から出土した西村系須恵器椀である。(第195図)

890は A2 調査区 A-19グリット SP11842から出土した土師質土器杯で、底部回転ヘラ切りを施す。(第195図)

891・892は A2 調査区 A-20グリット SP11859から出土した土器である。891は土師質土器杯である。底部回転ヘラ切りである。892は土師質土器小皿である。(第195図)

893～904は A2 調査区 A-19グリット SP11836から出土した。893～899は土師質土器杯である。895は手づくねの杯で、底部は898・899は回転ヘラ切り後ナデを施す。900・901は土師質土器小皿である。底部は900が回転ヘラ切り後ナデ、901は回転ヘラ切りを施す。902は土師質土器鍋である。端部は方形に収め、口縁部は外方に直線的に伸びる。903は西村系須恵器椀である。904は瓦器椀である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第196図)

905～909は A2 調査区 A-20グリット SP11861から出土した。905・906は土師質土器杯である。907～909は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りである。(第196図)

910は A2 調査区 A-20グリット SP11867から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第196図)

911～914は A2 調査区 A-20グリット SP11868から出土している。911・912は土師質土器杯である。912は底部回転ヘラ切りを施す。913・914は土師質土器小皿である。913は回転ヘラ切りを施す。914は回転ヘラ切り後ナデを施す。(第196図)

915～922は A2 調査区 A-20グリット SP11869から出土した土器である。915・916は土師質土器杯

である。917～921は土師質土器小皿である。917～919は底部回転ヘラ切りである。922は瓦器椀である。体部内面には粗い暗文を施している。(第196図)

923～933は A 2 調査区 B-20グリット SP11880から出土した土器である。923は土師質土器杯である。924～933は土師質土器小皿である。底部は924～928・930・932・933が回転ヘラ切りである。929が回転ヘラ切り後ナデである。(第196図)

934・935は A 2 調査区 A-2グリット SP11882から出土した土師質土器小皿である。(第196図)

936～945は A 2 調査区 B-20グリット SP11883から出土した土器である。936～938は土師質土器杯である。938は底部回転ヘラ切りを施す。939～945は土師質土器小皿である。底部は939～942・944・945は回転ヘラ切りを施す。(第196図)

946～948は A 2 調査区 A-19グリット SP11884から出土した土器である。946は土師質土器小皿である。947は土師質土器鍋である。端部方形に収め口縁部は外方に直線的に開く。948は備前播鉢である。(第196図)

949は A 2 調査区 A-19グリット SP11890から出土した土師質土器小皿で、底部は回転ヘラ切りである。(第196図)

950は A 2 調査区 A-19グリット SP11891から出土した土師質土器小皿で底部回転ヘラ切りである。(第196図)

951・952は A 2 調査区 A-19グリット SP11892から出土した土器である。951は土師質土器杯である。952は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第196図)

953・954は A 2 調査区 A-19グリット SP11895から出土した土器である。953は土師質土器杯である。954は瓦器椀である。(第196図)

955～959は A 2 調査区 A-19グリット SP11896から出土した土器である。955・956は土師質土器杯である。957・958は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。959は土師質土器椀である。(第196図)

960は A 2 調査区 A-19グリット SP11897から出土した土師質土器小皿で、底部回転ヘラ切りを施す。(第196図)

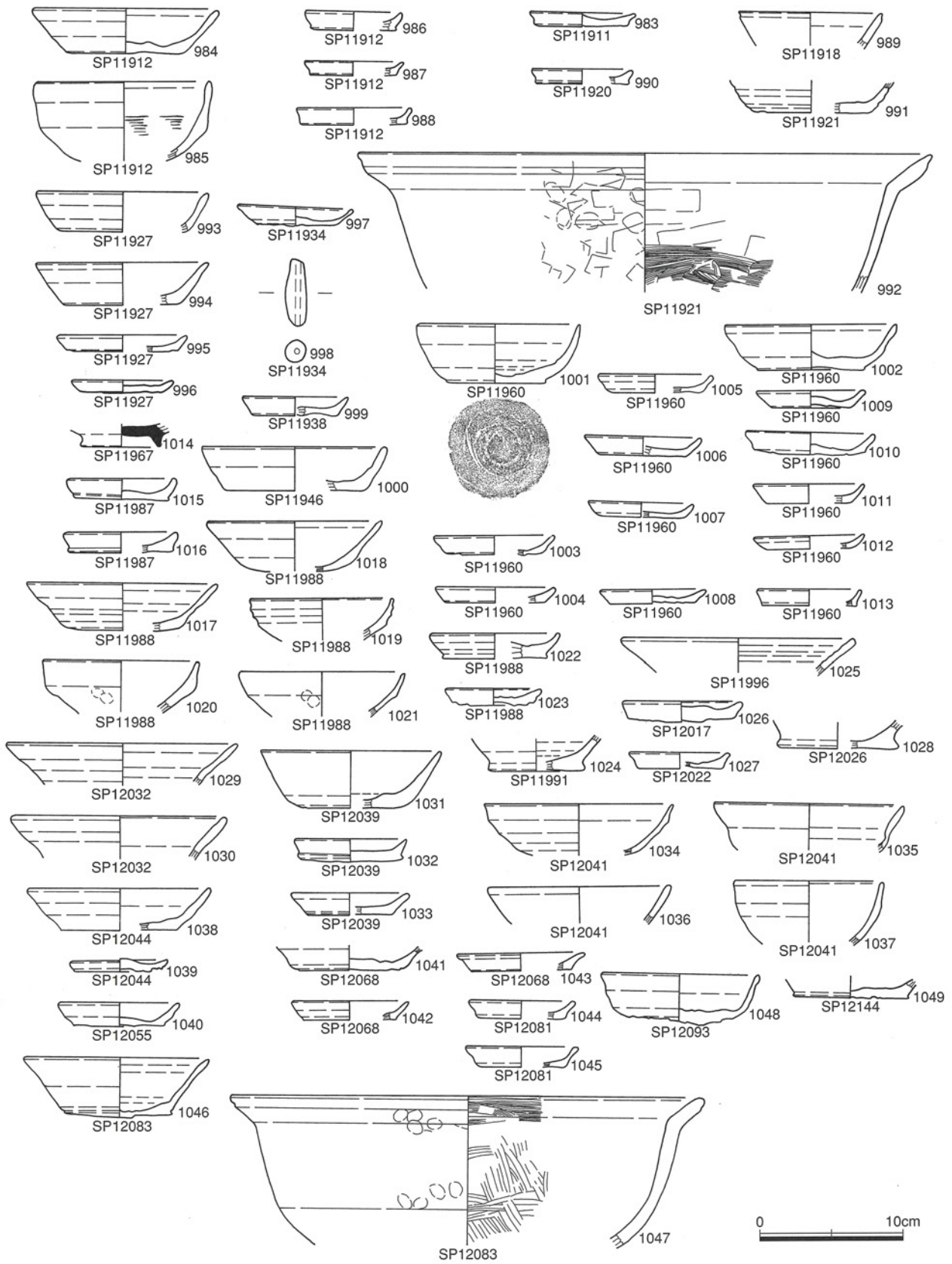
961～966は A 2 調査区 A-19グリット SP11900から出土した土器である。961～963は土師質土器杯である。962は手づくねの杯である。963は底部回転ヘラ切りを施す。964・965は土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りである。966は土師質の紡錘車である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第196図)

967～982は A 2 調査区 B-19グリット SP11905～11907から出土した土器である。967～972は土師質土器杯である。967は手づくねの土器である。973～980は土師質土器小皿である。底部は973・975～977・979が回転ヘラ切りである。981は土師質土器羽釜である。982は瓦質土器の鍋である。(第196図)

983は A 2 調査区 B-19グリット SP11911から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りである。(第197図)

984～988は A 2 調査区 B-19グリット SP11912から出土した土器である。984・985は土師質土器杯である。984は底部回転ヘラ切り、985は手づくねの杯である。986～988は土師質土器小皿である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第197図)

989は A 2 調査区 A-18グリット SP11918から出土した土師質土器杯である。(第197図)



第197図 柱穴出土遺物実測図(6)

990は A 2 調査区 B-18グリット SP11920から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りである。(第197図)

991・992は A 2 調査区 B-18グリット SP11921から出土した土器である。991は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りである。992は土師質土器鍋である。口縁端部は方形に収め口縁部は外方に屈曲する。(第197図)

993～996は A 2 調査区 B-18グリット SP11927から出土した土器である。993・994は土師質土器杯である。995・996は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りである。(第197図)

997・998は A 2 調査区 B-18グリット SP11934から出土した土器である。997は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。998は土師質土器紡錘車である。(第197図)

999は A 2 調査区 B-18グリット SP11938から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りである。(第197図)

1000は A 2 調査区 B-19グリット SP11946から出土した土師質土器杯である。(第197図)

1001～1013は A 2 調査区 B-20グリット SP11960から出土した土器である。1001・1002は土師質土器杯である。底部回転ヘラ切りを施す。1003～1013は土師質土器小皿である。1003～1005・1008～1011・1013は底部回転ヘラ切りである。(第197図)

1014は A 2 調査区 B-20グリット SP11967から出土した西村系須恵器椀である。(第197図)

1015・1016は A 2 調査区 B-18グリット SP11987から出土した土師質土器小皿である。1015は底部回転ヘラ切りを施す。(第197図)

1017～1023は A 2 調査区 B-19グリット SP11988から出土した土器である。1017～1021は土師質土器杯である。1019～1021は手づくねの杯である。1022・1023は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りである。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第197図)

1024は A 2 調査区 B-19グリット SP11991から出土した土師質土器杯である。底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第197図)

1025は A 2 調査区 B-19グリット SP11996から出土した土師質土器杯である。(第197図)

1026は A 2 調査区 B-20グリット SP12017から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。(第197図)

1027は A 2 調査区 B-20グリット SP12022から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。(第197図)

1028は A 2 調査区 B-19グリット SP12026から出土した土師質土器杯である。底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第197図)

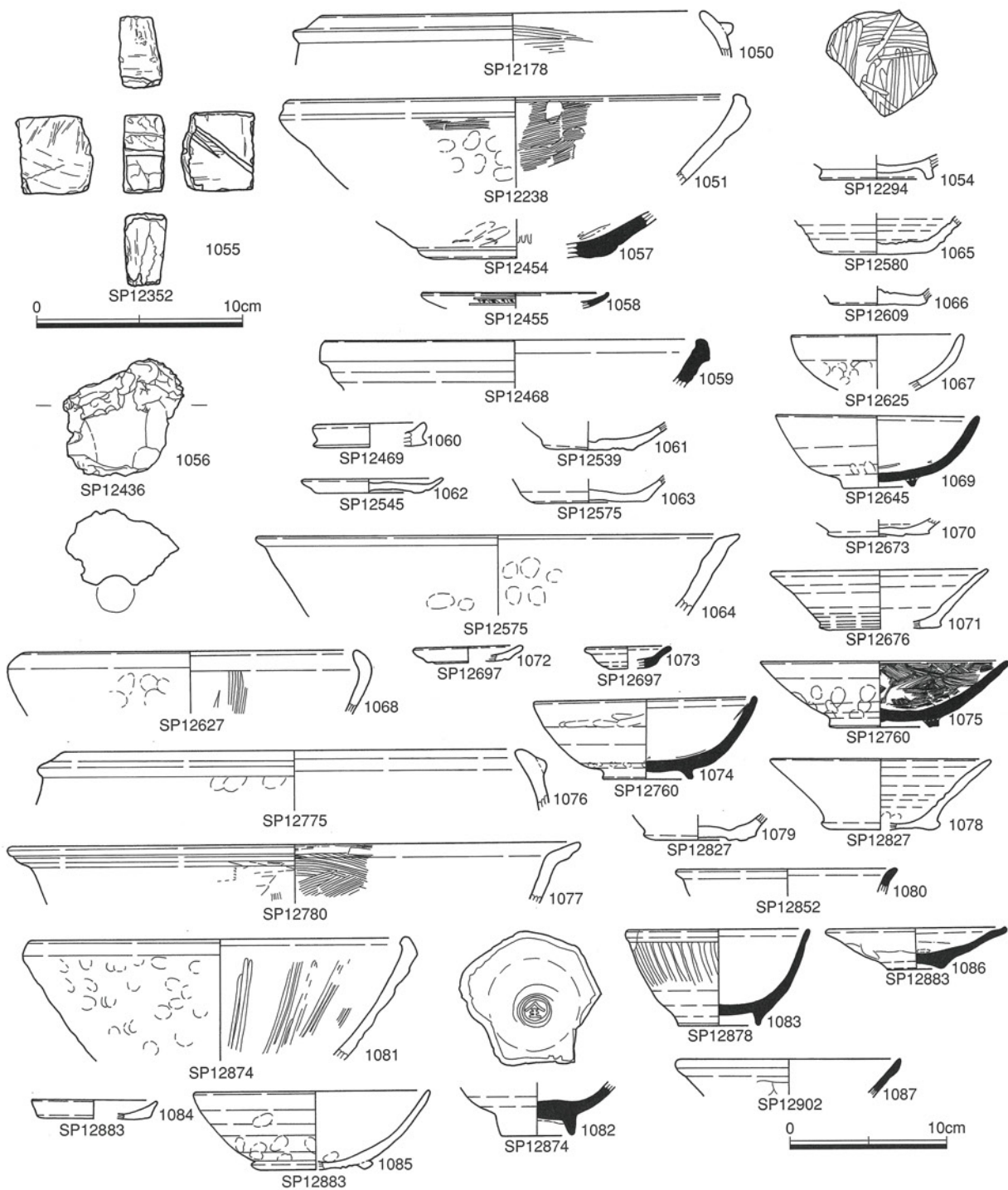
1029・1030は A 2 調査区 B-19グリット SP12032から出土した土師質土器杯である。(第197図)

1031～1033は A 2 調査区 B-18グリット SP12039から出土した土器である。1031は土師質土器杯である。底部回転ヘラ切り後ナデである。1032・1033は土師質土器小皿である。(第197図)

1034～1037は A 2 調査区 B-18グリット SP12041から出土した土師質土器杯である。1034・1037は手づくねの杯である。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第197図)

1038・1039は A 2 調査区 C-18グリット SP12044から出土した土器である。1038は土師質土器杯である。1039は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第197図)

1040は A 2 調査区 C-18グリット SP12055から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを



第198図 柱穴出土遺物実測図(7)

施す。(第197図)

1041～1043は A 2 調査区 C-20グリット SP12068から出土した土器である。1041は土師質土器杯で底部回転ヘラ切り後ナデを施す。1042・1043は土師質土器小皿で1042は底部回転ヘラ切りを施す。(第197図)

1044・1045は A 2 調査区 C-20グリット SP12081から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。(第197図)

1046・1047は A 2 調査区 S-9グリット SP12083から出土した土器である。1046は土師質土器の杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。1047は土師質土器鍋である。口縁端部は丸く収め口縁部はくの字状に外方に屈曲する。(第197図)

1048は A 2 調査区 C-19グリット SP12093から出土した土師質土器杯である。底部回転ヘラ切りを施す。(第197図)

1049は A 2 調査区 D-19グリット SP12144から出土した土師質土器杯である。底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第197図)

1050は A 2 調査区 A-3グリット SP12178から出土した土師質土器羽釜である。(第198図)

1051は A 2 調査区 B-2グリット SP12238から出土した土師質土器播鉢である。(第198図)

1052・1053は A 1 調査区 H-20グリット SP12263から出土した石臼である。(第199図)

1054は A 1 調査区 F-2グリット SP12294から出土した黒色土器椀である。内面に粗い暗文を施す。(第198図)

1055は A 1 調査区 D-5グリット SP12352から出土した砥石である。側面に砥面を持つ。(第198図)

1056は A 1 調査区 E-5グリット SP12436から出土した羽口である。(第198図)

1057は A 1 調査区 F-5グリット SP12454から出土した備前の播鉢である。(第198図)

1058は A 1 調査区 F-6グリット SP12455から出土した磁器皿である。(第198図)

1059は A 1 調査区 F-4グリット SP12468から出土した東播系須恵器こね鉢である。森田編年Ⅱ期第2段階にあたるものと思われる。(第198図)

1060は A 1 調査区 F-4グリット SP12469から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第198図)

1061は A 1 調査区 I-2グリット SP12539から出土した土師質土器杯である。底部回転ヘラ切りを施す。(第198図)

1062は A 1 調査区 H-2グリット SP12545から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第198図)

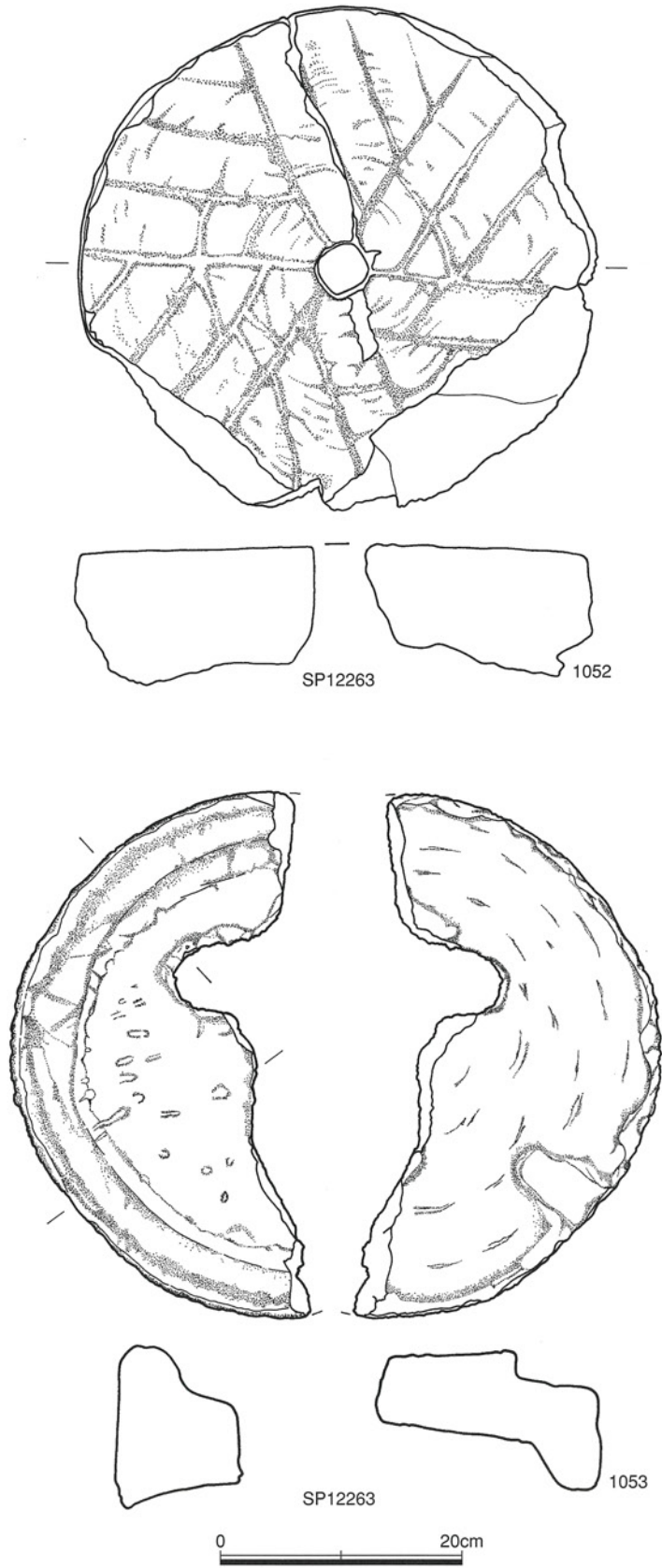
1063・1064は A 1 調査区 G-3グリット SP12575から出土した土器である。1063は土師質土器杯で底部回転ヘラ切りを施す。1064は土師質土器こね鉢である。(第198図)

1065は A 1 調査区 F-4グリット SP12580から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。(第198図)

1066は A 1 調査区 G-4グリット SP12609から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第198図)

1067は A 1 調査区 G-3グリット SP12625から出土した土師質土器手づくねの杯である。(第198図)

1068は A 1 調査区 G-3グリット SP12627から出土した土師質土器播鉢である。口縁端部は丸く収め



第199図 柱穴出土遺物実測図(8)

口縁部は内側に内彎する。(第198図)

1069は A 1 調査区 H-2 グリット SP12645から出土した西村系須恵器碗である。(第198図)

1070は A 1 調査区 I-2 グリット SP12673から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りである。(第198図)

1071は A 1 調査区 J-2 グリット SP12676から出土した土師質土器杯である。底部は板ナデ痕をとどめる。(第198図)

1072・1073は A 1 調査区 I-3 グリット SP12697から出土した土器である。1071は土師質土器小皿である。1073は陶器小皿である。(第198図)

1074・1075は A 1 調査区 G-5 グリット SP12760から出土した西村系須恵器碗である。(第198図)

1076は A 1 調査区 G-4 グリット SP12775から出土した土師質土器羽釜である。口縁端部と退化した鐔は丸く収め鐔はやや上向きに付く。(第198図)

1077は A 1 調査区 G-4 グリット SP12780から出土した土師質土器鍋である。口縁端部は丸く収め口縁部は外方へ直線的に伸びる。(第198図)

1078・1079は A 1 調査区 J-3 グリット SP12827から出土した土師質土器杯である。1078は底部回転ヘラ切りを施す。(第198図)

1080は A 1 調査区 H-4 グリット SP12852から出土した青磁碗である。(第198図)

1081・1082は A 1 調査区 I-4 グリット SP12874から出土した土器である。1081は土師質土器播鉢である。1082は青磁碗である。見込み部分にスタンプ文を施す。(第198図)

1083は A 1 調査区 I-4 グリット SP12878から出土した青磁碗である。体部外面に細蓮弁文を施す。龍泉窯系の青磁碗でⅢ-2類に位置づけられる。(第198図)

1084・1085は A 1 調査区 I-4 グリット SP12883から出土した土器である。1084は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。1085は土師質土器碗である。(第198図)

1087は A 1 調査区 Z-4 グリット SP12902から出土した白磁碗である。口縁部は玉緑状を呈し、大宰府編年Ⅳ期に位置づけられる。(第198図)

1088は A 1 調査区 I-4 グリット SP12888から出土した砥石である。(第200図)

1089は A 1 調査区 H-4 グリット SP12929から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第200図)

1090は A 1 調査区 H-5 グリット SP12954から出土した備前播鉢である。間壁編年Ⅳ期に位置づけられる。(第200図)

1091は A 1 調査区 G-5 グリット SP12963から出土した石錘である。(第200図)

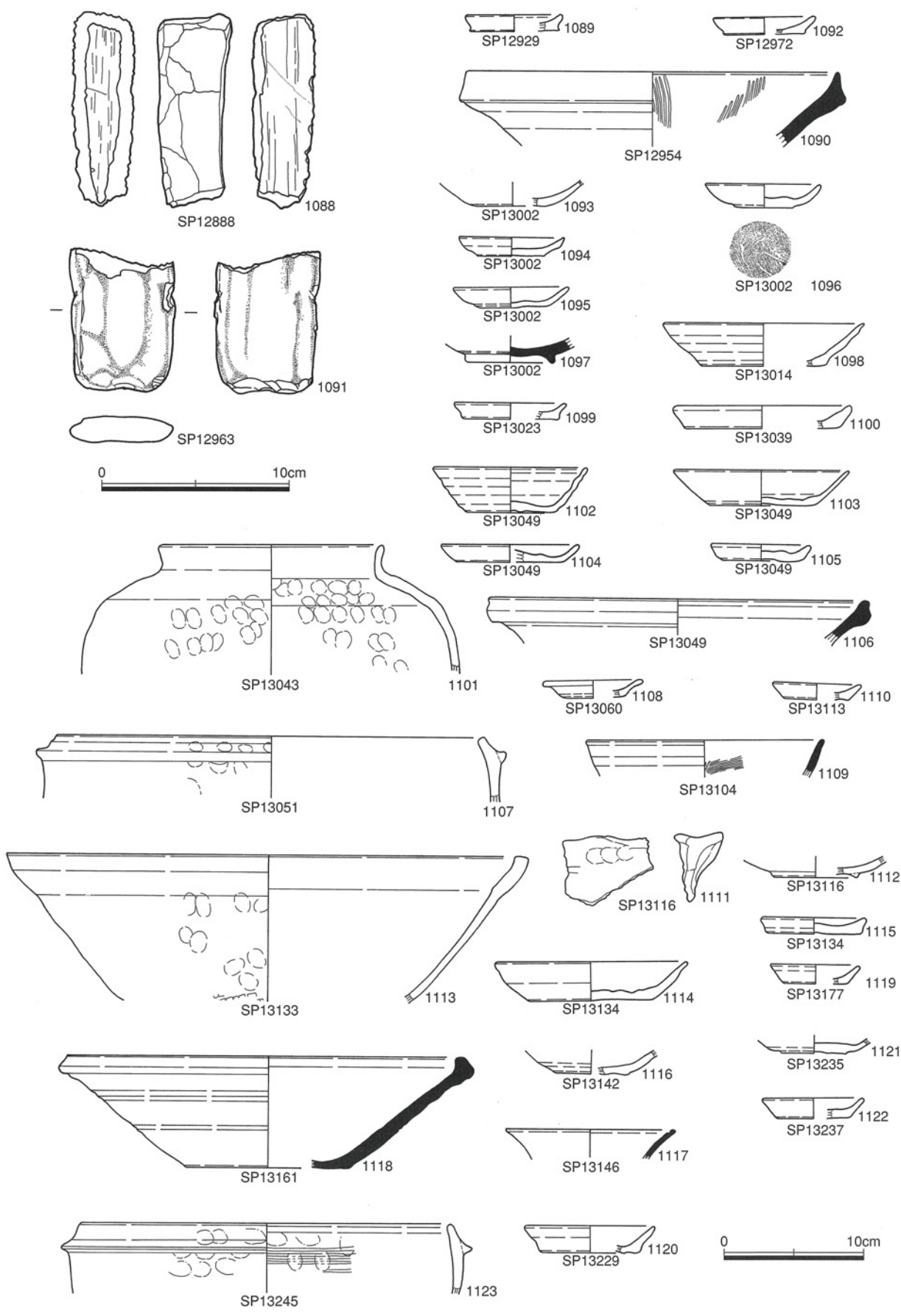
1092は A 1 調査区 G-5 グリット SP12972から出土した土師質土器小皿である。(第200図)

1093～1097は A 1 調査区 H-6 グリット SP13002から出土した土器である。1093は土師質土器杯である。1094～1096は土師質土器小皿である。1095・1096は底部静止糸切りである。1097は西村系須恵器碗である。時期は中世後半に位置づけられる。(第200図)

1098は A 1 調査区 F-7 グリット SP13014から出土した土師質土器杯である。(第200図)

1099は A 1 調査区 H-6 グリット SP13023から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第200図)

1100は A 1 調査区 H-5 グリット SP13039から出土した土師質土器小皿である。(第200図)



第200図 柱穴出土遺物実測図(9)

1101は A 1 調査区 H-6 グリット SP13043から出土した土師質土器茶釜である。(第200図)

1102~1106は A 1 調査区 I-6 グリット SP13049から出土している。1102・1103は土師質土器杯で底部回転ヘラ切りを施す。1104・1105は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りである。1106は東播系こね鉢である。森田編年Ⅱ期第2段階に位置づけられる。(第200図)

1107は A 1 調査区 I-5 グリット SP13051から出土した土師質土器羽釜である。(第200図)

1108は A 1 調査区 I-5 グリット SP13060から出土した土師質土器小皿である。(第200図)

1109は A 1 調査区 I-5 グリット SP13104から出土した西村系須恵器椀である。(第200図)

1110は A 1 調査区 I-5 グリット SP13113から出土した土師質土器小皿である。(第200図)

1111・1112は A 1 調査区 I-6 グリット SP13116から出土した土器である。1111は土師質土器鍋である。1112は黒色土器椀である。(第200図)

1113は A 1 調査区 I-5 グリット SP13133から出土した土師質土器鍋である。口縁部は直線的に外方に伸びている。(第200図)

1114・1115は A 1 調査区 I-5 グリット SP13134から出土した土器である。1114は土師質土器杯で底部は回転ヘラ切り後ナデを施す。1115は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第200図)

1116は A 1 調査区 I-5 グリット SP13142から出土した土師質土器杯である。底部は静止糸切りを施す。時期は中世後半に位置づけられる。(第200図)

1117は A 1 調査区 I-5 グリット SP13146から出土した白磁皿である。(第200図)

1118は A 1 調査区 I-5 グリット SP13161から出土した東播系須恵器こね鉢である。森田編年Ⅱ期第2段階に位置づけられる。(第200図)

1119は A 1 調査区 J-6 グリット SP13177から出土した土師質土器小皿である。(第200図)

1120は A 1 調査区 Z-4 グリット SP13229から出土した土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りである。(第200図)

1121は A 1 調査区 Z-4 グリット SP13235から出土した土師質土器杯である。底部は静止糸切りである。時期は中世後半に位置づけられる。(第200図)

1122は A 1 調査区 Z-4 グリット SP13237から出土した土師質土器小皿である。(第200図)

1123は A 1 調査区 K-4 グリット SP13245から出土した土師質土器羽釜である。罫は丸く収めやや退化し水平に伸びる。(第200図)

1124は A 1 調査区 Z-4 グリット SP13237・13238から出土した土師器の甕である。(第201図)

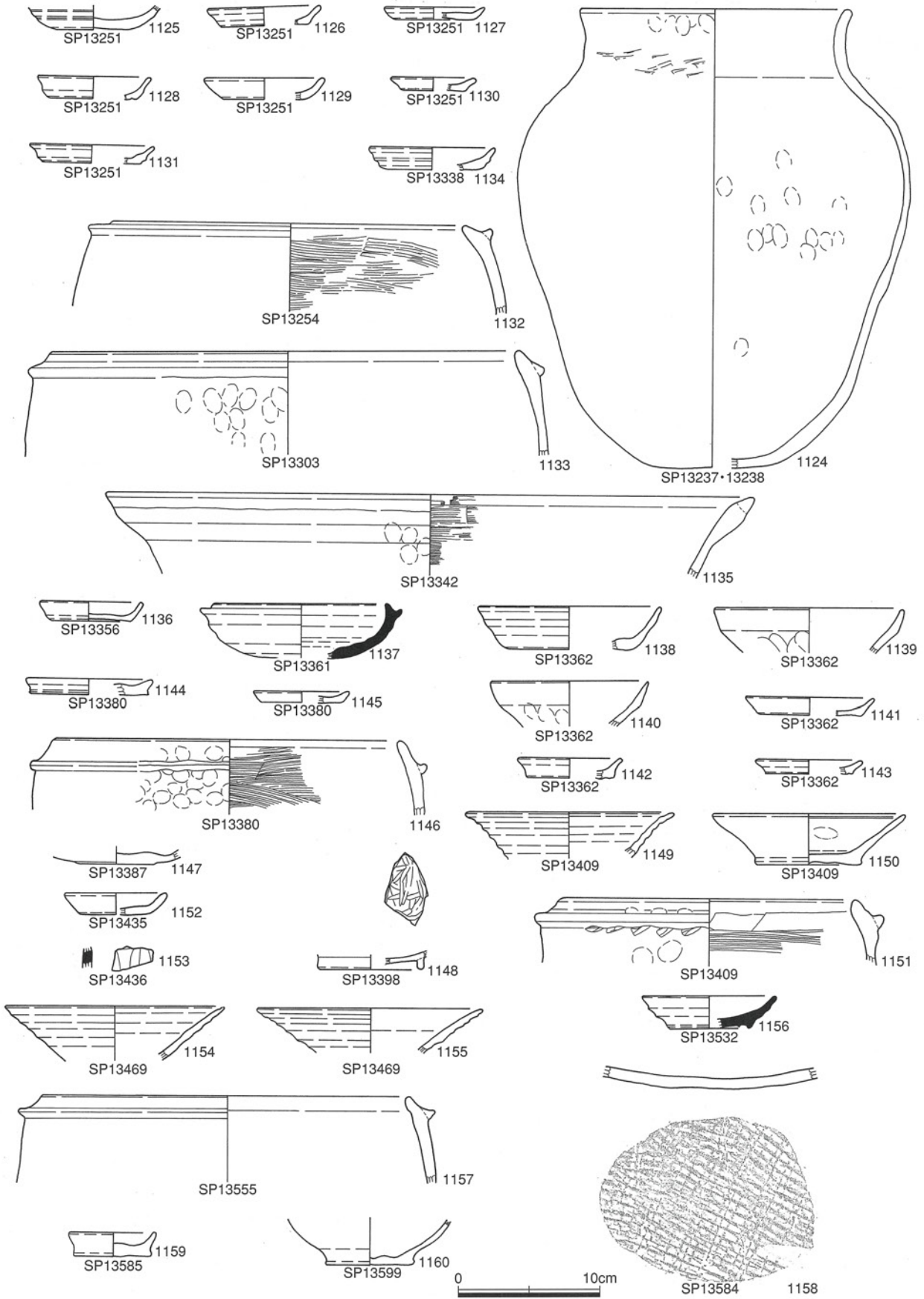
1125~1131は A 1 調査区 K-3 グリット SP13251から出土した土器である。1125は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。1126~1131は土師質土器小皿である。1129・1130は底部回転ヘラ切りである。(第201図)

1132は A 1 調査区 J-3 グリット SP13254から出土した土師質土器羽釜である。(第201図)

1133は A 1 調査区 K-4 グリット SP13303から出土した土師質土器羽釜である。罫は退化し水平に付く。(第201図)

1134は A 1 調査区 K-6 グリット SP13338から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第201図)

1135は A 1 調査区 K-5 グリット SP13342から出土した土師質土器鍋である。口縁部は丸く収め外方に直線的に立ち上がる。(第201図)



第201図 柱穴出土遺物実測図(10)

1136は A 1 調査区 K-4 グリット SP13356から出土した土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。(第201図)

1137は A 1 調査区 K-3 グリット SP13361から出土した須恵器杯身である。TK217段階に位置づけられる。(第201図)

1138～1143は A 1 調査区 K-3 グリット SP13362から出土した土器である。1138～1140は土師質土器杯である。1138は回転ヘラ切りを施す。1139・1140は手づくねの土師質土器杯である。1141～1143は土師質土器小皿である。底部は回転ヘラ切りを施す。時期は13世紀後半から14世紀代に位置づけられる。(第201図)

1144～1146は A 1 調査区 L-4 グリット SP13380から出土した土器である。1144・1145は土師質土器小皿で底部は回転ヘラ切りを施す。1146は土師質土器羽釜で口縁端部と鋳は丸く収め鋳は退化しやや上向きに付く。(第201図)

1147は A 1 調査区 K-4 グリット SP13387から出土した土師質土器杯である。底部は静止糸切りを施す。中世後半に位置づけられる。(第201図)

1148は A 1 調査区 K-4 グリット SP13398から出土した黒色土器碗である。(第201図)

1149～1151は A 1 調査区 K-5 グリット SP13409から出土した土器である。1149・1150は土師質土器杯である。1150は底部回転ヘラ切り後ナデを施す。1151は土師質土器羽釜である。(第201図)

1152は A 1 調査区 L-5 グリット SP13435から出土した土師質土器小皿で底部は回転ヘラ切りを施す。(第201図)

1153は A 1 調査区 L-6 グリット SP13436から出土した青磁碗である。体部外面は蓮弁文を施す。(第201図)

1154・1155は A 1 調査区 L-4 グリット SP13469から出土した土師質土器杯である。(第201図)

1156は A 1 調査区 M-3 グリット SP13532から出土した瀬戸焼の皿である。(第201図)

1157は A 1 調査区 L-5 グリット SP13555から出土した土師質土器羽釜である。(第201図)

1158は A 2 調査区 T-20グリット SP13584から出土した土師質土器羽釜体部片である。体部外面にタタキを施している。(第201図)

1159は A 2 調査区 T-20グリット SP13585から出土した土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。(第201図)

1160は B 4 調査区 R-16グリット SP13599から出土した土師質土器杯である。底部はナデを施す。(第201図)

1161は B 4 調査区 R-16グリット SP13612から出土した白磁皿である。(第202図)

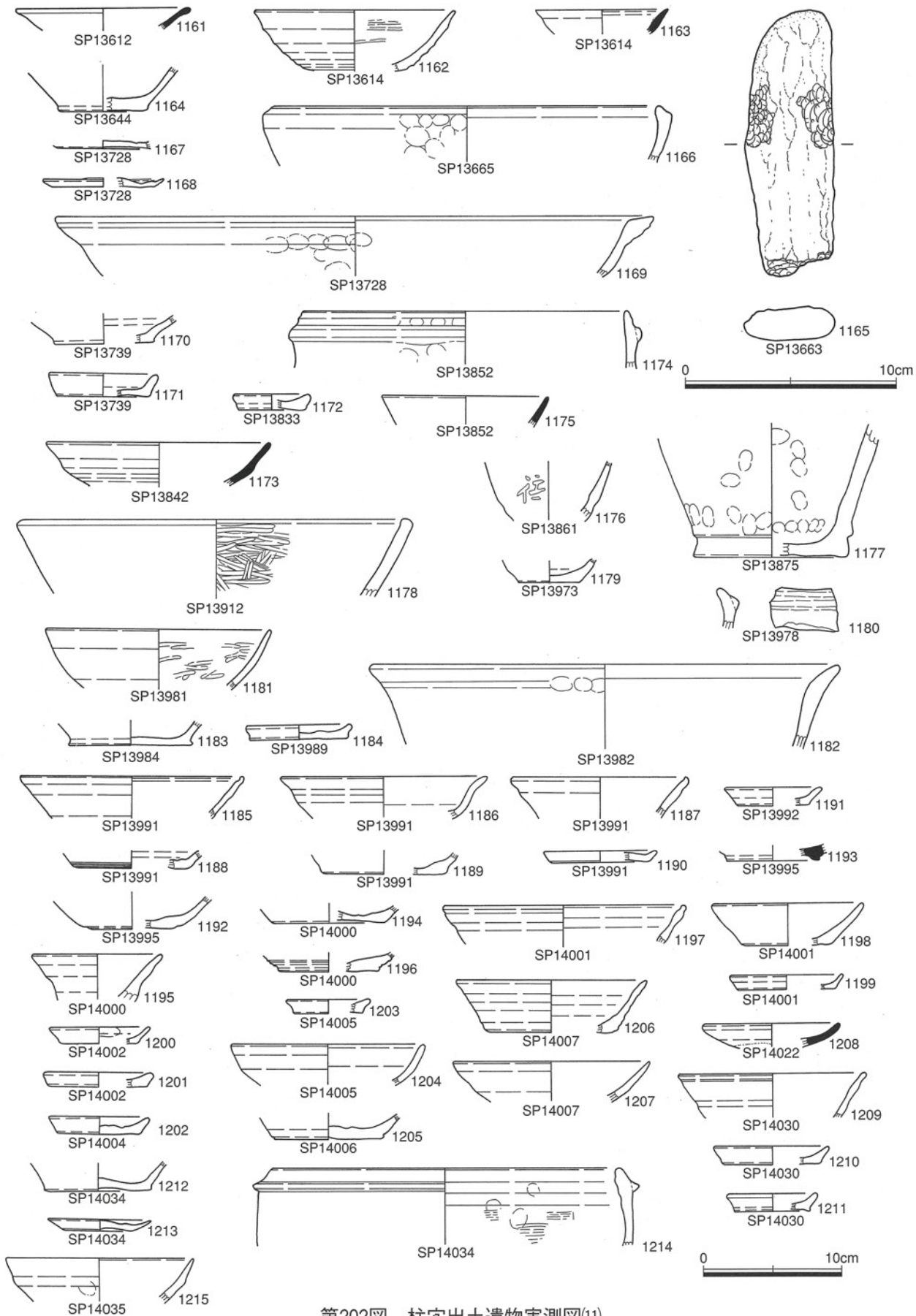
1162・1163は B 4 調査区 R-16グリット SP13614から出土した土器である。1162は土師質土器碗である。1163は白磁皿である。(第202図)

1164は B 4 調査区 R-16グリット SP13644から出土した土師質土器杯である。底部はナデを施す。(第202図)

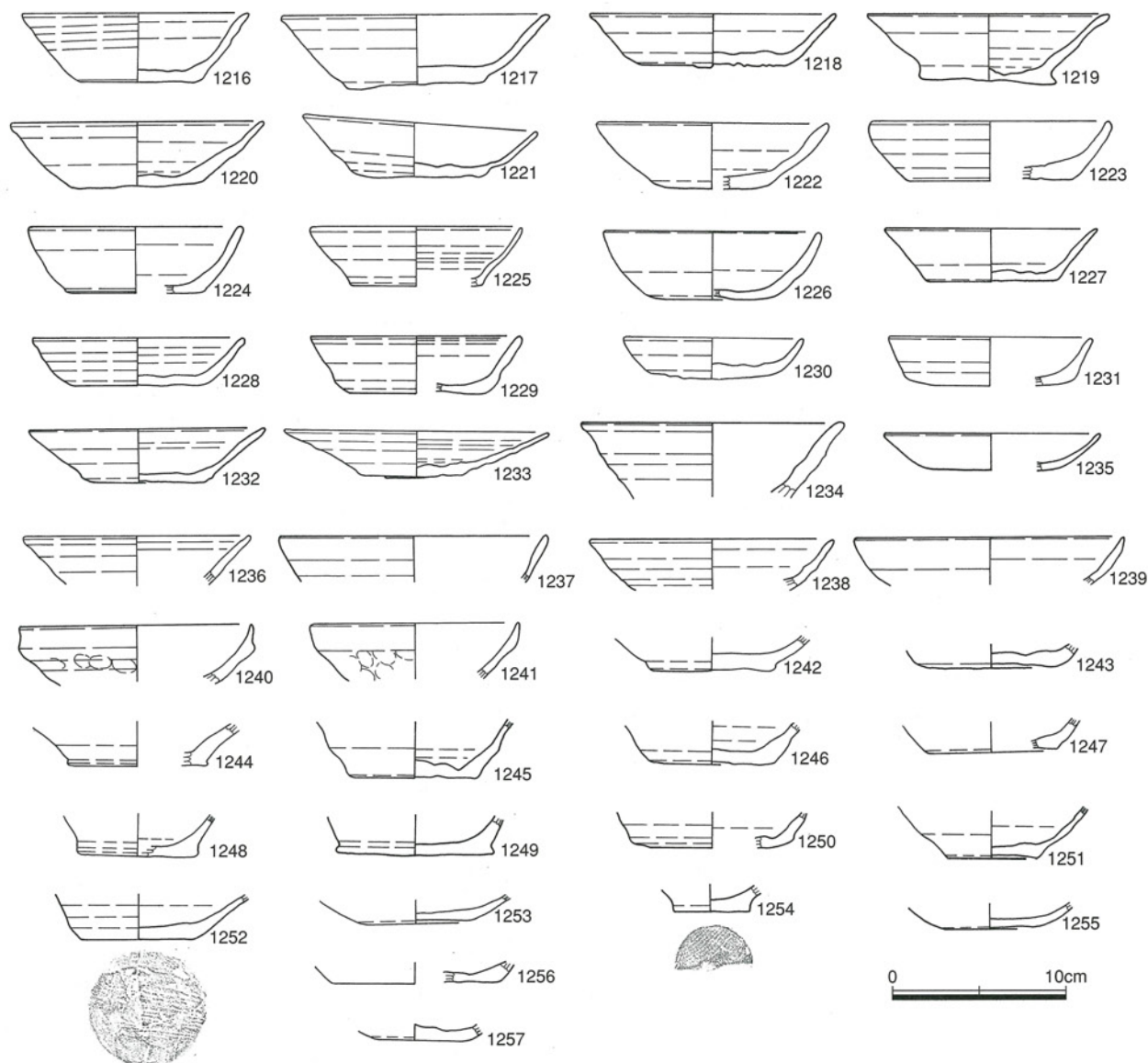
1165は A 2 調査区 C-2 グリット SD13663から出土した石器である。両側面にこう打痕を施す。(第202図)

1166は A 2 調査区 C-1 グリット SP13665から出土した土師質土器こね鉢である。(第202図)

1167～1169は A 2 調査区 C-20グリット SP13728から出土した土器である。1167・1168は土師質土器



第202図 柱穴出土遺物実測図(11)



第203図 包含層出土遺物実測図(1)

杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。1169は土師質土器鍋である。端部方形に収め口縁部は外方に立ち上がる。(第202図)

1170・1171はA2調査区C-1グリットSP13739から出土した土器である。1170は土師質土器杯である。底部回転ヘラ切りを施す。1171は土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。(第202図)

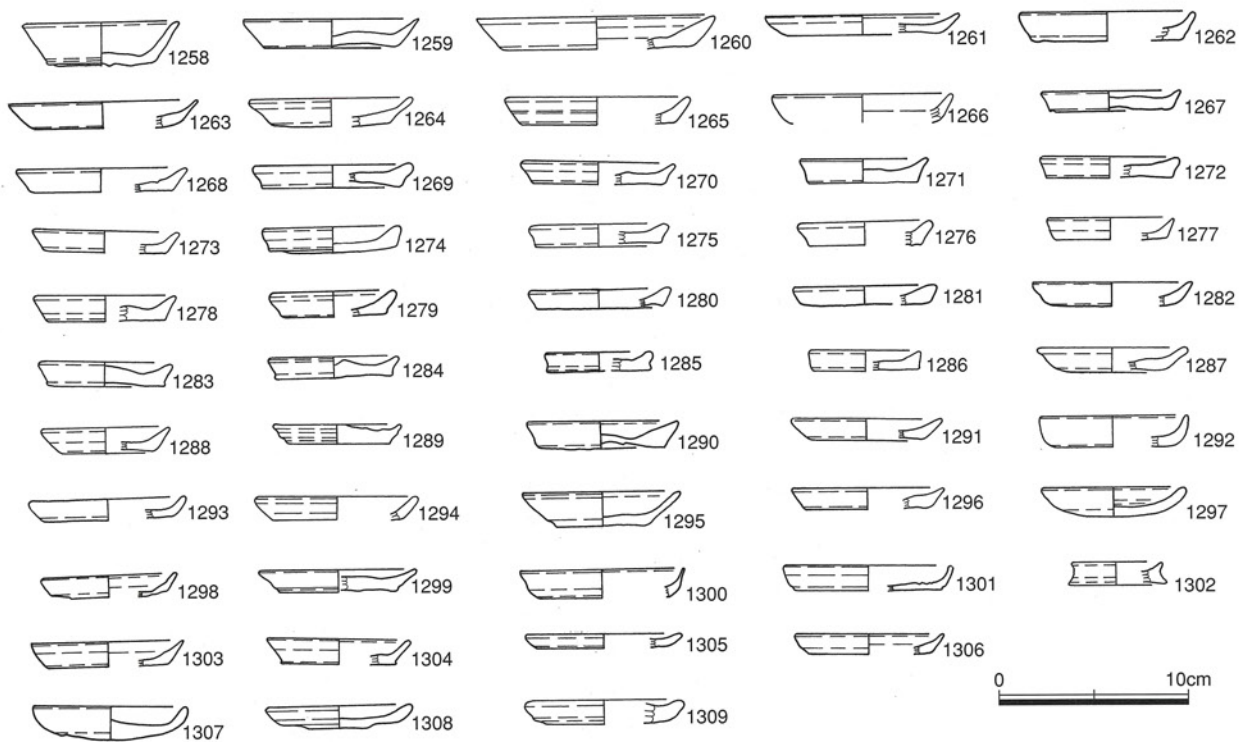
1172はA1調査区F-1グリットSP13833から出土した土師質土器小皿で底部は回転ヘラ切りを施す。(第202図)

1173はA1調査区F-グリットSP13842から出土した瓦器椀である。(第202図)

1174・1175はA1調査区E-1グリットSP13852から出土した土器である。1174は土師質土器羽釜である。1175は青磁碗である。(第202図)

1176はA1調査区D-7グリットSP13861から出土した土師質土器体部片である。体部外面には墨で書かれた文字が認められる。(第202図)

1177はA1調査区F-2グリットSP13875から出土した土師質土器底部片である。体部内外面には指



第204図 包含層出土遺物実測図(2)

頭圧痕が認められる。(第202図)

1178はA1調査区E-2グリットSP13912から出土した土師質土器鉢である。弥生土器鉢になる可能性を残す。(第202図)

1179はA1調査区J-6グリットSP13973から出土した土師質土器杯である。底部は静止糸切りを施す。時期は中世後期に位置づけられる。(第202図)

1180はA1調査区K-5グリットSP13978から出土した土師質土器羽釜である。(第202図)

1181はB4調査区R-17グリットSP13981から出土した黒色土器B類碗である。(第202図)

1182はA2調査区B-2グリットSP13982から出土した土師質土器鍋である。端部は丸く収め口縁部は外方に直線的に伸びる。(第202図)

1183はB4調査区B-17グリットSP13984から出土した土師質土器杯で底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第202図)

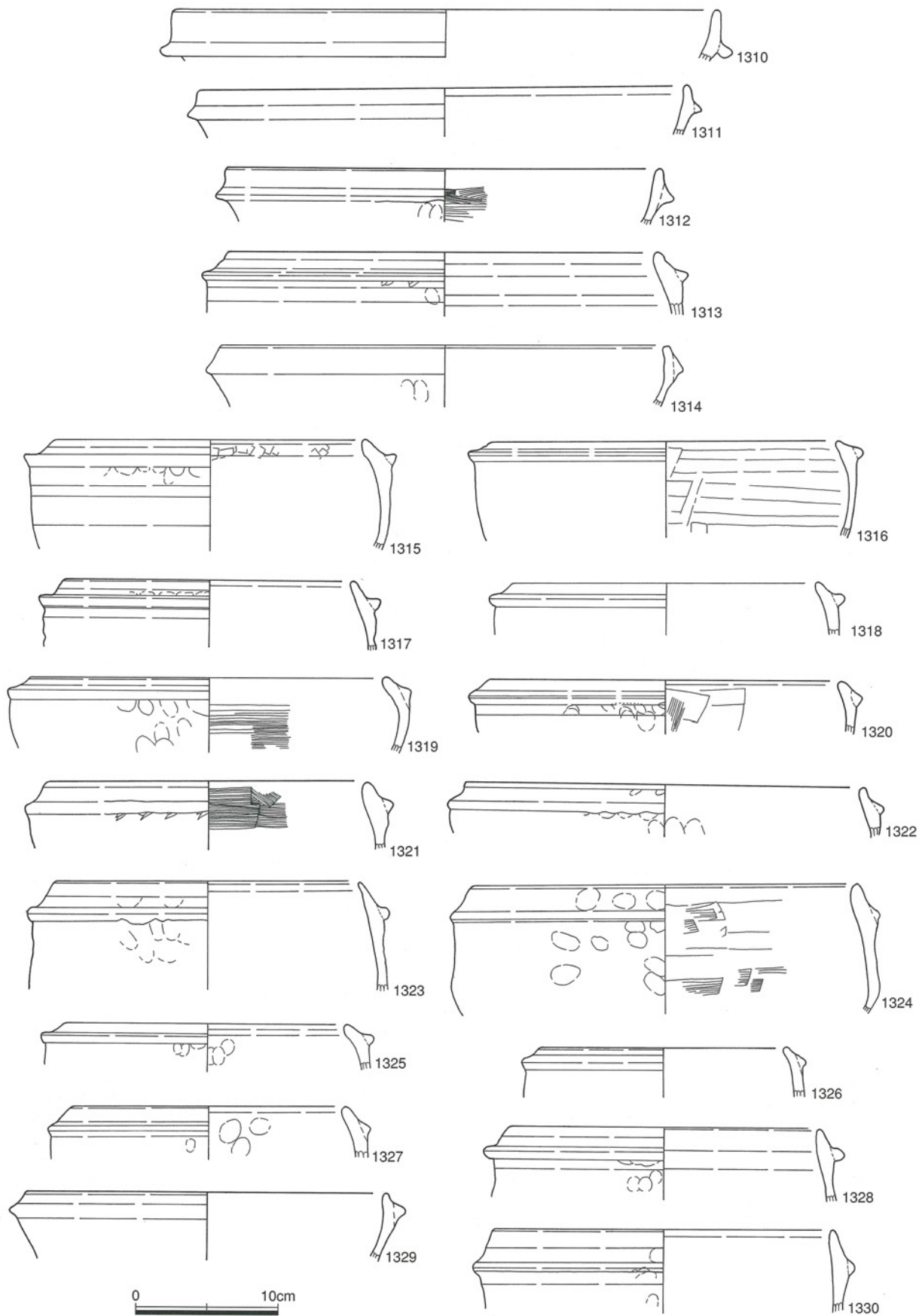
1184はB4調査区C-13グリットSP13989から出土した土師質土器小皿である。(第202図)

1185～1190はA2調査区A-19グリットSP13991から出土した土器である。1185～1189は土師質土器杯である。1185・1187は口縁端部をつまみ上げて丸く収める。1189は底部回転ヘラ切りを施す。1190は土師質土器小皿である。(第202図)

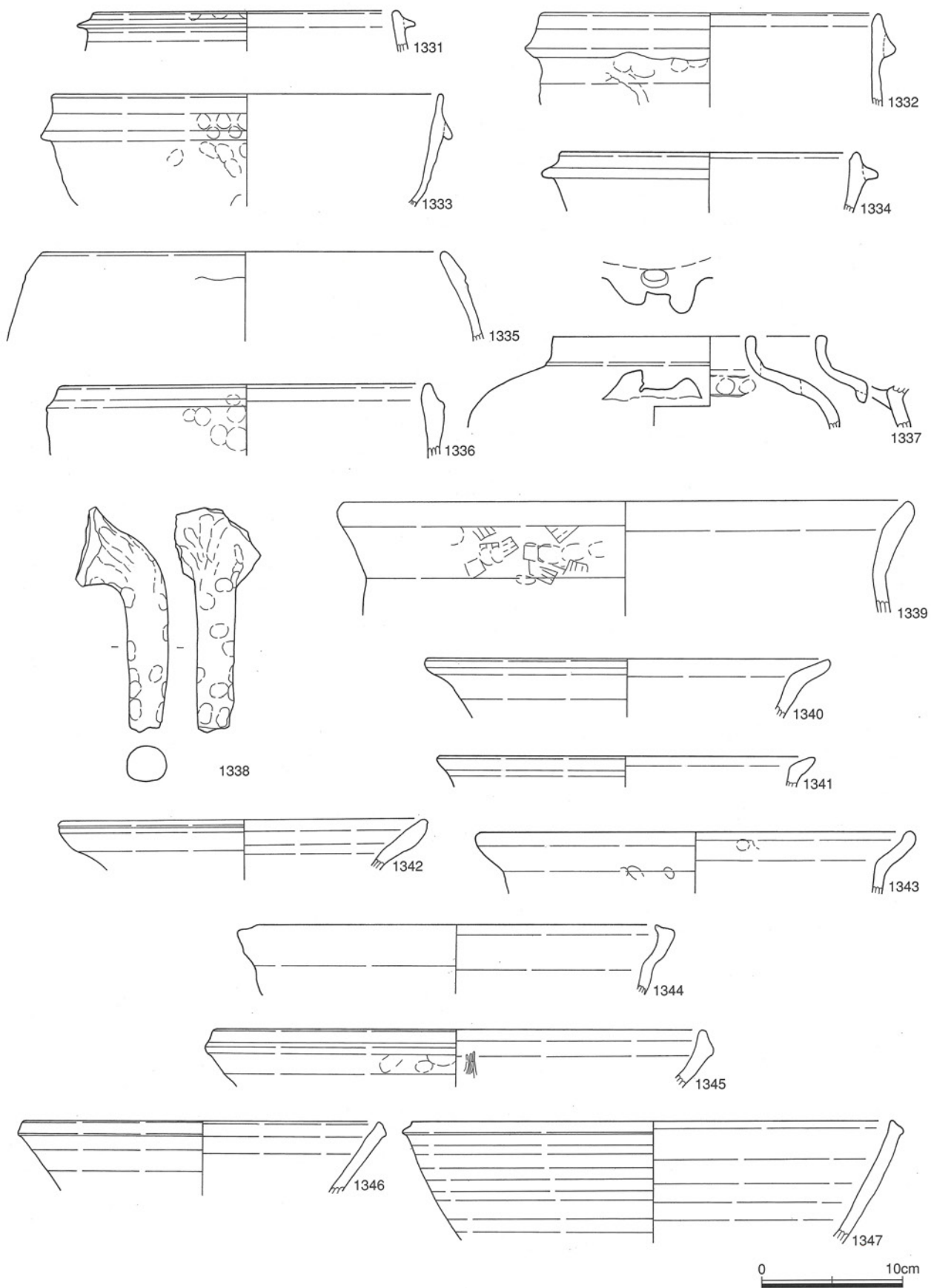
1191はA2調査区A-19グリットSP13992から出土した土師質土器小皿である。(第202図)

1192・1193はA2調査区T-19グリットSP13995から出土した土器である。1192は土師質土器杯である。底部は回転ヘラ切りを施す。1193は西村系須恵器碗である。(第202図)

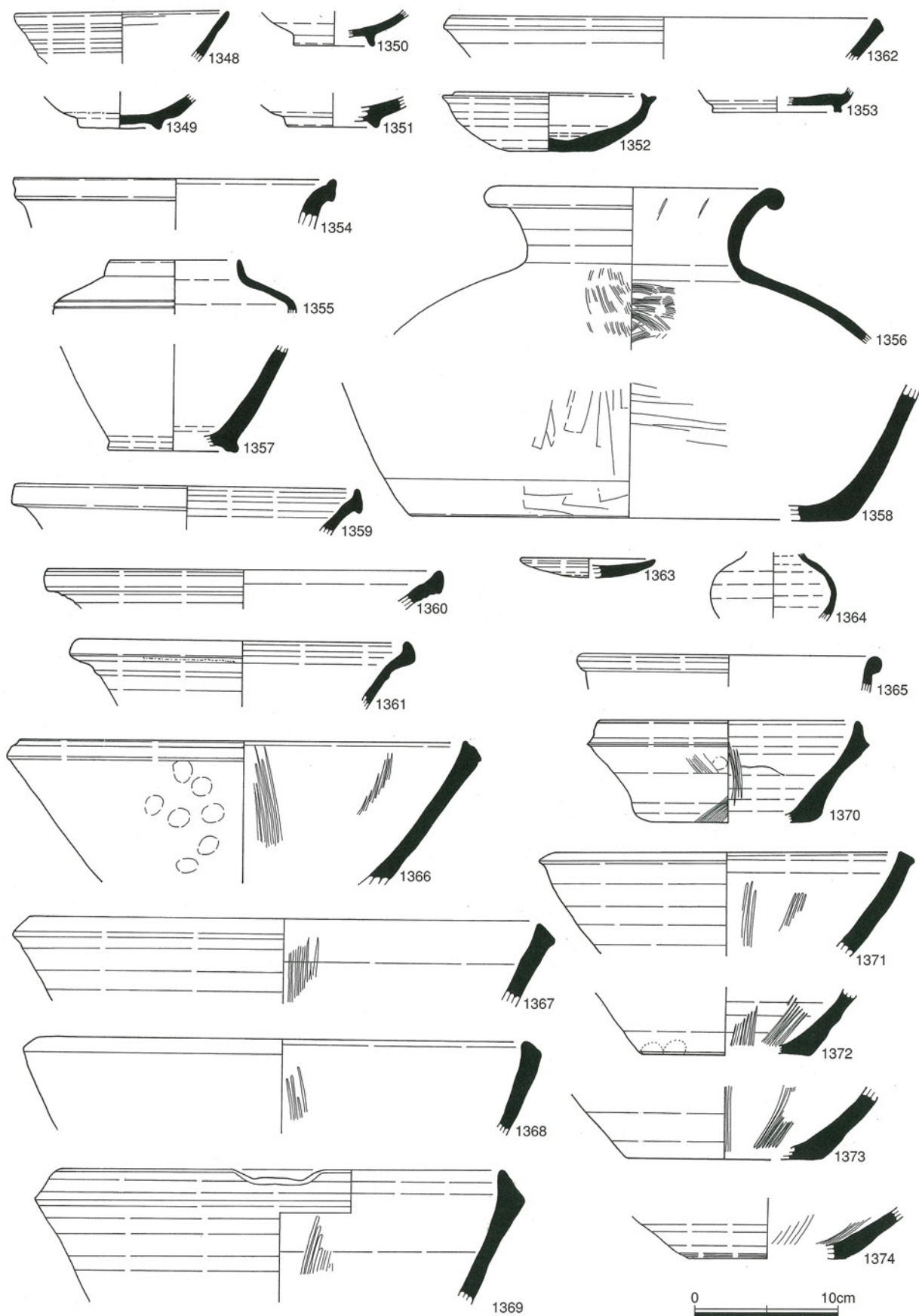
1194～1196はA1調査区A-20グリットSP14000から出土した土師質土器杯である。1194・1196は底部は回転ヘラ切りを施す。(第202図)



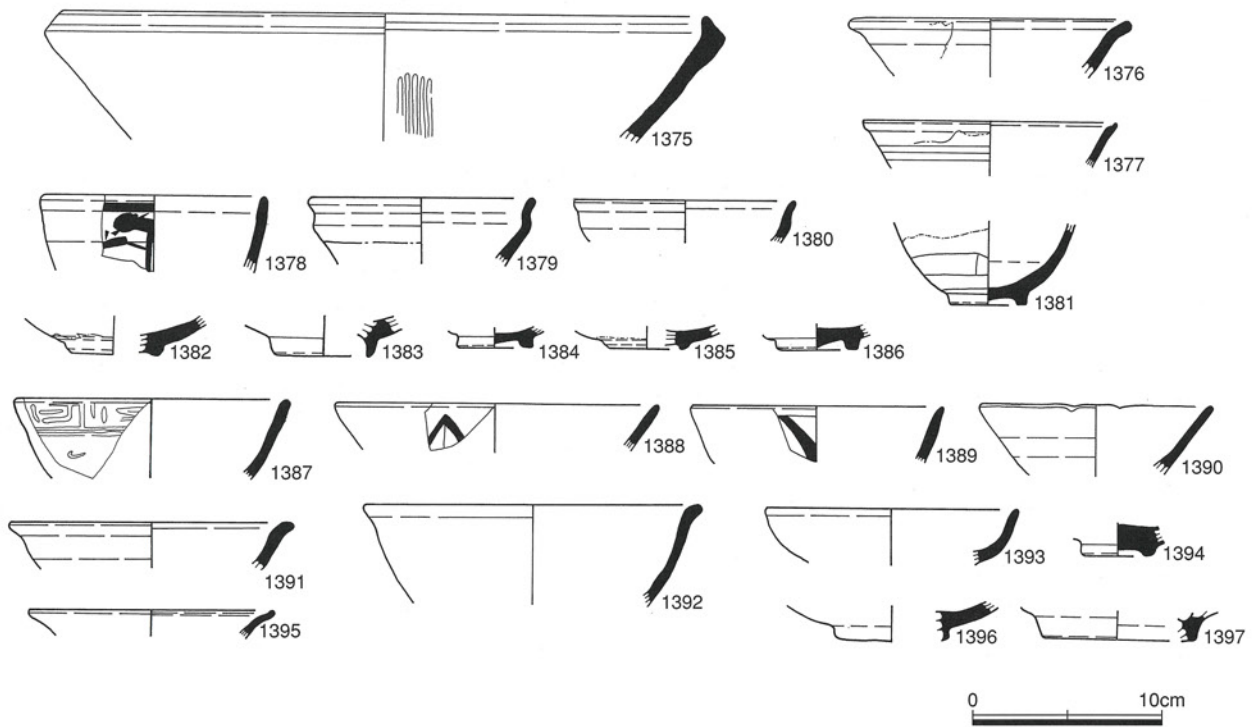
第205图 包含層出土遺物実測図(3)



第206図 包含層出土遺物実測図(4)



第207图 包含層出土遺物実測図(5)



第208図 包含層出土遺物実測図(6)

1197～1199はB4調査区A-16グリットSP14001から出土した土師質土器である。1197・1198は土師質土器杯である。1198は回転ヘラ切りを施す。1199は土師質土器小皿で底部回転ヘラ切りを施す。(第202図)

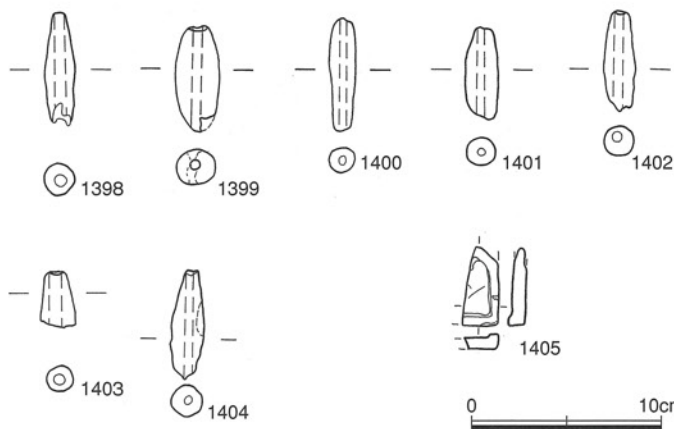
1200・1201はA1調査区A-20グリットSP14002から出土した土師質土器小皿である。(第202図)

1202はB4調査区D-16グリットSP14004から出土した土師質土器小皿で底部は回転ヘラ切りである。(第202図)

1203・1204はB4調査区D-16グリットSP14005から出土した土器である。1204は土師質土器杯である1203は土師質土器小皿である。(第202図)

1205はA2調査区C-1グリットSP14006から出土した土師質土器杯で底部回転ヘラ切り後ナデを施す。(第202図)

1206・1207はB4調査区A-17グリットSP14007から出土した土師質土器杯である。1206は底部回転ヘラ切りを施す。(第202図)



第209図 包含層出土遺物実測図(7)

1208はA1調査区K-15グリットSP14022から出土した白磁皿である。(第202図)

1209～1211はA2調査区A-20グリットSP14030から出土した。1209は土師質土器杯である。1210・1211は土師質土器小皿である。1210は底部回転ヘラ切りを施す。(第202図)

1212～1214はB4調査区A-17グリットSP14034から出土した土器である。

1212は土師質土器杯で底部回転ヘラ切りを施す。1213は土師質土器小皿である。底部回転ヘラ切りを施す。1214は土師質土器羽釜である。(第202図)

1215はB4調査区D-17グリットSP14035から出土した土師質土器手づくねの杯である。(第202図)

包含層出土遺物(第203・204・205・206・207・208・209図)

1216～1257は土師質土器の杯である。底部は1216～1221・1223・1224・1229～1231・1242・1246・1250・1256・1257が回転ヘラ切り、1222・1227・1228・1232・1243・1245・1246・1248・1249・1252は回転ヘラ切り後板ナデを施す。1233は底部ナデのみ、1251、1253～1255は静止糸切りを施す。(第203図)

1258～1309は土師質土器小皿である。1261・1262・1267～1275・1278・1280～1284・1287・1289・1290・1292・1296・1301・1302・1304・1306・1307・1309は底部回転ヘラ切り、1258・1259・1262・1299・1308は回転ヘラ切り後板ナデを施す。(第204図)

1310～1338は土師質土器羽釜である。体部外面には指頭圧痕をとどめ、内面は横方向の板ナデを施している。このうち口縁端部と鐙の部分を丸く収めるものが1310～1313・1315～1330・1332～1337で、方形に収めるのが1314・1331である。1335・1336は口縁部が直立気味に立ち鐙は微隆帯状を呈している。1337は口縁部が直立し体部が球形状を呈している土師質土器の茶釜である。1338は土師質土器三足羽釜の脚部である。(第205・206図)

1339～1344は土師質土器鍋である。1339～1342は口縁部が直線的に外方に伸びる。1343は口縁端部がやや内側に内彎する。1344は口縁部は外方に立ち上がるがやや内彎し受け口状を呈している。1345は土師質土器播鉢である。口縁端部は三角形状を呈している。1346・1347は土師質土器こね鉢である。口縁端部は方形に収めている。(第206図)

1348～1351は西村系須恵器碗である。1352は須恵器杯身である。1353は須恵器杯である。1354は須恵器甕である。1355・1356は須恵器壺である。1357・1358は須恵器甕底部片である。1359～1361は東播系須恵器こね鉢である。森田編年第Ⅱ期段階から第Ⅲ期1段階にあたるものと思われる。1362は瓦質こね鉢である。1363は備前焼灯明皿である。1364・1365は備前焼壺である。1366～1375は備前焼播鉢である。間壁編年のⅣ期にあたるものと思われる。1376・1377・1385は瀬戸焼の碗である。1378・1382は唐津焼である。1379～1381は天目茶碗である。1387～1394・1396は青磁碗である。1387は口縁部外面に雷文帯を施している。1388・1389は体部外面に蓮弁文を施している。龍泉窯系のⅠ-5類に位置づけられる。1395・1397は白磁碗である。(第207・208図)

1398～1404は土師質の土錘である。1405は硯である。(第209図)

参考文献

- 辻 芳伸 2000『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査15 円通寺遺跡』徳島県教育委員会・(財)徳島県埋蔵文化財センター・日本道路公団
- 間壁忠彦 1991『考古学ライブラリー 60 備前焼』ニューサイエンス社
- 片桐孝浩 1994「讃岐における中世前半の供膳具Ⅰ」『財団法人香川県埋蔵文化財センター研究紀要 Ⅱ』
- 森田 稔 1995「中世須恵器」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
- 横田賢次郎・森田 勉 1978「太宰府出土の輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』
- 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究 No.2』
- 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁碗の分類」『貿易陶磁研究 No.2』
- 立石賢志 1995「奈良火鉢」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会

IV まとめ

本遺跡は弥生時代から中世に渡る遺構・遺物の出土が認められた。しかし弥生時代の遺構は土坑1基と柱穴3基が検出されたのみである。弥生時代の遺構面は耕作土直下に存在しており遺構面の削平された可能性も考えられるが、遺構・遺物の出土状況からは長期間の定住が行われていたとは考えにくく短期間生活が行われていたものと思われる。しかし中世に入ると4,035基の柱穴を中心に土坑、溝、不明遺構等多数の遺構を検出し区画溝を伴う集落遺跡が確認された。柱穴は切り合い関係が多く、調査区内の所々で集中的に出土しており、これは同一地点による建て替えが何度も行われていることを示している。掘立柱建物跡は20～30年周期で建て替えが行われていると言われており、本遺跡の立地条件が吉野川の側に位置し雨風の影響をかなり受けていたものと考えられる。集落は大小の溝に区画された50軒の掘立柱建物跡で連続的に構成された集落形態を示し集村化した状況を示している。ここでは掘立柱建物跡を基にして本遺跡の集落規模、景観、変遷を述べてまとめとしたい。

本遺跡出土の掘立柱建物跡は図上復元により50軒確認することが出来た。しかし柱穴より出土した遺物は多く認められるが掘立柱建物跡からの出土遺物は少ない状況にある。時期の確定にあたっては当該期の在地土器の編年が確立していないことより円通寺遺跡で検討された土師質土器杯A、土師質土器杯C、搬入品を中心にして時期の決定を行っている。

掘立柱建物跡は出土遺物から見ると時期はおおよそ13世紀中頃、13世紀後半～14世紀代と15～16世紀の三つの時期に分かれる。時期の確定できる掘立柱建物跡を分けると以下のようになる。()内は時期決定の基準資料である。

13世紀中頃はSA1032(太宰府編年龍泉窯系青磁I-5類)、SA1037(太宰府編年龍泉窯系青磁I-5類)があてられる。

13世紀後半～14世紀代にかけての掘立柱建物跡はSA1004(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1012(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1015(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1016(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1019(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1020(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1027(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1029(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1031(太宰府編年白磁Ⅷ類)、SA1034(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1040(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1043(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1046(円通寺遺跡出土の杯A)、SA1047(円通寺遺跡出土の杯A)が確当する。

15～16世紀にかけての掘立柱建物跡はSA1007(円通寺遺跡出土の杯C)、SA1011(円通寺遺跡出土の杯C)、SA1013(円通寺遺跡出土の杯C)、SA1025(備前窯Ⅴ期)、SA1026(円通寺遺跡出土の杯C)、SA1028(円通寺遺跡の杯C)、SA1049(円通寺遺跡出土の杯C)があてられる。

区画を意図した大小の溝からは屋敷地をA1調査区とB4・A2(西側)調査区、A2(東側)調査区の3カ所に分けることができる。また、時期の確定が可能な遺構内出土遺物についてみると12世紀代～13世紀初めの遺物はA1調査区を中心にA2・B4調査区で若干認められる。13世紀後半～14世紀にかけての出土遺物はB4調査区を中心としてA1・B5調査区で一部出土している。また、15世紀にはいるとB4・A2調査区からA1調査区にまで出土遺物が広がっている。これを屋敷地事に分けてみるとB4・A2(西側)調査区では13世紀中～16世紀代、B5調査区13世紀後半～14世紀代、A2(東側)調査区では15～16世紀、A1調査区は12世紀代～13世紀初め、13世紀後半～16世紀代の遺構が検出されている。前述の掘立柱建物跡を屋敷地事に分けると以下のようになる。

13世紀中頃にはB4・A2（西側）調査区において当遺跡では最も大きな床面積109㎡を測るSA1037が現れる。これは建物の規模から考えて主屋になるものと思われる。同じ調査区西側にはSA1032があり副屋にあたる。納屋については当該期の遺構が確認できていないが、建物の規模からB4調査区南側に位置するSA1035・SA1038が確当する可能性がある。

13世紀後半～14世紀代になるとB4・A2（西側）調査区を中心に掘立柱建物跡は展開する。前段階のSA1037と同じ場所に建物の規模から考えて主屋にあたると思われるSA1027が新たに出現する。調査区の中でも最も柱穴の集中出土地点にあたるSA1027が検出された付近はSA1029、SA1031も重複して存在する。副屋についてはB4・A2（西側）調査区にSA1015、SA1019、SA1020、納屋にはSA1011、SA1034、SA1040、SA1043があたるものと思われる。B4・A2（西側）調査区の各柱穴からは13世紀後半～14世紀に渡る出土遺物が他の調査区よりも多く確認されており時期認定が出来なかった掘立柱建物跡についても当該期に収まる可能性は高いものと思われる。また、B5調査区からは同時期に位置づけられるSA1047が確認されているがB5調査区北側の区画溝の方向性がはっきりしていないため区画の範囲に不明瞭な点はあるが周辺の掘立柱建物跡には側柱式しか認められない事や、建物跡の規模から主屋にあたるものと思われる。また、B5調査区内の遺構内出土遺物は同時期の遺物が出土しておりSA1044、SA1045、SA1046、SA1048、SA1049、SA1050が建物跡の規模から納屋になる可能性が高いと思われる。

15～16世紀ではB4・A2（西側）調査区SA1013、A2（東側）調査区SA1026が建物跡の規模からは主屋になるものと思われる。副屋はB4・A2（西側）調査区ではSA1028、A1調査区はSA1011があたるものと思われる。納屋はA1調査区はSA1007、A2（東側）調査区SA1025がなるものと思われる。

次に区画を意図したと思われる溝はSD1001、SD1002、SD1005、SD1008、SD1009、SD1010、SX1010、SX1015、SX1016が考えられる。出土遺物から東播系のこね鉢、龍泉窯系青磁碗Ⅰ－5類の出土が認められ、このことより遅くとも13世紀中頃～14世紀代には区画溝は存在していたものと思われる。しかし埋没年代については指標となる遺物の出土は認められないが、区画溝内に位置する池状遺構SX1004からは静止糸切りの土師質土器杯（円通寺遺跡出土の杯C）、瓦質奈良火鉢深鉢Ⅰ、備前窯播鉢Ⅲ～Ⅳ期、龍泉窯青磁碗Ⅰ－5類が出土しており遺構の年代を13世紀後半～16世紀、またSA1025からは備前窯播鉢Ⅴ期の出土が認められる事から16世紀代に置くことが出来る。このことから区画溝についても周辺の遺構の状況から埋没時期を16世紀代におけるものと思われる。中世後期になると沖積低地においては板野町黒谷川宮ノ前遺跡、徳島市中島田遺跡等、周溝を伴う連続した屋敷地は散村から集村へ移行した段階と捉え、また、周溝は保水・取水・悪水抜き等の水利調節機能を兼ね備えていたといわれている。しかし、沖積地上の遺跡は洪水の影響を受けやすくさらに洪水の影響を受けにくい洪積台地上に集落を形成していくと考えられている。本遺跡の区画溝は遺跡の立地的条件、形状及び断面観察では水利調節機能を兼ね備えた溝というよりも屋敷地の区画のみを意図して掘られたものと思われる。立地的には段丘上に位置し、これは同じ段丘上の三好町円通寺遺跡（区画溝の稼働年代、13世紀後半～15世紀前半）、三好町土井遺跡（13世紀代）、市場町上喜来蛭子～中佐古遺跡（15世紀～16世紀）も同じような状況を呈している。

これらのことから段丘上に立地した本遺跡が13世紀中頃より区画溝を伴いながら16世紀に至るまで連続的に屋敷地を展開することが明らかとなった。吉野川下流域における当該期の沖積地上の区画溝を持

つ遺跡とは違った吉野川中流域における段丘上に位置した区画のみを意識した溝を伴う中世遺跡の一事例を提示できたものと思われる。

参考文献

- 大北和美 2001『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査19 土井遺跡』 徳島県教育委員会・(財)徳島県埋蔵文化財センター・日本道路公団
- 辻 芳伸 2000『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査15 円通寺遺跡』 徳島県教育委員会・(財)徳島県埋蔵文化財センター・日本道路公団
- 辻 芳伸 1994『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 7 上喜来～蛭子中佐古遺跡』 徳島県教育委員会・(財)徳島県埋蔵文化財センター・日本道路公団
- 早瀬隆人 1994『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 9 黒谷川宮ノ前遺跡』 徳島県教育委員会・(財)徳島県埋蔵文化財センター・日本道路公団
- 山下知之 1994『中島田遺跡Ⅱー都市計画道路常三島中島田線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー』 徳島県教育委員会
- 福家清司 1989『県道徳島鴨島線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中島田遺跡』 徳島県教育委員会
- 横田賢次郎・森田 勉 1978「太宰府出土の輸入陶磁器」『九州歴史資料館研究論集 4』
- 間壁忠彦 1991『考古学ライブラリー 60 備前焼』ニューサイエンス社
- 石尾和久 1993「中世低地集落の形成と展開」『ヒストリア』138号
- 石尾和久 1996「中世低地集落の変容」『鳴門史学』10集
- 立石賢志 1995「奈良火鉢」『概説 中世の土器・陶磁器』 中世土器研究会編

出土遺構・遺物観察表凡例

土器・陶磁器

- ・報告番号は本文中の遺物番号である。
- ・法量の（ ）は復元値を示す。
- ・成形・調整での手法の施される部位や方向について以下の略号の通りである。
内→内面、外→外面、口→口縁部、端→口縁端部、頸→頸部、体→体部、底→底部、縦→縦方向、
斜→斜め方向、横→横方向
- ・胎土は肉眼観察により判明した胎土中の鉱物を以下の略語で示している。
片→結晶片岩、長→長石、英→石英、雲→雲母、赤→赤色斑粒、砂→砂粒

土製品・石器・石製品・銭貨

- ・寸法の（ ）は現存値を示す。
- ・重量の（ ）は現存値を示す。

遺構

- ・掘建柱建物跡の（ ）は現存値を示す。規模の梁間・桁行は柱間の平均値を示す。
- ・遺構は土坑（SK）、溝（SD）、不明遺構（SX）、柱穴（SP）について遺物出土遺構について記載した。
- ・出土遺物欄で使用した主な略称は以下の通りである。
土→土師質土器、瓦→瓦器・瓦質土器、須→須恵器、東→東播系、備→備前窯、煮沸具→鍋、釜の体
部片もしくは底部片、黒色→黒色土器、伊→伊万里、唐→唐津、青→青磁、白→白磁

第2表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(1)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
1	SK1144 A1区	弥生土器壺	口径(23.5)	端部は上下に拡張し、口縁部は頸部より外反しながら立ち上がる。	口端外凹線2条。口外横ナデ。頸外凹線3条、口内横ハケ、横ケズリ。	石、赤、砂	内 橙色、にぶい黄褐色 外 橙色	口縁部に黒斑。
2	SK1144 A1区	弥生土器壺	体部最大径(36.2)	体部中位に最大径。頸部は外反気味に立ち上がる。	頸外指オサエ後ナデ後凹線4条。頸内指オサエ後横ケズリ。体内上指オサエ。体内下縦ケズリ。	石、赤、砂	内外 橙色	
3	SK1144 A1区	弥生土器壺	口径9.5	端部方形に収め、口縁部は緩やかに外反しながら立ち上がる。	口頸内外横ナデ。頸外凹線5条。	石、雲、赤	内外 橙色	
4	SK1144 A1区	弥生土器甕	口径(14.5)	端部は上方に拡張し丸く収める。口縁部は頸部より「く」の字状に外反する。	口外凹線3条。体外縦ハケメ。口内横ナデ。	石、雲、片、長、赤、砂 やや軟質	内外 橙色	体部外面に黒斑。煤附着。
5	SK1144 A1区	弥生土器甕	口径(11.0)	端部上下に拡張し、方形に収める。頸部は「く」の字状に外反し、体部は内彎しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体内外板ナデ。	石、雲、片 良好	内 褐色 外 赤褐色	
6	SK1144 A1区	弥生土器甕	口径(15.0)	口縁端部上下に拡張し、口縁部は「く」の字状に外反し外方に開く。	口端内外横ナデ。体外縦ハケ。体内指オサエ後ナデ。	石、雲、赤、良好	内 明赤褐色 外 にぶい橙色	黒斑。
7	SK1144 A1区	弥生土器壺		体部中位に最大径。体部は内彎気味に立ち上がる。	体外縦ハケメ。体内ナデ。	石、雲、赤、長	内 にぶい黄褐色 外 明褐色	
8	SK1144 A1区	弥生土器甕	底径(11.0)	底部平底。体部は中位に向かい直線的に外方に向かう。	体外ミガキ。体内指オサエ後ケズリ。	石、雲、片 良好	内 褐灰色 外 黒褐色	
9	SK1144 A1区	弥生土器壺	底径(10.0)	底部平底。	体内外磨滅のため調整不明。	石、片、赤	内 にぶい橙色 外 明赤褐色	
10	SK1144 A1区	弥生土器甕	底径(7.0)	体部は底部より外反しながら立ち上がる。	体外縦ミガキ。体内ナデ。	石、雲	内外 橙色	
11	SP13249 A1区	弥生土器甕	口径(14.5)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口内外ナデ。体外縦ハケ。体内指オサエ後ナデ。	石、長、片、赤 やや軟質	内外 橙色	
12	SP13295 A1区	弥生土器壺	口径(14.0)	端部方形に収め上方にやや拡張する。口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、赤 軟質	内外 にぶい橙色	
13	SP13364 A1区	弥生土器高杯	底径(10.0)	端部を拡張し、脚部は内彎気味に立ち上がる。	脚外面3条の凹線。端面外凹線2条。脚内横ケズリ。	石、長	内 褐色 外 にぶい橙色	
14	包含層 A2区	弥生土器壺	口径21.0 底径21.0 器高28.0	口縁端部丸く収め、口縁部は頸部より外反しながら水平に立ち上がる。体部は球形状を呈する。	口外タタキ後横ハケメ。頸体外タタキ後縦ハケ。体内指オサエ、指ナデ。	石、赤、砂 良好	内外 褐色	外面に黒斑。
15	包含層 A1区	弥生土器壺	口径(22.0)	端部を上下に拡張し、口縁部は外方に立ち上がる。頸部は外反気味に立ち上がる。	口端棒状浮文。端外凹線3条。頸外縦ハケ圧痕文。口内横ナデ。	雲、長、赤 良好	内外 褐色	
16	包含層 A1区	弥生土器甕	口径(12.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に開く。	口内外ナデ。体外タタキ後縦ハケメ。体内斜め横ハケメ。	石、雲、片 良好	内外 にぶい赤褐色	
17	包含層 A1区	弥生土器甕	口径(17.0)	端部丸く収め頸部より屈曲し外方に立ち上がる。	口内外ナデ。体外タタキ。	石、赤	内外 褐色	
18	包含層 B4区	弥生土器甕	口径(19.0)	端部丸く収め頸部より屈曲し、口縁部は外反する。	口内外ナデ。体外タタキ。	赤 良好	内 にぶい褐色 外 褐色	
19	包含層 A2区	弥生土器鉢	口径(32.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部より直角に内側に屈曲する。体部は直線的に立ち上がる。	口内外横ナデ。体内外縦ミガキ。	石、雲	内 褐色 外 にぶい褐色	
20	包含層 A1区	弥生土器壺	底径(10.5)	体部は底部より内彎気味に立ち上がる。	体外タタキ後斜め縦ハケ。体内斜め縦ハケ。底内指ナデ。	石、雲、片、赤 軟質	内外 褐色	
21	包含層 A1区	弥生土器壺	底径(8.0)	底部やや上げ底。体部下位より外方に屈曲し開く。	体外タタキ後ナデ。体内剥離のため調整不明。	石、雲、片、赤 良好	内 褐色 外 にぶい黄褐色	
22	SP12273 A1区	土師質土器杯	口径14.0 底径8.0 器高3.5	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 褐色	SA1002
23	SP12273 A1区	黒色土器碗	口径(14.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ後粗いミガキ。	石、雲 良好	内外 黒色	SA1002
24	SP14015 A1区	土師質土器杯	底径(6.5)	体部は直線的に伸びる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤 良好	内外 褐色	SA1003
25	SP12578 A1区	土師質土器小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.3	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、赤、長 やや良好	内外 浅黄褐色	SA1003
26	SP12724 A1区	磁器染付碗		内外面施釉。	体内外ロクロナデ。	密	内外 明緑灰色	SA1003
27	SP13143 A1区	土師質土器杯	底径(7.0)	体部は底部より外反気味に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲 良好	内外 褐色	SA1004
28	SP12922 A1区	磁器碗	口径16.0	端部丸く収め、口縁部玉縁状を呈す。	口内外ロクロナデ。	密	釉 白色 素地 灰白色	SA1004 白磁IV期。
29	SP12360 A1区	土師質土器小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高(1.5)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片 良好	内外 にぶい褐色	SA1005
30	SP12438 A1区	須恵器碗	口径(8.0) 高台径(6.4) 高台高(0.4)	貼付高台は断面台形状を呈しやや外方に向く。	底回転ヘラ切り。	雲 良好	内外 灰白色	西村系。SA1005
31	SK1130 A1区	土師質土器杯	口径13.0 底径8.5 器高3.9	端部は丸く収め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板目痕。	雲、赤、長 良好	内外 灰白色	SA1006

第3表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(2)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
32	SP13944 A1区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(6.0) 器高2.0	端部丸く取めやや拡張し、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 灰白色	SA1006
33	SP12283 A1区	土師質土器 脚			ナデ。	石、長、赤	内外 にぶい橙色	SA1006
34	SP12456 A1区	土師質土器 杯	底径(5.5)	底部のみ。	体内外横ナデ。底静止イト。	雲、赤 やや良好	内外 にぶい橙色	SA1007
35	SP13492 A1区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(5.0) 器高(1.6)	端部丸く取め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲 やや良好	内外 橙色	SA1008
36	SP13307 A1区	土師質土器 釜	口径(25.0)	端部丸く取め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。鐔は断面U字状を呈しやや上向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲 良好	内外 褐灰 灰黄褐	SA1009
37	SP13377 A1区	磁器 水注		頸部は直線的に立ち上がる。内外面施釉。	頸部内外ロクロナデ。	密	内 うすい黄緑色 外 グレイみの黄 緑色	SA1009 青磁。
38	SP13240 A1区	磁器 碗	底径(5.0) 高台径(4.4) 高台0.9	断面逆台形状の高台を垂直に付ける。高台内面釉無し。	体内外ロクロナデ。	密	内外 グレイみの オリブグリーン	SA1009 青磁。
39	SK1164 A1区	陶器 碗	口径(14.0)	端部方形に取め内側にやや拡張。体部外面中位まで施釉。口縁部は外方に向かい立ち上がる。	口体内外ロクロナデ。	密	釉 にぶい黄緑色 胎土 灰白色	SA1010
40	SP13045 A1区	土師質土器 釜	口径(23.0)	端部丸く取め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。体部は内彎しながら立ち上がる。断面U字状の鐔上向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内板ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 浅黄橙色	SA1011
41	SK1131 A1区	土師質土器 茶釜	口径(17.0)	端部方形に取め、口縁部は頸部より直立に立ち上がる。	体外横ナデ後ハケ。口内外ナデ。	石、雲、片、 長 良好	内外 浅黄橙色 淡黄色	SA1012
42	SP13851 A1区	須恵器 甕	口径(8.0)	端部丸く取め、口縁部は頸部より外反しながら立ち上がる。	口体内外ロクロナデ。	石、雲、片 良好	内外 灰褐色 褐灰色	SA1012
43	SK1131 A1区	瓦	長さ9.0 幅11.1 厚さ1.7		凸面ハケ調整。	良好	内外 灰色 灰白色	SA1012
44	SP12114 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(7.5) 器高2.5	端部やや肥厚し、口縁部は丸く取め外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転糸切り。	石、雲、長、 片 良好	内外 にぶい黄橙色 にぶい橙色	SA1013
45	SP12085 B4区	土師質土器 杯	底径7.5	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片 良好	内外 明黄褐色 橙色	SA1013
46	SP11924 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(4.6) 器高1.9	端部丸く取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。体部は直線的に口縁部に向かって立つ。	口体内外ナデ。底静止糸切り後ヘラ圧痕。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	SA1013
47	SP11937 B4区	土師質土器 小皿	口径7.5 底径6.5 器高1.5	端部丸く取め、口縁部はやや外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤、砂 良好	内外 黄灰色 褐灰色	SA1013
48	SP11937 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(7.0) 器高1.3	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、長 良好	内外 橙色	SA1013
49	SP11937 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(5.0) 器高1.5	端部は尖り気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底糸切り。	赤、砂	内外 浅黄橙色	SA1013
55	SP11175 A2区	土師質土器 杯	底径(9.0)	体部は内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。	石、雲、赤	内外 にぶい黄橙 色	SA1014
56	SP10943 B4区	土師質土器 杯	口径(14.0)	端部尖り気味に取め、口縁部は体部より直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片 やや軟質	内外 にぶい黄橙 色	SA1015
57	SP10943 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部丸く取め、口縁部は体部より外方に直線的に立ち上がる。端部外面沈線有り。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤、砂 良好	内外 にぶい橙色	SA1015
58	SP11010 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5)	端部丸く取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。体部は直線的に伸びる。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	SA1015
59	SP11010 B4区	土師質土器 杯	口径(14.0)	端部は尖り気味に取め、口縁部は体部中位よりやや内傾して外方に立ち上がる。	口内外ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	SA1015
60	SP11025 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.4	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 にぶい黄橙 色	SA1015
61	SP11010 B4区	土師質土器 釜	口径(22.0)	端部丸く取め、口縁部はやや内傾しながら立ち上がる。断面U字状の鐔やや上向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後横ナデ。体内横ハケによるナデ。	石、長、赤、 砂	内外 にぶい橙色	SA1015
62	SP11010 B4区	土師質土器 鍋	口径(35.0)	端部方形に取め、口縁部は頸部より外方に屈曲し立ち上がる。	口外ナデ。頸外指オサエ後ナデ。体外ナデ。口体内ナデ。	砂 良好	内 黒褐色、橙色 外 黒褐色	SA1015
63	SK1049 B4区	土師質土器 杯	口径13.0 底径7.0 器高4.3	端部丸く取め、口縁部は体部より内彎しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、赤、 長	内外 橙色	SA1019
64	SK1049 B4区	土師質土器 杯	口径11.5 底径7.0 器高3.5	端部丸く取め、口縁部は体部より直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、片、赤、 砂	内外 橙色	SA1019
65	SK1049 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(8.0) 器高3.5	端部丸く取め、口縁部は外反、体部はやや内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転糸切り。	石、雲、片 良好	内外 にぶい黄橙 色	SA1019
66	SK1049 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(8.0) 器高3.0	端部丸く取め、口縁部は体部中位より緩やかに外反する。	体内外横ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	SA1019

第4表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(3)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
67	SK1028 B4区	土師質土器杯	口径(14.0)	端部丸く収め、口縁部直線的に立ち上がる。端部内面に沈線有り。	口体内外横ナデ。	雲、赤良好	内外 ぶい橙色	SA1019
68	SK1049 B4区	土師質土器杯	口径(12.5)	端部丸く収め、体部より内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。	赤、砂	内外 灰白色	SA1019
69	SK1028 B4区	土師質土器杯	底径(9.0)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板目痕。	雲	内外 橙色	SA1019
70	SK1049 B4区	土師質土器杯	底径(8.5)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤、長良好	内外 ぶい橙色	SA1019
71	SK1049 B4区	土師質土器杯	底径(7.5)	体部は底部より内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤良好	内外 浅黄橙色 灰白色	SA1019
72	SK1049 B4区	土師質土器杯	底径(6.0)	体部は底部より内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤、長良好	内外 橙色 橙色	SA1019
73	SK1028 B4区	土師質土器小皿	口径(6.5) 底径(5.5) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に伸びる。	口体内外横ナデ。	赤、砂良好	内外 浅黄橙色	SA1019
74	SK1049 B4区	土師質土器小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	体内外横ナデ。	赤、砂良好	内外 橙色	SA1019
75	SK1028 B4区	土師質土器小皿	口径(7.5) 底径(7.0) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、片、赤良好	内外 ぶい橙色	SA1019
77	SK1050 B4区	土師質土器杯	口径(9.5) 底径(6.0) 器高3.3	端部丸く収め、口縁部はやや外反。体部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、長、赤良好	内外 ぶい黄橙色	SA1020
78	SK1029 B4区	土師質土器杯	口径(11.0)	端部丸く収め、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、長良好	内外 橙色	SA1020
79	SK1029 B4区	土師質土器杯	口径(13.0)	端部丸く収め、口縁部内面ナデによりやや細くなる。口縁部は直線的に伸びる。	体内外横ナデ。	赤、砂	内外 灰白色	SA1020
80	SK1029 B4区	土師質土器杯	底径(8.5)	体部は内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤良好	内外 橙色	SA1020
81	SP10875 B4区	土師質土器小皿	口径(9.5) 底径(7.0) 器高1.4	端部丸く収め、口縁部は外方へ立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	やや軟質	内外 ぶい橙色 橙色	SA1020
82	SK1029 B4区	磁器	底径(7.0)	底部平底。体部は底部よりやや外反しながら立ち上がる。内外面施釉。	体内外ロクロナデ。	密	釉 明オリーブ灰 色 素地灰白色	SA1020
83	SP10729 A2区	陶器 播鉢	口径(26.0) 底径(10.0) 器高8.7	端部を上下に拡張し、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外回転ナデ。	雲良好	内外 あさい赤みの ブラウン	SA1025 備前V期。
84	SP12168 A2区	土師質土器皿	口径(17.5) 底径(7.0) 器高2.5	端部は尖り気味に収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底静止糸切り。	赤、砂	内外 灰白色	SA1026
85	SP12168 A2区	磁器 おろし目皿	底径(6.5)	底部平底。	体内外ロクロナデ。底内格子状のおろし目。底回転糸切り。	石、雲良好	内外 ぶい橙色	瀬戸。 SA1026
86	SP11686 B4区	土師質土器杯	口径(11.5) 底径(7.5) 器高(3.9)	端部はやや丸く収め、口縁部は体部中位よりやや内傾し外方に直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片やや軟質	内外 橙色	SA1027
87	SP11686 B4区	土師質土器杯	口径(10.5) 底径(7.0) 器高3.2	端部やや丸く収め、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 橙色	SA1027
88	SP11765 B4区	土師質土器杯	口径(8.5) 底径(7.0) 器高2.9	端部やや丸く収め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤やや軟質	内外 浅黄橙色	SA1027
89	SP11483 B4区	土師質土器杯	口径(12.5)	端部尖り気味に収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、長、赤	内外 ぶい橙色	SA1027
90	SP11761 B4区	土師質土器杯	口径(9.5)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片	内外 ぶい橙色	SA1027
91	SP11686 B4区	土師質土器杯	口径(10.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。体部は直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 ぶい黄橙色 浅黄橙色	SA1027
92	SP11705 B4区	土師質土器杯	口径(11.0) 底径(6.0) 器高2.5	端部は方形気味に収め、口縁部は体部より直線的に伸び立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片、赤軟質	内外 橙色	SA1027
93	SP11686 B4区	土師質土器杯	口径(13.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部中位より内側に屈曲しやや内彎しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、赤良好	内外 灰白色	SA1027
94	SP11483 B4区	土師質土器杯	口径(17.0)	端部方形に収め、口縁部は緩やかに外反する。	口体内外ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 ぶい橙色	SA1027
95	SP11511 B4区	土師質土器杯	口径(12.5) 底径(8.0) 器高2.4	端部やや方形に収め、口縁部は直線的に外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤良好	内外 橙色	SA1027
96	SP11501 B4区	土師質土器杯	口径(13.0)	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 灰白色	SA1027
97	SP11775 B4区	土師質土器杯	口径(11.0) 底径(3.5) 器高2.7	端部尖り気味に収め、口縁部は体部上位で内側に屈曲し外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後横ナデ。	石、雲、赤良好	内外 褐灰色 明褐灰色	SA1027
98	SP11511 B4区	土師質土器杯	底径7.5	体部は底部より直線的に伸びる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 橙色	SA1027

第5表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(4)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
99	SP11759 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	底部のみ。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後 板ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色 にぶい橙色	SA1027
100	SP11483 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部は底部よりやや内彎しながら立ち上 がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後 板ナデ。	石、赤、砂	内外 にぶい橙色	SA1027
101	SP11501 B4区	土師質土器 杯	底径7.5	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナ デ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	SA1027
102	SP11483 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(6.0) 器高1.4	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上 がる。体部中位からやや外傾して口縁部へ向 かい立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り。	石、雲、片、 赤	内外 にぶい橙色	SA1027
103	SP11483 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(8.0) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上 がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り。	雲、赤	内外 明黄褐色	SA1027
104	SP11483 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(5.5) 器高1.5	端部やや尖り、口縁部は外方に立ち上 がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り。	雲、赤 良好	内外 にぶい黄橙 色	SA1027
105	SP11483 B4区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(6.0) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は体部中位よりやや 内傾し外方に伸びる。	口体内外横ナデ。	雲、片、赤	内外 にぶい橙色	SA1027
106	SP11511 B4区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(4.5) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に直線的に伸 びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 橙色	SA1027
107	SP11483 B4区	土師質土器 小皿	口径6.5 底径6.0 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上 がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り。	雲、長、赤	内外 橙色	SA1027
108	SP11483 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(3.0) 器高1.7	端部丸く収め、口縁部は体部中位よりやや 内彎し外方に伸びる。	口体内外ナデ。	赤、砂	内外 黒褐色 褐灰色	SA1027
109	SK1076 B4区	土師質土器 小皿	口径7.0 底径5.0 器高2.5	端部丸く収め、口縁部は外方に直線的に立 ち上がる。体部は内彎しながら立ち上がる	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り 後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 にぶい黄橙 色	SA1027
110	SP11483 B4区	瓦質土器 鉢	底径(17.0)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外指オサエ後ナデ。	石、赤、砂	内外 灰白色 黄灰色	SA1027
111	SK1076 B4区	磁器 碗	口径(14.5)	端部丸く収め、口縁部は外反。体部は内彎 しながら立ち上がる。	口体内外クロコナデ。	密	内外 グレイみの 黄緑色	SA1027 青磁。
113	SK1025 B4区	土師質土器 杯	口径13.5 底径8.0 器高4.5	端部丸く収め、口縁部は肥厚気味に直線的 に外方に伸びる。端部内面に沈線。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り。	雲、赤	内外 橙色	SA1028
114	SK1025 B4区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部丸く収め、口縁部は外方に直線的に立 ち上がる。端部内面に沈線。	口体内外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄褐色	SA1028
115	SK1021 B4区	土師質土器 杯	口径(15.0)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上 がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 橙色	SA1028
116	SK1045 B4区	土師質土器 杯	底径7.0	底部より体部はやや内彎しながら立ち上 がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後 ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	SA1028
117	SP10650 B4区	土師質土器 小皿	口径9.0 底径5.0 器高1.9	端部尖り気味に収め、口縁部はやや外反し ながら立ち上がる。体部は直線的に立ち上 がる。	口体内外横ナデ。底静止糸切り後 ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 橙色	SA1028
118	SP11520 B4区	土師質土器 杯	口径(13.5) 底径(7.5) 器高3.0	端部尖り気味に収め、口縁部は体部中位よ り内傾しやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り 後ナデ。	石、雲、片、 赤 軟質	内外 にぶい橙色 橙色	SA1029
119	SK1070 B4区	土師質土器 杯	口径16.0 底径3.5 器高4.0	体部内彎しながら立ち上がる。端部丸く収 め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り。	石、雲、赤、 砂 良好	内外 灰白色	SA1029
120	SK1070 B4区	土師質土器 杯	口径12.0 底径8.0 器高3.5	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら立ち 上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 にぶい橙色	SA1029
121	SK1070 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上 がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、赤、 砂 良好	内外 にぶい橙色	SA1029
122	SP11470 B4区	土師質土器 杯	口径12.5 底径8.0 器高4.1	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら 立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り。	雲、長、赤	内外 橙色	SA1029
123	SK1070 B4区	土師質土器 杯	口径(11.5)	端部丸く収め、口縁部は緩やかに外反。体 部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。	雲 やや良好	内外 橙色	SA1029
124	SK1070 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部はやや尖り体部より直線的に立ち上 がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	SA1029
125	SP11553 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部は体部中位 よりやや内彎しながら立ち上がる。	口内外ナデ。口体外指オサエ後ナ デ。口内ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 明褐色 にぶい黄褐色	SA1029
126	SP11553 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部は内彎しな がら立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナ デ。	石、雲、片、 赤、長 良好	内外 灰白色	SA1029
127	SK1070 B4区	土師質土器 杯	底径7.0	底部より直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや軟質	内外 浅黄褐色 橙色	SA1029
128	SK1070 B4区	土師質土器 杯	底径7.0	底部より直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナ デ。	雲、片、長、 赤 良好	内外 橙色	SA1029
129	SK1070 B4区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径6.0 器高2.0	端部丸く収め、口縁部は若干外反する。体 部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後 ナデ。	雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	SA1029

第6表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(5)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
130	SK1070 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(6.0) 器高1.6	端部丸く収め、口縁部は外方にやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片、赤 やや良好	内外 浅黄橙色 灰白色	SA1029
131	SP11470 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高1.4	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	SA1029
132	SP11489 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 灰白色 黒褐色	SA1029
133	SK1070 B4区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(4.5) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲 やや軟質	内外 明黄褐色	SA1029
134	SP11470 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(5.5) 器高1.4	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転糸切り。	石、雲、片、長、赤 良好	内外 褐灰色 灰白色	SA1029
135	SP11470 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、長、赤 良好	内外 にぶい橙色	SA1029
136	SK1070 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.9	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤 やや軟質	内外 橙色	SA1029
137	SK1070 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方へ立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 明褐灰色	SA1029
138	SP11470 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片、赤 良好	内外 灰白色	SA1029
139	SP11470 B4区	土師質土器 小皿	口径7.5 底径6.0 器口1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤、砂 良好	内外 橙色	SA1029
140	SK1070 B4区	土師質土器 小皿	口径7.5 底径6.0 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片、赤 良好	内外 にぶい黄橙色	SA1029
141	SK1070 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高1.7	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	SA1029
143	SP11472 B4区	土師質土器 杯	口径(14.0) 底径(8.0) 器高4.0	端部丸く収め、口縁部は直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、長、赤	内外 浅黄橙色	SA1031
144	SP11472 B4区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径6.0 器高1.3	端部丸く収め、口縁部は直線的に外方に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤、砂 良好	内外 にぶい褐色	SA1031
145	SP11508 B4区	磁器 碗	口径(15.5)	端部は方形気味に収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。端部内外面軸なし。	口体内外クロコナデ。	密	釉 黄みの白色 素地 灰白色	SA1031 白磁X期。
146	SP11323 B4区	磁器 碗	口径(16.0)	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外クロコナデ。体外削り出し連弁。	密	釉 灰オリブ色 素地 灰白色	SA1032 青磁I-5類。
147	SP11595 B4区	土師質土器 こね鉢	口径(21.0)	端部方形に収め、口縁部は直線的に外方に立ち上がる。	口端内外ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、片	内外 橙色 オリブ黒色	SA1033
148	SP11595 B4区	土師質土器 播鉢	口径(30.0)	端部上下に拡張、端面はヨコナデによりやや凹み、端部上は丸く収める。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外ナデ。体内横ナデ後播り目。	石、雲、片、長 やや軟質	内外 橙色 明赤褐色	SA1033
149	SP11604 B4区	磁器 碗	口径(11.5)	端部やや丸く収め、口縁部は直線的に立ち上がる。端部に輪花を施す。	口体内外クロコナデ。	密	内外 グレイみの 黄緑色	SA1033 青磁。
150	SP11063 B4区	磁器	口径(6.4) 底径(3) 器径(2.8)	端部丸く収め、体部はやや外方に立ち上がる。	口体内外クロコナデ。	密	釉 にぶい橙色 素地 グレイみの 黄緑色	SA1033 青磁。
152	SK1046 A2区	土師質土器 杯	口径12.0 底径6.4 器高3.5	端部丸く収め、口縁部は緩やかに外反。体部やや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、赤 良好	内外 橙色 にぶい橙色	SA1034
153	SP11604 B4区	土師質土器 杯	口径(16.5)	端部丸く収め、口縁部は体部より直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片 良好	内外 浅黄橙色 灰白色	SA1034
154	SK1026 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部丸く収め、口縁部は体部中位より屈曲し外方に伸びる。	口体内横ナデ。体外指オサエ後ナデ。	雲 良好	内外 灰白色	SA1034
155	SK1026 A2区	土師質土器 杯	口径(11.5)	端部やや尖り、口縁部は体部中位より内彎しながら上方に立ち上がる。	口体内横ナデ。体外指オサエ後ナデ。	石、雲、片、赤、長 良好	内外 灰白色 浅黄褐色	SA1034
156	SP10396 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 橙色	SA1035
157	SP10437 A2区	土師質土器 杯	底径(8.5)	体部はやや内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや軟質	内外 明褐色 明赤褐色	SA1035
158	SP10437 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、赤、砂 良好	内外 にぶい黄褐色 外 橙色	SA1035
159	SP10437 A2区	土師質土器 杯	底径(7.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、赤 良好	内外 橙色	SA1035
160	SP10396 B4区	土師質土器 杯	底径(6.0)	底部より体部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤 やや軟質	内外 橙色	SA1035

第7表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(6)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
161	SP11280 B4区	磁器碗	底径(6.0) 高台高1.0	高台部内面無し。高台は断面長方形形状を呈し垂直に立つ。	体内外口クロナデ。	精	釉 オリーブ灰色 素地 灰白色	SA1036 青磁。
162	SP11504 B4区	土師質土器杯	口径13.0 底径7.0 器高4.3	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。体部は外反しながら口縁部に伸びる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤軟質	内外 橙色	SA1037
163	SP11527 B4区	土師質土器杯	口径(13.5)	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 橙色	SA1037
164	SP11651 B4区	土師質土器杯	口径(15.5)	端部は丸く収め、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。	石、雲、片やや軟質	内外 橙色	SA1037
165	SP11575 B4区	土師質土器杯	口径(13.5) 底径(8.0) 器高3.0	端部方形気味に収め、口縁部は体部より直線的に外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片やや良好	内 浅黄橙色 外 橙色	SA1037
166	SP11527 B4区	土師質土器杯	口径(12.5)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片良好	内外 にぶい黄橙色	SA1037
167	SP11579 B4区	土師質土器杯	口径(11.0)	端部はやや丸く収め、口縁部は体部より直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。	石、雲、赤良好	内外 灰白色	SA1037
168	SP11504 B4区	土師質土器杯	底径6.0	体部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片、赤良好	内 橙色 外 にぶい橙色	SA1037
169	SP11504 B4区	土師質土器杯	底径(7.0)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲良好	内外 橙色	SA1037
170	SP11504 B4区	土師質土器杯	底径(6.0)	体部は外反気味に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片良好	内外 橙色	SA1037
171	SP13984 A2区	土師質土器杯	底径(7.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片やや良好	内外 にぶい橙色	SA1037
172	SP11527 A2区	土師質土器杯	底径(7.0)	体部はやや内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板目痕。	石、雲、片軟質	内外 橙色	SA1037
173	SK1082 B4区	土師質土器杯	底径5.0	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 橙色	SA1037
174	SP11679 B4区	土師質土器杯	底径(6.5)	体部はやや内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤良好	内外 灰白色	SA1037
175	SP13984 A2区	土師質土器杯	底径9.0	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片やや良好	内 にぶい黄橙色 外 にぶい橙色	SA1037
176	SK1064 A2区	土師質土器小皿	口径(9.5) 底径(4.5) 器高(2.9)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部中位より屈曲し外反しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 灰白色	SA1037
177	SK1064 A2区	土師質土器小皿	口径(7.0) 底径(5.0) 器高(1.3)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤良好	内外 浅黄橙色	SA1037
178	SP11579 A1区	土師質土器小皿	口径(7.0) 底径(5.0) 器高1.5	端部はやや丸く収め、口縁部は外方に直線的に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤良好	内外 にぶい黄橙色	SA1037
179	SP11579 A1区	土師質土器小皿	口径6.0 底径5.0 器高1.2	端部やや丸く収め、口縁部は体部より直線的に外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板目痕。	石、雲、赤軟質	内外 にぶい黄橙色	SA1037
180	SP11704 B4区	土師質土器小皿	口径(7.0) 底径(5.0) 器高0.9	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片やや良好	内外 浅黄橙色	SA1037
181	SK1075 B4区	土師質土器小皿	口径7.5 底径5.0 器高1.4	端部は丸く収め、口縁部は外方に伸びる。底部は上げ底。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲良好	内外 浅黄橙色	SA1037
182	SP11399 B4区	土師質土器小皿	口径6.0 底径5.5 器高1.0	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ。	赤、砂良好	内外 浅黄橙色	SA1037
183	SP11504 B4区	土師質土器釜	口径(24.0)	端部丸く収め、口縁部は垂直に立ち上がる。断面逆台形状の鍔水平に付く。	口体内外指オサエ後ナデ。	石、雲やや良好	内 褐色 外 にぶい橙色	SA1037
184	SP11449 B4区	土師質土器釜	口径(24.0)	端部丸く収め、口縁部は内傾しながら立ち上がる。体部内彎しながら立ち上がる。断面U字状鍔上方に向けて貼り付ける。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ハケ。	石、赤、砂良好	内 灰白色 外 灰黄褐色	SA1037
185	SP13984 B4区	土師質土器釜	口径(23.5)	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。鍔は断面U字状を呈しやや上方に向く。	口内外横ナデ。体内外指オサエ後ナデ。	石、赤良好	内 橙色 外 にぶい橙色	SA1037
186	SP11504 B4区	磁器碗	口径(15.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。口縁部体部共に施釉。	口体内外口クロナデ。体外削り出し連弁文。	密	釉 黄緑色 素地 灰	SA1037 青磁I-5類。
187	SP11436 B4区	磁器碗	口径(11.0)	口縁端部は方形に収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。口縁部内外面に施釉。	口体内外口クロナデ。	密	釉 灰オリーブ色 素地 灰	SA1037 青磁。
188	SP11504 B4区	磁器碗	底径(6.0)	高台断面逆台形状を呈し外方に向かって立つ。体部外面施釉。壺付と高台内軸なし。	体口クロナデ。	精	釉 黄みの白色 素地 灰白色	SA1037 白磁。
189	SK1014 B4区	土師質土器杯	口径(12.0) 底径(5.5) 器高2.5	端部丸く収め、口縁部は体部より直線的に伸びる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片良好	内外 浅黄橙色	SA1038
191	SP10432 B4区	土師質土器杯	底径(7.0)	体部は底部より内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤良好	内 にぶい橙色 外 浅黄橙色	SA1039
192	SP10432 B4区	土師質土器杯	底径6.0	体部は底部よりやや内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片やや良好	内外 浅黄橙色	SA1039
194	SP10510 B4区	土師質土器杯	口径14.0 底径7.0 器高4.5	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、赤良好	内外 浅黄橙色	SA1040

第8表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(7)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
195	SP13981 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部尖り気味に取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 灰白色	SA1041
196	SK1017 B4区	土師質土器 小皿	口径5.5 底径5.5 器高1.0	端部尖り気味に取め、口縁部はやや外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、片、赤、 長 良好	内外 橙色	SA1041
197	SP10372 B4区	陶器 杯	口径(15.0)	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲 良好	内外 灰白色	SA1041
198	SP10480 B4区	土師質土器 杯	口径(10.5)	口縁端部は尖り気味に取め、口縁部は体部中位よりやや内彎し、直線的に上方に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲、片、 赤、砂 良好	内外 灰白色	SA1043
199	SP13629 B4区	土師質土器 小皿	口径(10.0) 底径(7.0) 器高1.1	端部丸く取め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 軟質	内 橙色 外 淡橙色	SA1043
200	SP10154 B5区	土師質土器 杯	口径(11.0)	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。体部は内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤 良好	内 灰白色 外 明黄褐色	SA1046
201	SP10091 B5区	土師質土器 杯	口径(11.0)	口縁端部尖り気味に取める。口縁部は体部中位よりやや内彎しながら外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	雲、砂 良好	内外 灰白色	SA1047
202	SK1010 A2区	土師質土器 杯	口径12.5 底径7.0 器高3.5	端部丸く取め、口縁部は緩やかに外反する。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内 灰黄褐色 外 褐灰色	
203	SK1010 A2区	土師質土器 杯	口径11.5 底径7.6 器高3.0	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 良好	内外 橙色	
204	SK1010 A2区	土師質土器 杯	口径(10.0)	端部丸く取め、口縁部は直線的に伸びる。	口体内外ナデ。	石、赤 良好	内外 浅黄褐色	
205	SK1010 A2区	土師質土器 杯	底径7.5	体部は下位よりやや内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤、長 良好	内外 橙色	
206	SK1010 A2区	土師質土器 杯	底径(9.0)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底ナデ。	石、赤、長 良好	内 におい黄褐色 外 におい橙色	
207	SK1010 A2区	土師質土器 杯	底径7.0	体部は底部よりやや内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	片、赤、長 良好	内外 におい黄褐色	
208	SK1016 B4区	土師質土器 皿	口径7.5 底径6.5 器高1.5	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内 浅黄褐色 外 灰白色	
209	SK1019 B4区	土師質土器 杯	口径(14.0) 底径(8.0) 器高4.0	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。体部中位で外方にやや屈曲。	口体内外横ナデ。	片、赤 良好	内外 橙色	
210	SK1019 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部より体部に向かい内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片、 長 良好	内外 橙色	
211	SK1020 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(7.0) 器高1.5	端部丸く取め、口縁部はやや上方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片、 長 良好	内外 橙色	
212	SK1043 B4区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(6.0) 器高1.0	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲 良好	内 におい橙色 外 橙色	
213	SK1052 B4区	土師質土器		口縁端部は外方に拡張。	口内ナデ。口外指オサエ後ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 浅黄褐色	
214	SK1052 B4区	陶器 杯	口径12.5 底径7.5 器高2.7	高台内軸なし。端部丸く取め口縁部は外反する。体部は内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	良好	内外 うすい黄緑色	
215	SK1065 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.2	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片、 赤 やや良好	内外 灰白色	
216	SK1067 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0) 底径(7.0) 器高2.0	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。体部外面ナデによる段差有り。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 におい橙色	
217	SK1067 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5) 底径(7.5) 器高3.4	端部丸く取め、口縁部は体部中位より直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、赤 良好	内 灰白色 外 浅黄褐色	
218	SK1067 B4区	土師質土器 杯	底径(10.0)	体部に向かい内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 におい黄褐色	
219	SK1067 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	底部より直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや軟質	内外 橙色	
220	SK1067 B4区	土師質土器 小皿	口径7.5 底径6.5 器高1.2	端部丸く取め、口縁部は外方へ立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 長、赤 やや軟質	内外 橙色	
221	SK1067 B4区	土師質土器 小皿	口径7.5 底径6.5 器高1.2	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 浅黄褐色	
222	SK1077 B4区	土師質土器 杯	口径(11.5) 底径(7.0) 器高3.4	端部丸く取め、口縁部は体部よりやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	
223	SK1077 B4区	土師質土器 杯	口径(11.5) 底径(7.5) 器高3.3	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片 やや軟質	内外 橙色	
224	SK1077 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0)	口縁端部は尖り気味に取め、口縁部は体部中位よりやや内彎に屈曲し外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	

第9表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(8)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
225	SK1077 B4区	土師質土器 杯	口径11.0 底径6.0 器高3.5	端部尖り気味に取め、口縁部は体部中位よりやや内側に屈曲し直線的に立ち上がる。	口体外指オサエ後ナデ。口体内ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
226	SK1089 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5) 底径(6.0) 器高1.8	端部は尖り気味に取め、体部中位よりやや内彎しながら外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	
227	SK1090 B4区	磁器 皿	底径(5.0)	内面施釉。底部釉なし。	体内外ロクロナデ。底回転ヘラ切り。	密	釉 にぶい黄緑色 素地 灰白色	青磁。
228	SK1093 B4区	陶器 甕	口径(30.0)	端部玉縁状を呈し、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口内外ナデ。	石、雲、赤 良好	内 灰 外 グレイみの赤色 にぶい赤色	備前。
229	SK1093 B4区	陶器 椀	底径 高台径(6.5) 高台高0.3	高台断面逆台形状を呈し直線的に下りる。	体底内外ナデ。底内陰刻(菊花模様)。	砂	内外 あさい黄緑色	
230	SK1093 B4区	陶器 皿	口径(12.0) 底径(7.5) 高台径(7.1) 高台高0.3	端部丸く取め、口縁部は緩やかに外反、体部はやや内彎しながら立ち上がる。高台は断面逆台形状を呈し直線的に下りる。	口体内外底内見込みに陰刻(菊花模様)。	砂	素地 にぶい褐色 釉薬 グレイみの黄緑色	
231	SK1094 B4区	土師質土器 杯	底径8.0	底部より体部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 軟質	内外 橙色	
232	SK1095 B4区	土師質土器 杯	底径(9.0)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 にぶい黄橙色	
233	SK1095 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(5.5) 器高1.7	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 良好	内外 灰白色	
234	SK1096 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(7.0) 器高3.7	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。体部はやや内彎しながら伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや軟質	内外 橙色	
235	SK1096 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(5.5) 器高1.7	端部外面やや拡張し、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 良好	内 にぶい黄橙色 外 にぶい橙色	
236	SK1096 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(5.5) 器高1.3	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲 やや良好	内外 灰白色	
237	SK1096 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.1	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内 浅黄橙色 外 淡橙色	
238	SK1104 A2区	土師質土器 杯	口径12.5 底径8.5 器高3.3	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内 橙色 外 浅黄橙色	
239	SK1104 A2区	土師質土器 杯	口径13.5 底径8.5 器高3.7	端部丸く取め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。体部は直線的に伸びる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	
240	SK1104 A2区	土師質土器 杯	口径(12.5)	端部丸く取め、口縁部は体部中位より内彎気味に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲 良好	内外 灰白色	
241	SK1104 A2区	土師質土器 杯	口径(14.0)	端部丸く取め、口縁部は直線的に立ち上がる。体部内外面ヨコナデによる凹凸有り。	口体内外横ナデ。	雲 やや軟質	内外 浅黄橙色	
242	SK1104 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。体部は直線的に伸びる。	口体内外横ナデ。	雲 良好	内外 にぶい橙色	
243	SK1104 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部丸く取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。体部やや内彎しながら伸びる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
244	SK1104 A2区	土師質土器 杯	底径(9.0)	体部は底部よりやや内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
245	SK1104 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部より体部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	
246	SK1104 A2区	土師質土器 杯	底径(7.5)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	
247	SK1104 A2区	土師質土器 杯	底径(6.0)	底部より体部は直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲 やや良好	内外 にぶい橙色	
248	SK1104 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(7.5) 器高1.9	端部丸く取め、口縁部外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲 やや良好	内外 浅黄橙色	
249	SK1104 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(6.0) 器高1.1	端部丸く取め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、砂 良好	内外 灰白色	
250	SK1106 A2区	土師質土器 杯	口径(14.5) 底径(7.0) 器高3.4	端部丸く取め、口縁部はやや肥厚し体部中位より屈曲し外反する。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	
251	SK1106 A2区	土師質土器 杯	口径(11.5) 底径(6.0) 器高3.2	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。体部は直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 良好	内外 灰白色	
252	SK1106 A2区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部はやや尖り、口縁部は体部中位より外方に屈曲し、やや肥厚する。	口体内外横ナデ。	雲 良好	内外 灰白色	
253	SK1106 A2区	土師質土器 杯	口径(17.5)	端部は丸く取め、口縁部は直線的に外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 橙色	

第10表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(9)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
254	SK1106 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.5) 底径(6.0) 器高1.6	端部丸く収め、口縁部は体部上位で内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 浅黄橙色 にぶい黄橙色	
255	SK1106 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(8.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 淡赤橙色	
256	SK1106 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(7.0) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は直線的に外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 やや良好	内外 にぶい橙色	
257	SK1106 A2区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径(7.0) 器高1.7	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、片、赤、 雲 良好	内外 灰白色	
258	SK1106 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	
259	SK1106 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高(1.1)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、結 良好	内外 灰白色	
260	SK1106 A2区	土師質土器 小皿	口径7.0 底径(5.0) 器高1.3	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	京都産土師皿。
261	SK1106 A2区	土師質土器 小皿	口径6.0 底径7.5 器高1.5	端部はやや尖り、口縁部は直線的に立ち上がる。底部はやや拡張する。	口体内外横ナデ。底不明。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄橙色	
262	SK1106 A2区	須恵器 碗	底径9.0	高台部は断面方形形状を呈し外向きに付く。	底内外ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	西村系。
263	SK1106 A2区	瓦質土器 小皿	口径(10.0) 底径(4.0) 器高2.0	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	赤 良好	内 灰白色 外 灰色	
264	SK1107 A2区	土師質土器 杯	口径(14.5)	端部丸く収め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口内外横ナデ。	雲 やや良好	内 にぶい黄橙色 外 灰白色	
265	SK1107 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に直線的に伸びる。	口内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
266	SK1107 A2区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部やや尖り体部中位より内側に屈曲し、口縁部は外方にやや内彎しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。	石、雲 良好	内外 黄灰色	
267	SK1108 A2区	土師質土器 杯	口径(14.0) 底径(10.0) 器高3.3	端部丸く収め、口縁部は緩やかに外反する。	口内外横ナデ。体外指オサエ後横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片 良好	内外 灰白色	
268	SK1110 A2区	土師質土器 杯	口径(15.0)	端部丸く収め、口縁部は緩やかに外反する。	口体内外ナデ。	雲 良好	内外 浅黄橙色 にぶい橙色	
269	SK1110 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部方形に収め、口縁部は緩やかに外反する。体部は直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、赤 良好	内 にぶい黄橙色 外 にぶい橙色	
270	SK1110 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
271	SK1110 A2区	土師質土器 杯	口径(16.0)	端部丸く収め、口縁部は体部より緩やかに外反しながら立ち上がる。端部内面に凹面有り。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 軟質	内外 橙色	
272	SK1110 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は底部より直線的に外方に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
273	SK1110 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(6.0) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部はやや内彎しながら外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲 良好	内外 浅黄橙色 外 灰白色	
274	SK1110 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 橙色	
275	SK1110 A2区	土師質土器 小皿	口径(4.0) 底径(6.0) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	
276	SK1110 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	赤 良好	内外 にぶい橙色	
277	SK1110 A2区	須恵器 碗	口径(14.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体外指オサエ後横ナデ。口体内板ナデ。	雲、長 良好	内 灰色 外 灰白色	西村系。
278	SK1110 A2区	陶器 播り鉢	口径(30.0)	端面ナデにより凹状に収め、端部は上下にやや拡張する。口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口内外体外回転ナデ。体内回転ナデ後播り目。	石、雲、片 良好	内 灰褐色 外 褐灰色	備前IV期。
279	SK1111 A2区	土師質土器 杯	口径15.0 底径9.0 器高4.3	端部丸く収め体部中位よりやや外側に外反し、口縁部は外方に直線的に立つ。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後横ナデ。	雲、赤 やや良好	内 浅黄橙色 外 にぶい橙色	
280	SK1111 A2区	土師質土器 杯	口径16.0 底径8.0 器高4.0	端部丸く収め、口縁部は体部より直線的に伸び外方に立ち上がる。体部内面ヨコナデによる段差有り。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	赤 良好	内外 にぶい橙色	
281	SK1111 A2区	土師質土器 杯	口径14.5 底径8.0 器高3.5	端部丸く収め、口縁部は体部中位より外側にやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	赤、長 良好	内 にぶい橙色 外 浅黄橙色	
282	SK1111 A2区	土師質土器 杯	口径(16.5) 底径(9.0) 器高3.5	端部丸く収め端部外面やや肥厚、内面は凹線巡る。口縁部は体部より直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 褐灰色	

第11表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(10)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
283	SK1111 A2区	土師質土器杯	口径(15.0)	端部丸く取め、口縁部は体部よりやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤、長良好	内外 にぶい橙色	
284	SK1111 A2区	土師質土器杯	口径(15.0)	端部丸く取め、口縁部は外面肥厚し、体部より直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤良好	内外 灰黄褐色	
285	SK1111 A2区	土師質土器杯	口径(13.0)	端部は丸く取め、口縁部は直線的に立ち上がる。端部つまみ上げる。	口体内外横ナデ。	赤、砂良好	内外 黒褐色	
286	SK1111 A2区	土師質土器杯	底径(8.0)	底部より体部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	片、赤良好	内外 にぶい橙色	
287	SK1111 A2区	土師質土器高台付杯	口径17.0 底径8.0 器高5.5 高台径7.8 高台高1.2	端部方形気味に取め、体部より直線的に外方に立ち上がる。体部内外面ナデによる幅狭な段差有り。貼り付け高台は外方に向く。	口体内外ナデ。	雲、赤、長良好	内 にぶい橙色 外 にぶい褐色	
288	SK1111 A2区	土師質土器小皿	口径8.5 底径6.0 器高1.5	端部丸く取め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、赤良好	内 浅黄褐色 外 にぶい黄褐色	
289	SK1111 A2区	土師質土器小皿	口径9.0 底径6.5 器高1.0	端部やや方形に取め、口縁部は底部より直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤良好	内外 にぶい黄褐色	内面煤付着。
290	SK1111 A2区	土師質土器小皿	口径(9.0) 底径(6.5) 器高0.9	端部やや尖り、口縁部は体部上位よりやや内側に屈曲し上方に立ち上がる。体部は直線的に外方に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤、長良好	内外 にぶい黄褐色	
291	SK1111 A2区	土師質土器小皿	口径8.7 底径6.5 器高1.5	端部やや尖り、体部上位より屈曲し口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤、長良好	内外 にぶい橙色	
292	SK1111 A2区	土師質土器小皿	口径8.0 底径6.5 器高1.7	端部丸く取め、口縁部は底部より直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤、長良好	内外 にぶい橙色	
293	SK1111 A2区	土師質土器小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.5	端部丸く取め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤、砂良好	内 にぶい黄褐色 外 灰白色	
294	SK1145 A1区	土師質土器釜	口径(26.5)	端部丸く取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。鑄は断面U字状垂直に付く。	口内外横ナデ。体外ナデ。体内板ナデ。	石、雲やや軟質	内 橙色 外 明黄褐色	
295	SK1147 A1区	土師質土器杯	底径(5.0)	体部は底部よりやや内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底静止糸切り。	雲、赤良好	内外 にぶい黄褐色	
296	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径(12.0) 底径(8.0) 器高4.0	口縁端部は丸く取め、体部中位よりやや外方に屈曲し口縁部に向かう。	口体内外ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 橙色	
297	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径(12.5) 底径(8.5) 器高3.4	端部丸く取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤やや軟質	内 にぶい赤褐色 外 にぶい橙色	
298	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径(11.5) 底径(7.5) 器高3.8	端部丸く取め、口縁部は体部より直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 にぶい橙色	
299	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径12.0 底径7.0 器高4.0	端部丸く取め、口縁部は体部より直線的に外方に伸び外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤軟質	内 橙色 外 淡褐色	
300	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径(11.5) 底径(8.0) 器高4.0	端部丸く取め、口縁部は底部より直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤やや軟質	内外 にぶい黄褐色	
301	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径12.0 底径7.5 器高3.9	端部丸く取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片やや軟質	内 橙色 外 にぶい橙色	
302	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径(11.0) 底径(7.0) 器高4.0	端部丸く取め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤良好	内外 橙色	
303	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径11.5 底径7.5 器高4.0	端部丸く取め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、赤やや軟質	内外 橙色	
304	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径(11.0) 底径(6.5) 器高3.0	端部丸く取め、口縁部は緩やかに外反する。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤、砂良好	内外 灰白色	
305	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径(13.0) 底径(7.0) 器高4.0	端部丸く取め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 灰白色	
306	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径(11.5) 底径(7.5) 器高4.5	端部丸く取め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片、赤良好	内 にぶい橙色 外 褐灰色	
307	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径(11.0) 底径(7.5) 器高4.0	端部丸く取め、口縁部はやや肥厚し直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤、長良好	内 にぶい橙色 外 褐色	
308	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径(13.0) 底径(7.5) 器高3.5	端部丸く取め、口縁部はやや肥厚し、底部より直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片、赤良好	内外 浅黄褐色	
309	SD1001 B4区	土師質土器杯	口径(12.5) 底径(7.5) 器高3.5	端部丸く取め、口縁部はやや肥厚し外方に直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 浅黄褐色	

第12表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(11)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
310	SD1001 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0) 底径(7.0) 器高3.5	端部丸く収め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤 軟質	内外 灰白色 にぶい橙色	
311	SD1001 B4区	土師質土器 杯	口径12.5 底径7.5 器高3.8	端部丸く収め、口縁部は底部より直線的に外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや軟質	内外 橙色 にぶい橙色	
312	SD1001 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(6.0) 器高3.4	端部丸く収め、口縁部は体部より直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	
313	SD1001 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5) 底径(7.5) 器高4.1	端部丸く収め、口縁部は直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 灰白色	
314	SD1001 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5) 底径(7.5) 器高3.3	端部丸く収め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 橙色 にぶい橙色	
315	SD1001 B4区	土師質土器 杯	口径(11.5) 底径(7.0) 器高3.2	端部丸く収め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 良好	内外 灰白色 浅黄橙色	
316	SD1001 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(8.0) 器高2.6	端部やや丸く収め、口縁部は体部より直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ後ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色 浅黄橙色	
317	SD1001 B4区	土師質土器 杯	口径(11.5) 底径(7.5) 器高3.5	端部やや尖り、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色 黒褐色	
318	SD1001 B4区	土師質土器 杯	口径(10.0) 底径(7.0) 器高3.0	端部丸く収め、口縁部は直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤、長 良好	内外 にぶい橙色	
319	SD1001 B4区	土師質土器 杯	口径(15.0) 底径(8.0) 器高(5.0)	端部丸く収め、口縁部はやや肥厚し内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片、 赤 軟質	内外 淡赤橙色	
320	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	体部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 浅黄橙色	
321	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	底部より体部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 灰白色	
322	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	体部は底部より外方に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 軟質	内外 橙色	
323	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲 やや軟質	内外 橙色 にぶい橙色	
324	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(4.5)	体部は底部より直線的に外方に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色 淡赤橙色	
325	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	体部は底部より内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 淡橙色 橙色	
326	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(7.6)	体部は底部より外反しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 浅黄橙色 にぶい橙色	
327	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部より外方に直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 橙色 浅黄橙色	
328	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径8.0	体部は底部からやや内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 浅黄橙色 にぶい黄褐色	
329	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 にぶい橙色 浅黄橙色	
330	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部よりやや直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 にぶい橙色	
331	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径7.5	底部のみ。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 橙色	
332	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(2.5)	底部より直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 橙色	
333	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(6.0)	体部は底部よりやや内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや軟質	内外 浅黄橙色	
334	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤 軟質	内外 灰白色 浅黄橙色	
335	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	体部は底部より内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色 浅黄橙色	
336	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部は内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤、砂 良好	内外 灰白色	
337	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 灰白色 浅黄橙色	
338	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(16.0)	底部よりやや内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 暗青灰色	
339	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径7.5	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤 良好	内外 橙色 にぶい橙色	

第13表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(12)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
340	SD1001 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部は底部よりやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤軟質	内外 にぶい橙色 橙色	
341	SD1001 B4区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(4.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 橙色	
342	SD1001 B4区	土師質土器 小皿	口径(9.5) 底径(8.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、赤軟質	内外 淡橙色 橙色	
343	SD1001 B4区	土師質土器 小皿	口径(9.5) 底径(7.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片良好	内外 明黄褐色 橙色	
344	SD1001 B4区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(7.0) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片やや軟質	内外 橙色	
345	SD1001 B4区	土師質土器 小皿	口径(10.3) 底径(7.5)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、赤やや軟質	内外 灰白色	
346	SD1001 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(7.0) 器高(1.2)	端部丸く収め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片やや軟質	内外 橙色	
347	SD1001 B4区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径7.0 器高1.6	端部丸く収め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 にぶい橙色 浅黄褐色	
348	SD1001 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(6.5) 器高(1.7)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底ナデ。	石、雲、片やや軟質	内外 橙色	
349	SD1001 B4区	土師質土器 小皿	口径9.0 底径8.0 器高1.4	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、赤やや軟質	内外 橙色	
350	SD1001 B4区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(6.0) 器高(1.1)	端部は丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。底部はやや丸底。	口体内外ナデ。底ナデ。	石、雲、片、赤軟質	内外 橙色	
351	SD1001 B4区	土師質土器 茶釜	口径(21.0)	端部丸く収め、端部は内側にやや拡張。口縁部は頸部より直立しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体内外ナデ。	石、雲、片、長良好	内外 オリーブ黒色 にぶい黄褐色	
352	SD1001 B4区	須恵器 椀	口径(11.0) 底径(7.0) 器高3.5	端部丸く収め、口縁部は外反する。体部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外クロコナデ。	石、雲良好	内外 灰白色 灰色	
354	SD1002 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部はやや外反しながら伸びる。	体内外ナデ。	石、雲、赤良好	内外 橙色	
355	SD1002 B4区	土師質土器 小皿	口径(11.0) 底径(8.5) 器高1.9	端部やや尖り、口縁部は直線的に外方に伸びる。	口体内外ナデ。	石、雲、赤良好	内外 浅黄褐色 にぶい黄褐色	
356	SD1002 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.5) 器高1.1	端部尖り気味に収め、口縁部は直線的にやや外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片良好	内外 橙色	
357	SD1002 B4区	土師質土器 釜	口径(20.5)	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。鏝は段面U字状を呈し上向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、長良好	内外 褐色	
358	SD1002 B4区	土師質土器 釜	口径(29.5)	端部丸く収め、口縁部は垂直に立ち上がる。鏝は断面U字状を呈しやや上向きに付く。	口内外横ナデ。体外上指オサエ後ナデ下格子目タタキ。体内ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 橙色 にぶい黄褐色	
359	SD1002 B4区	土師質土器 釜	口径(28.0)	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。鏝は断面U字状を呈し水平に付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後板ナデ。体内横ナデ。	石、片、赤良好	内外 にぶい褐色 褐色	
360	SD1002 B4区	土師質土器 釜	口径(27.0) 体部最大径31.0	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。体部は球形を呈する。鏝は断面台形状を呈し上向きに付く。	口内外横ナデ。体外上指オサエ後ナデ下格子目タタキ。体内横ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 浅黄褐色 にぶい黄褐色	
361	SD1002 B4区	須恵器 椀	口径13.5	端部丸く収め、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、片良好	内外 青灰色	
362	SD1002 B4区	瓦質土器 こね鉢	口径(32.0)	端面方形に収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後縦板ナデ。体内横板ナデ。	良好	内外 灰色	
363	SD1002 B4区	陶器 灯明皿	口径(9.5) 底径(1.0) 器高1.5	端部尖り気味に収め、口縁部は体部よりやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外回転ナデ。	良好	内外 灰赤色 にぶい橙色	備前。
364	SD1008 A1区	土師質土器 釜	口径(28.5)	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。鏝は断面U字状を呈しやや下向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲、赤良好	内外 明黄褐色 にぶい黄褐色	
366	SX1001 B4区	土師質土器 杯	口径(8.5) 底径(4.0) 器高3.8	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 橙色	
367	SX1002 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高1.3	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に開く。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤良好	内外 浅黄褐色 灰白色	
368	SX1002 B4区	須恵質土器 こね鉢	口径(29.5)	端部は上下に拡張し上下端面はやや丸く収める。体部は直線的に立ち上がる。	口体内外指オサエ後回転ナデ。	石、雲、片良好	内外 灰色	東播系。
369	SX1002 B4区	磁器 椀	口径(16.0)	端部丸く収める。口縁部は外反しながら立ち上がる。体部はやや内彎しながら立ち上がる。内外施釉。	口体内外クロコナデ。体外連弁文。	精	内外 グレイみの 黄緑色	龍泉窯系青磁 I-5類。
370	SX1003 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部丸く収める。口縁部は内傾気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、片、赤良好	内外 浅黄褐色	

第14表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(13)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
371	SX1003 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片 やや良好	内 浅黄橙色 外 におい黄橙色	
372	SX1003 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(8.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤 やや良好	内外 におい橙色	
373	SX1003 A2区	土師質土器 内耳鍋		端部丸く収め直線的に立ち上がる。	体外指オサエ後横ナデ。体内指オサエ後板ナデ。	石、片、赤 良好	内 橙色 外 におい黄橙色	外面に煤付着。
374	SX1003 A2区	土師質土器 鍋	口径(38.0)	端面方形に収め、口縁部は頸部で「く」の字状に外反し内彎気味に立ち上がる。	口体外指オサエ後ナデ。口体内ナデ。	雲、石、片、 赤軟質	内 におい橙 外 黒褐	
375	SX1003 A2区	須恵器 甕		頸部。	頸内外回転ナデ。体外回転ナデ後長格子目タタキ。体内回転ナデ。	砂	内外 灰色	
376	SX1003 A2区	磁器 碗	底径(5.8) 高台径(4.5) 高台高0.8	高台は断面三角形を呈し垂直に立ち上がる。畳付から高台内軸無し。	底内見込みにて花文。底回転ヘラ切り。	精	釉 グレイみの黄 緑色 素地 白色	青磁。
379	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(15.0) 底径(8.0) 器高4.0	端部方形に収め、口縁部は体部より直線的に外方に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤、長 良好	内外 におい橙色	
380	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(14.5) 底径(7.5) 器高4.0	端部丸く収め外方にやや拡張し、口縁部は緩やかに外反する。	口体内外ナデ。	赤、砂 良好	内 灰黄褐色 外 におい橙色	
381	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(13.5) 底径(7.5) 器高3.5	端部尖り気味に収める。口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤、長 良好	内 におい黄橙色 外 橙色	
382	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部方形気味に収め、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤良好	内 におい黄橙色 外 橙色	
383	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(16.0)	端部方形気味に収め、口縁部やや細く外反する。体部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤軟質	内外 橙色	
384	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径14.5	端部丸く収め両端面に小さな凹み有。口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲 やや良好	内外 浅黄褐色	
385	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(16.0)	端部尖り気味に収め内側がやや凹む。口縁部は外反気味に立ち上がる。体部外面横ナデによる幅状な段差。	口体内外横ナデ。	石、雲、片 良好	内外 におい黄橙 色	
386	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径13.0	端部尖り気味に収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤良好	内外 橙色	
387	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径15.0	端部尖り気味に収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤良好	内外 橙色	
388	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(14.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片 良好	内外 浅黄褐色	
389	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部丸く収め、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 におい黄橙 色	
390	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部は尖り、口縁部は内彎しながら立ち上がる。内面横ナデによる段差あり。	口体内外横ナデ。	石、雲、片、 長良好	内 灰褐色 外 橙色	
391	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(16.0)	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片、 赤軟質	内外 灰白色	
392	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部尖り気味に収め、口縁部はやや外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片 良好	内外 におい橙 色	
393	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(11.5)	端部は尖り気味に収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、片、赤 良好	内 におい橙 色 外 灰白色	
394	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径10.0	端部尖り気味に収め、口縁部は体部中位よりやや内傾し内彎しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後横ナデ。体内横ナデ。	石、雲、片 良好	内外 灰白色	
395	SX1004 A2区	土師質土器 杯	口径(9.5) 底径(5.0) 器高2.4	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤良好	内 橙色 外 におい橙 色	
396	SX1004 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部のみ。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや良好	内 浅黄褐色 外 橙色	
397	SX1004 A2区	土師質土器 杯	底径(7.5)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤良好	内 灰白色 外 におい黄橙 色	
398	SX1004 A2区	土師質土器 杯	底径(8.5)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤良好	内外 灰白色	
399	SX1004 A2区	土師質土器 杯	底径(7.0)	底部のみ。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤良好	内外 灰白色	
400	SX1004 A2区	土師質土器 杯	底径(4.5)	底部のみ。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 浅黄褐色	
401	SX1004 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤良好	内 浅黄褐色 外 におい黄橙 色	
402	SX1004 A2区	土師質土器 杯	底径(9.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 良好	内外 浅黄褐色	

第15表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(14)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
403	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(6.5)	内面強い横ナデによる段差有り。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 におい橙色 橙色	
404	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(8.5)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、長良好	内外 におい橙色 浅黄橙色	
405	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(7.5)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤良好	内外 浅黄橙色	
406	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(8.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤良好	内外 灰白色	
407	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(6.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、赤、長良好	内外 浅黄橙色	
408	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径6.5	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 黄灰色 におい黄橙色	
409	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(7.5)	底部内面強い横ナデにより段差有り。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片良好	内外 におい橙色	
410	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(8.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片良好	内外 灰白色	
411	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(7.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 におい橙色 橙色	
412	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(7.5)	底部のみ。内面強い横ナデによる段差有り。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片良好	内外 におい黄橙色	
413	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(6.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底静止糸切り。	石、長良好	内外 灰白色	
414	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(7.0)	底部内面強い横ナデにより段差有り。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤良好	内外 橙色	
415	SX1004 A2区	土師質土器杯	底径(7.5)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、長、片、赤良好	内外 灰白色	
416	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(11.5)	端部尖り気味に取め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、片、赤良好	内外 灰白色	
417	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(9.0) 底径(8.5) 器高(1.3)	端部丸く取め、口縁部外反気味に外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤良好	内外 淡橙色	
418	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(10.0) 底径(8.0) 器高(1.5)	端部丸く取め、口縁部はやや内彎しながら外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	赤、砂良好	内外 浅黄橙色 灰白色	
419	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(8.5) 底径(6.0) 器高1.6	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	長、片、雲、赤良好	内外 橙色	
420	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(6.5) 底径(6.0) 器高(1.0)	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤良好	内外 におい褐色 浅黄橙色	
421	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(9.0) 底径(7.5) 器高(1.5)	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	赤、砂良好	内外 灰白色	
422	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高(1.0)	端部丸く取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲良好	内外 におい黄橙色	
423	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(8.5) 底径(7.0) 器高(1.2)	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片軟質	内外 淡橙色 橙色	
424	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高1.5	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤、片良好	内外 橙色 浅黄橙	
425	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高(1.0)	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤やや良好	内外 におい橙色	
426	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高(1.2)	端部尖り気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤良好	内外 浅黄橙色	
427	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(7.0) 底径(5.0) 器高(1.5)	端部丸く取め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤、砂良好	内外 橙色 におい黄橙色	
428	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(6.0) 底径(5.0) 器高(1.3)	端部丸く取め、口縁部は体部より緩やかに外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤軟質	内外 橙色 におい橙色	
429	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(6.5) 底径(5.0) 器高(1.5)	端部尖り気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、砂良好	内外 浅黄橙色 明黄褐色	
430	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(7.0) 底径(5.0) 器高(1.5)	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	赤良好	内外 橙色	
431	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高(1.5)	端部丸く取め、口縁部は外方に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤やや良好	内外 灰白色	
432	SX1004 A2区	土師質土器小皿	口径(6.0) 底径(4.0) 器高(1.2)	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤良好	内外 橙色	

第16表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(15)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
433	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高(1.4)	端部丸く収め、口縁部は尖り気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄橙色	
434	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(4.0) 器高(1.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、長 良好	内外 にぶい橙色	
435	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(5.5) 底径(4.5) 器高(1.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 橙色	
436	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(5.5) 器高(1.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、片、赤 良好	内外 橙色	
437	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(5.5) 底径(5.0) 器高(1.5)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 橙色	
438	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(5.5) 底径(5.0) 器高(1.4)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底ナデ。	石、雲、片 良好	内外 淡黄色 にぶい黄橙色	
439	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(6.5) 器高(1.3)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 軟質	内外 灰白色 浅黄橙色	
440	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.5) 器高(1.7)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤、長 やや軟質	内外 橙色 にぶい橙色	
441	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(8.0) 器高(1.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片、赤 良好	内外 橙色	
442	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.7) 底径(8.0) 器高(1.0)	端部丸く収め、口縁部は上方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底ナデ。	石、雲 やや良好	内外 橙色	
443	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高(1.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片 良好	内外 橙色 にぶい橙色	
444	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径7.0 底径6.5 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤、 砂 良好	内外 橙色	
445	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高(0.9)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲 良好	内外 浅黄橙色	
446	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(7.0) 器高(1.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 やや良好	内外 オリーブ褐色	
447	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高(1.2)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 軟質	内外 橙色	
448	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.5) 器高(1.5)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、長、片、 赤 良好	内外 橙色	
449	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高(1.3)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、長、 片、赤 良好	内外 にぶい黄橙色 灰黄色	
450	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(6.5) 器高1.3	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 橙色	
451	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径6.5 底径5.5 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は直線的に外方に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや軟質	内外 橙色	
452	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径6.0 底径5.5 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は外方に緩やかに立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	片、赤 やや良好	内外 浅黄橙色 灰白色	
453	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径6.0 底径5.5 器高1.6	端部やや丸く収め、口縁部は外方に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや軟質	内外 明黄褐色 橙色	
454	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(6.0) 器高(1.4)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤、砂 良好	内外 橙色	
455	SX1004 A2区	土師質土器 小皿	口径6.5 底径5.5 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は体部より外方に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 橙色	
456	SX1004 A2区	土師質土器 椀	口径6.0 底径5.2 器高0.4	貼り付け高台は逆台形状を呈し高台部は外方に開く。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや軟質	内外 浅黄橙色	
457	SX1004 A2区	土師質土器 釜	口径(32.0)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。鏝は断面U字状を呈し水平に付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲、片 良好	内外 浅黄橙 橙	
458	SX1004 A2区	土師質土器 釜	口径(22.0)	端部丸く収め、口縁部は頸部より内彎しながら立ち上がる。鏝は断面逆台形状を呈し上向きに付く。	口内外横ナデ。体内外指オサエ後ナデ。	石、長、片、 赤 良好	内外 にぶい褐色 灰褐色	
459	SX1004 A2区	土師質土器 釜	口径(23.5)	端部丸く収め、口縁部は頸部より内彎しながら立ち上がる。鏝は断面逆台形を呈しやや上向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、長、片 良好	内外 灰白色 浅黄橙色	

第17表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(16)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
460	SX1004 A2区	土師質土器釜	口径(23.0)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。鐔は断面U字状を呈し、上向きに付く。	口内外ナデ。体内外指オサエ後ナデ。脚ナデ。	石、雲、赤、片良好	内外 暗褐色にぶい黄橙	
461	SX1004 A2区	土師質土器釜	口径(22.5)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。鐔は断面U字状を呈し上向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 にぶい橙色	
462	SX1004 A2区	土師質土器釜	口径(23.5)	端部丸く収め、口縁部は内傾しながら立ち上がる。鐔は断面逆台形状を呈しやや下向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、赤、砂良好	内外 にぶい黄橙色	
463	SX1004 A2区	土師質土器釜	口径(22.0)	端部丸く収め、口縁部内傾気味に立ち上がる。鐔は断面U字状を呈し水平に付く。	口外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。口体内指オサエ後ナデ。	石、雲、片、赤軟質	内外 橙色にぶい黄褐色	
464	SX1004 A2区	土師質土器釜	口径(26.5)	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。鐔は断面U字状を呈しやや下向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内指オサエ後ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 浅黄褐色にぶい黄褐色	
465	SX1004 A2区	土師質土器釜	口径(24.0)	端部丸く収め、口縁部は内傾気味に立ち上がる。鐔は断面三角形を呈し水平に付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内指オサエ後横ナデ。	石、長、雲、片、赤良好	内外 にぶい黄橙色	
466	SX1004 A2区	土師質土器釜	口径(24.0)	端部丸く収め、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。鐔は断面台形状を呈しやや下向きに付く。	口内外横ナデ。体内外指オサエ後ナデ。	石、雲、赤良好	内外 褐色にぶい黄褐色	
467	SX1004 A2区	土師質土器釜	口径(26.0)	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。鐔は断面U字状を呈し下向きに付く。	口内外指オサエ後ナデ。	石、雲、片、赤軟質	内外 褐灰色にぶい黄褐色	
468	SX1004 A2区	土師質土器釜	口径(29.5)	口縁部内彎気味に立ち上がり、端部は丸く収め断面U字状の鐔はやや下向きに伸びる。	口内外横ナデ。体内外指オサエ後ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 にぶい褐色にぶい橙色	外面に煤付着。
469	SX1004 A2区	土師質土器釜	口径(27.0)	口縁部は外反気味に立ち上がる。端部丸く収め鐔は水平に伸びる。	口端内外横ナデ。口体外指オサエ後ナデ。体内指オサエ後板ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 灰褐色にぶい黄褐色	
470	SX1004 A2区	土師質土器釜	口径(24.0)	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。鐔は断面逆台形状を呈しやや上向きに付く。	口内外横ナデ。体内外指オサエ後横ナデ。	石、片、赤、砂良好	内外 にぶい橙色	
471	SX1004 A2区	土師質土器鍋	口径(24.0)	端部やや丸く収め内側にやや拡張。口縁部は頸部より外傾しやや内彎しながら外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、片、赤軟質	内外 褐色にぶい褐色	
472	SX1004 A2区	土師質土器鍋	口径(30.0)	端部は内側やや拡張し端部丸く収め、口縁部は内彎気味に外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後横ナデ。体内横ナデ。	石、雲、赤、長良好	内外 褐色にぶい赤褐色	
473	SX1004 A2区	土師質土器鍋	口径(35.0)	端部丸く収め、口縁部は頸部から「く」の字状に外反し外方に伸びる。	口端内外横ナデ。口外指オサエ後横ナデ。体外指オサエ後ナデ。口体内横ナデ。	石、雲、長良好	内外 にぶい黄橙色	
474	SX1004 A2区	土師質土器鍋	口径(35.0)	端部丸く収め、口縁部は頸部より「く」の字状に外方に立ち上がる。	口端内外横ナデ。口内外指オサエ後ナデ。体外ナデ。	雲、石、片、赤良好	内外 にぶい黄橙	
475	SX1004 A2区	土師質土器鍋	口径(36.0)	端部方形に収め、口縁部は頸部より「く」の字状に外反し外方に立ち上がる。	口内外指オサエ後ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲、赤片良好	内外 にぶい褐色	
476	SX1004 A2区	土師質土器鍋	口径(31.0)	端部内側拡張し、端面は凹状を呈する。口縁部は内彎気味に外方に立ち上がる。	口外横ナデ。口内指オサエ後板ナデ。体内外指オサエ後ナデ。	石、雲、赤、良好	内外 灰白色黒褐色	
477	SX1004 A2区	土師質土器鍋	口径(34.0)	端面は方形に収め、口縁部は頸部で外反気味に立ち上がる。	口内外剥離のため調整不明。口内横板ナデ。	長、赤、雲、石、片	内外 褐色にぶい灰褐色	
478	SX1004 A2区	土師質土器鍋	口径(32.5)	端部方形に収め外側にやや拡張。口縁部は緩やかに内彎しながら外方に立ち上がる。	口端内外横ナデ。口指オサエ後横ナデ。口内横ナデ。	石、雲、長良好	内外 褐色	
479	SX1004 A2区	土師質土器鍋	口径(32.0)	端部丸く収め、口縁部は内傾しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 にぶい黄褐色にぶい黄褐色	内面に煤付着。
480	SX1004 A2区	土師質土器鍋	口径(22.0)	端部丸く収め、口縁部は頸部より「く」の字状に外方に屈曲し直立気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体内外指オサエ後横ナデ。	石、雲、赤良好	内外 灰黄褐色にぶい橙色	
481	SX1004 A2区	土師質土器播鉢	底径(11.5)	底部平底。体部は直線的に伸びる。	体内外指オサエ後横ナデ。	雲良好	内外 にぶい黄褐色にぶい黄褐色	
482	SX1004 A2区	須恵器碗	底径(7.5)高台径(7.5)高台高(0.5)	貼り付け高台は断面逆台形状を呈し外向きに付く。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	片良好	内外 灰白色	西村系。
483	SX1004 A2区	須恵器碗	底径(7.0)高台径(6.2)高台高0.5	貼り付け高台は断面逆台形状を呈しやや外方に向く。	体内外ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 にぶい黄橙色	西村系。
484	SX1004 A2区	須恵器	口径(29.0)	端部方形に収め、口縁部は頸部より緩やかに外反しながら外側に伸びる。	口内外クロコナデ。	石、長良好	内外 灰色	
485	SX1004 A2区	須恵質土器甕		体部小片。	体外格子タタキ。	良好	内外 灰白色灰色	
486	SX1004 A2区	須恵器壺	口径(14.0)	口縁部は上下に拡張し上端部を丸く収める。口縁部内外面施釉。	口内外クロコナデ。	良好	内外 暗いグレイみのブラウン	
487	SX1004 A2区	瓦器碗	口径(17.0)	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体内外横ナデ後粗い横ヘラミガキ。	雲良好	内外 灰色	
488	SX1004 A2区	瓦質土器釜	口径(31.2)	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。鐔は断面U字状を呈しやや上向きに付く。	口内外指オサエ後ナデ。	雲、石、片やや不良	内外 黄灰	
489	SX1004 A2区	瓦質土器火鉢	口径(40.0)	端面は方形に収め、口縁部は垂直に立ち上がる。	口内外横ナデ。	石、雲良好	内外 灰暗灰	
490	SX1004 A2区	陶器播鉢	口径(32.0)	端部方形に収め両端部やや拡張し、端面は平坦に収める。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口内外回転ナデ。体外回転ナデ。体内回転ナデ後播目。	石、赤良好	内外 にぶい赤褐色にぶい褐色	備前。
491	SX1004 A2区	陶器播鉢		体部小片。	体内回転ナデ後播目。体外回転ナデ。	良好	内外 灰褐色にぶい褐色	備前。

第18表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(17)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
492	SX1004 A2区	陶器 播鉢		体部小片。	体内回転ナデ。体外回転ナデ後播目。	石 良好	内外 褐灰色	備前。
493	SX1004 A2区	陶器 播鉢	口径(25.0)	端部方形に取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体外回転ナデ。口体内回転ナデ後播目。	石、長 良好	内外 褐灰色 明るいグレイ	備前。
494	SX1004 A2区	陶器 播鉢	口径(29.5)	端部方形に取め内面はやや拡張し、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体外回転ナデ。口体内回転ナデ後播目。	石、長 良好	内外 色にぶい赤褐	備前。
495	SX1004 A2区	陶器 播鉢	口径(30.0)	口縁部は上下に拡張し、端面は凹状を呈し内彎気味に立ち上がる。	口内外回転ナデ。体外回転ナデ。体内回転ナデ後播目。	石、雲、赤 良好	内外 明黄褐色 暗褐色	備前。
496	SX1004 A2区	陶器 播鉢	口径(26.0)	端部両端に拡張し、尖り気味に取める。	口体外指オサエ後回転ナデ。口体内回転ナデ後播目。	石、雲、赤 良好	内外 褐灰色 灰褐色	備前。
497	SX1004 A2区	陶器 播鉢	口径(29.5)	端部上下に拡張し尖り気味に端部は平坦に取める。口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内指オサエ後横回転ナデ。	石、雲、長 良好	内外 赤褐色 にぶい赤褐色	備前。
498	SX1004 A2区	磁器 鉢	口径(16.0) 底径(6.5) 器高(5.5)	端部やや丸く取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。外面は体部下、内面は全面に施軸する。	口内外外クロロナデ。体部内面胎土目痕。	精	外 灰白色 素地 うすい黄緑色	
499	SX1004 A2区	磁器 碗	底径(5.5) 高台径(4.0) 高台高0.4	高台は断面逆台形状を呈しやや外向きに付く。	体内外ロクロナデ。底回転ヘラ切り。	密	内外 グレイみの 黄緑色 素地 青灰色	青磁。
500	SX1004 A2区	磁器 碗	口径(18.0)	端部丸く取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。体部は緩やかに内彎する。体内外施軸。体下軸無し。	口内外外クロロナデ。	雲母、赤色 斑粒 良好	内外 グレイみの 黄色 素地 褐灰色	
501	SX1004 A2区	磁器	底径(10.0)	高台は断面逆台形状を呈し垂直に下りる。内外面施軸。高台畳付軸無し。	体内外ロクロナデ。	密	内外 あかるいグ レイみの緑色 素地 灰白色	
502	SX1004 A2区	磁器	口径(11.0)	端部外方にやや拡張し外端面丸く取め、端部は方形に取める。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口内外外クロロナデ。	良好	内外 グレイみの オリーブグリーン 色	
503	SX1004 A2区	磁器	口径(10.0)	端部方形に取め、口縁部は緩やかに外反する。内外面施軸。	口内外ロクロナデ。	密	うすい黄緑色 素地 灰白色	白磁。
504	SX1004 A2区	磁器 碗	口径(16.0)	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら外方に立ち上がる。内外面施軸。体部外面鑄蓮弁。	口内外外クロロナデ。	密	内外 グレイみの 黄緑色 素地 灰白色	青磁Ⅰ-5類。
505	SX1004 A2区	磁器	口径(13.0)	端部丸く取め、口縁部は緩やかに外反する。内外面施軸。	口内外ロクロナデ。	密	内外 グレイみのオリ ーブグリーン色 胎土 灰白色	青磁。
506	SX1004 A2区	磁器 小皿	底径(6.0)	底部のみ。体底部内外面施軸。底部外面無軸。	体内外ロクロナデ。	密	内外 グレイみの 黄色 素地 灰白色	青磁。
511	SX1004 A2区	平瓦	厚さ1.3cm				内外 褐灰色	
512	SX1004 A2区	石鍋	最大長6.5 最大巾8.4 厚さ1.9 重さ139.5g	体部片。				
515	SX1009 B4区	土師質土器 杯	口径(17.0)	端部尖り気味に取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄褐色 灰白色	
516	SX1009 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0) 底径(7.5)	端部は尖り気味に取め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄褐色	
517	SX1009 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部より緩やかに外反しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや軟質	内外 橙色	
518	SX1009 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(10.0)	端部は尖り気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。体部は内彎しながら伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、片 軟質	内外 浅黄褐色	
519	SX1009 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(8.5)	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。体部は中位で内彎気味に口縁部に向かう。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや軟質	内外 黄褐色	
520	SX1009 B4区	土師質土器 杯	口径(14.0) 底径(9.0)	端部尖り気味に取め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	
521	SX1009 B4区	土師質土器 杯	口径(13.5) 底径(6.0)	端部やや尖り、口縁部は外反気味に立つ。体部は直線的に立つ。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤、長 やや軟質	内外 橙色	
522	SX1009 B4区	土師質土器 機種不明	底径(6.5)	底部。	体内外ナデ。底静止糸切り。底部内面接合痕。接合痕内外面ハケ。	石、雲 やや良好	内外 明黄褐色 橙色	
523	SX1009 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.5)	端部丸く取め、口縁部は外上方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 橙色	
524	SX1009 B4区	土師質土器 こね鉢	口径(34.5)	端部方形に取め、口縁部は直線的に外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後縦ナデ。体内横ナデ。	石、長、雲 やや軟質	内外 オリーブ黒	
525	SX1009 B4区	陶器 播鉢	口径(30.0)	端面は凹状に取め端部を上下に拡張する。口縁部は外反気味に立ち上がる。	口内外回転ナデ。体外回転ナデ。体内回転ナデ後播目。	石、雲、片 良好	内外 青灰色	備前Ⅳ期。
526	SX1009 B4区	陶器 播鉢	口径(28.0)	端面を凹状に取め端部内外面拡張する。口縁部は外反気味に立ち上がる。	口内外回転ナデ。体外指オサエ後回転ナデ。体内指オサエ後回転ナデ後播目。	石、雲、片 良好	内外 褐灰色 黄灰色	備前Ⅳ期。
527	SX1009 B4区	陶器 碗	底径(6.0) 高台高(0.5) 高台径(5.0)	高台部は削り出し。	体内外ロクロナデ。底回転ヘラ切り。	砂 良好	内外 極暗赤褐色 黒褐色	
529	SX1009 B4区	石鍋		体部片。				
530	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(15.0) 底径(6.5) 器高(5.2)	端部やや丸く取め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 にぶい橙色	

第19表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(18)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
531	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径14.0 底径7.0 器高3.7	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、片 やや不良	内外 橙色	
532	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(14.0) 底径(8.0) 器高4.4	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 橙色	
533	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(8.0) 器高(3.4)	端部は尖り気味に収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。体部は中位よりやや内傾する。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 にぶい橙色	
534	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5)	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に立ち上がる。体部はやや内傾しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、母、片、 赤、長、砂 良好	内外 にぶい橙色	
535	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(7.5) 器高(3.0)	端部丸く収め、口縁部は緩やかに外反しながら立ち上がる。体部は直線的に外方に伸びる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 浅黄橙色	
536	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(15.5)	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色 にぶい黄橙色	
537	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(10.5) 底径(7.0) 器高(5.0)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	
538	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(15.0)	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	赤 良好	内外 にぶい橙色	
539	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(17.0)	口縁部はやや肥厚し端部を尖り気味に収める。口縁部は直線的に外方に伸びる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 やや良好	内外 浅黄橙色	
540	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(17.0)	端部つまみ上げ尖り気味に収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 やや良好	内外 浅黄橙色 にぶい黄色	
541	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(7.0)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや良好	内外 浅黄橙色	
542	SX1011 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、片 やや良好	内外 灰白色	
543	SX1011 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部は外反気味に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	砂 やや軟質	内外 浅黄橙色	
544	SX1011 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部は内彎気味に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 浅黄橙色	
545	SX1011 B4区	土師質土器 杯	底径(8.5)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 橙色	
546	SX1011 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや良好	内外 灰白色 浅黄橙色	
547	SX1011 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 にぶい黄 色	
548	SX1011 B4区	土師質土器 杯	口径(7.0) 底径(6.5) 器高(1.0)	体部は外方に向かって立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや軟質	内外 橙色	
549	SX1011 B4区	土師質土器 小皿	口径(10.5) 底径(9.5) 器高(10.5)	端部は尖り気味に収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 橙色 灰白色	
550	SX1011 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(5.0) 器高(1.5)	端部は丸く収め、口縁部は外方に伸びる。	口体内外ナデ。	雲 やや良好	内外 浅黄橙色 灰黄褐色	
551	SX1011 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(7.5) 器高(1.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 やや良好	内外 にぶい橙色 灰白色	
552	SX1011 B4区	土師質土器 小皿	口径(6.8)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 浅黄橙色	
553	SX1011 B4区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(6.0) 器高(1.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、片 やや良好	内外 橙色	
554	SX1011 B4区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(7.0) 器高(1.2)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部より直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	
555	SX1011 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高(1.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は外上方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	
556	SX1011 B4区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(5.0) 器高(1.2)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。体部は底部より直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲 やや軟質	内外 浅黄橙色	
557	SX1011 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.1) 底径(7.0) 器高(1.3)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、片、赤 良好	内外 にぶい橙色 灰白色	
558	SX1011 B4区	須恵器 椀	底径(4.0)	貼り付け高台は断面U字状を呈し垂直に下りる。	体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄橙色 灰白色	西村系。
559	SX1011 B4区	須恵質土器 甕	口径(36.0)	端部は凹状を呈し端部内外面拡張、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。口外縦ハケ。口内横ハケ。	雲、石、片、 赤 良好	内外 褐灰	常滑?
560	SX1011 B4区	瓦質土器 鍋	口径(38.5)	端部方形に収め端部は凹状を呈す。口縁部は外方に開く。	口内外横ナデ。	雲 良好	内外 暗灰色	
561	SX1011 B4区	陶器 播鉢	底径(10.5)	底部平底。	体内外回転ナデ。体内擋目4条。	雲、長 良好	内外 赤褐色 にぶい赤褐色	備前。

第20表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(19)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
562	SX1011 B4区	磁器 碗	口径(13.0)	端部丸く収め、口縁部はやや外方に立ち上がる。内外面施釉。	口体内外クロロナデ。口縁端部に輪花文を施す。	密	内外 グレイみのオリープグリーン色 素地灰白色	青磁。
563	SX1011 B4区	磁器 碗	口径(15.5)	端部丸く収め、口縁部は緩やかに外反する。内外面施釉。体部外面蓮弁文。	口体内外クロロナデ。	密	内外 グレイみの黄緑色 素地淡赤褐色	青磁。
564	SX1011 B4区	磁器 碗	底径(4.3) 高台高(0.4) 高台径(4.3)	高台は削り出す。高台部内外面無釉。	体内外クロロナデ。底回転ヘラ切り。	密	内 うすい黄色 素地灰白色	白磁。
565	SX1011 B4区	陶器(甕の 転用?)		体部片。	体内外擦痕。	石、雲、片、 赤 良好	内 におい黄褐色 外 褐色	
566	SX1012 B4区	土師質土器 杯	口径12.0 底径8.0 器高3.5	端部丸く収め、口縁部は緩やかに外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 良好	内 におい黄褐色 外 灰白色、淡赤 褐色	
567	SX1012 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 灰黄褐色	
568	SX1012 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	底部のみ。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	長、雲、赤、 片 良好		
569	SX1012 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄褐色	
570	SX1012 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高(1.1)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片、赤 良好	内 明赤褐色 外 褐色	
571	SX1012 B4区	土師質土器 播鉢	口径(32.0)	端部方形に収め上下にやや拡張、口縁端部外面下に横ナデによる凹み。口縁部は外方に立ち上がる。	口内外体外指オサエ後ナデ。体内指オサエ後ナデ後播目。	石、雲、赤 良好	内外 灰色	
572	SX1012 B4区	磁器 皿	口径(14.0)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。内外面施釉。	口体内外クロロナデ。	密	釉 灰白色 素地 灰白色	白磁。
574	SX1012 B4区	石鍋	底径(12.0)	底部のみ。			内外 暗灰色	
575	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(7.0) 器高(3.5)	端部丸く収め、口縁部は緩やかに外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 褐色	
576	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	赤 良好	内外 浅黄褐色	
577	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5)	端部丸く収め、口縁部は緩やかに外反する。	口体内外ナデ。	石、雲、赤 やや良好	内外 浅黄褐色	
578	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(8.0) 器高(3.3)	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 浅黄褐色	
579	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(10.0) 底径(5.5) 器高(3.0)	端部丸く収め、口縁部は緩やかに外反しながら立ち上がる。体部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲 良好	内 褐色 外 浅黄褐色	
580	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(7.5) 器高(3.3)	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。体部は中でやや内側に屈曲する。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄褐色	
581	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0) 底径(7.0) 器高(3.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部は直線的に外方に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤 良好	内 褐色 外 浅黄褐色	
582	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0) 底径(6.0) 器高(3.4)	端部は尖り気味に収め、口縁部は底部より直線的に立ち上がる。	口体内ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄褐色	
583	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部丸く収め、口縁部は体部より直線的に立ち上がる。内面はやや強いヨコナデにより段差有。	口体内外ナデ。	雲、赤、長 良好	内外 におい褐色	
584	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0) 底径(8.0) 器高(2.5)	端部尖り気味に収め、口縁部は底部より直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、片 良好	内 浅黄褐色 外 褐色	
585	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5)	端部尖り気味に収め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲 良好	内外 褐色	
586	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部上位より内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内指オサエ後横ナデ。	石、雲、赤 やや良好	内 灰白色 外 浅黄褐色	
587	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5)	端部は尖り気味に収め、口縁部は体部上位でやや内傾し直線的に外方に伸びる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	雲、片、赤 良好	内外 灰白色	
588	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部は体部上位でやや内傾し直線的に外方に伸びる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	片、赤 良好	内外 灰白色	
589	SX1014 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部上位よりやや内傾し外反気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	
590	SX1014 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄褐色	
591	SX1014 B4区	土師質土器 杯	底径(9.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内 におい褐色 外 褐色	
592	SX1014 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部は下位より内側に屈曲し内彎気味に立ち上がる。	体外指オサエ後ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 良好	内 におい褐色 外 褐色	
593	SX1014 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	底部のみ。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、片 良好	内 灰白色 外 におい褐色	
594	SX1014 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、片、赤 良好	内外 灰白色	

第21表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(20)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
595	SX1014 B4区	土師質土器杯	底径(7.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲良好	内外 橙色	
596	SX1014 B4区	土師質土器小皿	口径(8.0) 底径(7.5) 器高(1.2)	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲良好	内外 橙色	
597	SX1014 B4区	土師質土器小皿	口径(9.0) 底径(8.0) 器高(1.8)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	口体内外摩擦のため不明。底回転ヘラ切り。	石、雲、片良好	内外 橙色	
598	SX1014 B4区	土師質土器小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高(1.0)	端部は尖り気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤良好	内 にぶい橙色 外 黄灰色	
599	SX1014 B4区	土師質土器小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高(1.5)	端部尖り気味に取め、口縁部は底部より直線的に伸びる。	口体内外ナデ。	雲、赤良好	内 浅黄橙色 外 にぶい黄橙色	
600	SX1014 B4区	土師質土器碗	底径(7.0) 高台高(0.7) 高台径(6.3)	貼り付け高台は断面U字状を呈し高台は外方気味におりる。	体内外横ナデ。	赤良好	内外 浅黄橙色	
601	SX1014 B4区	磁器碗		体部小片。体部連弁文。	体内外クロコナデ。	密	内外 グレイみの黄緑色	青磁。
602	SX1014 B4区	磁器小皿	口径(6.0) 底径(2.0) 器高(1.0)	端部丸く取め、口縁部は体部より外反しながら直線的に伸びる。体部は内彎しながら立ち上がる。	内クロコナデ後型押底。	密	釉 うすい黄緑色 素地 灰白色	
604	SX1018 A1区	土師質土器杯	口径(13.5)	端部は丸く取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲良好	内外 橙色	
605	SX1018 A1区	土師質土器杯	口径(12.0)	端部は方形気味に取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。体部内面は強い横ナデにより間隔の狭い段差有。	口体内外横ナデ。	雲、片良好	内外 橙色	
606	SX1018 A1区	土師質土器杯	口径(12.5)	端部方形気味に取め、口縁部は体部より直線的に伸びる。	口体内外ナデ。	雲良好	内 浅橙色 外 灰白色	
607	SX1018 A1区	土師質土器杯	底径(8.0)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤良好	内外 橙色	
608	SX1018 A1区	土師質土器小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高(1.5)	端部丸く取め、口縁部は底部よりやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲良好	内外 橙色	
609	SX1018 A1区	土師質土器小皿	口径5.5 底径5.0 器高1.5	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片良好	内 橙色 外 にぶい黄橙色	
610	SX1018 A1区	土師質土器小皿	口径6.0 底径5.5 器高1.0	端部丸く取め、口縁部は底部より外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、赤、砂	内外 橙色	内面煤付着。
611	SX1018 A1区	土師質土器小皿	口径(6.5) 底径(6.0) 器高(1.0)	端部は丸く取め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤良好	内外 橙色	
612	SX1018 A1区	土師質土器釜	口径(26.5) 底径(29.5)	端部丸く取め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。断面U字状鏝水平に付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲良好	内 にぶい黄橙色 外 橙色、灰褐色	
613	SX1018 A1区	土師質土器釜	口径(30.0)	端部丸く取め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。鏝は断面U字状を呈し水平に貼り付ける。	口外横ナデ。体外口内指オサエ後ナデ。体内指オサエ後板ナデ。	石、赤良好	内 にぶい黄橙色 外 灰黄褐色	
614	SX1018 A1区	土師質土器釜	口径(30.0)	端部丸く取め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。鏝は断面U字状を呈しやや上向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲、片良好	内 にぶい黄褐色 外 黒褐色	
615	SX1018 A1区	土師質土器鍋	口径36.0	端面は方形に取め、端部内面はやや拡張する。口縁部は頸部よりやや外反しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	雲、赤良好	内 にぶい赤褐色 外 黒褐色	
616	SX1018 A1区	土師質土器こね鉢	口径(30.0)	端部方形に取め、両端部上下に拡張し丸く収める。口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、片良好	内 黄褐色 外 灰褐色	
617	SX1018 A1区	磁器天目茶碗?	口径(10.0)	端部丸く取め、口縁部は体部中位よりやや内側に屈曲し外反しながら立ち上がる。	口体内外クロコナデ。	精	釉 暗いグレイみのブラウン 素地 浅黄色	鉄釉。
618	SX1021 A1区	土師質土器杯	口径(12.0) 底径(6.0) 器高(3.5)	端部は尖り気味に取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、片、赤、砂良好	内外 にぶい黄橙色	
619	SX1021 A1区	土師質土器小皿	口径(9.5) 底径(7.5) 器高(2.0)	端部丸く取め、口縁部は底部より直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、赤、長良好	内外 橙色	
620	SX1021 A1区	須恵器こね鉢	口径(25.5)	端面は方形に取め、端部を上下に拡張し口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外回転ナデ。	石、片良好	内外 灰色	東播系。
621	SX1021 A1区	陶器天目茶碗	口径(12.0)	端部丸く取め、口縁部は外反する。	口体内外クロコナデ。	精	釉 濃い黄みのブラウン色 素地黄灰色	
622	SX1022 B4区	土師質土器杯	口径10.5 底径5.0 器高3.0	端部尖り気味に取め、口縁部は体部上位で内傾し外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 灰白色	
623	SX1022 B4区	土師質土器小皿	口径(7.0) 底径(6.5)	端部丸く取め、口縁部は底部より外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲良好	内外 灰白色	
624	SX1022 B4区	土師質土器小皿	口径(9.0) 底径(8.0)	端部丸く取め、口縁部は底部より外方に直線的に伸びる。	口体内外ナデ。	片、赤良好	内外 灰白色	
625	SX1022 B4区	土師質土器小皿	口径(7.0) 底径(5.5)	端部丸く取め、口縁部は底部より直線的に外方に向かって立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤良好	内外 浅黄橙色	

第22表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(2)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
626	SX1022 B4区	須恵器 碗	底径(5.2) 高台径(4.6) 高台高(0.4)	貼り付け高台は断面三角形を呈し垂直に付く。	体内外ナデ。	雲 良好	内外 ぶい黄褐色	西村系。
627	SX1023 B4区	土師質土器 杯	口径(11.5) 底径(7.5) 器高(4.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に向かって直線的に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤、 片 良好	内外 橙色	
628	SX1023 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(8.0) 器高(3.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部は体部上位でやや内傾し内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	赤、雲 良好	内外 浅黄褐色 外 灰白色	
629	SX1023 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部は体部上位でやや内傾し内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後横ナデ。体内横ナデ。	赤、雲 良好	内外 灰白色	
630	SX1023 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高(1.3)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲 やや良好	内外 橙色	
631	SX1024 B4区	土師質土器 杯	口径12.0 底径8.0 器高3.5	端部丸く収め、口縁部は底部より直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 橙色	
632	SP10995 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(6.5) 器高0.9	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや良好	内外 浅黄褐色	
633	SP10995 A2区	須恵器 壺	体部最大径 (12.0)	体部小片。	体内外クロコナデ。	雲、赤 良好	内外 褐灰色 外 灰白色	
634	SP11914 A2区	土師質土器 杯	口径(14.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部より直線的に外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。	雲、赤、長 良好	内外 ぶい橙色	
635	SP11914 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部は体部上位で内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後横ナデ。	片、赤 良好	内外 灰白色	
636	SP11914 A2区	土師質土器 杯	口径(11.5)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部中位で内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲、片、 赤、長 良好	内外 灰白色	
637	SP11914 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(0.7) 器高(1.1)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、片 良好	内外 ぶい橙色	
638	SP11914 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.5) 器高(1.5)	端部は丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	赤、砂 良好	内外 橙色	
639	SP11914 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(5.0) 器高(1.5)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口内外外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤、長 良好	内外 灰白色	
640	SP11914 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高(1.4)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	赤、砂 良好	内外 橙色	内外面煤付着。
641	SP11914 A2区	磁器 皿	底径(8.0)	底部内面に拂書きによるジグザグ文有り。	体内外クロコナデ。	密	素地 灰白色 釉色 緑灰色	青磁。
642	SP11915 A2区	土師質土器 杯	口径(14.0)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口内外外横ナデ。	石、雲、赤、 長 良好	内外 浅黄褐色	
643	SP11915 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部やや丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口内外外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄褐色	
644	SP11915 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高(0.7)	端部丸く収め、口縁部は外方に開く。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤、長 良好	内外 ぶい黄褐色	
645	SP11915 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(5.5) 器高(0.9)	端部丸く収め、口縁部は外方に開く。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤 良好	内外 浅黄褐色	
646	SP11915 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(5.5) 器高(0.9)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 橙色	
647	SP11915 A2区	須恵器 碗	口径(14.0)	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口内外外横ナデ。	雲 良好	内外 灰色 暗灰色	西村系。
648	SP11916 A2区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部丸く収め、口縁部は内傾気味に立ち上がる。	口内外外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄褐色 外 ぶい黄橙	
649	SP11916 A2区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 ぶい橙色	
650	SP11916 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は内彎気味に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤、長 良好	内外 浅黄褐色	
651	SP11916 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤、長 良好	内外 灰白色	
652	SP11916 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高1.8	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口内外外横ナデ。底回転糸切り。	雲、赤 良好	内外 浅黄褐色	
653	SP11916 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.4	端部丸く収め、口縁部は外方に伸びる。	口内外外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤、長 良好	内外 灰白色	
654	SP11916 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口内外外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤、 長 良好	内外 橙色	
655	SP11916 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.5) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方へ立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤、砂 良好	内外 橙色	

第23表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(2)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
656	SP11916 A2区	磁器 碗	口径(15.0)	端部尖り気味に取め、口縁部は外反する。体部は直線的に伸びる。口体内外施釉。体部内面飛雲文。	口体内外クロコナテ。	密	内外 グレイみの オリープグリーン	青磁。
657	SP11922 A2区	土師質土器 杯	口径13.5 底径8.0 器高3.5	端部丸く取め口縁部は外反気味に立ち上がる。体部は直線的に伸びる。	口体内外横ナテ。底回転ヘラ切り 後板ナテ。	雲、赤、砂 良好	内外 にぶい橙色	
658	SP12091 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(5.0) 器高1.2	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナテ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 浅黄褐色	
659	SP10026 B5区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.7	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナテ。	雲、赤 良好	内外 にぶい赤橙 色	
660	SP10037 B5区	須恵器 甕	口径(26.5)	端部方形に取め、口縁部は頸部より「く」 の字状に外反しながら立ち上がる。	口内外ナテ。体外格子目タタキ。 体内横板ナテ。	良好	内外 灰色	
661	SP10039 B5区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(8.0) 器高4.0	端部丸く取め、口縁部は体部より内彎しな がら立ち上がる。	口体内外横ナテ。	石、雲、片、 赤 軟質	内外 浅黄褐色	
662	SP10045 B5区	瓦質土器 小皿	口径(7.5) 底径(5.0) 器高1.1	端部丸く取め、口縁部はやや内彎しながら 立ち上がる。	口体内外横ナテ。底回転ヘラ切 り。	雲、赤 良好	内外 灰白色	外面底部に煤 付着。
663	SP10112 B5区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.2	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナテ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内 浅黄褐色 外 にぶい黄褐色	
664	SP10114 B5区	土師質土器 杯	口径11.0	端部は尖り気味に取め、口縁部は体部中位 よりやや内彎しながら立ち上がる。	口内外横ナテ。体外指オサエ後 ナテ。体内横ナテ。	石、雲、片、 赤 良好	内 灰白色 外 浅黄褐色	
665	SP10149 B5区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(9.5) 器高3.7	端部は尖り気味に取め、口縁部は内彎しな がら立ち上がる。	口体内外ナテ。底回転ヘラ。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内 淡赤橙色 外 淡褐色	
666	SP10231 B5区	陶器 壺	口径(13.0)	端部丸く取め玉縁状を呈す。口縁部は直線 的に立ち上がる。	口内外回転ナテ。	石、雲、長 良好	内 赤灰色 外 灰褐色	備前。
667	SP10263 B5区	土師質土器 椀	底径(6.0) 高台径(5.8) 高台高0.4	貼り付け高台は断面三角形を呈し垂直に 下がる。	体内外ナテ。	雲、片 良好	内 にぶい橙色 外 明黄褐色	
668	SP10268 B5区	磁器 碗	口径(16.5)	端部丸く取め、口縁部は外反しながら立ち 上がる。体部は内彎しながら立ち上がる。 内外面施釉。	口体内外クロコナテ。	密	内外 黄みのブラ ウン	青磁
669	SP10330 B5区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(7.0) 器高0.9	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナテ。底回転ヘラ切 り。	石、雲、片 軟質	内外 橙色	
670	SP10353 B5区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.2	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら 外方に立ち上がる。	口体内外横ナテ。底回転ヘラ切 り。	石、雲、片、 赤 軟質	内外 橙色	
671	SP10356 B4区	須恵器 椀	口径(13.5)	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナテ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	西村系。
672	SP10362 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	体部は底部より内彎しながら立ち上がる。	体内外ナテ。底回転ヘラ切り後ナ テ。	石、雲、長、 赤 良好	内 にぶい橙色 外 灰白色	外面底部煤付 着。
673	SP10387 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(5.0) 器高1.2	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上 がる。	口体内外横ナテ。底回転ヘラ切 り後ナテ。	石、雲、片 良好	内外 にぶい黄橙 色	
674	SP10392 B4区	土師質土器 杯	底径(9.5)	体部は内彎しながら立ち上がる。	体内外ナテ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 軟質	内 にぶい橙色 外 橙色	
675	SP10392 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.1	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上 がる。	口体内外ナテ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや良好	内 灰白色 外 橙色	
676	SP10423 B4区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(4.5) 器高1.6	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上 がる。	口体内外ナテ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや良好	内外 灰白色	
677	SP10429 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(8.5) 器高4.0	端部丸く取め、口縁部は体部より直線的に 伸び、端部はやや外反。体部外面横ナテに よる幅狭な段差有り。	口体内外横ナテ。底回転ヘラ切 り。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 橙色	
678	SP10440 B4区	土師質土器 杯	口径(24.0)	端部丸く取め、口縁部は若干外方に屈曲し 立ち上がる。口縁部内面に凹有り。	口体内外ナテ。	雲、赤 良好	内外 橙色	
679	SP10476 B4区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部丸く取め、口縁部は体部中位よりやや 外側に屈曲し外方に立ち上がる。	口内外ナテ。	雲、赤 軟質	内外 灰白色	
680	SP10476 B4区	土師質土器 杯	口径(15.0)	端部丸く取め、口縁部は外反しながら立ち 上がる。	口体内外ナテ。	やや良好	内外 浅黄褐色	
681	SP10478 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部は直線的に外方に立ち上がる。	体内外ナテ。底回転ヘラ切り後ナ テ。	雲 軟質	内外 浅黄褐色	
682	SP10498 B4区	土師質土器 杯	口径(14.0) 底径(8.0) 器高3.1	端部丸く取め、口縁部はやや内彎しな がら立ち上がる。体部外面横ナテによる粗い段 差有。	体内外横ナテ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内 灰白色 外 橙色	
683	SP10498 B4区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部はやや内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナテ。底回転ヘラ切り後 ナテ。	石、雲、片 軟質	内外 黄灰色	
684	SP10498 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.4	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上 がる。	体内外ナテ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや良好	内外 橙色	

第24表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(23)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
685	SP10498 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(7.0) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、赤軟質	内外 橙色	
686	SP10521 B4区	土師質土器 杯	口径(14.5) 底径(7.5) 器高4.0	端部丸く収め、口縁部は体部より直線的に伸び外方に開く。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、長、赤やや軟質	内外 橙色	
687	SP10529 B4区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部丸く収め、口縁部はやや内彎しながら外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片、赤やや良好	内外 灰白色	
688	SP10593 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は底部よりやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、片、赤やや軟質	内外 灰白色	内外面部分的に朱の痕跡有。
689	SP10604 B4区	須恵器 碗	底径(6.2) 高台高0.5 高台径(5.5)	断面三角形の高台は垂直に貼り付ける。体部はやや内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底内板ナデ。	砂良好	内外 浅黄褐色	西村系。
690	SP10612 B4区	土師質土器 杯	底径7.0	底部より体部はやや内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片、赤良好	内外 灰白色	
691	SP10627 B4区	土師質土器 杯	底径8.0	体部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤良好	内外 黒褐色 浅黄褐色	内面に煤附着。
692	SP10634 B4区	土師質土器 鍋	口径(33.0)	端部やや丸く収め、口縁部は頸部より「く」の字状に外反する。	口端横ナデ。口外指オサエ後横ナデ。口体内横ナデ。体外指オサエ後縦板ナデ。	石、雲、赤良好	内外 におい褐色	体部外面に煤附着。
693	SP10635 B4区	土師質土器 杯	口径15.0 底径7.0 器高4.7	端部方形に収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。体部内外面横ナデによる幅狭の段差有。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片良好	内外 橙色	
694	SP10654 B4区	土師質土器 杯	口径13.0 底径7.5 器高3.2	端部はやや方形に収め、口縁部は外方に立ち上がる。体部は直線的に立ち上がる。体部外面に横ナデによる粗い段差有。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片やや軟質	内外 橙色	
695	SP10704 A2区	陶器 播鉢	口底器	体部小片。	体外回転ナデ。体内回転ナデ後播り目。	良好	内外 灰褐色 灰黄褐色	備前。
696	SP10743 A2区	土師質土器 杯	底径9.0	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、片、赤やや軟質	内外 浅黄褐色 橙色	
698	SP10832 A2区	土師質土器 杯	口径9.0 底径7.0 器高1.3	端部尖り気味に収め外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 浅黄褐色	
699	SP10838 A2区	土師質土器 杯	底径7.0	体部はやや外反しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、赤やや軟質	内外 橙色	
700	SP10838 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(8.0) 器高1.3	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤やや軟質	内外 橙色	
701	SP10838 A2区	須恵器	底径(11.5)	底部平底。体部中位に向かい直線的に立ち上がる。	体内外クロコナデ。	石、雲、片良好	内外 黄灰色 灰色	
702	SP10842 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片やや軟質	内外 橙色	
704	SP10885 A2区	土師質土器 杯	口径(11.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、赤軟質	内外 灰白色	
705	SP10885 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(5.0) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤軟質	内外 におい黄褐色	
706	SP10889 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.5) 底径(7.5) 器高1.7	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底ナデ。	石、雲やや良好	内外 におい黄褐色 灰白色	
707	SP10916 A2区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤良好	内外 浅黄褐色	
708	SP10916 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(8.5) 器高1.0	端部は尖り気味に収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤良好	内外 浅黄褐色	
709	SP10916 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.6	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底ナデ。	雲やや良好	内外 浅黄褐色 灰白色	
710	SP10928 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(6.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	良好	内外 橙色 におい橙色	
711	SP10931 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部丸く収め、口縁部は内外面横ナデによりやや細く外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片やや軟質	内外 におい橙色 橙色	
712	SP10931 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。体部は内彎しながら口縁部に向かう。	口体内外ナデ。	雲、赤良好	内外 におい橙色	
713	SP10931 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(6.5) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底ナデ。	雲やや軟質	内外 橙色	
714	SP10936 A2区	土師質土器 皿	口径(8.5) 底径(7.0) 器高1.3	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、片やや良好	内外 橙色 淡褐色	
715	SP10936 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(5.5) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲良好	内外 におい黄褐色	

第25表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(24)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
716	SP10936 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄橙色 にぶい橙色	
717	SP10940 A2区	土師質土器 杯	底径(5.0)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 橙色	
718	SP10940 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高1.6	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、片、赤 やや良好	内外 浅黄橙色	
719	SP10941 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(9.0) 器高3.5	端部丸く収め、口縁部は外方に体部より直線的に伸びる。体部外面横ナデによる粗い段差。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	
720	SP10941 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部上位より屈曲し外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色 明褐色	
721	SP10962 A2区	土師質土器 杯	口径(12.5)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部上位より内側に屈曲し外方に立ち上がる。体部はやや内彎しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 にぶい黄橙色	
722	SP10964 A2区	土師質土器 杯	底径(7.5)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 明褐色 褐色	
724	SP10967 A2区	土師質土器 杯	口径(14.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片 良好	内外 浅黄橙色 にぶい橙色	
725	SP10969 A2区	土師質土器 杯	口径(12.5)	端部方形気味に収め、口縁部は体部より直線的に立ち上がる。	口体外指オサエ後ナデ。口体内ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色 にぶい黄橙色	
726	SP10970 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤 軟質	内外 橙色	
727	SP10971 A2区	土師質土器 杯	底径(9.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 橙色	
728	SP10971 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(5.0) 器高1.1	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に向かって立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 橙色 にぶい橙色	
729	SP10979 A2区	土師質土器 杯	口径(12.5)	端部丸く収め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。体部内外面横ナデにより幅狭な段差有り。	口体内外横ナデ。	石、雲 良好	内外 にぶい黄橙色	
730	SP10979 A2区	土師質土器 杯	口径(14.0)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
731	SP10979 A2区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部丸く収め、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 にぶい橙色	
732	SP10979 A2区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部方形に収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色 灰色	内外面煤付着。
733	SP10979 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(7.0) 器高1.7	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。体部は直線的に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 やや軟質	内外 浅黄橙色	
734	SP10979 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲 良好	内外 橙色	
735	SP10979 A2区	土師質土器 釜	口径(18.0)	端部方形気味に収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。端部内面に横ナデによる凹み有り。断面U字状の鈎上向きに付く。	口端内外横ナデ。口体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 褐色	内外面煤付着。
736	SP10979 A2区	磁器 碗	口径(15.0)	端部は尖り気味に収め、端部内外面に軸は認められない。口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外クロナデ。	密	釉 グレイみの黄 緑色 素地 灰白色	白磁。
737	SP10980 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(7.0) 器高4.0	端部丸く収め、口縁部は直線的に立ち上がる。体部外面に横ナデによる弱い段差。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	
738	SP10982 A2区	須恵器 碗	口径(16.0)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。体部は直線的に伸びる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰色	西村系。
739	SP10989 A2区	土師質土器 杯	口径(15.0)	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	良好	内外 灰黄褐色	
740	SP10992 A2区	土師質土器 杯	口径(14.0) 底径8.5 器高3.5	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら体部より直線的に伸びる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 橙色 にぶい橙色	
741	SP10993 A2区	土師質土器 杯	口径(16.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部は外反する。	口体内外ナデ。	赤 良好	内外 浅黄褐色	
742	SP10993 A2区	陶器 天目茶碗	口径(13.0)	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。内外施釉。	口体内外クロナデ。	雲、赤 良好	内外 黒色 素地 褐色	
743	SP10994 A2区	土師質土器 杯	底径(7.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 明黄褐色 浅黄褐色	
744	SP10998 A2区	土師質土器 鍋		端部は丸く収める。口縁部は頸部より外方に屈曲し開く。	口外横ナデ。口端内横ナデ。口内指オサエ後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄褐色	
745	SP11000 A2区	土師質土器 杯	口径12.5 底径7.5 器高3.5	端部方形に収め、口縁部は体部より直線的に伸び外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄褐色 灰白色	
746	SP11000 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部より体部は直線的に伸びる。	体外横ナデ。体内指オサエ後横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲 良好	内外 赤灰色 灰赤色、黒褐 色	
747	SP11000 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(6.5) 器高1.5	端部は丸く収める。口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲 良好	内外 橙色	

第26表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(25)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
748	SP11000 A2区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径6.0 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 灰白色	
749	SP11001 A2区	土師質土器 杯	口径(14.0) 底径(10.0) 器高3.0	端部は丸く収める。口縁部は体部中位より内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色 にぶい黄橙色	
750	SP11001 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 良好	内外 灰黄褐色 にぶい橙色	
751	SP11001 A2区	土師質土器 杯	底径(7.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片、 良好	内外 橙色	
752	SP11001 A2区	土師質土器 杯	底径(5.5)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底静止糸切り。	良好	内外 灰白色	
753	SP11002 A2区	土師質土器 杯	口径(16.0)	端部は方形に収め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲 良好	内外 灰白色	
754	SP11005 A2区	土師質土器 杯	口径(15.0) 底径(8.5) 器高3.2	端部は丸く収め、口縁部は底部より直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、長、 良好	内 にぶい橙色 外 灰褐色	
755	SP11005 A2区	土師質土器 杯	口径(11.5) 底径(8.0) 器高3.0	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、赤、砂 良好	内外 灰白色	
756	SP11005 A2区	土師質土器 杯	底径(7.7)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 長、赤 良好	内外 褐灰色	
757	SP11005 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 灰白色 浅黄褐色	
758	SP11005 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(6.0) 器高1.1	端部は丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内 にぶい橙色 外 橙色	
759	SP11006 A2区	須恵質土器 こね鉢	口径(28.0)	端部は両端に拡張し端面を丸く収める。口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	体内外回転ナデ。	石、雲、片、 長 良好	内 にぶい黄褐色 外 灰白色	東播系。
760	SP11007. 11008 A2区	須恵質土器 こね鉢	口径(27.0)	端部は両端に拡張し端面を丸く収める。口縁部は外反しながら立ち上がる。	体内外回転ナデ。	雲、長、赤 良好	内外 灰白色	東播系。
761	SP11010 A2区	土師質土器 杯	口径(11.5) 底径(8.0) 器高2.5	端部は丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片、赤 良好	内外 浅黄褐色	
762	SP11011 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部より体部はやや内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 にぶい橙色	
763	SP11011 A2区	土師質土器 釜	口径(18.0)	端部丸く収め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。断面三角状鋳や下向きに付く。	口内外横ナデ。体内外指オサエ後ナデ。	石、雲、片、 長 良好	内 浅黄褐色、灰 黄褐色 外 黒褐色	
764	SP11033 A2区	土師質土器 杯	底径(6.0)	底部のみ。	口内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤、長 良好	内外 橙色	
765	SP11033 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部のみ。	底回転ヘラ切り後ナデ。	赤、砂 良好	内外 灰白色	
766	SP11033 A2区	土師質土器 釜	口径(23.5)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ。体内横板ナデ。	石、雲、赤 良好	内 灰黄褐色 外 灰白色	
767	SP11082 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高(1.3)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤、砂 良好	内外 橙色	
768	SP11143 A2区	土師質土器 杯	口径13.0 底径8.5 器高4.0	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤、砂 良好	内外 橙色	
769	SP11143 A2区	土師質土器 小皿	口径(5.5) 底径(5.7) 器高0.9	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 橙色	
770	SP11152 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(6.0) 器高3.5	端部丸く収め、口縁部は体部よりやや内彎しながら外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、赤、 長 良好	内外 橙色	
771	SP11155 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(5.0) 器高1.5	端部は丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤 良好	内 橙色 外 にぶい黄褐色	
772	SP11164 A2区	磁器 碗	口径(15.0)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。体部は内彎しながら立ち上がる。	口体内外クロコナデ。	不良	釉 灰オリーブ色 素地 灰白色	青磁。
773	SP11168 A2区	土師質土器 杯	口径(6.0) 底径(6.0) 器高0.7	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 橙色	
774	SP11180 A2区	土師質土器 播鉢	口径(32.5)	端部方形に収め内側にやや拡張し、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。口体内指オサエ後ナデ後播り目。	石、雲、赤、 長 良好	内 にぶい橙色 外 明褐色	
775	SP11228 A2区	土師質土器 杯	底径(6.0)	体部はやや内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底静止糸切り。	赤、砂 良好	内外 浅黄褐色	
776	SP11300 B4区	土師質土器 杯	底径(6.0)	体部は直線的に外方に立ち上がる。	体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄褐色	
777	SP11338 B4区	土師質土器 杯	底径(6.0)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	口内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、赤 良好	内 にぶい橙色 外 橙色	
778	SP11402 B4区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径6.0 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 灰白色	

第27表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(26)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
779	SP11403 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色 灰白色	
780	SP11409 B4区	土師質土器 杯	口径(10.0) 底径(6.5) 器高1.8	端部尖り気味に収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。体部は内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。	赤、砂 良好	内外 灰白色	
781	SP11412 B4区	土師質土器 釜	口径(28.0)	端部方形に収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。断面U字状鑄水平に付く。	口端内外横ナデ。口体外指オサエ後横ナデ。口体内横ナデ。	石、片、赤、 長 良好	内外 明赤褐色 橙色	
782	SP11419 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(7.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、片 良好	内外 黄灰色 にぶい黄橙色	
783	SP11419 B4区	瓦器 小皿	口径(7.0) 底径(5.5) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は直線的に外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、赤、長、 砂 良好	内外 灰黄色 黒褐色	
784	SP11423 B4区	土師質土器 釜	口径16.0	端部方形に収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。体部は球形状を呈する。	口内ナデ。口外ナデ後縦ハケ。体外上縦ハケ後横ナデ、下指オサエ後ナデ。体内上縦ハケメ下横ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 にぶい黄橙色 灰白色	
785	SP11435 B4区	土師質土器 杯	底径(6.0)	体部はやや内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 浅黄橙色 灰白色	
786	SP11443 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部中位よりやや内傾し直線的に外方に立ち上がる。	口内外ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	
787	SP11443 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.3) 器高1.1	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 橙色	
788	SP11445 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高0.9	端部丸く収め、口縁部外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 橙色	
789	SP11446 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、赤、砂 良好	内外 浅黄橙色	
790	SP11464 B4区	土師質土器 杯	底径(5.2)	底部より体部は内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。	石、雲 良好	内外 橙色	
791	SP11464 B4区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径6.0 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	
792	SP11464 B4区	土師質土器 杯	口径(8.0) 底径(7.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 橙色	
793	SP11464 B4区	磁器 碗	口径(16.5)	端部は尖り気味に収め、口縁部はやや肥厚し外方に立ち上がる。口縁部内外面に施釉。	口体内外クロロナデ。体外鑄運弁。	密	内外 グレイみの 黄緑色	青磁電泉窯系 I-5類。
794	SP11470 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5) 底径(8.0) 器高(4.1)	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	長、雲、赤 良好	内外 橙色	
795	SP11470 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高(1.1)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤、砂 良好	内外 橙色	
796	SP11472 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高(1.3)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 にぶい褐	
797	SP11478 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に内彎気味に伸びる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 橙色 にぶい橙色	
798	SP11478 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、長、 赤 良好	内外 灰白色	
799	SP11478 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.5	端部はやや尖り、口縁部は直線的に外方に伸びる。	口体内外横ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	
800	SP11479 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(9.0) 器高3.1	端部方形気味に収め、口縁部はやや外反する。	口体内外ナデ。	石、赤 良好	内外 浅黄橙色	
801	SP11479 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、赤 良好	内外 明黄褐色 にぶい黄褐色	
802	SP11479 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(8.0) 器高3.1	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。体部外面横ナデによる段差有り。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、片 良好	内外 にぶい黄褐色 浅黄褐色	
803	SP11479 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色 灰白色	
804	SP11479 B4区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径6.0 器高1.3	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、長、赤 良好	内外 浅黄橙色	
805	SP11479 B4区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(7.5) 器高1.3	端部は尖り気味に収め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、長、赤 良好	内外 橙色	
806	SP11479 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(6.0) 器高1.4	端部丸く収め、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	
808	SP11481 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5)	端部丸く収め、口縁部は内傾気味に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、赤、砂 良好	内外 浅黄橙色	

第28表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(27)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
809	SP11481 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 橙色	
810	SP11481 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高1.3	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に伸びる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内 橙色 外 橙色、にぶい 黄橙色	
811	SP11481 B4区	土師質土器 小皿	口径6.5 底径6.0 器高1.4	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片、長、 赤 良好	内外 橙色	
812	SP11481 B4区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径6.0 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、長、赤 良好	内外 灰白色	
813	SP11481 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
814	SP11483 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部丸く収め、口縁部は緩やかに外反する。	口体内外ナデ。	赤、砂 良好	内外 にぶい橙色	
815	SP11492 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(7.5) 器高3.3	端部丸く収め、口縁部は体部より直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、長、赤、 砂 良好	内 黄灰色 外 にぶい黄橙色	
816	SP11492 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	片 良好	内外 橙色	
817	SP11492 B4区	土師質土器 こね鉢	口径(34.0)	端部方形に収め、内側を拡張し丸く収める。	口体外指オサエ後ナデ。	石、雲 良好	内外 浅黄色	
818	SP11492 B4区	須恵器 碗	底径(5.5) 高台高(0.3) 高台径(5.0)	貼り付け高台は断面台形状を呈し垂直に下りる。	体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 明るいグレイ	西村系。
819	SP11493 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.2	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 にぶい橙色	
820	SP11493 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 にぶい黄橙色	
821	SP11493 B4区	土師質土器 碗	口径(17.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体内板ナデ。	赤 良好	内外 浅黄橙色	
822	SP11497 B4区	磁器 皿	口径(15.7)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。内外面全面施釉。	口体内外クロナデ。	良好	内外 灰オリーブ色	青磁。
824	SP11498 B4区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(8.0) 器高3.5	端部丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。体部外面横ナデによる段差有。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内 にぶい黄橙色 外 浅黄橙色	
825	SP11498 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5) 底径(8.0) 器高3.4	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	赤 良好	内外 灰白色	
826	SP11498 B4区	土師質土器 杯	口径(10.0) 底径(7.5) 器高3.1	端部は丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤 良好	内 橙色、部分的 に灰白色 外 橙色	
827	SP11498 B4区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部中位よりやや内傾し外方に傾く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	雲	内外 浅黄橙色	
828	SP11498 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は底部よりやや内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。	良好	内外 橙色	
829	SP11498 B4区	土師質土器 杯	底径(9.0)	体部は底部より外反しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	片 良好	内外 橙色	
830	SP11498 B4区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(5.0) 器高1.5	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
831	SP11498 B4区	土師質土器 小皿	口径7.5 底径6.5 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内 浅黄橙色 外 橙色	
832	SP11498 B4区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高1.1	端部は丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、長、片、 赤 良好	内外 橙色	
833	SP11498 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高(1.3)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、片 良好	内外 橙色	
834	SP11498 B4区	磁器 碗	口径(6.0) 底径(6.0) 高台高0.8 高台径5.0	高台断面台形状やや外方に開く。畳付と高台内面釉なし。	体内外クロナデ。	密	釉 うすい緑みの スカイ 素地 灰白色	白磁。
835	SP11498 B4区	陶器 播鉢	底径(10.0)	体部は底部より直線的に伸びる。	体内外回転ナデ。	良好	内 灰褐色 外 灰赤色	備前。
837	SP11505 B4区	土師質土器 杯	底径(10.0)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外指オサエ後ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲 良好	内外 橙色	
838	SP11515 B4区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(5.0) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は底部より直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 橙色	
839	SP11526 B4区	土師質土器 杯	口径(14.5) 底径(9.0) 器高4.0	端部はやや丸く収め、口縁部は体部より外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 軟質	内外 橙色	

第29表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(28)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
840	SP11526 B4区	土師質土器杯	口径(11.5) 底径(7.5) 器高3.7	端部は尖り気味に取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲やや軟質	内外 橙色	
841	SP11526 B4区	土師質土器小皿	口径(5.5) 底径(4.0) 器高1.1	端部尖り気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤良好	内外 橙色	
842	SP11526 B4区	土師質土器小皿	口径(6.0) 底径(5.0) 器高1.1	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤良好	内外 橙色	
843	SP11532 B4区	土師質土器杯	口径(11.0) 底径(6.0) 器高3.5	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。体部外面横ナデによる弱い段差有り。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤良好	内外 灰白色	
844	SP11542 B4区	土師質土器小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高1.2	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤良好	内外 浅黄橙色 外 橙色	
845	SP11544 B4区	陶器播鉢	底径(15.5)	底部平底。体部は直線的に立ち上がる。	体内外回転ナデ。	石、雲良好	内外 褐灰色 外 にぶい橙色	備前。
846	SP11546 B4区	土師質土器杯	口径(12.0) 底径(6.0) 器高2.5	端部方形気味に取め、口縁部は外反気味に立ち上がる。体部は直線的に伸びる。	口体内外ナデ。	片やや軟質	内外 橙色	
847	SP11546 B4区	磁器碗	口径(15.0)	端部丸く取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。口体内外面施釉。	口体内外クロロナデ。	密	釉 グレイみの黄緑色 素地 灰白色	青磁。
848	SP11551 B4区	土師質土器杯	口径(6.0) 底径(7.0) 器高3.5	端部尖り気味に取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤良好	内外 灰白色	
849	SP11551 B4区	土師質土器杯	底径(8.0)	底部のみ。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板目痕。	石、雲、片軟質	内外 にぶい橙色 外 橙色	
850	SP11551 B4区	土師質土器杯	口径(10.5) 底径(8.0) 器高1.3	端部尖り気味に取め、口縁部は体部中位より内傾気味に立ち上がり外方に直線的に伸びる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、片、赤やや良好	内外 浅黄橙色	
851	SP11551 B4区	土師質土器釜	口径(26.0) 底径(31.0)	端部丸く取め、口縁部は内傾しながら立ち上がる。断面U字状鑄上向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、片やや軟質	内外 橙色 外 にぶい黄色	外面に煤付着。
852	SP11551 B4区	磁器	口径(8.5)	端部方形に取めやや内彎しながら立ち上がる。口縁部施釉。体部釉無し。	体内外クロロナデ。	精	釉 うすい黄色 素地 灰白色	
853	SP11555 B4区	土師質土器杯	底径(8.0)	体部は内彎気味に立ち上がる。	体内外ナデ。底ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 灰白色 外 にぶい黄橙色	
854	SP11561 B4区	土師質土器杯	口径(14.0)	端部方形気味に取め、口縁部は外反気味に立ち上がる。体部は直線的に伸びる。	体内外ナデ。	雲、片、赤やや軟質	内外 橙色 外 にぶい黄橙色	
855	SP11561 B4区	土師質土器小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.4	端部方形気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。	石、雲、赤良好	内外 にぶい褐色	
856	SP11572 B4区	土師質土器杯	口径(12.0)	端部方形気味に取め、口縁部は体部より直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片やや軟質	内外 にぶい黄褐色	
857	SP11572 B4区	瓦質土器鍋	口径(29.0)	端部方形に取める。口縁部は外方に立ち上がる。	口端内外ナデ。口外タキ後ナデ。口内ナデ。	石、雲、長やや軟質	内外 灰色	
858	SP11628 B4区	土師質土器杯	口径(9.5)	端部尖り気味に取め、口縁部は体部中位より内傾しやや内彎しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後横ナデ。体内ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 灰白色	
859	SP11632 B4区	土師質土器杯	口径(14.5) 底径(8.0) 器高3.6	端部丸く取め、口縁部はやや肥厚し体部より直線的に立ち上がる。	口内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤軟質	内外 灰白色	
860	SP11635 B4区	土師質土器杯	口径(12.5) 底径(8.0) 器高2.6	端部丸く取め、口縁部は体部より直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。	石、雲、赤良好	内外 橙色	
861	SP11641 B4区	土師質土器杯	口径(10.5)	端部丸く取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、片やや良好	内外 浅黄橙色	
862	SP11642 B4区	土師質土器杯	口径(13.0)	端部丸く取め、口縁部は体部中位でやや外傾し直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片軟質	内外 浅黄橙色	
863	SP11642 B4区	土師質土器杯	口径(14.0)	端部尖り気味に取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤良好	内外 灰白色 外 浅黄橙色	
864	SP11642 B4区	土師質土器杯	底径(7.0)	底部。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	赤良好	内外 灰白色 外 浅黄橙色	
865	SP11667 B4区	土師質土器播鉢	底径(12.5)	底部平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体外ナデ。体内ナデ後播り目。	石、雲、片やや良好	内外 浅黄橙色 外 にぶい黄褐色	
866	SP11670 B4区	土師質土器小皿	口径(9.0) 底径(7.0) 器高(1.5)	端部は尖り気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、赤良好	内外 浅黄橙色 外 灰白色	
867	SP11673 B4区	土師質土器杯	底径(8.0)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤良好	内外 にぶい黄褐色 外 浅黄橙色	
868	SP11682 B4区	土師質土器杯	底径(7.5)	底部。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤良好	内外 灰白色	
869	SP11684 B4区	土師質土器小皿	口径(6.5) 底径(5.0) 器高1.3	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	赤良好	内外 灰白色	
870	SP11689 B4区	土師質土器杯	口径(15.0) 底径(8.0) 器高3.0	端部方形気味に取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。体部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、赤良好	内外 にぶい褐色 外 橙色	
871	SP11701 B4区	土師質土器杯	口径(10.5)	端部は丸く取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片やや良好	内外 浅黄橙色	

第30表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(29)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
872	SP11701 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 やや軟質	内外 橙色	
873	SP11702 B4区	土師質土器 杯	口径(14.0)	端部はやや丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
874	SP11708 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	体部は底部より内彎気味に立ち上がる。	体外ナデ。体内指オサエ後ナデ。 底ナデ。	雲、片、赤 良好	内外 灰白色	
875	SP11711 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 やや軟質	内外 橙色	
876	SP11714 B4区	土師質土器 杯	口径(9.5)	端部尖り気味に収め口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、赤 良好	内 浅黄橙色 外 灰白色	
877	SP11716 B4区	土師質土器 杯	口径(15.0)	端部尖り気味に収め、口縁部は体部上位よりやや内側に屈曲し内彎気味に立ち上がる。	口内外ナデ。体外指オサエ後ナデ。 体内横ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
878	SP11722 B4区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高0.8	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	
879	SP11724 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0) 底径(8.0) 器高2.9	端部丸く収め口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、赤、 砂 良好	内 灰白色 外 におい黄橙色	
880	SP11725 B4区	磁器 盤	口径(28.0)	端部丸く収め口縁部は頸部より「く」の字状に内彎し上方に向かって立ち上がる。	口体内外クロコナデ。	密	釉 グレイみの黄 緑色 素地 黄みの白色	青磁。
881	SP11727 B4区	土師質土器 杯	底径(7.5)	体部は底部より内彎しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後 板目痕。	石、雲、片、 砂 良好	内 浅黄橙色 外 におい黄橙色	
882	SP11748 B4区	須恵質土器 甕		頸部。	頸外タタキ後ナデ。体外正格子タ タキ。頸体内ナデ。	石、雲、片 良好	内外 灰白色	
883	SP11771 B4区	土師質土器 杯	口径(12.5) 底径(7.0) 器高3.0	端部丸く収め口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り。	石、雲、片 良好	内外 浅黄橙色	
884	SP11771 B4区	土師質土器 杯	口径(11.5)	端部やや丸く収め口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内横ナデ。口体内ナデ。	石、雲、片、 赤 軟質	内 浅黄橙色 外 灰白色	外面に煤付着。
885	SP11771 B4区	土師質土器 杯	口径(11.5)	端部尖り気味に収め口縁部は体部中位よりやや内傾し直線的に外方に立ち上がる。	口内外ナデ。体外指オサエ後ナ デ。体内ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	
886	SP11778 B4区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は外反気味に立ち上がる。	体内外ナデ。	石、雲、片 良好	内 浅黄橙色 外 におい黄橙色	
887	SP11778 B4区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(5.5) 器高1.5	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
888	SP11801 B4区	土師質土器 杯	口径(11.0)	端部尖り気味に収め体部上位よりやや内傾し直線的に立ち上がる。	口内外ナデ。体外指オサエ後ナ デ。口体内ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	
889	SP11839 A2区	須恵質土器 椀	底径(10.0)	貼り付け高台断面U字状を呈し外向きに付く。	体内外ナデ。	赤 良好	内外 灰色	西村系。
890	SP11842 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(7.0) 器高3.5	端部尖り気味に収め口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り。	雲、赤 やや軟質	内 褐灰色 外 灰白色	
891	SP11859 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(7.5) 器高4.0	端部尖り気味に収め口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切 り後 ナデ。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 におい黄橙 色	
892	SP11859 A2区	土師質土器 小皿	口径(10.0)	端部は肥厚し丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、片、赤 良好	内外 褐灰色	
893	SP11836 A2区	土師質土器 皿	口径(14.0) 底径(10.0) 器高3.7	端部丸く収め口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、片 良好	内外 におい黄橙 色	
894	SP11836 A2区	土師質土器 杯	口径(11.5) 底径(7.5) 器高4.1	端部丸く収め口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切 り。	雲、片、赤 良好	内外 におい橙 色	
895	SP11836 A2区	土師質土器 杯	口径(14.5)	端部尖り気味に収め口縁部は体部上位よりやや内彎気味に立ち上がる。	口内外ナデ。体外指オサエ後横 ナデ。体内ナデ。	石、雲、片、 赤 軟質	内外 灰白色	
896	SP11836 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部尖り気味に収め口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 におい褐 色	
897	SP11836 A2区	土師質土器 杯	口径(14.0)	端部丸く収め口縁部は外反しながら立ち上がる。	口内外横ナデ。	雲、片 良好	内外 灰白色	内外面煤付着。
898	SP11836 A2区	土師質土器 杯	底径(7.5)	体部は内彎気味に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り後 ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内 褐灰色 外 におい黄橙 色	
899	SP11836 A2区	土師質土器 杯	底径(9.0)	体部は内彎気味に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切 り後 ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内 浅黄橙色 外 灰白色	
900	SP11836 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(7.0) 器高1.3	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口内外横ナデ。底回転ヘラ切 り後 ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 におい橙 色	

第31表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(30)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
901	SP11836 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高(0.9)	端部尖り気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、赤 良好	内 におい橙色 外 灰白色	外面煤付着。
902	SP11836 A2区	土師質土器 鉢	口径(38.0)	端部方形に取め、口縁部は「く」の字状に外反する。	口外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。口体内板ナデ。	石、雲、片 やや良好	内外 灰黄褐色	
903	SP11836 A2区	須恵器 碗	口径(5.0) 底径	貼り付け高台は断面台形状を呈し外向きに付く。	体外ナデ。体内板ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰色	西村系。
904	SP11836 A2区	瓦器 碗	底径(6.1) 高台高0.2 高台.4.6	貼り付け高台は断面U字状を呈し下方に付く。	体内ナデ後ヘラミガキ。体外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 良好	内外 灰白色	内外面煤付着。
905	SP11861 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(7.0) 器高3.8	端部尖り気味に取めつまみ上げる。口縁部は体部中位から外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、長 良好	内外 橙色	
906	SP11861 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部丸く取め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、長、赤 良好	内外 におい黄橙色	
907	SP11861 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高1.3	端部丸く取め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 橙色	
908	SP11861 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高1.2	端部尖り気味に取め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 橙色	
909	SP11861 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.3	端部丸く取め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 灰白色	
910	SP11867 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.1	端部丸く取め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 におい橙色	
911	SP11868 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部丸く取め口縁部はやや肥厚し外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	長、赤 良好	内外 灰白色	
912	SP11868 A2区	土師質土器 杯	底径(7.0)	体部は底部より内彎気味に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 灰白色	
913	SP11868 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高1.4	端部丸く取めやや把厚し、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
914	SP11868 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高1.2	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、片 良好	内外 におい黄橙色	
915	SP11869 A2区	土師質土器 杯	口径(14.5) 底径(10.0) 器高3.8	端部丸く取め、口縁部はやや肥厚し、外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲 良好	内外 灰白色	
916	SP11869 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は底部より外反しながら立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
917	SP11869 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高1.2	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、長 良好	内外 におい橙色	
918	SP11869 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(5.5) 器高1.1	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲 良好	内 浅黄褐色 外 灰白色	
919	SP11869 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高1.4	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤、砂 良好	内外 灰白色	
920	SP11869 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.3	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片 良好	内外 灰白色	
921	SP11869 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(5.5) 器高1.5	端部丸く取め、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、長 良好	内外 橙色	
922	SP11869 A2区	瓦器 碗	底径(4.0) 高台径(3.6) 高台高0.2	体部は緩やかに外反しながら立ち上がる。貼り付け高台は三角形形状を呈し外方に向かって付く。	体内横ナデ後ヘラミガキ。体外指オサエ後ナデ。	良好	内外 暗灰色	
923	SP11880 A2区	土師質土器 杯	口径(10.0) 底径(5.5) 器高3.9	端部丸く取め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、長、赤 良好	内外 浅黄褐色	
924	SP11880 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(4.0) 器高1.4	端部方形気味に取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲 良好	内外 灰白色	
925	SP11880 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高1.2	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、長、赤 良好	内 浅黄褐色 外 灰白色	
926	SP11880 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(5.5) 器高1.3	端部丸く取め、口縁部はやや把厚し外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲 良好	内外 浅黄褐色	
927	SP11880 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高(1.4)	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 浅黄褐色	
928	SP11880 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.3	端部丸く取め、口縁部はやや把厚し外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 灰白色	

第32表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(3)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
929	SP11880 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤 良好	内外 橙色	
930	SP11880 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	
931	SP11880 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(7.5) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	赤 良好	内 橙色 外 浅黄橙色	
932	SP11880 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 橙色	
933	SP11880 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.0	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	
934	SP11882 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高1.2	端部尖り気味に収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 にぶい橙色	
935	SP11882 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(7.0) 器高1.6	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	赤 良好	内外 浅黄橙色	
936	SP11883 A2区	土師質土器 杯	口径(13.5)	端部やや丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、長、赤 良好	内 にぶい橙色 外 橙色	
937	SP11883 A2区	土師質土器 杯	口径(11.5)	端部尖り気味に収め、口縁部はやや肥厚し外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、片、赤 良好	内外 浅黄橙色	
938	SP11883 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部より体部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 灰白色	
939	SP11883 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(5.5) 器高1.4	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 にぶい黄橙色	
940	SP11883 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(8.0) 器高1.4	端部は丸く収め、口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 良好	内外 灰褐色	
941	SP11883 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(5.5) 器高1.5	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 灰白色	
942	SP11883 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 良好	内外 橙色	
943	SP11883 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.0	端部尖り気味に収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	良好	内外 にぶい橙色	
944	SP11883 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(5.5) 器高1.1	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、長、赤 良好	内外 橙色	
945	SP11883 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高1.0	端部は尖り気味に収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	
946	SP11884 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(5.0) 器高1.5	端部尖り気味に収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片 良好	内外 灰白色	
947	SP11884 A2区	土師質土器 鍋	口径(29.0)	端部方形に収め、口縁部は外方に開く。	口外指オサエ後ナデ。口内ナデ。	石、雲、片 良好	内外 灰白色	
948	SP11884 A2区	陶器 擂鉢		体部は内彎気味に立ち上がる。	体内外回転ナデ。体内回転ナデ後播り目。	雲、長 良好	内外 暗灰色	備前。
949	SP11890 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高1.2	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	
950	SP11891 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高0.9	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、長、赤 良好	内外 にぶい橙色	
951	SP11892 A2区	土師質土器 杯	口径(15.0)	端部丸く収め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、片、赤 良好	内 にぶい黄橙色 外 灰白色	
952	SP11892 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.0) 底径(15.5) 器高1.4	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 橙色	
953	SP11895 A2区	土師質土器 杯	口径(15.5) 底径(8.0) 器高3.5	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤、長 良好	内外 橙色	
954	SP11895 A2区	瓦器 椀	底径(7.4)	底部。貼り付け高台は断面U字状を呈し外寄りに付く。	体内外ナデ。	石、雲、長 良好	内外 灰色	
955	SP11896 A2区	土師質土器 杯	口径(9.5) 底径(6.0) 器高3.3	端部やや丸く収め、口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
956	SP11896 A2区	土師質土器 杯	底径(7.5)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤、砂 良好	内外 浅黄橙色	
957	SP11896 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(5.0) 器高1.6	端部丸く収め、口縁部はやや肥厚し内彎しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 浅黄橙色	

第33表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(32)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
958	SP11896 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(5.5) 器高1.1	端部は尖り気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 ぶい黄橙色	
959	SP11896 A2区	土師質土器 椀	底径(8.0) 高台径(7.2) 高台高0.5	貼り付け高台は断面逆台形状を呈し外方に向く。	体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	
960	SP11897 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(7.5) 器高1.1	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内 ぶい橙色 外 浅黄橙色	
961	SP11900 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部は尖り気味に取め、口縁部は内傾し内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
962	SP11900 A2区	土師質土器 杯	口径(14.0)	端部尖り気味に取め、口縁部は体部上位で内傾し内彎気味に立ち上がる。	口外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。口体内ナデ。	雲、片、赤 良好	内外 灰白色	
963	SP11900 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は底部より内彎気味に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	
964	SP11900 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高1.1	端部は尖り気味で、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 ぶい橙色	
965	SP11900 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.3	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 ぶい橙色	
967	SP11905- 11906- 11907 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部尖り気味に取め、口縁部は体部上位よりやや内傾し内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	
968	SP11905- 11906- 11907 A2区	土師質土器 杯	口径(10.5)	端部やや尖り、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	良好	内 浅黄橙色 外 ぶい橙色	
969	SP11906 A2区	土師質土器 杯	口径(10.0)	端部は尖り気味に取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、赤 良好	内外 橙色	
970	SP11906 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部丸く取め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外ナデ。	赤 良好	内外 浅黄橙色	
971	SP11906 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部は尖り気味に取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲 良好	内外 ぶい橙色	
972	SP11905- 11906- 11907 A2区	土師質土器 杯	口径(10.0) 底径(5.0) 器高3.0	端部は尖り気味に取め、口縁部は体部より内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片 良好	内 灰白色 外 浅黄橙色	
973	SP11906 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(7.0) 器高1.0	端部は尖り気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 灰白色	
974	SP11906 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高1.1	端部は丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片、 赤 良好	内外 橙色	
975	SP11906 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(5.0) 器高1.2	端部は丸く取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 橙色	
976	SP11905- 11906- 11907 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高1.3	端部は丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 橙色	
977	SP11905- 11906- 11907 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(7.0) 器高1.2	端部は丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 橙色	
978	SP11905- 11906- 11907 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(7.0) 器高1.0	端部は尖り気味に取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底ナデ。	雲、片、赤 良好	内外 浅黄橙色	
979	SP11907 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.5) 器高1.0	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内 橙色 外 黄灰色	
980	SP11907 A2区	瓦器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高1.3	端部やや肥厚し丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲 良好	内外 灰白色	
981	SP11907 A2区	土師質土器 釜	口径(23.0)	端部丸く取め、口縁部は内彎しながら立ち上がる。断面U字状鏝はやや下向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後横ナデ。体内板ナデ。	石 良好	内外 灰白色	外面煤付着。
982	SP11905- 11906- 11907 A2区	瓦質土器 鍋	口径(30.0)	端部方形に取め、口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。	良好	内外 暗灰色	
983	SP11911 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.5) 器高1.0	端部丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	
984	SP11912 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(8.0) 器高3.1	端部は丸く取め、口縁部は直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤、 長 良好	内外 灰白色	
985	SP11912 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部尖り気味に取め、口縁部は体部中位でやや内傾し内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後横ナデ。体内ハケメ。	石、雲、長 良好	内外 灰白色	
986	SP11912 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.2	端部は丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 ぶい橙色	
987	SP11912 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高1.0	端部は丸く取め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片 良好	内外 浅黄橙色	

第34表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(33)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
988	SP11912 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.5) 器高1.1	端部は丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	片、赤 良好	内 明赤褐色 外 におい褐色	
989	SP11918 A2区	土師質土器 杯	口径(10.0)	端部は尖り、口縁部は外方に直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤、長 良好	内外 灰白色	
990	SP11920 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.5)	端部丸く収め、口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、赤、砂 良好	内外 浅黄褐色	
991	SP11921 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	体部は底部より直線的に立ち上がる。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、長 良好	内外 橙色	
992	SP11921 A2区	土師質土器 鍋	口径(40.0)	端部は尖り気味に収め、口縁部は「く」の字状に外反する。	口外横ナデ。体外指オサエ後板ナデ。口内横ナデ。体内板ナデ。	石、雲 良好	内 黄灰色 外 褐灰色	
993	SP11927 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(8.0) 器高(4.0)	端部丸く収め、口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	赤 良好	内 淡橙色 外 浅黄褐色	
994	SP11927 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0) 底径(8.0) 器高(3.0)	端部丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片 良好	内外 浅黄褐色	
995	SP11927 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(7.5) 器高(1.0)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 橙色	
996	SP11927 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(5.5) 器高(0.9)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	
997	SP11934 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(5.5) 器高(1.4)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤、長 良好	内外 灰白色	
999	SP11938 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高(1.3)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲 良好	内外 橙色	
1000	SP11946 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(9.5) 器高(3.0)	端部丸く収め口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、片 良好	内 浅黄褐色 外 灰白色	
1001	SP11960 A2区	土師質土器 杯	口径11.0 底径7.0 器高4.0	端部やや丸く収め口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 灰白色	
1002	SP11960 A2区	土師質土器 杯	口径12.0 底径7.5 器高3.0	端部尖り気味に収め口縁部は直線的に外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 良好	内外 灰白色	
1003	SP11960 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(6.5) 器高(1.5)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤、長 良好	内外 橙色	
1004	SP11960 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(7.0) 器高(1.1)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 良好	内外 橙色	
1005	SP11960 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高(1.3)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤、長 良好	内 灰白色 外 におい黄褐色	
1006	SP11960 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高(1.0)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外磨減の為調整不明。	雲、赤 良好	内外 におい橙色	
1007	SP11960 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高(1.2)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲 良好	内外 におい橙色	
1008	SP11960 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高0.9	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、長 良好	内外 橙色	
1009	SP11960 A2区	土師質土器 小皿	口径7.5 底径5.5 器高1.0	端部丸く収め口縁部はやや肥厚し外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 灰白色	
1010	SP11960 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(8.0) 器高(1.5)	端部尖り気味に収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 橙色	
1011	SP11960 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高(1.3)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
1012	SP11960 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高(0.9)	端部方形に収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤、長 良好	内外 橙色	
1013	SP11960 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.5) 器高(1.0)	端部方形に収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	良好	内外 橙色	
1014	SP11967 A2区	須恵器 椀	底径5.5 高台径5.0 高台高0.8	貼り付け高台は断面三角形を呈し外向に付く。	体内外ナデ。底内板ナデ。	良好	内 灰白色 外 灰色	西村系。
1015	SP11987 A2区	土師質土器 小皿	口径7.5 底径6.5 器径1.4	端部丸く収め口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 浅黄褐色	

第35表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(34)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
1016	SP11987 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高(1.5)	端部は丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、片、赤 良好	内外 灰白色 外 灰黄色	
1017	SP11988 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0) 底径(8.0) 器高(3.5)	端部丸く収め口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤、 砂 良好	内外 灰白色	
1018	SP11988 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部は尖り気味に収め口縁部は体部上位より内傾し内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	
1019	SP11988 A2区	土師質土器 杯	口径(10.0)	端部丸く収め口縁部は内彎気味に立ち上がる。体外上位から中位にかけて横ナデによる段差有り。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 橙色 外 にぶい橙色	
1020	SP11988 A2区	土師質土器 杯	口径(10.5)	端部尖り気味に収め、体部上位よりやや内傾し口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	赤 良好	内外 灰白色	
1021	SP11988 A2区	土師質土器 杯	口径(9.5) 底径(6.5)	端部尖り気味に収め口縁部は体部中位で内傾し内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲、片 良好	内外 灰白色	
1022	SP11988 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(7.0) 器高(1.5)	端部方形気味に収め口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	
1023	SP11988 A2区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.0) 器高(1.2)	端部は尖り気味に収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	
1024	SP11991 A2区	土師質土器 杯	底径(6.5)	体部は底部より内彎しながら立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	赤 良好	内外 浅黄橙色	
1025	SP11996 A2区	土師質土器 杯	口径(16.0)	端部は方形に収め口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲 良好	内外 橙色	
1026	SP12017 A2区	土師質土器 小皿	口径8.5 底径7.5 器高1.4	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 淡橙色 外 にぶい橙色	
1027	SP12022 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(6.0) 器高(1.0)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
1028	SP12026 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	
1029	SP12032 A2区	土師質土器 杯	口径(16.0)	端部丸く収め口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	赤、砂 良好	内外 浅黄橙色 外 橙色	
1030	SP12032 A2区	土師質土器 杯	口径(15.0)	端部丸く収め口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 にぶい橙色 外 橙色	
1031	SP12039 A2区	土師質土器 杯	口径(12.5) 底径(7.0) 器高(4.0)	端部尖り気味に収め口縁部外方に開く。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	
1032	SP12039 A2区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径7.5 器高1.5	端部やや尖り気味に収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片、赤 良好	内外 灰白色 外 にぶい黄橙色	
1033	SP12039 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高(1.5)	端部丸く収め口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 橙色	
1034	SP12041 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部尖り気味に収め口縁部は体部より外反気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、赤 良好	内外 灰白色	
1035	SP12041 A2区	土師質土器 杯	口径(13.0)	端部やや丸く収め口縁部は外反しながら立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色 外 灰白色	
1036	SP12041 A2区	土師質土器 杯	口径(12.0)	端部丸く収め口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	
1037	SP12041 A2区	土師質土器 杯	口径(10.0)	端部尖り気味に収め口縁部は体部上位でやや内傾し内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	石、雲 良好	内外 灰白色	
1038	SP12044 A2区	土師質土器 杯	口径(12.5) 底径(8.0) 器高(3.0)	端部は方形気味に収め口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、片 良好	内外 浅黄橙色	
1039	SP12044 A2区	土師質土器 小皿	口径(6.5) 底径(6.0) 器高(1.0)	端部は丸く収め口縁部は外方に開く。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片、赤 良好	内外 橙色	
1040	SP12055 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.5) 底径(6.0) 器高(1.7)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 良好	内外 褐灰色 底部 にぶい黄橙色	
1041	SP12068 A2区	土師質土器 杯	底径(7.0)	底部。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り後ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	
1042	SP12068 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.5) 器高(1.5)	端部やや丸く収め口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 灰白色	
1043	SP12068 A2区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(7.0) 器高(1.0)	端部方形に収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色 外 橙色	
1044	SP12081 A2区	土師質土器 小皿	口径(1.7) 底径(6.0) 器高(1.5)	端部丸く収め口縁部は外方に開く。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 灰白色	
1045	SP12081 A2区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(6.0) 器高(1.4)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、片 良好	内外 灰白色	

第36表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(35)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
1046	SP12083 A2区	土師質土器 杯	口径12.5 底径7.5 器高4.0	端部やや丸く収め、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、赤 良好	内外 橙色	
1047	SP12083 A2区	土師質土器 鍋	口径32.0	端部丸く収め、口縁部は「く」の字状に外反する。	口内外横ナデ。体外上指オサエ後縦ナデ下指オサエ後横ナデ。体内横ナデ後粗縦ナデ。	石、雲 良好	内 ぶい黄褐色 外 黒褐色	
1048	SP12093 A2区	土師質土器 杯	口径11.0 底径7.0 器高3.5	端部丸く収め口縁部は外反気味に立ち上がる。体外横ナデによる幅広の段差有。	口内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片、 赤 良好	内外 ぶい橙色	
1049	SP12144 A2区	土師質土器 杯	底径(8.0)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 ぶい橙色	
1050	SP12178 A2区	土師質土器 釜	口径(24.0)	端部丸く収め口縁部は内彎しながら立ち上がる。断面U字状罫やや上向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内板ナデ。	石、片、赤 良好	内外 灰白色	
1051	SP12238 A2区	土師質土器 播鉢	口径(28.5)	端部凹状に収め上方に拡張し、口縁部は外方に立ち上がる。	口外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内指オサエ後ナデ後播り目。	石、長、片、 赤 良好	内外 ぶい黄橙色	
1054	SP12294 A1区	黒色土器 碗	底径(7.0) 高台径(6.4) 高台高(0.7)	断面台形状の高台は外向きに付く。	底内ヘラミガキ。体底外ナデ。	雲 良好	内外 黒褐色	B類碗。
1056	SP12436 A1区	羽口	穴径2.4 最大径11.1 長さ7.4			石、雲、長	外 ぶい橙色、 暗紫灰色	
1057	SP12454 A1区	陶器 播鉢	底径(8.0)	体部は直線的に立ち上がる。底部平底。	体外指オサエ後回転ナデ。体内回転ナデ後播り目。	石、雲 良好	内外 灰白色	備前。
1058	SP12455 A1区	磁器 皿	口径(12.0)	端部方形に収め口縁部はつまみ上げる。	口内外ロクロナデ。	密	内外 あかるい緑 みのグレイ 素地 灰白色	
1059	SP12468 A1区	須恵質土器 こね鉢	口径(24.0)	端部丸く収め口縁部は上下にやや拡張し直線的に伸びる。	口内外回転ナデ。	雲、片 良好	内外 青灰色	東播系。
1060	SP12469 A1区	土師質土器 小皿	口径(7.3) 底径(7.3) 器高(1.5)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口内外外ナデ。底回転糸切り。	石、雲、片 良好	内 浅黄褐色 外 ぶい橙色	
1061	SP12539 A1区	土師質土器 杯	底径(6.0)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲 良好	内外 橙色	
1062	SP12545 A1区	土師質土器 小皿	口径9.0 底径6.5 器高0.9	端部丸く収め口縁部は外反気味に立ち上がる。	口内外外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	石、雲、赤、 長 良好	内外 橙色	
1063	SP12575 A1区	土師質土器 杯	底径(7.0)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、赤、長 やや良好	内 浅黄褐色 外 明黄褐色	
1064	SP12575 A1区	土師質土器 こね鉢	口径(31.0)	端部外方にやや拡張し端面を平坦に収める。口縁部は直線的に立ち上がる。	口内外横ナデ。体内外指オサエ後ナデ。	石、雲、赤 良好	内 灰黄色 外 浅黄褐色	
1065	SP12580 A1区	土師質土器 杯	底径(7.2)	体部は直線的に立ち上がる。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り後板ナデ。	雲、赤、長 良好	内外 橙色	内外面薬附着。
1066	SP12609 A1区	土師質土器 皿	底径(6.0)	底部。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	赤 良好	内外 浅黄褐色	
1067	SP12625 A1区	土師質土器 杯	口径(11.0)	端部尖り気味に収め口縁部は体部上位でやや内彎し、内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、雲、片 良好	内外 浅黄褐色	
1068	SP12627 A1区	土師質土器 播鉢	口径(21.0)	端部丸く収め口縁部は内彎しながら内側に向かって立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ後播り目。	石 良好	内外 浅黄色	
1069	SP12645 A1区	須恵器 碗	口径(13.0) 高台高0.5 高台径(4.2) 器高4.6	端部丸く収め口縁部は外反気味に立ち上がる。貼り付け高台は断面逆台形状を呈しやや外向きに付く。	口体外横ナデ。体内下指オサエ後板ナデ。口内ナデ。	雲、赤 不良	内外 浅黄褐色	西村系。
1070	SP12673 A1区	土師質土器 杯	底径(6.5)	底部。	体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、砂 良好	内外 橙色	
1071	SP12676 A1区	土師質土器 杯	口径(14.0) 底径(7.5) 器高(3.5)	端部丸く収め口縁部は外反しながら立ち上がる。体部は外反気味に立ち上がる。	口内外外横ナデ。底板ナデ痕。	石、雲、片、 赤 良好	内外 橙色	
1072	SP12697 A1区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(5.5) 器高(1.0)	端部丸く収め口縁部は外方に立ち上がる。	口内外外横ナデ。	石、雲、片 良好	内外 橙色	
1073	SP12697 A1区	陶器 小皿	口径(5.0) 底径(2.5) 器高(1.5)	端部方形に収め口縁部は外反しながら立ち上がる。体内面施釉。	口内外外ロクロナデ。底回転糸切り。	雲 良好	釉 うすい黄緑色 素地 浅黄色	
1074	SP12760 A1区	須恵器 碗	口径14.2 高台径5.4 高台高0.6 器高5.1	端部丸く収め口縁部はやや外反しながら立ち上がる。貼り付け高台は逆台形状や外向きに付く。	口内外横ナデ。体外上横ナデ後ミガキ。体外下指オサエ後ナデ。体内横ナデ。	良好	内外 灰白色、灰 色	西村系。
1075	SP12760 A1区	須恵器 碗	口径15.7 高台径6.2 高台高0.5 器高4.3	端部丸く収め口縁部はやや外反しながら立ち上がる。貼り付け高台は逆台形状を呈し外向きに付く。	口内外横ナデ。体外指オサエ後横ナデ後縦ナデ。体内板ナデ。	良好	内外 灰白色	西村系。
1076	SP12775 A1区	土師質土器 釜	口径(29.0)	端部丸く収め口縁部は内彎しながら立ち上がる。断面U字状罫上向きに付く。	口内外横ナデ。体内外指オサエ後ナデ。	石、雲、赤 良好	内 灰白色 外 浅黄褐色	
1077	SP12780 A1区	土師質土器 鍋	口径(35.5)	端部丸く収め口縁部は「く」の字状に外方に立ち上がる。	口端内外横ナデ。口外横ナデ。体外横ナデ。口体内板ナデ。	石、雲 良好	内外 橙色	
1078	SP12827 A1区	土師質土器 杯	口径(14.0) 底径(7.0) 器高(4.5)	端部丸く収め口縁部は外反しながら立ち上がる。体部内面ヨコナデによる幅狭の段差有り。	口内外外横ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 橙色	

第37表 出土遺物観察表 土器・陶磁器(36)

番号	出土地点	器種	内法	形態の特徴	成形調整	胎土	色調	備考
1079	SP12827 A1区	土師質土器 杯	底径(7.0)	底部。	体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内外 橙色	
1080	SP12852 A1区	磁器 碗	口径(14.0)	端部丸く取め口縁部は外反しながら立ち上がる。	口内外クロロナデ。	密	釉 グレイみの黄 緑色 素地 灰色	青磁。
1081	SP12874 A1区	土師質土器 播鉢	口径(24.0)	端面は内側に拡張し丸く取める。体部は内彎気味に立ち上がる。	口内外横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ後摺り目。	石、雲、片 良好	内 浅黄橙色 外 にぶい黄橙色	
1082	SP12874 A1区	磁器 碗	底径5.0 高台高1.2 高台径4.5	断面逆台形の高台はやや外向きに付く。体部内外面施釉。高台内面釉なし。	体内外クロロナデ。内面見込み部分にスタンプ文。	密	釉 グレイみの黄 緑色 素地 にぶい黄橙 色	青磁。
1083	SP12878 A1区	磁器 碗	口径(11.5) 底径(5.6) 高台高(0.7) 高台径(4.6) 器高(6.1)	端部丸く取め口縁部は外反気味に立ち上がる。逆台形高台はやや内向きに付く。体部内外面施釉。高台部釉なし。	口体内外クロロナデ。体外細連弁文。	密	釉 グレイみの黄 緑色 素地 灰白色	青磁。
1084	SP12883 A1区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高(1.0)	端部尖り気味に取め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内外 浅黄橙色	
1085	SP12883 A1区	土師質土器 碗	口径(15.0) 底径(6.5) 高台高(0.3) 高台径(6.5)	端部丸く取め口縁部は内彎気味に立ち上がる。断面方形の高台は外向きに付く。	口体内外指オサエ後ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色、浅 黄橙色	
1086	SP12883 A1区	陶器 皿	口径(12.0) 底径(3.1) 器高(2.6)	端部方形に取め、端部上端やや上方に拡張する。底部内面胎土目痕。体外面下と底部無釉。	口体内外クロロナデ。底回転糸切り。	精	釉 グレイみの黄 緑色 素地 にぶい黄褐 色	
1087	SP12902 A1区	磁器 碗	口径(14.0)	端部玉縁状を呈し、口縁部は直線的に立ち上がる。内外面施釉。	口体内外クロロナデ。	密	内外 灰白色	白磁Ⅳ期。
1089	SP12929 A1区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(6.5) 器高(1.2)	端部丸く取め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤、 長 良好	内外 橙色	
1090	SP12954 A1区	陶器 播鉢	口径(26.5)	端部上下に拡張し、口縁部はやや外反気味に立ち上がる。	口体外回転ナデ。体内回転ナデ後摺り目。	石、長、砂	内外 にぶい赤褐 色	備前。
1092	SP12972 A1区	土師質土器 小皿	口径(7.5) 底径(6.0) 器高(1.2)	端部丸く取め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外磨滅のため調整不明。	雲 やや良好	内外 橙色	
1093	SP13002 A1区	土師質土器 杯	底径(5.5)	底部。	体内外横ナデ。	石、雲、片 やや軟質	内外 橙色	
1094	SP13002 A1区	土師質土器 小皿	口径7.5 底径5.0 器高1.5	端部丸く取め口縁部は外方に向かって立ち上がる。	口体内外ナデ。底静止糸切り。	雲、片、赤 やや軟質	内 橙色 外 にぶい橙色	
1095	SP13002 A1区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径5.0 器高1.5	端部尖り気味に取め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 にぶい橙色	
1096	SP13002 A1区	土師質土器 小皿	口径8.0 底径2.1 器高1.7	端部尖り気味に取め口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底静止糸切り。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 橙色	
1097	SP13002 A1区	須恵器 碗	底径(6.0) 高台径(5.4) 高台高(0.5)	貼り付け高台は断面U字状を呈し外向きに付く。	体内外指オサエ後ナデ。	雲、赤 良好	内外 灰白色	西村系。
1098	SP13014 A1区	土師質土器 杯	口径(14.5) 底径(9.0) 器高3.1	端部やや丸く取め口縁部はやや外反する。	口体内外ナデ。	石、雲、片 やや軟質	内 橙色 外 にぶい赤褐色	
1099	SP13023 A1区	土師質土器 小皿	口径(8.0) 底径(7.0) 器高(1.2)	端部丸く取め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、石、片、 赤 軟質	内 にぶい橙色 外 橙色	
1100	SP13039 A1区	土師質土器 小皿	口径(12.5) 底径(11.0) 器高(1.6)	端部は丸く取め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外横ナデ。	雲、片 やや良好	内外 浅黄橙色	
1101	SP13043 A1区	土師質土器 茶釜	口径17.0 体部最大径 25.0	端部丸く取め口縁部は頸部より「く」の字状に外反しやや外方へ立ち上がる。	口内外横ナデ。頸外縦ナデ。体外指オサエ後ナデ。頸体内指オサエ後横ナデ。	石、雲、片、 赤 やや軟質	内外 浅黄橙色	
1102	SP13049 A1区	土師質土器 杯	口径6.0 底径6.5 器高3.0	端部丸く取め口縁部は直線的に外方に向かう。体部内外面横ナデによる幅狭な段差有り。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	雲、赤 良好	内 灰褐色 外 にぶい橙色	
1103	SP13049 A1区	土師質土器 杯	口径(12.5) 底径(7.5) 器高(2.5)	端部やや丸く取め口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外横ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲 良好	内外 橙色	
1104	SP13049 A1区	土師質土器 小皿	口径(9.0) 底径(8.0) 器高(1.0)	端部丸く取め口縁部は外方に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、赤 良好	内 橙色 外 にぶい橙色	
1105	SP13049 A1区	土師質土器 小皿	口径(7.0) 底径(5.5) 器高(1.2)	端部丸く取め口縁部は外反気味に立ち上がる。	口体内外ナデ。底回転ヘラ切り。	石、雲、片 良好	内外 橙色	
1106	SP13049 A1区	須恵質土器 こね鉢	口径(27.0)	端部上下に拡張し、口縁部は直線的に立ち上がる。	口体内外回転ナデ。	石、雲、赤 良好	内外 灰白色	東播系。
1107	SP13051 A1区	土師質土器 釜	口径(30.5)	端部丸く取め口縁部は内彎気味に立ち上がる。頸は断面U字状を呈し上向きに付く。	口体内横ナデ。体外指オサエ後ナデ。体内ナデ。	石、赤 良好	内 にぶい黄褐色 外 浅黄褐色	